條ニ揭クル料金ノ十五割以下ニ於テ市長之ヲ定ム

第四十八條　第八條ノ規定ニ依リ本市ニ於テ施設シタル積算電力計ヲ使用スル者ハ左表ノ器具使用料ヲ支拂フコトヲ要ス

種別	月額料金（取附一箇ニ付）
普通積算電力計 一「キロワット」マテ	五十錢
普通積算電力計 一「キロワット」超過	超過分一「キロワット」マテヲ增ス毎ニ十錢ヲ加フ
變壓器及變流器附積算電力計 五百「キロワット」マテ	四圓五十錢
變壓器及變流器附積算電力計 五百「キロワット」超過 五十「キロワット」マテ	超過分五百「キロワット」マテヲ增ス毎ニ一圓ヲ加フ　二圓五十錢
變流器附積算電力計 五十「キロワット」超過	超過分五十「キロワット」マテヲ增ス毎ニ一圓ヲ加フ

第四十條第二項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　第九條ノ規定ニ依リ使用者電氣使用ノ休止又ハ廢止ヲ申出テタルトキハ休止手數料又ハ廢止手數料トシテ電動機又ハ其他ノ電力裝置一箇ニ付金貳圓ヲ支拂フコトヲ要ス

供給時間ノ種別ヲ變更スル場合ニ於テハ從前ノ供給時間ニ依ル使用ハ之ヲ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第五十條　電動力又ハ其他ノ電力ヲ使用スル者ハ特ニ本市ノ承認ヲ受ケタルモノヲ除クノ外其使用スル電力ヲ電燈用ニ供スルコトヲ得ス

第四章　雜則

第五十一條　電氣使用料、布線使用料及器具使用料ハ毎月本市指定ノ期日ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ要ス但シ別段ノ條件ヲ附シテ使用ヲ承認シタルモノハ此限ニ在ラス

第五十二條　第三十一條、第三十二條第一項第一表、第三十五條及第四十四條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ其月分ノ電氣使用料ハ左ノ場合ニ於テハ使用日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

一　電氣ノ使用ヲ開始シタルトキ

二　第九條ノ規定ニ依リ申出ヲ爲シテ電氣使用ノ休止、廢止又ハ其ノ休止中ニ係ルモノノ復舊使用ヲ爲シタルトキ

三　電燈ノ燭光ヲ增減シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

四　電氣扇ノ種類ヲ變更シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

五　電動機ノ馬力數ヲ變更シテ料金率ヲ異ニシタルトキ

六　電氣工作物（電燈球ヲ除ク）ノ滅失ニ因リ電氣ノ使用不能ト爲リタルトキ

七　前各號ノ外料金率ニ異動ヲ生スヘキ變更アリタルトキ

第五十三條　第三十九條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ其月分ノ布線使用料ハ左ノ場合ニ於テハ使用日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

一　前條第一號、第三號、第四號、第六號及第七號ノ場合ニ該當スルトキ

二　第九條ノ規定ニ依リ申出ヲ爲シテ電氣ノ使用ヲ廢止シタルトキ

三　第三十九條第二項但書ノ場合ニ該當スルトキ

四　布線及附屬器具ノ施設竝維持ノ負擔者ニ異動アリタルトキ

第五十四條　第四十條及第四十八條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ其月分ノ器具使用料ハ左ノ場合ニ於テハ使用日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

一　器具ノ使用ヲ開始シ又ハ廢止シタルトキ

二　第五十二條第三號、第四號、第六號及第七號ノ場合ニ該當スルトキ

三　器具ノ施設竝維持ノ負擔者ニ異動アリタルトキ

四　積算電力計ノ故障ニ因リ使用電力量ヲ算定シ能ハサルトキ

第五十五條　前三條ノ規定ニ依ル日割計算ハ月額料金ニ使用日數ヲ乘シ三十ヲ以テ除シタルモノトシ其計算シタル料金カ月額ヲ超ユルトキハ之ヲ月額ニ止ム

第五十六條　第三十三條、第三十四條及第四十五條ニ於テ一箇月間ト稱スルハ積算電力計檢針ノ時ヨリ次ノ檢針ノ時ニ至ル期間ヲ謂ヒ其檢針ハ積算電力計使用開始ノ月ニ在リテハ其開始ノ日ニ於テ之ヲ行ヒ爾後毎月其使用開始ノ日ニ應當スル日ヲ以テ例日トシ之ヲ行フモノトス

左ノ場合ニ於テハ前項ニ規定スル檢針ノ例日ヲ變更ス但シ電燈供給ニ在リテハ第二號又ハ第三號ノ場合ト雖之ヲ變更セサルコトアルヘシ

一　其月ニ於テ積算電力計ノ使用開始前ニ應當スル日ナキトキ

二　電氣使用ノ全部若ハ一部ヲ休止又ハ廢止シタルトキ

三　最大使用電力ヲ增減シタルトキ

四　前各號ノ外已ムコトヲ得サル事由アルトキ

第五十七條　第三十三條、第三十四條及第四十五條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ電氣使用料ハ前條第二項ノ規定ニ依リ檢針ノ例日ヲ變更シタル場合ニ於テハ左ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

一　第三十三條ノ場合ニ於テモ當該計算期一箇月間ノ使用日數ニ對スル延燈數ヲ三十ヲ以テ除シタルモノヲ同條第三項ニ規定スル取附總燈數ト看做ス

二　第三十四條ノ場合ニ於テハ最大使用電力ノ區別ニ從ヒ同條第二項ニ規定スル一箇月間責任最低料金ニ當該計算期ノ一箇月間

使用日數ヲ乘シ三十ヲ以テ除シタルモノヲ當該一箇月間ノ責任最低料金ト看做ス

三　第四十五條ノ場合ニ於テハ當該計算期一箇月間ノ使用日數ニ對スル最大使用電力ノ延「キロワット」數ヲ三十ヲ以テ除シタルモノヲ同條第五項ニ規定スル最大使用電力ノ「キロワット」數ト看做ス

第三十三條ノ場合ニ於テ取附總燈數ニ變更ヲ生シタルトキハ前項第一號ノ規定ヲ準用シ第三十四條ノ場合ニ於テ最大使用電力ニ變更ヲ生シタルトキハ前項第二號ノ規定ヲ準用シテ其料金ヲ計算ス

第五十八條　使用場所ニ裝置セル積算電力計ノ故障其他ノ原因ニ因リテ使用電力量ヲ算定シ能ハサルトキハ本市ハ當該計算期ノ前三箇月間ニ於ケル平均使用電力量ヲ斟酌シ前三箇月間ニ於ケル使用電力量ノ記錄ナキトキハ使用場所ニ於ケル設備竝其使用ノ狀況ヲ斟酌シ使用者トノ協定ニ依リ當該計算期ノ使用電力量ヲ定ム

第五十九條　第三十七條ノ規定ニ依リ支拂フヘキ電氣使用料ハ電燈球ノ種類又ハ燭光ヲ變更シテ料金率ヲ增加シタル場合及第五十二條第六號ノ場合ニ於テハ其使用日數ニ應シ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六十條　法令ノ規定又ハ第二十條ノ規定ニ依リ供給ヲ中止シタル場合ニ於テ其停電一日中ニ引續キ六四時間以上ニ亘ルトキハ第三十一條、第三十二條、第三十五條、第三十七條及第四十四條ノ規定ニ依ル電氣使用料ノ計算ニ關シテハ其停電日數ニ對スル日割料金ヲ除算シ第三十三條、第三十四條及第四十五條ノ規定ニ依ル電氣使用料ノ計算ニ關シテハ其停電日數ヲ當該計算期間內ノ使用日數ニ算入セス

第二十三條第二號但書及第四十二條第二項ノ規定ニ依リ送電ヲ中止シタル場合ト雖電氣使用料ノ計算ニ關シテハ之ヲ中止セサルモノト看做ス

第六十一條　第四十七條ノ場合ニ於ケル料金ノ計算ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

第六十二條　第二十一條ノ規定ニ依リ電氣ノ供給ヲ停止シタル場合ト雖電氣使用料、布線使用料及器具使用料ニ關シテハ其停止期

間內ノ日數ヲ使用日數ト看做シテ計算シタル料金ヲ支拂ハシムルモノトス

第六十三條　第二十一條ノ規定ニ依リ電氣使用ノ承認ヲ取消シタル場合ニ於テハ布線使用料及器具使用料ハ其月分ノ全額ヲ支拂ハシメ電氣使用料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ支拂ハシムルモノトス

一　第三十一條、第三十五條又ハ第四十四條ノ規定ニ依ルモノハ月額料金ノ全額

二　第三十二條ノ規定ニ依ルモノハ同條第一項第一表ノ料金及使用日數ヲ同第二表ノ料金ニ乘シタルモノノ全額

三　第三十三條、第三十四條又ハ第四十五條ノ規定ニ依ルモノハ當該計算期ニ於ケル使用日數ヲ三十一日ト看做シテ計算シタル料金ノ全額

四　第三十七條ノ規定ニ依ルモノハ同條第一項第一表ノ料金及限定日數ヲ同第二表ノ料金ニ乘シタルモノノ全額

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リ定メタル電氣使用料ニ依ルモノニ關シ之ヲ準用ス

第六十四條　第三十一條乃至第三十五條、第三十七條乃至第四十條、第四十四條乃至第四十六條及第四十八條ニ揭ク料金ハ東京市外ニ供給スルモノニ付テハ其十一割以下ニ於テ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第六十五條　本市ニ於テ左ニ揭クル事實アルコトヲ確認シタルトキハ其事實ニ因リテ免レタリト認ムル電氣使用料ヲ支拂ハシムルモノトス但シ其電氣使用料ハ各所定料金ノ倍額トス

一　使用電力量ヲ積算セスシテ供給ヲ受クル者其承認ヲ受ケタル電燈ノ燭光若ハ容量又ハ電力裝置ノ容量ヲ超エ電氣ヲ使用シタルコト

二　使用電力量ヲ積算シテ供給ヲ受クル者濫ニ使用電力量ヲ積算電力計ニ表示セシメサルノ方法ヲ施シテ電氣ヲ使用シタルコト

三　承認シタル場所以外ニ於テ電氣ヲ使用シ又ハ休止中ニ係ル電力若ハ電力裝置ヲ復舊使用ノ申出ヲ爲サスシテ使用シタルコト

四　停止中ニ係ル電燈又ハ電力裝置ヲ使用シタルコト

五　第五十條ノ規定ニ違背シタルコト

前項ノ場合ニ於テ其事實アリタル期間不明ナルトキハ其事實ヲ確認シタル時ヨリ遡リ六箇月以下ニ於テ本市其期間ヲ定ム

第六十六條　本條例ノ規定ハ電氣供給事業用以外ノ用途ニ供スル爲本市自ラ電氣ヲ使用スル場合ニ之ヲ適用ス但シ料金ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ減額シ又ハ無料ト爲スコトアルヘシ

第六十七條　本條例ニ定メタルモノノ外電氣供給ノ條件其他本條例ノ施行ニ必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

附　則

第六十八條　本條例ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿三十日ヲ經テ之ヲ施行ス但シ前條ノ規定ハ本條例公布ノ日ヨリ其效力ヲ生ジ之ヲ施行ス

第六十九條　本條例施行ノ際現ニ本市ノ供給スル電氣ヲ使用スル者ハ本條例ニ依リ從前ト同一場所ニ於テ電氣ノ使用ヲ承認セラレタル者ト看做ス

前項ノ規定ハ使用ノ休止中ニ係ル場合ト雖仍之ヲ適用ス

從前ノ供給方法及供給時間ハ本條例ニ規定スル供給方法及供給時間ノ種別中同一種類ノモノ又ハ最モ之ニ類似スルモノニ依ルモノト看做ス

第七十條　前條ノ規定ニ依ル使用者ハ本條例中第五條、第二十七條乃至第三十四條第三十七條乃至第四十一條及第四十四條乃至第五十條ノ規定ニ拘ラス左ノ期間內ニ限リ從前ノ例ニ依リ電氣ノ供給ヲ受クルコトヲ得但シ其使用者カ電氣使用ニ關スル從前ノ要件ヲ變更シ又ハ其要件ニ違背シタルトキハ此限ニ在ラス

一　使用電力量ヲ積算セスシテ供給スルモノニ在リテハ本條例施行ノ日ヨリ起算シ滿三箇月間

二　使用電力量ヲ積算シテ供給スルモノニ在リテハ本條例施行後第三回ノ積算電力計檢針ノ時ニ至ルマテノ期間但シ積算電力計檢針ニ關シテハ第六章　大正六年　第拾節　三電協定問題

第七十一條　本條例施行前本市及使用者間ニ於テ特ニ期間ヲ定メテ料金其他ノ供給條件ヲ協定シタルモノニ在リテハ期間滿了ノ日マテ其協定ノ條件ニ依ルモノトス

第七十二條　明治四十四年市示告第六十二號ハ之ヲ廢止ス

說明　本市電氣供給事業ノ經營ニ關シテハ從來ノ取扱上不備ノ點アルヲ免カレス依テ新ニ條例ヲ制定シテ其完備ヲ期シ尙今回別案ヲ以テ提出セル協定ノ實ヲ全カラシムル爲本案ヲ提出ス

第六十四號

自大正六年度
至大正十年度　東京市電氣供給事業費繼續年期及支出方法

一金四百五拾八萬圓

內譯

一金壹百五拾壹萬九千圓　大正六年度支出額
一金壹百拾七萬九千圓　大正七年度支出額
一金六拾九萬九千圓　大正八年度支出額
一金六拾五萬七千圓　大正九年度支出額
一金五拾五萬六千圓　大正十年度支出額

本市電氣供給事業ノ擴張ヲ圖リ以テ別案契約書ニ定メタル條項ニ從ヒ新規ノ需用ニ應スルカ爲大正六年度以降同十年度ニ至ル五箇年繼續事業ノ計畫ト爲シ設備費總額金四百五拾八萬圓ヲ計上セリ此內金四百四拾四萬圓ハ新計畫ニ屬シ金拾四萬圓ハ大正四年第二十七號市會議決ニ依ル電氣事業繼續費中電力供給設備費ニ屬スル未了部分繰越即チ大正六年度ノ電氣供給事業費豫算ニ計上シタルモノニシテ本計畫中ニ計上處理スルコトヽ爲セリ（豫算表略ス）

第六十五號

大正六年度東京市電氣供給事業費歲入出更正竝追加豫算

歲入

一金貳百拾八萬貳千五百七拾圓	經常部豫算高	
一金參拾六萬千六百拾貳圓	既定臨時部豫算高	
合計金貳百五拾四萬四千百八拾貳圓		
一金貳百拾八萬貳千五百七拾圓	經常部豫算高	
一金百七拾四萬六百拾貳圓	既定竝追加臨時部豫算高	
合計金參百九拾貳萬參千百八拾貳圓		

歲出

一金百五拾九萬六千參百拾七圓	經常部豫算高	
一金百貳拾萬千貳圓	既定臨時部豫算高	
合計金貳百七拾九萬七千參百拾九圓		
一金百五拾九萬六千參百拾七圓	經常部豫算高	
一金貳百五拾八萬貳千九百貳圓	更正竝追加臨時部豫算高	

合計金四百拾七萬九千貳百拾九圓

歳入出差引不足金貳拾五萬六千參拾七圓

歳計不足ハ大正六年度電氣軌道事業費ノ收支差額ヲ以テ之ヲ補塡ス

（豫算表略ス）

說明　第六十四號議案ニ伴ヒ大正六年第十四號豫算更正竝追加ノ爲本案ヲ提出ス

第六十七號

東京市第二回電氣事業公債條例中改正ノ件

東京市第二回電氣事業公債條例中左ノ通改正スルモノトス

第一條　本公債ハ電氣事業ノ擴張竝改良ノ費途ニ充ツル爲大正五年度以降四年度間ニ手取額千三百六十五萬圓以内ヲ必要ニ應シ募集ス

前項公債募集額ハ券面千五百萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條　本公債ノ利子支拂及元金償還ハ電氣事業特別會計ノ負擔トシ元金ハ左ノ區分ニ依リ券面額ヲ以テ償還ス

一　大正五年度發行ノ券面千萬圓ハ大正十年十二月一日以降十五年間

二　大正六年度以降發行ノモノハ大正十一年度以降同四十二年度マテノ間

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

大正六年度以降發行ノモノノ据置期間及其償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

說明　現公債條例ニ於テハ大正二年度以降四年間ニ千六百萬圓ヲ募債スルモノトシタルモ金融ノ關係竝事業計畫變更等ノ事情ニ

因リ大正五年度ニ於テ千萬圓ヲ募集シタルニ止レリ而シテ爾餘ノ未募債額ニ關スルモノ、中電氣軌道事業ニ要スル部分ハ他日更メテ相當計畫ヲ立ツルコト、シ先ツ電氣供給事業ニ要スル部分ニ關シテ募債ノ爲本案ヲ提出ス尙本件改正ニ伴ヒ附屬償還年次表別紙ノ通變更スルモノトス

（償還年次表略ス）

（參照）

東京市第二回電氣事業公債條例大正三年一月市條例第一號

第一條　本公債ハ電氣事業ノ擴張竝改良ノ費途ニ充ツル爲大正二年度以降四年間ニ券面千六百萬圓ヲ必要ニ應シ募集ス

第二條　本公債ノ利子ハ券面額ニ對シ年率百分ノ六以内トシ募集ノ際之ヲ定ム

第三條　本公債ニ對シ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第四條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回トシ前六月分宛ヲ支拂フ但發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ日迄日割ヲ以テ計算ス

第五條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第六條　本公債ノ利子及元金償還ハ電氣事業特別會計ノ負擔トシ大正六年度以降二十三年以内ニ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ償還ス

第七條　本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ第一條ノ年期間ニ於テ當該年度豫定公債手取額ヲ限度トシ年利率七分以内ヲ以テ短期借入金ヲ爲スコトヲ得

前項借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還シ其利率及借入ノ方法ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八條　本公債ノ證券種類、元利金支拂方法其他取扱手續ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

中野議長　開會ヲ宣シ且ツ曰ク、本案ニ就テハ議長ノ手許ニ幾多ノ質問及發言ノ通告アルモ、此場合市長ヨリ一應提案ノ理由ヲ說明シタシトノ請求アルニ依リ、劈頭ニ於テ之ヲ許可スベシト。茲ニ於テ、奥田市長登壇、大要左ノ如ク之ヲ說明シタリ。

奥田市長　只今附議セラレタル日程第三ヨリ第七ニ至ル五箇ノ議案ハ、本市ノ電氣供給事業ニ關スル案件ニシテ、彼是相關聯シ、其中ノ一箇ヲ缺クモ、提案ノ精神ヲ貫徹スル能ハザル性質ヲ有ス。然レドモ本案各箇ニ就キ

說明ヲ試ミントセバ、頗ル煩瑣ニ亘ルノ虞アルニ依リ、總括的說明ヲ爲サントスルモノナレドモ、夫レ以前ニ一言スベキコトアリ。开ハ本案ニ直接ノ關係ヲ有スル本市ノ財政狀態ナルガ、今ヤ本市ハ、容易ナラザル巨額ノ公債ヲ負擔シツヽアリ、即チ明治三十九年ニ募集シ、大正二十四年迄ニ償還スベキ事業公債千五百萬圓ヲ始メトシ、明治四十四年電車及電燈事業買收當時之ヲ募集シ、大正四十一年迄ニ償還スベキ第一期電氣事業公債邦貨換算九拾九萬八千圓、次ハ五年据置、十五箇年辨濟ノ計畫ニ依リ、昨年借換タル第二回電氣事業公債壹千萬圓、更ニ大正六年ノ起債ニ係リ、五年据置、十五箇年辨濟ノ上下水道公債ノ壹千萬圓等ニシテ、今是等ノ公債ヲ總計スレバ、其額壹億貳千五百九萬八千圓ニ達ス、是レ現在東京市民ノ負擔スル借金ノ總額ナリトス。更ニ今後ノ事業ニ就テ見ルニ、先般協贊ヲ經テ制定シタル上下水道公債ニ關スル條例ニ於テハ、尙貳千參百萬圓ヲ借入レザレバ、水道擴張モ、下水速成工事モ着手スル能ハザルノミナラズ、改良下水ニマデ手ヲ下ストセバ、其總額參千參百餘萬圓ニ上ル。假リニ該金額中ヨリ速成工事ノ分及第一期ノ六百八拾萬圓ノ分ヲ差引クトスルモ、猶貳千五六百萬圓ノ募債ヲ爲スニアラザレバ、到底改良下水工事ノ全部ヲ遂行スルコト能ハズ。而シテ該下水工事ニ就テハ、曩ニ市會ニ於テ延期ニ關スル調査委員會ヲ設置セラレタルモ、委員會未開ノ爲メ右改良下水ノ前途ガ、果シテ如何ナル結果ヲ將來スルモノナリヤヲ知ル能ハザルハ遺憾ナリ。併シナガラ假リニ之ヲ延期ストセバ、現在ノ下水ハ、其儘放任スル能ハズ、然レドモ右ノ決定ヲ見ザル間ハ、當局トシテ確定的意見ヲ述ブルコト困難ナルガ、上下水道ノ爲ニハ、如何ニシテモ參千八百萬圓以上ノ負債ヲ爲スニアラザレバ、從來ノ計畫ヲ遂行スルコト不能ナルノミナラズ、前記ノ負債ハ、現ニ市ノ負債額壹億貳千五百萬圓ノ上ニ重加サルベキ性質ヲ有スルモノナルガ故ニ、當局ハ勿論、議員諸君ニ於テモ、之ガ前途ニ關シ充分ナル考慮ヲ拂フノ要アルベシ。然ルニ玆ニ最モ緊急ヲ要シ、近キ將來ニ於テ、是非トモ計畫セザルベカラザル二大懸案有リ。其一ハ即チ電車未成線ノ完成ニシテ、昨年電車賃値上當時ニ於ケル目的ノ一タリシモノナリ。未成線ノ哩數ハ、既ニ特許ヲ得タルモノ七十八哩ニ達シ、未ダ特許ヲ得ザルモノヽ中ニテモ、急速ニ計畫ヲ進メザルベカラザルモノ少カラズ。就中東京驛トノ聯絡線ノ如キ、未完成ノ爲メニ市民ノ受クル不便ト苦痛トハ、言語ニ絶スルモノアルノミナラズ、其他ノ混雜スル路線ノ如キモ、亦放任スル能ハザル狀態ニ在リ。是等ノ全部ニ亘リテソノ概算ヲ見積ルトキハ、參千萬圓ヲ以テシテハ、到底之ガ完成ヲ期スルコト能ハズ。又財政狀態モ之ヲ許サヾルモノアルヲ以テ、前後二期ニ分チテ進工スルノ外ナキモ、其一期計畫丈ニテモ五十哩內外ノ未成線ヲ完成スルノ要アリテ、是レガ所要經費マタ貳千參四百萬圓ニ達ス。而モ右ハ何レモ近キ將來ニ着手セザルベカラサル必要ニ迫ラレツヽアルヲ以テ、幸ニシテ電燈案ノ解決ヲ見ルニ至ラバ、急速ニ提案シテ協贊ヲ求メント欲ス。而シテ今其所要經費ヲ見積ルトキハ、壹億六千萬圓以上ニ達スベシ。更ニ諸君ノ御考慮ヲ得タキ一事ハ、道路問題ナリトス。諸君モ既ニ熟知セラルヽガ如ク、近時自動車ノ交通頗ル激シク、市內ニ於テハ今ヤ一千臺ヲ數ヘ、之レニ橫濱ヨリ往復スル車臺ヲ加フルトキハ、每日東京市內ヲ運轉シツヽアル自動車數ハ、千十臺乃至千二十臺ニ達スベシ。而モ該自動車ガ市內道路ヲ損壞スル程度ニ至リテハ、誠ニ驚クベキモノアリテ、宮城ヲ中心トスル道路竝ニ之ヲ圍繞スル道路ヲ始メ、日本橋、京橋、神田、下谷ノ大通及ビ市役所、日比谷公園附近ノ如キ、到ル處猛烈ニ道路ヲ破壞セラレツヽアル矢先、一面ニ於テ乘合自動車營業ノ出願アリテ、現ニ本市ノ意見ヲ徵セラレ居ルモ、此上乘合自動車ノ頻繁ナル往復ヲ見ルニ至ラバ、今日ノ砂利道ヲ以テシテハ、果シテ之レニ耐フベキヤ否ヤ、甚ダ不安ニ堪ヘザルモノアリ。殊ニ橋梁ノ如キモ、道路以上ニ損壞セルトコロ少カラズ、而モ是ヲ其儘放任シテ姑息ノ修理ヲナスニ止ムルコトアラバ、曾ニ維持費

ノ激増ヲ招來スルノミナラズ、他面ニ於テハ自動車ノ發達ヲ阻害スルノ虞ナシトセズ。殊ニ民間自動車ノ如キハ、一朝有事ノ場合、國家ガ之ヲ利用スト雖モ耳ニシツヽアルニ依リ、平常之レガ發達助成ヲモ念トセザルベカラザル事情アリ。是等ノ社會現象ヲ前ニシテ考慮スル時ハ、東京市トシテハ或程度ノ道路ノ改修ヲ計畫スル外ニ、別ニ文明ノ利器ニ對應スルノ手段ヲ考慮セザル可ラズ。然ルニ東京市ノ道路ノ總面積ハ、約二百五十五萬坪ヲ有スルヲ以テ、悉ク之ガ改修ヲ行フコトハ、云フベクシテ行フ能ハザルトコロタルヤ明ケシ。假リニ自動車ノ通行シ得ベキ幅員六間乃至八間以上ノ道路ヲ改修セントスルモ、或部分ヲ「アスファルト」トシ、或部分ヲ木塊トシテ計算スルモ、尚ホ千四五百萬圓ノ資金ヲ要ス、果シテ然ラバ、只今述ブルガ如ク壹億五六千萬圓ノ借金ヲ負ハザルベカラザル外、別ニ新ニ叙上ノ借金ヲ必要トスルガ故ニ、東京市ノ公債額ハ纔テ貳億ニ達スルノ時期近キニアルヲ覺悟セザルベカラズ。而シテ假リニ其利子ヲ五朱ト見積レバ、年額壹千萬圓ノ負擔トナル、然ルニ一方大正十年頃ヨリ元金及利子償還ノ爲メ、年々壹千萬圓ヲ支拂フコトヽナリ、而モ相當長期ニ亙リテ之ヲ繼續セザルベカラズ。是等ノ借金ガ速カニ皆濟シ得ルモノナラバ、前途ノ財政計畫及事業計畫ヲ樹立スル上ニ多大ノ便宜ヲ受クル次第ナルモ、右ハ前述ノ如ク何レモ長期ニ亙ルモノヽミニテ、最モ短期ト稱スルモノガ今後尚二十年、其長期ニ亙ルモノニ至リテハ、四十年ニ及ブモノアリ、故ニ余ノ存命中ニハ到底之ガ支拂ヲ完了スル能ハザルナリ。而モ斯ル巨額ノ借金ヲ爲スニアラザレバ、禁穀ノ下ニ於ケル都市經營ハ不可能ナル實情ニ在ルヲ如何セン、之ヲ思ヒ彼ヲ思ハヾ、東京市ノ前途洵ニ容易ナラズト謂フベキナリ。殊ニ電車事業ノ如キ、既ニ昨年度ニ於テ諸君ノ協賛ヲ得、或ハ電車賃ヲ値上シ、或ハ未成線ヲ完成シ、或ハ減損補塡金ヲ確實ニ積立テ、又或ハ改良資金ニ充當スル等、夫々計畫ハ樹テタレドモ、之ヲ以テ根本解決ヲ爲シタリトスルハ早計ナリ。一例ヲ云ヘバ、電車運轉ノ爲メ鬼怒電ヨリ購入シツヽアル電力ノ周波ハ二十五「サイクル」ナルモ、右ノ設備ハ今日ノ場合、鬼怒電以外ニ之レナク、他ノ電力會社ハ何レモ皆五十「サイクル」ノ設備ナリトス、而モ二十五「サイクル」ノ周波ニ依ルニアラザレバ、電車ヲ運轉セシムルコト能ハザルニ拘ラズ。故ニ此間ニ於テ、東京市ガ二十五「サイクル」ノ設備ヲ用意スルニアラザレバ、止ヲ得ズ、再ビ鬼怒電トノ契約延期ヲナスカ、然ラザレバ電車ノ運轉ヲ休止セザルヲ得ザル結果トナルナリ。玆ニ於テ、東京市ハ新ニ二十五「サイクル」ノ設備ヲ爲スカ、然ラズンバ他ノ會社ノ手ニ依リテ設備スルノ方法ニ據ラザル以上、東京市ハ常ニ鬼怒電ニ左右セラルヽ結果トナルヲ免レズ。更ニ夜間電車、葬式電車、撒水電車等ノ問題アルモ、何レモ巨額ノ費用ヲ要スル容易ナラザル事業ナルヲ以テ、右ハ未成線完成以外ニ考慮スベキ問題ナリトス。次ニ現在問題化シツヽアル高輪、上野、淺草間ノ地下鐵計畫ノ如キ、早晩實現スルモノト假定スレバ、是亦對應策ヲ決定スルノ必要アリ。斯クノ如ク多方面ニ關聯スル一大電氣事業ヲ營ミナガラ、其根幹タルベキ電源計畫ヲ閑却セシハ、東京市ノ一大弱點ニシテ、之レガ爲メ東京市ハ、今日迄如何ニ難局ニ立チツヽアリシカ、殆ド想像モ及バザルモノアリ。飜ツテ現下ノ問題タル電氣供給事業ニ關スル狀況ヲ見ルニ、明治四十四年電車事業ト共ニ之ヲ買收シテ以來、今日ニ至ル迄不幸ナル歷史ノ連續ナルハ遺憾ナリ。今本事業ノ爲メニ如何ナル資金ガ投ゼラレタリヤト云フニ、電燈事業ノ爲ニ電氣事業公債ノ一部タル千參百萬圓ヲ充當シタルガ、當初ノ考ヘニ依レバ電燈事業ハ頗ル有利ニシテ、電車事業ノ損失ハ、之レニ依ツテ償フ豫定ナリシガ如クナルモ、事實ハ全ク之レニ反シ、電車事業ハ基礎ノ危キニ拘ラズ、目下ノ處之ヲ繼續セシムルニ難カラザル狀態ナレドモ、電燈事業ニ至リテハ、大正三年十月當市會ニ於テ整理ニ關スル建議案ノ通過ヲ見タルガ、其文中ニハ

本市電燈料金ノ現狀ハ紊亂不條理ヲ極メ、延テ本市財政ノ基礎ヲ危クシ、且市民ノ公德ヲモ破壞セントスルニ至ル。是レ實ニ從來電燈事業經營ノ方針ヲ確立セズ、徒ラニ無謀ノ競爭ヲ事トシタルニ依ル。故ニ市當局ハ須ラク本市會ノ意見ニ基キ、如上ノ弊害ヲ矯正スル爲ニ適當ノ方法ニ依リ、本市財政ノ基礎ヲ危クセスシテ、普ク全市民ヲシテ公平均一ナル低廉ノ公定料金ニ據ラシムベキ具體的ノ實行方法ヲ定メ、二箇月內ニ本市會ニ提案セラレンコトヲ望ム。

ノ字句アリ、余ハ一昨年(大正四年)六月、市長ニ就任後、前記ノ建議ヲ閱讀シタルモ、當時電燈事業ノ內容ヲ詳知スル能ハザリシノミナラズ、一面ニ於テ電車事業ノ狀態又頗ル不安ニシテ、大正五年ヨリ巨額ノ元金ヲ償還セザルベカラザル時機ニ直面シナガラ、之ニ充當スベキ資金ナク、誠ニ容易ナラザル事態ニ在リシヲ以テ、電車事業經濟ノ始末ヲ先キニシタル關係上、電燈事業ハ之ヲ後廻シトナシタルナリ。然レドモ其間決シテ放任シタルニ非ズシテ、吏員ニ命ジ調査丈ハ之ヲ進メシメ、電車事業經濟問題ノ一段落ト共ニ、仔細ニ其內容ヲ檢討シタル所、其紊亂不條理ノ甚ダシキニ驚ケリ。市會通過ノ建議案ニアリシ如ク、電燈料金ニ關スル紊亂不條理其極ニ達シ、延イテ本市ノ財政ヲ危クシ、市民ノ公德ヲ破壞セントスルノ狀態ニ在ルコト甚ダ明白ニシテ、議員諸君ノ憂慮モ亦無理ナラザルモノアリ。故ニ一日モ早ク建議ノ趣意ヲ體シテ成案ヲ得ントス欲シタルモ、東京電燈及日本電燈ト稱スル相手ノアルコトニテ、此等ト意思ノ疏通ヲ計リタル後ニ非ラザレバ、起案ヲ爲ス能ハザル事情ニ在リ。因ッテ昨年五月前記兩會社ヲ代表スル人々ニ會見ヲ求メ、再三懇談ヲ遂ゲタルモ、東電側ノ意見ニ依レバ、今日ノ場合市營ヲ民營トスルハ、當ニ難事タルノミナラズ、之ヲ協定ニ依ラントスルガ如キ、今更思ヒモ寄ラザルトコロナリ。故ニ暫ク現狀ノ儘ニ據置カンコトヲ望ムト主張シ、五、六ノ二箇月ハ、押問答ニテ經過シタルモ、余ハ其間、口頭ノミヲ以テスル折衝ニ依ランヨリハ、具體案ヲ作成スルノ有利ナルヲ信ジ、七月初旬漸ク成案ヲ得テ、內々前記兩會社代表者ニ示シ、余一己ノ考ヲ以テ、右具體案ヲ中心トシテ交涉ヲ重ヌルコト七八兩月ノ長キニ及ビタルモ、三者ノ意見容易ニ合致セズ、其間屢ミ衝突ヲ來シ、一度ハ余ノ手ニ於テ本問題ヲ解決スルコト、到底不可能ナリト思惟スルニ至リ、七月末ニハ遂ニ之ヲ拋擲シテ箱根ニ去レリ。然レドモ飜ッテ考フレバ、此儘之ヲ放任スル結果ハ、累ヲ後日ニ貽シ、遂ニ收拾スベカラザルニ至ルベキヲ思ヒ、九月上旬歸京シテ、再ビ協議ニ着手シ、市有、民有、協定ノ三者ニ就キ、前記兩會社ノ意見ヲ徵シテ、普ク之ヲ公表スルノ準備ヲ進ムルニ努メタルモ、余甚ダ微力ニシテ、加フルニ其道ノ智識ニ乏シク、爲メニ交涉頗ル困難ヲ極メ、容易ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハザリシハ、深ク慚愧ニ堪ヘザル所ナリ。斯クノ如クニシテ十一月初旬ニ至リ、漸クニシテ一致點ヲ見出スニ至リタルニヨリ、玆ニ始メテ、電氣供給事業整理案ヲ印刷シテ一冊子トナシ、廣ク世上ノ教ヲ乞フニ至レリ。本案ニ就テハ、既ニ建議案ノ市會通過ヲ見タルガ故ニ、努メテ其趣意ニ副フベク、電燈料金乃至收支計算等詳細ヲ揭載シタリ。然レドモ事技術ニ亘リ、且ッ計算ニ關スルモノ多キヲ以テ、一々專門家ヲ煩ハシ、辛ウジテ其內容ヲ理解スルヲ得タルモ、收支ノ調節、財政ノ基礎等ニ關シテハ、事頗ル面倒ナルヲ以テ、識者ノ教ヘヲ請ハント欲シ、敢テ參考案ヲ作成公表シタル次第ナリトス。然ルニ各方面ヨリ種々有益ナル示教ヲ受ケ、且ッ懇篤ナル注意ヲ與ヘラレ、余自身モ亦熟考ノ結果、市營モ民營モ、俱ニ頗ル難シトスルトコロナルノミナラズ、市營統一問題ニ就テハ、前市長ノ計畫遂ニ失敗ニ歸シタル前例アリ、且當時ノ情勢ト今日トハ、其間著シキ差異ヲ生ジ、今日ノ株券ノ値段ヲ標準トシテ買收セントスレバ、容易ナラザル資金ヲ要シ、國有鐵道買收計算法ニ依ルトスルモ、巨額ノ資金ヲ準備スルニアラザレバ、ソノ目的ヲ達スル能ハズ。今日ノ場合、余ノ立場ニ於テ、會社側

ノ意見ヲ發表スルハ本意ニアラザルモ、前市長當時會社側ニ相談シタル價格ヲ以テシテハ、到底買收ニ應ズベクモアラズ。加之、現在東京市ノ財政狀態ヲ以テ、極メテ近キ將來ニ五六千萬圓ノ借金ヲ爲スニアラザレバ、時勢ノ進運ニ伴フ事業ノ經營不可能ナル實情ニ於テ、電燈事業ヲ東京市ガ買收統一シテ、更ニ巨額ノ公債ヲ負擔スル事ハ、他日ハ兎モ角、今日ノ場合之ヲ許サズ。而モ尙ホ之ヲ斷行シテ萬一失敗ニ歸スルコトアランカ、余一人ガ腹ヲ屠リ、死シテ其責任ヲ謝スルモ、之ヲ償フノ途ナカルベシ。故ニ余ハ如何ニシテモ、市營統一ヲ斷行スルノ勇氣ナシ。殊ニ電燈事業ノ如キ、ソノ經營ニハ機敏ヲ要シ、微細ナル注意ヲ要スルモノヽ如ク、從ツテ所謂役人仕事ニテハ、大規模ノ事業ヲ遂行スルコト思ヒモ依ラズ、今假リニ相當ノ價格ナラバ會社ガ市ノ買收ニ應ズルトシテモ、當局トシテハ財政上遽カニ之ヲ實行スル能ハズ。成程本問題ハ、既ニ前市長ノ計畫サレタル事案ナルヲ以テ、現當局ハ當然是レニ追隨スルヲ順序ナリトスルモ、當時ト今日トハ四圍ノ事情ニ於テ著シキ相違アルヲ以テ、遺憾ナガラ斷念セザルヲ得ザルナリ。然ラバ民營ニ統一セシムベク之ヲ拂下グルコトヽセンカ、累ヲ將來ニ貽サヾル手段トシテハ適當ナランモ、現在ノ負債總計千五百萬圓ノ償還ノ途ヲ講ジテ、然ル後之ヲ引受ケントスル會社アラバ兎ニ角、然ラザル限リ實現困難ナリト認メザルヲ得ズ。殊ニ會社側ノ意嚮ヲ探ルニ、斯ル大金ヲ償還スルコトハ、市ノ電燈事業ガ、現ニ電車事業ト同樣ノ設備ヲ以テ、不相應ナル資金ヲ投ジツヽアルガ故ニ、實際八百萬圓內外ニテ處辨シ得ベキ設備ニ對シ、千參百萬圓ト云フガ如キ投資ヲナシ、尙ホ其上幾多ノ損失ヲ累ネツヽアルヲ以テ、彼是合計シテ五百萬圓乃至六百萬圓丈餘分ノ經費ヲ支出シツヽアリ。故ニ斯ノ如キ事情ヲ承知ノ上、長期ニ亘リテ償還セシムルコトヲ認ムルニアラザレバ、民營ノ目的ヲ達成スルコト能ハズ。今假リニ會社ニ於テ之ヲ引受ケ、民營トシテ經營ストスルモ、果シテ會社ガ電燈料金ヲ低減スルヤ如何ト云フニ、右ノ如キ大資本ヲ脊負ヒ込ム以上、到底之ガ實現ヲ望ムコト能ハズ。更ニ他面ヨリ考フルモ、二三年前日本電燈ト東京電燈トノ合併ヲ策シタル當時ニ於テ、東京市內ニ容易ナラザル騷擾ヲ起シ、燒打ニ等シキ混亂ヲ發生シテ合併不成立ニ終リタル歷史ハ、今尙ホ市民ノ記憶ニ新ナルトコロナリ。斯ル場合ニ於テ民營ノ統一ヲ計リ、以テ東京市將來ノ禍根ヲ絕タントスルモ、世事必シモ意ノ如クナラズシテ、萬一騷擾ヲ釀スガ如キ事態ヲ惹起センカ、其結果ヤ知ルベキノミ。依ツテ玆ニ所謂民營ヲ打切リ、別途ニ新會社ヲ組織シテ、其經營ヲ一任スルノ方策ヲモ考慮シタルガ、新會社ニ於テ果シテ千參百萬圓ノ資本ヲ引受クルニ當リ、確實ニ是レガ償還ヲ保證シ得ルヤ如何ト云フニ、恐ラクハ不可能ナリトスルモ、該新會社ト既設會社トノ協定ハ如何、假令一時的協定ヲ見ルコトアリトスルモ、保險會社ノ所謂協定ノ如ク、須臾ニシテ競爭狀態ニ復シ、現ニ市ガ二ツノ電燈會社ト競爭シテ、互ニ不利ノ結果ヲ見ツヽアルガ如キ始末トナラバ、經濟界ヲ紊亂シ、市民ノ公德ヲ破壞シ、其極設備粗雜トナリテ、市民ヲ危險ニ曝スガ如キコトアリトセンカ、內外ニ對シ誠ニ申譯ナキ結果ヲ招來スベシ。彼レヲ思ヒ、之ヲ思ハヾ、他日ハ兎ニ角、今日ノ場合、以上ノ計畫ハ實現何レモ不可能ニ屬スルヲ以テ、參考案ニ示シタルガ如ク、協定ニ依ルノ外途ナシト考フルニ至リシナリ。而シテ協定ニハ自ラ各種ノ方法アルモ、最モ適切ナル方法ハ、區域ヲ分割シテ、各ソノ區域內ニ於テ、獨占經營ニ任スヲ可トスベシ。右ハ先年來京都市ガ、五年間契約ノ下ニ上京區ヲ市營トシ、下京區ヲ民營トシテ協定シツヽアルトコロノ案ナレドモ、東京市ト、京都市トハ、其範圍ニ於テ著シキ廣狹ノ差アルノ外、財政狀態モ亦相互間ニ多大ノ相違ヲ有シ、而モ經營者ハ三者鼎立ノ狀態ニ在リ。故ニ京都市ノ如ク其區域及料金迄モ、根本的ニ協定スルコト到底不可能ノ事情ニ在リ。然ラバ東京市トシテ如何ナル方法ニ依ルヲ至當トスベキヤ、此點ニ就テハ東京市獨自ノ建前ニ於テ立案スルノ必要ヲ認

メ、先ヅ從來三電ガ供給シツヽアリシ權利ハ其儘之ヲ保有シ、新規ノ需要ニ就テノミ其區域及料金ヲ協定スルコトヽ爲サントス。固ヨリ市ノ電氣事業ガ有利有望ナラバ、敢テ斯ル方法ヲ講ズルノ必要ナキモ、如何セン過去ノ業績ニ徴スルニ、年々損失ヲ重ネツヽアリテ、今後如何ニシテ供給區域ノ擴張ヲ圖ルベキカ、又其所要經費ノ收支計算ガ幾千ニ達スルヤヲ豫想スル能ハズ、而モ其豫算ヲ立ツル能ハズトセバ、東京市財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコト覺束ナシ。故ニ止ムヲ得ズ、新需要ニ對ッテ、其區域ヲ協定セントスルノ案ヲ提出スルニ至リシナリ。而シテ本案ハ前市長時代、買收案ヲ議スル以前ニ於テモ問題トナリタル事ハ、『電燈問題ニ關スル經過報告』ト題スル印刷物中ヨリ之ヲ發見シタリ。同案ニ依レバ、東京市經營ニ屬スル所屬區域トシテ、市內ニ於テハ四谷、牛込、芝、本鄕、小石川ノ五區、郡部ニ在リテハ澁谷、千駄ヶ谷、大崎ノ三箇町ヲ取リタルガ、右ノ中郡部ハ格別ナレドモ、市部ニ於テハ、主トシテ市ノ現在ノ電燈ニ關スル設備上、最モ便利ナル區域ヲ手中ニ收メントシタルモノヽ如シ。然レドモ以上ノ計畫ニ對シテハ、會社側ニ於テ之レニ應ゼザリシノミナラズ、市ニ對シ寧ロ進ンデ買收サレタシ、買收ノ相談ナラバ、其內容ノ如何ニ依リ考慮スルトコロアルベシト應酬シタルニ依リ、市トシテハ深ク本問題ニ立入ラズ、買收ニ向ッテ精進シタリト見ルベキ理由アリ。即チ料金モ同時ニ協定スル考ヘナリシト見エ、定額電燈、從量電燈料等ヲ參考案トシテ揭出シ、五燭燈一箇月一燈ニ付、門軒燈四拾貳錢、室內燈四拾五錢、十燭燈六拾錢、十六燭燈七拾錢、二十四燭燈九拾錢、三十二燭燈壹圓拾錢トシ、何レモ之ヲ定額燈トシテ「電球ハ需要者ノ自辨トス、但電球供給者持ノトキハ一箇月一燈ニ就テ五錢ヲ申受ク、內線器具ヲ自辨セラルヽ時ハ、定額、從量ニ拘ラズ何レモ一燈ニ就キ參錢ノ割引ヲナスコト」等ノ事項ヲ揭載セリ。即チ今回ノ如クニ區域ヲ協定シ、料金モ亦之ヲ標準トシテ、均一ト爲サントスルノ計畫ナリシモノヽ如シ。然ルニ前述ノ如キ事情ノ爲メ、本案ハ何等ノ進捗ヲ見ズ、其儘消滅スルノ止ムナキニ至レルナリ。

玆ニ於テ、東京市ハ今回新ニ區域ノ協定ヲ策スルニ當リ、從來ノ設備ヲ利用スルニ最モ便利ナル場所ヲ選ブコトヲ基礎トシ、牛込、芝、本鄕、小石川ノ外、郡部ハ之ヲ棄テヽ、代フルニ麻布ヲ以テシ、前記五區ヲ東京市ノ所屬トスルコトヽシテ提案シタリ。此點ニ關シテハ交涉容易ニ決セズ、頗ル難局ニ遭遇セリ。即チ右提案ニ依レバ、東京市、東電、日電三者ノ現有電燈々數ヲ按分スルニ、東京市ノ區域意外ニ廣ク、直チニ之ヲ市ノ區域ニ歸屬セシムルコトニ關シテハ、東電側ノ承服スルトコロトナラズ、芝區ノ半分ヲ市ニ讓リ、他ハ東電ノ區域トナサンコトヲ主張シタル爲メ、折衝長時日ニ亘リ、結局東電側ノ讓步ニ依リテ、漸ク芝ノ全區ヲ市ノ手ニ收ムルコトヲ得タリ。然ルニ一方東電ト日電トノ區域協定ニ就テ面倒ナル捫着ヲ生ジ、日電側ノ淺草、本所、深川ニ對シ、東電側ニ於テ故障ヲ申立テ、玆ニ再ビ頓挫ヲ見ルニ至リシヲ以テ、市ニ於テハ止ムヲ得ズ、日電ヲ除外シ、東電トノ協定ニ止メンコトヲ決意スルニ至リタルモ、調停ノ勞ヲ執ルモノアリテ、結局市長タル余ニ一任スルコトヽナリタルヲ以テ、余ハ双互ノ間ヲ斡旋シ、前記ノ三區ハ日電ノ所屬トナシ、玆ニ漸ク協定ノ一段落ヲ告グルニ至レリ。

然ルニ市ガ何故ニ郡部ヲ見棄ツルニ至リタルカニ關シ一言スベシ。郡部ニハ前記二電ノ外、別ニ競爭會社アリテ是レト競爭セザルベカラザル面倒アリ、更ニ郡部中ニ於テ、市ガ其筋ヨリ地中線ニ變更スベキ命令ヲ受ケタル場所少カラズ。殊ニ、品川、千駄ヶ谷ノ如キ、急速ニ變更スベキ必要ニ迫ラレナガラ、經濟上ノ都合ニテ之ガ急施ヲ許サヾル場所ニ對シ、昨年中延期願ヲ提出シテ其儘トナリ居レル所アリ、故ニ今後郡部進出ヲ計畫セバ、勢ヒ地中線ニ對スル義務ヲ負ハザル可ラズ。斯クノ如クニシテ多額ノ負擔ヲナシ、剩ヘ競爭ノ費用迄モ負擔スルコト

ハ、現在ニ於テスラ振ハザル郡部ニ於テ利スルトコロナキノミナラズ、其區域ノ散漫ニシテ、一箇村一箇月ノ料金徴收額、僅カニ拾壹圓ニ過ギザル僻遠ノ村落ニ迄架線ヲナシ、集金人乃至監督ヲ派遣シテ、人件費ヲ費消スルコトハ、集約ノ目的ニ反シ、協定本來ノ趣旨ニ悖ルモノアルガ爲ナリトス。則チ市ノ營造物ノ本體ヨリ云フモ、出來ル丈之ヲ市内ニ集約シ、以テ經營ヲ敏活ナラシムルト共ニ經費ノ節約ヲ計ルノ要アルガ爲メ、郡部ニ迄區域ヲ擴張シテ、散漫ナル營業ヲ繼續スルノ不經濟ヨリ免レシメントスルノ意ニ外ナラザルナリ。但シ既ニ取付ケタルモノハ、他日需要者ノ承諾ヲ得テ、或ハ切換等ノ方法ニ依リ、整理スルノ機會アルヤモ知ラザレドモ、今日ノ場合ニ於テハ、三事業者各自ガ經營シツヽアルヲ以テ現狀ノ儘トシ、先ヅ以テ五區ニ集約シ、將來小範圍内ニ於テ經營セントスルノ方針ヲ樹ツルニ至レリ。

斯クノ如ク區域ヲ協定シテ營業スル結果ハ、自然獨占ノ弊ヲ生ズルガ故ニ、料金ノミヲ協定シテハ如何トノ議論モアリタレド、前述ノ如キ理由ニ依リ、幷ハ到底行ヒ難キコトナルヲ以テ、終ニ區域協定ノ擧ニ出デタルモ、料金ニ就テハ、各事業者ガ勝手ニ之ヲ左右スル能ハザルヤウ本契約中ニ之ヲ規定シ、所謂橫暴ノ誇リヲ免レシムルノ方策ヲ講ジタリ。然レドモ本契約成立ノ後、唯リ料金ノミナラズ、設備上、取扱上、橫暴又ハ不親切ト云フガ如キコトアリテ、需要者ニ迷惑ヲ及ボスコトナキヲ保シ難シ。現ニ今日獨占ト稱スル程ニハアラザルモ、東京市ノ水道ノ如キ、余ノ就任後ニ於テ、頗ル不親切ナリト訴ヘラレタル事例少カラザルノミナラズ、電燈ニ就テモ亦、不親切ヲ理由トシテ訴ヘラレタル事實アリ。右ハ單ニ會社ノ獨占橫暴ノミニアラズシテ、市當局ニ於テモ充分注意セザルベカラザル事例ヲ經驗セリ。只併シナガラ、其所謂橫暴不親切ナルモノガ、市ニ於テハ市長之ヲ知ラズ、會社ニ於テハ重役、社長之ヲ知ラズ、集金人又ハ職人等ノ間ニ於テ行ハレツヽアルコトガ、橫暴、不親切ノ批難トナリテ現ルヽモノ多キガ如シ。故ニ今後ハ是等下層ニ發生スル不都合ナル事象ガ、直チニ責任アル監督者ニ通達セラレ、因ツテ生ズル弊害ヲ矯正シ、相當ノ成績ヲ擧グルコトヲ得ベシト信ズ。即チ本契約案ニ依レバ、協定者相互ヨリ所謂監査委員ヲ選出シ、需要者ニ於テ、苟モ不都合ナリトノ事實アラバ、直チニ之ヲ監査委員ニ申告セシメ、同委員ハ又直チニ之ヲ責任アル監督者ニ通達シテ、速カニ之ヲ處理シ、以テ從來ノ弊習一掃ニ努力スルコトヽナシタルガ故ニ、相當好結果ヲ見ルニ至ルベシ。斯クノ如クニシテ、市ハ經營萬端ニ亘リテ改良ヲ加ヘ、他ノ二會社ノ模範タルコトヲ期セント欲ス、是レ今回區域ヲ協定スルニ至リタル大要ナリトス。

次ニ料金ニ就テ一言スベシ。既ニ先刻モ縷述シタルガ如ク、右ハ大體市會ニ於ケル建議ノ趣意ヲ體シテ立案シタルモノナルモ、何分ニモ此料金ニテハ、收支相償ハザルノミナラズ、彼是權衡ヲ失スルノ怨ミアルヲ以テ、現存ノ料金ヲ改メテ公平均一ナラシメ、同時ニ市財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル根本義ニ於テハ、飽迄モ建議ノ趣意ヲ尊重シ、財政ノ許ス限リ、出來得ル丈低廉ノ公定料金ニ依ラシムルノ方法ヲ執レリ。然ラバ料金決定ノ方針如何ト云フニ、現在ノ料金ハ、實ニ市會建議ノ如ク不條理、不公平ヲ極メ、定額料金ハ、明治四十四年七月二十九日ノ市會ニ於テ議決シ、同年八月一日ニ其規定ヲ發布シタルモノヽ、是レ現存ノ公定料金ニシテ、五燭燈一箇月五拾錢、拾燭燈同九拾錢、十六燭燈同壹圓貳拾五錢ト云フガ如ク、其儘之ヲ踏襲シツヽアリ。然ルニ市ガ電氣事業ヲ買收シタル當時、東京鐵道株式會社ニ在リテハ、右ニ先ダチ、五燭燈四拾五錢、十燭燈八拾錢、十六燭燈壹圓拾錢、二十四燭燈壹圓五拾錢ト云フガ如キ、安價ナル料金ヲ發表實施シタリ。故ニ市ハ該事業ヲ繼承シタル後ニ於テモ、矢張リ割引ノ名義ノ下ニ同會社ノ發表シタル料金ニ依ラザルベカラザル事情ノ下ニ置カレタリ。更ニ東京電燈ニ在リテモ、其前後ニ於テ東鐵會社ト同樣ノ料金ヲ發表シ、電球モ炭素球ノ場合ハ無料トシ、「タングステ

ン」ノ場合ハ需要者ニ於テ之ヲ買受ケ、設備ガ會社持ノ場合ハ、一箇月一燈五錢ノ損料ヲ申受クルコトヽシ、日本電燈ニ在リテハ、五燭燈一箇月四拾五錢、十六燭燈七拾錢ニシテ、ソノ料金ハ區々ナレドモ、大體ニ於テ相匹敵スル料金ヲ以テ供給セリ。然ルニ市ハ大正二年二月ニ至リ、漸ク割引ヲ實行シテ、五燭燈四拾五錢、外燈四拾貳錢、十燭燈七拾貳錢、十六燭燈壹圓ト發表シタルモ、折柄三事業者ガ、激烈ナル競爭ヲ演ジツヽアリシ時代トテ、以上發表ノ割引料金ハ、一部ニ於テハ之ヲ實行シ、他方面ニ於テハ實行セラレズ、遺憾ナガラ區々ノ取扱ヲ爲スノ餘儀ナキ狀態ニアリタリ。併シ今日ニ於テハ、既ニ諸君ノ承知セラルヽガ如ク、五燭燈ノ料金モ、內燈ニ於テ十五種類、外燈ニ於テハ十三種類ニ之ヲ分チ、更ニ十燭燈ヲ二十七種、十六燭燈ヲ十七種、二十四燭燈ヲ十四種、三十二燭燈ヲ十一種ニ分類シ、同一燭光ニテアリナガラ、斯クノ如ク區々ノ料金ニ分チツヽアリ。是レ即チ市會ノ建議ニ於テ、不條理紊亂ヲ極メタリト指摘シタル要點ナルベシト信ズ。右ノ中ニハ、固ヨリ「イルミネーション」乃至露店ノ電燈ヲモ含メルガ爲メニ、一層料金ノ種類ヲ複雜ナラシメタルモノナルベシ。故ニ高額ヲ支拂フモノニ在リテハ、十燭燈ニ就キ七拾貳錢、低キモノニ在リテハ貳拾參錢ニテ供給ヲ受ケ、十六燭燈ニ就テ見ルモ、高キハ壹圓、低キハ參拾貳錢ニテ供給ヲ受ケ、三十二燭燈ハ、高キハ壹圓七拾錢、低キハ六拾七錢ト云フガ如キ、驚クベキ差異アリ。更ニ最低料金ト最高料金トヲ燈數ニ依ッテ均分スレバ、內燈ハ五燭燈ニテ四拾參錢參厘、外燈ハ四拾錢九厘、十燭光ハ五拾九錢九厘、十六燭光ハ七拾五錢、二十四燭光ハ九拾四錢七厘、三十二燭光ハ壹圓七錢壹厘、五十燭光ハ壹圓九拾九錢、八十燭光ハ參圓八拾九錢壹厘平均トナレドモ、此數字モ決シテ低廉ト云フベカラズ。玆ニ於テ今回ノ改正案ハ、設備ノ關係上、料金ヲ區別セザルベカラザルモノハ之ヲ區別シ、「イルミネーション」、露店電燈ノ如キハ、特ニ區別スルノ必要アリト認メ、普通ノ電燈トハ、全ク之ヲ區別シタリ。次ニ普通ノ電燈ニ對シテモ、屋內電線、構內線ニシテ、需要者自ラ設備シタルモノ約一割アルヲ以テ、是等ニ對シテハ、勿論內線使用料ヲ徵收セズ、市ニ於テ設備シタルモノニ限リ、內線使用料ヲ徵收スルコトヽナセリ。斯クノ如ク判然之ヲ區別シタル結果如何ト云フニ、從來平均五拾九錢參厘ノ十燭光ハ五拾五錢、七拾五錢ノ十六燭光ハ六拾錢、九拾四錢七厘ノ二十四燭光ハ七拾錢、壹圓七錢壹厘ノ三十二燭光ハ八拾錢、壹圓六拾九錢七厘ノ五十燭光ハ壹圓、參圓八拾九錢八厘ナリシ百燭光ハ壹圓六拾錢トナリタルヲ以テ、十燭光以上ハ、頗ル低廉トナリタルコトヲ御承知アリタシ。併シナガラ市會ノ建議ニ於テハ、十燭光ハ既ニ內線使用料ト合セテ五拾錢ナルヲ以テ、此間五錢ノ差異ヲ生ズルハ、余ノ甚ダ遺憾トスルトコロナリ。右ハ今回提出セル繼續費ノ參考書ニ示スガ如ク、經濟ノ調節頗ル困難ニシテ、十燭燈五拾錢ニテハ、到底採算不能ナル爲メ、止ムヲ得ズ五錢ノ內線使用料ヲ申受クルコトヽナセルナリ。但取付自辨ノ人々ニ對シテハ勿論之ヲ申受ケズ、更ニ十六燭燈以上ニ對シテハ、著シク其料金ヲ引下ゲタルガ、何故ニ十六燭燈以上ヲ廉ニシ、夫レ以下ヲ据置キタルヤノ批難アルヤモ知ラザレドモ、右ニ關シテハ、善惡ノ判斷ヲ諸君ニ一任スルコトヽシ、簡單ニ是レガ理由ヲ一言スベシ。即チ社會ノ進步ト共ニ、五燭乃至十燭程度ノ低キ光力ノ電燈ヲ以テシテハ、商工業ノ如何ヲ問ハズ、作業頗ル困難ニシテ、新聞ヲ讀ムニサヘ尙ホ三十二燭程度ノ光力ヲ要ス。是レ實ニ現下ノ社會狀勢ニシテ、世界各國又殆ド同樣ナルベシ、現ニ大阪ニ於テハ、五燭、十燭ノ制度ヲ廢シテ、八燭光ヨリ直チニ十六燭光ニ飛ビ、「ワット」燭光制トナセリ、是レ畢竟五燭光ハ時勢ノ廢物トナリタル證左ナリトス。今當時ノ狀況ヲ仄聞スルニ、當初十燭光ナリシモノハ、概ネ八燭光ニ移ルベシトノ想像ノ下ニ計畫ヲ樹テタルモ、結果ハ之ニ反シ、從來十燭光ヲ使用シツヽアリシ者ニシテ、八燭光ニ移リタルモノ極メテ少ク、

大部分ハ十六燭光トナリタル爲メ、供給ニ不足ヲ生ジ、俄ニ資金ヲ投ジテ供給ノ設備ヲ爲スノ餘儀ナキニ至リシナリト云フ。即チ現下ノ財界ハ極メテ好況ニシテ、事業モ益ミ繁榮ニ赴キツヽアルガ故ニ、燈光ハ俄迄强大ナルモノヲ要スルヲ以テ、十燭光ハ衰ヒ、十六燭光全盛期ニ入ルハ、蓋シ自然ノ趨勢ナリト謂フ可シ。而シテ京都及橫濱ノ兩市ニ於テモ、同樣十六燭光制ヲ採用シタルガ、商工業助成上ヨリスルモ、廉價ヲ以テ光力强キ電燈ヲ供給スルコトハ、社會ノ發展ニ伴フ自然ノ供給方法ナリト思惟ス。

然ルニ從來ノ料金ハ、定額燈ニ就テ見ルモ、二十四燭壹圓參拾五錢、三十二燭壹圓七拾錢、百燭四圓ト云フガ如キ高率ヲ唱ヘツヽアリシヲ以テ、如何ニ光力强キ電燈ヲ使用セントスルモ、料金ニ牽制セラレ、止ムナク五燭ト十燭トノ間ニ多クノ需要者ヲ有スルニ至リ、全需要者百七十萬ノ燈數中、五燭光需要者九十五六萬ノ多キヲ算スルニ至リシモノ即チ是レナリ。斯クノ如キハ、都會地ノ東京ニ於テ、果シヲ自然ノ現象ナリト云フヲ得ベキヤ、余ハ遺憾ナガラ悲シムベキ狀態ナリト斷ゼザルヲ得ザルナリ。故ニ今後社會發展ノ狀勢ニ應ゼンニハ、出來得ル限リ、光力强キ電燈ヲ廉ニシテ之ヲ奬勵シ、以テ益ミ繁劇ヲ極メツヽアル事業界ニ光明ヲ與フルノ方策ヲ講ズルノ要アリ。

現在電燈ノ經濟ハ、五燭乃至十燭燈ニ依リテ維持シツヽアルモ、光力强キ電燈ノ需要旺盛トナリ、是レニ依リテソノ經濟ヲ維持シ得ルニ至ラバ、漸次光力弱キ電燈料金ヲモ低減スルコトヲ得ベキナリ。故ニ今回ノ料金協定ハ以上ノ趣意ニ依リテ成立セシメンコトヲ期セリ。

尙ホ五燭光ニ就キ、更ニ一言スル所アルベシ。今回ノ提案ニ依レバ、室內電燈一燈ノミヲ點ズルモノニ限リ五燭光トシ、其他ハ廊下、便所、臺所、湯殿、街燈、門燈等ニ制限シテ、特ニ五燭光ヲ許シ、四拾五錢ノ料金ハ是等ノ總テニ適用スルコトヽナセリ。但シ「イルミネーション」、露店等ハ之ヲ除外シ、特別ノ料金ヲ設定シタリ。何故ニ斯ル制限ヲ設ケタリヤト云フニ、電燈經濟ニ於テ損失ノ主因ヲ爲スモノハ、實ニ五燭光多キニ職由スルガ爲メニ外ナラズ、即チ前ニモ述ベタルガ如ク、三電ヲ合計シテ約九十六萬燈ガ五燭光ニシテ、ソノ料金高キハ四拾五錢、低キハ貳拾錢ヲ以テ供給シツヽアリ、而モ右四拾五錢ハ、多大ノ割引ヲナシタル數字ニシテ、建設費、設備費、經營費ハ、十燭光ト大差ナク、五燭光ノ電力消費量約九「ワット」ヲ以テ足レリトス。是ニ由ツテ之ヲ觀ルモ、五燭光ハソノ數ノ增加スレバスル程、電力ノ消費量ヲ增大シテ而モ料金甚ダ廉ク、設備其他ニ於テハ、曾ニ十燭光ト異ナラザルノミナラズ、電球ノ心切(シンキ)レ多ク、從ツテ損害マタ尠カラズ。聞ク所ニ依レバ、右ハ一燈二燈ノ需要者ガ、光力充分ナラザルガ爲メ室內所々ニ轉々シテ電燈ヲ置キ換フル毎ニ、强キ震動ヲ受クルガ爲メナリト云フ。而モ右ハ必ズシモ需要者ノ罪ト斷ズルヲ得ザルモ、契約以外ノ電球ヲ使用スルモノ多キ事實ハ認メザルヲ得ザルノ實況ニ在リ。尙ホ競爭激甚ノ時代ニ於テハ、五燭光ヲ申込サヘスレバ、十燭光乃至十六燭光ヲ點ズルモ、幵ハ全ク需要者ノ意ノ儘ニシテ、會社ハ之ヲ公然ノ秘密トシテ怪マザリシ風アリシト云ヘリ。故ニ是レ亦强チ需要者ヲ咎ムベキ理由トナラズ。本來事業者自身ガ之ヲ奬勵シツヽ、今日ニ至リテ彼是批難スルハ當ラズ。殊ニ公共團體タル東京市ニ於テ、斯ル事實アリシコトハ其面目ニ關スルコト大ナリト謂フ可シ。併シナガラ右ハ既往ノ事實ニシテ、今更如何トモスル能ハザルトコロナレドモ、契約外ノ電球使用者多カリシ爲メ、無用ノ電力ヲ消費シタルコト意外ニ多ク、五燭光愈ミ多ケレバ、電力益ミ多量ヲ要スルノ奇觀ヲ呈シ、電氣事業者ノ經濟上ニ於ケル損失ノ一大源泉タリシハ遺憾ナリ。故ニ昨年度ニ於テハ、契約意外ノ電球使用者發見次第、料金ノ追徵ヲ斷行シタルガ、其金額モ亦巨額ニ達シタリ。

以上ノ理由ニ依リ、五燭光ハ、現在ノ時世ニ適合セザルモノナルヲ以テ、大阪、京都ノ例ニ倣ヒ、全然之ヲ廢止スル希望ナキニ非ザルモ、東京市ハ、他ノ都市ト異ナル所アリ、細民等ノ狀況ヲモ顧慮スルノ必要アルヲ以テ、一時ニ急激ナル變化ヲ及ボスノ虞アル事柄ハ、極力之ヲ避ケザル可ラザルガ故ニ、今回ノ協定ニ於テハ、前述ノ制限ヲ設ケテ之ヲ維持スルニ決シタリ。其結果如何ト云フニ、三電合計ノ五燭光九十五萬燈中、約六十五萬燈ハ、之ヲ其儘將來ニ殘スコトヽシ、爾餘ノ三十萬燈內外ハ廢燈トナシ、或ハ十燭光トナサヾルベカラザル運命トナレリ、而シテ右ハ契約外ノ電球使用者ニ該當スル數字ナリトス。

此時中野議長ハ、滿場ニ諮ツテ時間ノ延長ヲ宣シ、**奥田市長**ハ引續キ左ノ如ク說明ヲ繼續セリ。

更ニ從量燈ノ料金及電力ノ料金ヲ決定シタル事モ、大體ノ趣旨ハ以上述ブル所ト異ラザルモ、矢張リ多量ノ使用者ニハ、ソノ料金ヲ低廉ニスル方針ノ下ニ協定セント欲ス。料金ノ協定ニ就テハ、以上ノ說明ニ依リ略ゞソノ大要ヲ諒解セラレタルナランモ、該料金ハ必ズシモ固定セシムルノ趣意ニアラズ。即チ期間中ニ於テモ、電球ノ新規ナルモノ、其他料金ヲ低減シテ差支ナキ事態ニ到達セバ、其時ニ於テ三電協定シテ料金ヲ引下グルコトハ、毫モ躊躇スルトコロニアラズ。一例ヲ云ヘバ、現ニ五百燭光等ニ使用シツヽアル「ニトラランプ」ノ如キ、光力頗ル強大ニシテ、電力ヲ要セザル電球アリ、右ハ目下各種電球ニ就キ試驗中ナルモ、今日迄ノ試驗ノ結果ニ據レバ、熱力強烈ニシテ普通ノ設備ニテハ、到底一般ニ普及セシムルコト能ハズ、故ニ本案ニ於テハ、百燭光以上ノ電球ニシテ、該「ニトラ」ヲ使用スル場合、特ニ料金ヲ低廉トストノ條條ヲ設ケタルモ、百燭光以下ノ電球ニシテ、他日「ニトラ」ヲ使用シテ、支障ナキ時期ニ至ラバ、電力ヲ要セザル當然ノ結果トシテ、料金ヲ低減スルコト又素ヨリ支障ナキトコロナリトス。

以上ノ趣意ハ、契約書面ニハ記載セザルモ、覺書中ニハ之ヲ記載シ、以テ他日ニ備ヘンコトヲ期セリ。更ニ斯クノ如ク料金ヲ定メ、區域ヲ協定シテ、市ハ如何ナル經營ヲ爲サントスルカ、右ニ關シ聊カ所信ヲ披瀝スベシ。即チ市ニ於テハ、其區域內ノ新需要ニ對シテ相當ノ擴張費ヲ支出スル筈ナルガ、右ハ豫算中ニモ示スガ如ク、大正六年度ニ於テハ僅カニ拾四萬圓內外ヲ繰越シタルニ過ギザルモ、該金額ヲ消費シ盡セバ、一文ノ建設費モ剩サヾル現況ニ在リ。今回ノ區域協定ニ依リ、現在ヨリ增加スル燈數ハ二十一萬三千燈ニシテ、電力ハ四十五萬馬力ニ達ス。故ニ右ニ要スル設備擴張費トシテ、五箇年繼續費四百五拾八萬圓ヲ計上シタリ。而シテ該繼續費中ニハ、未ダ其金額ヲ明言スル能ハザルモ、曾テ百萬燈計畫ヲ樹立シタル當時準備シタル機械アリ、幷ハ貯藏品會計ニ屬スレドモ、前記繼續費ノ協贊ヲ得バ、貯藏品會計中ヨリ買取ル手筈トナリ居レリ。故ニ內輪ノ計算ニ於テハ該繼續費ハ貯藏品會計ニ戻ル勘定トナル。然ラバソノ貯藏品ノ內容ハ如何ト云フニ、今直チニ之ヲ明言スル能ハザルヲ遺憾トス。即チ該貯藏品中ニハ、「ケーブル」ノ如キ一部腐敗セルモノアルベキヲ以テ、充分ナル調査ヲ遂ゲタル上ナラデハ、精確ナル數字ヲ算出スル能ハザルモ、大體四百五拾八萬圓程度ノ金ヲ支出シ、五年間ニ之ガ設備ヲ完成シ、以テ協定ニ依ル五區ヲ基礎トシテ電燈經營ニ任ゼントス。而シテ大正六年度ノ豫算ニ於テハ、電燈事業ノ損失貳拾五萬餘圓ト計算シタルモ、今回改メテ計算スルトコロニ依レバ、今年度ノ不足額ハ、貳拾貳萬參千圓程度ニ止マリ、大正七年度ニ於テハ、四萬七千餘圓見當ニ止マルベシ。

次ニ電氣供給事業費更正竝追加豫算ハ、大正六年度豫算ノ更正ナルガ、若シ該繼續費ガ可決サレナバ、此計畫ニ基キ臨時費ノ上ニ狂ヒヲ生ズベシ。經常費ニ就テハ、本案ノ實施期不明ニシテ收入等ヲ豫定スル能ハザルヲ以テ、他日改メテ更正豫算ヲ提出スルコトヽシ、今ハ臨時費ノ更正竝ニ追加ニ止メントス。而シテ本案ニハ、大正六年

度豫算ニ於テ、諸君ノ協賛ヲ得タル不足額ガ其儘現レ居ルモ、同年度ノ不足額トハ、著シク其數字ヲ異ニス、右ハ全ク實行ノ時期未決ノ爲メ、其收入ヲ豫測スル能ハザルニ依ル。次ニ公債條例ノ改正ニ就キ一言セン、既ニ述ベタル所ノ如ク、此所ニ繼續費トシテ、約四百五拾八萬圓ヲ要求ストセバ、勢ヒ是ヲ公債ニ仰ガザルベカラズ、然ルニ第二回電氣事業公債條例ハ、諸君モ知ラルヽ如ク千六百萬圓ヲ募集スルコトヽナリ居リテ、大正二年ヨリ四箇年間ニ之ヲ完了スル筈ナリシモ、經濟界ノ狀況ニ依リ、內壹千萬圓ダケハ短期公債ヲ募リ、殘餘ノ六百萬圓ハ、未募集ノ儘今日ニ及ベリ。然ルニモ拘ラズ、該公債條例ニハ、大正二年ヨリ四箇年間ニ募集ストノ規定アルヲ以テ、先ヅ第一ニ其年限ヲ改正スルノ要アリ。同時ニ電燈事業丈ナラバ六百萬圓ヲ要セザルガ故ニ、五百萬圓ニ減額シテ、償還年次表ヲモ改正セントス、是レ公債條例改正案ヲ提出シタル理由ナリトス。尙此第二回電氣事業公債ハ、電燈ノミニ要スルモノニアラズシテ、電車ニモ之ヲ利用スル豫定ナルヲ以テ、何レ電車ノ方ハ未成線問題ヲ解決シ、別計畫トシテ、更ニ公債條例ヲ設定スルノ外途ナキガ故ニ、取敢ヘズ本改正案ヲ提出シタリ。

本案提出ノ理由ニ就テハ、略ミ之ヲ盡シタリ、然レドモ本案ガ市民ノ利益ヲ阻害スルモノアリトノ理由ニ依リ、他ニ名案アラバ、余ハ躊躇スルトコロナク、本案ヲ撤回シテ、其代案ニ聽從スベシ。故ニ賢明ナル判斷ヲ以テ、宜シク取捨アランコトヲ望ム

以上ノ說明終ルヤ。**黑須龍太郎君**ヨリ、議事進行ニ關シテ議長ニ希望スルトコロアリ。**中野議長**ハ、直チニ質問ニ移ランコトヲ告ゲタルモ、延期說多數ヲ制シ、來ル二十日改メテ續行スルコトヽシテ、九時四十六分散會シタリ。六月二十日午後四時四十五分前回ニ引續キ開會、質問通告順ニ依リ、議長ハ渡龜造君ニ發言ヲ許セリ。

渡龜造君ハ、約十箇條ノ質問アルモ、一ツ宛質問スベシト前提シ、

第一、一昨日本議場ニ於ケル奥田市長ノ演說ニ依レバ、或ハ余ノ誤解ナルヤヲ保セザルモ、一面ヨリ見レバ、差當リ本案以上ノ良案ナシト云フガ如クナルニ拘ラズ、他面契約期間ヲ十箇年ニ制限シタル所ヨリ見レバ、市長ノ本意ハ、電燈ノ市營統一ヲ根本的計畫ト爲スコトニハ同意スル能ハザルモノナルガ如クニモ聞エザルニ非ラズ、市長ハ果シテ、本案ヲ以テ機宜ノ措置ナリト認ムルモノナリヤ、或ハ根本的ニ解決セントスル趣意ナリヤ。

奥田市長　余ハ本案以上ニ良案ナシトハ言ハズ、若シ他ニ良案アラバ、必ズシモ本案ヲ固執スルモノニ非ラズト云ヒシノミ。更ニ問者ノ所謂根本的解決トハ、如何ナルコトヲ稱スルモノナリヤヲ知ラザルモ、右ハ見樣ニ依ルコトナラン、即チ統一スルコトモ、協定スルコトモ、倶ニ根本的解決ト稱スル能ハザルモ、余一己ノ見解ニ從ヘバ、電燈事業ノ如キハ其性質上、或ハ數會社ヲ統一シテ「トラスト」トナシ、又或ハ民營ヲ市營トナス等、自然ニ統一セラルヽモノナラント思惟スル者ナリ。彼ノ英國ニ於ケル「ポロー」ノ如キ即チ是レナリ、素ヨリ國情ニ依リ、時勢ニ依リ、各方式ヲ異ニスト雖モ、結局ハ東京市ヲ一區域トスルカ、又ハ民營乃至市營ニ統一スルカ、何レ時機ノ熟スルヲ待ツテ、早晩決行スベキモノナラント考フルモ、今日ノ場合ニ處スルノ途トシテ、本案ノ如キ方法ニ依リ、一面市經濟ノ基礎ヲ確立シ、他面市民ガ低廉ニシテ均一ナル料金ヲ以テ、其公平ナル供給ヲ受ケ、相互ニ關聯牽制シテ不都合ナカラシメ、他日時期ノ熟スルヲ待ツテ、民營トスルモ亦可ナルベク、更ニ適當ナル時機ニ於テ市營ト爲スモ可ナルベシ。併シナガラ右ハ今日余ノ論ズベキ限リニアラザルモ、孰レニスルモ本提案ノ如ク實施シ置ケバ、他日市營トスルモ民營トスルモ、統一アル料金ニ依ツテ、一般需要者ニ供給スルコトヲ得ベシト信ズ。

ト答フルヤ。**渡君**、市長說明ノ要旨ハ之ヲ諒トスルモ、今回ノ提案ハ、民營ノ前提ナリヤ、市營ノ前提ナリヤヲ伺ヒタシト迫ルヤ。**奥田市長**ハ、余ハ何レノ前提トナルトモ支障ナキモノト信ズルモノナリト答辯ス。**渡君**玆ニ於テ、第三ノ質問ニ移ルベシト前提シ、市長ハ電氣事業ノ缺損ナル語ヲ使用シツヽアルモ、ソノ所謂缺損額ノ內百拾萬圓ハ、豫定ノ缺損ナリト云フ、果シテ然ラバ、其差引缺損額ハ五拾萬圓トナル勘定ナルガ、右ハ電氣局ノ整理其他ニ依リ、缺損タラシメザル方法ナキヤ、然ルニ本豫算中ニハ整理ト認ムベキ何等ノ事實ヲモ發見スル能ハズ、萬一是レアリトセバ、例示センコトヲ望ム、例ヘバ協定ノ結果、從來ノ電力乃至營業費ガ幾許ヲ減ズルコトヽナルヤ、又整理ノ結果尙ホ缺損ヲ生ジタル場合、他ノ經濟ヨリ流用スルノ途アリヤ否ヤ、聞ク處ニ依レバ、電車値上ノ結果、豫定以上四拾餘萬圓ノ剩餘ヲ生ジタリト云フ、斯種ノ金ヲ電燈事業ニ流用スルコトハ、絕對不可能ナリヤ否ヤ、此點特ニ明答ヲ請フ。**奥田市長**ハ、余ノ所謂缺損トハ、決算面ニ現ハレタル數字ヲ指ス、爾後左樣承知アリタシ、更ニ整理ニ依ッテ得タル金額ノ流用問題ナルモ、電氣事業ノ現狀ニ於テハ、可ナリニ切詰メタル豫算ニ依ッテ經營シツヽアルガ故ニ、此際事業上ニ節約ヲ加ヘタリトテ、大ナル金額ノ浮ブベキ見込ミモ立タズ、假リニ多少ノ剩餘金ヲ生ジタリトテ、以上ノ缺損ヲ賠フベク餘リニ見込少キヲ奈何セン、マタ他經濟ヲ以テ電氣事業ノ缺損ヲ補塡スルノ途ナキヤトノ質問ナルモ、右ハ絕對不可能トナリ居レリ。則チ電車收入ノ如キハ政府ノ許可ナキ以上、他ニ流用スルノ途ナク、剩餘金アラバ之ヲ未成線ノ完成又ハ改良等ニ使用スルコトヽナリ居レリ。假リニ餘分ノ收入アリトスルモ、直チニ之ヲ他ニ流用スルコト能ハズ、故ニ余ハ、從來通リノ方針ニ從フト答辯スルノ外ナシト答フルヤ。**渡君**ハ、電車經濟ヲ電氣供給事業經濟ニ繰替ヘタル結果、市ノ財政狀態ニ及ボシタル影響、即チ事業ニ支障ヲ來シタリトカ、公債ノ償還ヲ不能ナラシメタリトカ、何等カノ支障ヲ生ジタル事實アリヤト問ヒ。**奥田市長**ハ、現在ニ

於テハ何等支障ヲ來サヾルモ、今後電燈電車ノ事業ニ關スル各種ノ新事業ヲ營ム以上、如何ニシテモ、過去ノ繰替ヲ清算シ置クノ要アリト認ムト述ブ。玆ニ於テ**渡君**ハ、先刻市長ノ說明中、電氣事業ニハ、少カラズ無用ノ資本ヲ投入シ居ルガ故ニ、千參百萬圓ノ金ガ、八百萬圓程度以上ニハ通用セズト云ハレタルモ、右ハ今回ノ協定ヲ機會ニ資本ノ活クル途ヲ講ジテハ如何、更ニ電氣經濟ヨリ普通經濟ヘ、年々五萬圓宛繰入レッヽアリシモ、大正二十五年度ヨリハ、拾萬圓ヲ組入ルヽコトヽナリ居レリ、右ハ直チニ之ヲ廢止スル能ハズトスルモ、萬一廢止ヲ斷行スルトセバ、百萬圓位ノ資本ヲ活カスコト頗ル易々タルベシ、余ハ是レガ廢止ニ依リ、普通經濟ニ支障ヲ來ス場合ハ、增稅スルモ可ナリト信ズルガ故ニ、極力之ヲ廢止シテ、電氣事業資本ノ有效ナル活用ヲ希望シテ止マズト言ヘバ、**奥田市長**ハ、余ハ東京電燈ヲ引例シテ、同會社現在ノ組織竝ニ設備ニ從ヘバ。八百萬圓程度ナリトノ話ヲ承知セリトノ意味ヲ陳述シタルニ過ギズシテ、徒ラニ無用ノ資本ヲ投下シタリトハ云ハズ、更ニ普通經濟ニ編入シツヽアル五萬圓ヲ廢止セヨトノ意見ナルモ、右ハ恐ラク不可能ナルベシ、彼ノ改良下水ノ如キ、大正七年度ニ於テ壹萬貳千七百圓、八年度四萬貳千圓、九年度六萬參千圓、十年度九萬八千圓ト云フガ如ク、ソノ維持費ハ年々著シク遞增シ、又河川浚渫費ノ如キモ年額參拾五萬圓內外ヲ要シ、六年度ニ於テハ拾五萬參千圓ヲ見込ミツヽアルモ、今後更ニ拾九萬七千圓ヲ要シ、今回新設サルベキ肺結核療養所ノ如キ、是又年額拾七萬五千圓ヲ要シ、國庫補助金ヲ控除スルモ、尙拾參萬圓ノ經常費ヲ要シ、大正七年度以降ニ於テハ、其上更ニ五萬五千圓ヲ必要トス。單ニ以上ノ三例ニ徵スルモ、其增加額ヲ合計スレバ、貳拾五萬圓乃至參拾五萬圓ノ增稅ヲ爲スニ非ザレバ、以テ經常費ヲ償フニ足ラザルナリ。次ギニ臨時費ニ見ルニ、近キ將來ニ新設スベキ塵芥燒却場ニ對シ、四拾萬圓乃至五拾萬圓ヲ要シ、墓地ノ擴張モ、假リニ三十萬坪ヲ、坪當リ貳圓ヲ以テ購入スルトセバ、總額六拾萬圓ヲ要ス、幸ヒ墓地ニ就テハ、參拾七萬圓ノ積立金ヲ有スルヲ以テ、大

體其程度ノ擴張ヲ爲ストスルモ、外ニ河川浚渫ニ伴フ土捨場ノ築造、市勢ノ調査等々、爲サヾルベカラザル事業擧ゲテ數フベカラズ、假リニ百歩ヲ讓リ、以上ノ事業ハ、徐々ニ之ヲ實施スルトシテモ、經常費ノ激增ハソノ底止スルトコロヲ知ラザル狀況ニ在リ、故ニ僅カニ五萬圓ナリト雖モ、現在編入シツヽアル金額ヲ廢止スルコトハ、容易ノ業ニアラザルナリ。渡君ハ編入廢止ニ由ル缺陷ヲ補フ爲メニ、增稅モ亦可ナリト言明サレタルモ、增稅ニ就テハ、參拾萬圓ハ愚カ、僅ニ拾萬圓ニテモ大問題ナリト思惟ス、故ヲ以テ現在ノ普通經濟編入金ハ、或時期マデハ此儘五萬圓ヲ組入レ、夫レ以後ニ於テハ、拾萬圓宛編入スルノ方針ヲ執ルノ外途ナキナリト應答スルヤ。**渡君**ハ、本質問ハ之ヲ以テ打切リ、續イテ次ノ問題ニ移ルベシト前提シ、本協定案ニ依レバ、區域協定以外一切ノ事業ヲ統一スルコトハ、或ハ不可能ナランモ、セメテ電燈料金ヲ始メ、設備ノ點丈モ、公平均一ヲ期スルノ要アリト認ム、市長ノ所見如何ト糺セリ。**奥田市長**ハ、料金ヲ公平均一ナラシムルコトハ、事實上實行困難ナルベシ、協定シテスラモ、動モスレバ崩レ易キモノガ、競爭中ニソノ料金ヲ公平均一ナラシムルコトハ、到底言フベクシテ行フベカラザル所ナリ。更ニ設備ノ點ニ就テモ、同一ナラシムルノ要アリトノ說ナルモ、現在ノ狀況ヨリスレバ、東電ニ於テハ、將來ハ知ラズ、現在ニ在リテハ架空線ニシテ、市電ニ於テハ地中線ナリ、更ニ聞ク處ニ據レバ、東電ノ如キハ、麴町、日本橋、京橋、神田方面ニ於ケル變電所ニハ夫々蓄電池ノ設備ヲナシ、萬一電源ニ故障アルモ、尙ホ四時間位ハ、該蓄電池ヨリ電力ヲ供給シテ、毫モ不都合ナカラシムル樣、完全ヲ期シツヽアリト云フニ拘ラズ、將來ハ兎モ角、市電ノ現在ニ於テハ、遺憾ナガラ其設備ヲ缺如セリ。斯クノ如ク、設備上ノ問題ハ、經濟ニ影響スル所尠カラザルガ故ニ、直チニ之レガ歸一統合ヲ庶幾スルコト能ハザルナリト答ヘ。**渡君**ハ、市長ノ提出シタル料金ガ正シキヤ否ヤハ別トシテ、豫算ノ許ス範圍ニ於テ假リニ市會ガ修正スルトセバ、市長ハ之レニ同意セラルヽヤ否ヤ、苟モ協定ヲ爲ス以上、多クノ燭力ヲ使用ス

ル者ニ料金ヲ安クシ、其反對ニ少量ノ燭力ヲ使用スル者ヨリ高キ料金ヲ徵收スルガ如キコトナキ樣致シタシ、假令バ十燭光五拾五錢ヨリ、布線料ヲ除キテ、五拾錢トナシ、其差額五錢ヲ十六燭使用者ニ負擔セシムルガ如キハ、果シテ實行不可能ナリヤ否ヤ、更ニ定額燈ト「メートル」ノ關係ナルガ、市政檢査委員ノ報告中ニモ、「メートル」ヲ本位トスベシトアリタルモ、幷ハ兎ニ角、嘗テ市參事會ニ提出シタル「市會建議ニ係ル電燈料金計算ト條例案電燈料金トニ就テ」ナル冊子ヲ見ルニ、定額燈ハ參拾貳錢、從量燈ハ拾六錢、之レニ電力ヲ見込ンデ定額燈ハ十燭光五拾錢、從量燈ハ拾五錢トナリ居レリ。以上ノ數字ヲ根本トシテ考慮スルトキハ、十燭以上ノ燭力ヲ有スル定額燭ヲ使用スル場合ニハ、一「キロワット」ノ使用料ハ、貳錢程度ノ契約ニテ充分ナルガ如シ、然ルニ從量燈ノ貳拾五錢、詰リ十燭五拾錢ニ相對照スル貳拾五錢ヲ使用スルトセバ、ソノ差額ハ一「キロワット」拾錢トナリ、甚ダシキ不均衡ヲ生ズル結果トナル、右ハ如何ナル根據ニ基クモノナリヤ、次ギハ現ニ問題トナリツヽアル五燭燈ナルガ、提案ニ依レバ、一世帶一箇ヲ使用スルモノニ限リ五燭燈ヲ許スガ如クナルモ、右ハ必ズシモ斯ル制限ヲ附セズ、五燭ニテ引キ合フ料金ヲ附シテ、何人ニモ之ガ使用ヲ許スノ意思ナキヤ、本件ハ社會政策ニモ關スル事柄ナルニ依リ特ニ考慮ヲ拂ハレタシト糺スヤ、**奥田市長**ハ、料金ノ修正ニ對シテ、市長ガ同意スル以上、余一己ノ意思ヲ以テ如何トモスル能ハズ、更ニ料金ノ定額及從量ノ問題ハ、益田技師ヨリ答辯セシムベク、又五燭燈ノ件ハ、渡君ノ質問ト、本會提案ノ內容トハ、聊カ其趣ヲ異ニスルガ如シ。即チ本案ハ一世帶ニ就キ、室內電燈一箇ノミヲ使用スルモノニ限リ、五燭燈ノ使用ヲ許スノ謂ニシテ、何レノ家ニモ之ガ使用ヲ承認セントスル意思ニハ非ラザルナリ、最モ料金算定ニ關シテハ、大體八種ノ方法ニ就キ研究ヲ遂ゲタルモ、種々ノ困難ヲ伴フガ爲メ以上ノ數字ヲ以テ成案トナセリ、但室內燈ハ、一燈ヲ使用スルモノニ限リ、五燭ヲ認ムルコト前述ノ如クナルモ、便所、廊

下、臺所、湯殿ノ如キハ、何レモ五燭燈ヲ使用シテ差支ナキコト本案中ニ示ス所ノ如シト答ヘ。**技師益田元亮君**ハ、「メートル」料金ノ制定ニハ、種々ノ方法アリ、英國ノ如キハ、最初準備料ヲ取リテ、電氣料丈ハ極メテ至廉トナシツヽアリ、斯ル方法ニ依レバ、貴說ノ如キ算定又必ズシモ不可能ニハ非ラザレドモ、今回ハ右ノ方法ヲ參酌セザリシナリ。而シテ一「キロワット」拾錢ノ價格ハ、動力ニ於テハ七錢五厘ノ標準トナルガ、最モ多ク電力ヲ使用スル夜間ニ於テハ、相當ノ價格ニ上ルベシ、次ギニ從量燈ハ其性質上、一使用場所、即チ一軒ノ家ニ於テ大小ノ電球ヲ合セ使用スルガ故ニ、之ヲ一燈トシテ計算スレバ、相當高額ニ上ルヲ常トスルモ、夜間ニ在リテハ、宵ニハ格別、大抵ハ大ナル電球ヲ使用セザルガ如シ、然レドモ、其料金ニ於テハ、略ゝ定額燈ニ比敵シ、決シテ不均衡ニ陷ルガ如キ弊ナシト承知アリタシト辯ジタリ。

茲ニ於テ**渡君**ハ、理事者ガ說明スル如ク、公平均一ナル料金ニ依ルトセバ、料金ノミヲ協定シテハ如何、區域協定ガ、料金協定ヨリモ急務ナリトスル理由ニ就キ、更ニ懇切ナル說明アランコトヲ望ム旨述ブルヤ。**奥田市長**ハ、料金協定問題ハ、不完全ナガラ現在モ尙之レアリ。然レドモ、其内容ハ頗ル變態ニシテ、一ハ東電、日電、市電ノ所謂三電鼎立ニ依ル料金協定ニシテ、他ハ東電ト市電トノ併立區域ニ於ケル料金協定ナリトス。而シテ前記二電ノ併立區域ニ於テハ、十燭光七十二錢ニシテ、三電ノ鼎立區域ニ在リテハ、十燭光六拾錢ヲ徵スルガ如ク、公平均一ノ協定ニハアラザルナリ。而モ右ハ事實ニ於テ實行セラレザルヤニ考ヘラル、今假リニ前記ノ協定ヲ其儘繼續スルコトヽ爲スモ、市ハ將來如何ナル力ヲ以テ二會社ニ對抗シ、且如何ナル範圍ニ迄擴張シ得ベキカ、加之、今後ノ設備及之レニ伴フ收支計算ハ、如何ニシテ確立スベキヤ、前記料金ノ協定ノミニテハ、到底前途ノ目算ヲ樹ツルコト難シ、故ニ區域ノ協定ヲ爲サヾル場合ハ、當初會社側ノ主張シタルガ如ク、現在ノ儘進行シ、安キ電燈料金ハ却ツテ引上グルノ外ナカルベシトサヘ考フル次第ナリ、而モ右ハ夫々專門家ノ意見ヲ徵シタル後ノ結論ニシテ、區域協定ノ由ツテ起リシ根源ナリトスト答辯シタリ。

茲ニ於テ**渡君**ハ、質問ノ內容ヲ一轉シ、市當局ハ、今日迄電流ヲ賣リツヽアリシヤ、照明ヲ賣リツヽアリシヤ、又今回ノ協定ニ依リテ、更ニ電流ヲ賣ラントスルカト問ヒ、**益田技師**ハ、市ハ從來燭光ヲ本位トシテ料金ヲ定メタリ、故ニ本協定案モ亦燭光本位トシテ立案シタリ、即チ普通定額供給ニ依ルモノハ、總テ燭光本位トシテ供給スルノ建前トナリツヽアリト答フルヤ。**渡君**ヨリ、一言ニシテ之ヲ盡セバ明リヲ賣ルト云フコトナリヤト糺スヤ。**益田技師**然リト答ヒタルモ。**渡君**ハ、吾々ノ承知スル處ニ據レバ、東電ニ在リテハ、「カーボン」本位ナリト云フ、然ルニ今卒如トシテ「タングステン」ニ變ルコトヽナラバ、表面ハ兎ニ角、實質ニ於テハ、東電ハ著シク電力ヲ利益スル結果ヲ生ズ。而シテ右ハ東電ノ功勞ニアラズシテ、發明者ノ功勞ナリ、即チ世界ノ文明ガ進步シタル結果、「カーボン」以上ノモノガ發明セラレ、大ニ電力ノ節約ヲ爲スヲ得ルニ至ル、而モ東電ハ逸早ク「カーボン」ヲ捨テヽ「タングステン」ヲ採用スル結果ハ、啻ニ夥シキ電力ヲ節約シ得ルノミナラズ、延イテハ料金ノ上ニモ影響シ、採算上多大ノ利益ヲ獲得スルニ至ルベシ、茲ニ於テ余ハ市長ニ一言セン、則チ市電ノ需要者ニ安心ヲ與フル爲メ、今回ノ契約書中ニ、將來「タングステン」以上ニ電力ヲ節約シ得ル電球ノ出現シタル場合ハ、料金ノ割引ヲ爲ストノ條項ヲ記載スルノ必要アリト認ムルモ、市長ノ見解果シテ如何、ト質スヤ。**奥田市長**ハ、質問ノ趣意ハ一應最モナレドモ、契約書面ニ之ヲ記載スル場合ハ、値下ノコトノミナラズ、値上ノ事モ亦、之ヲ併記スルノ要アリト信ズ。即チ現在ノ狀勢ヨリ見レバ、電力ノ需要益ゝ激增シテ、供給之レニ伴ハザルノ觀アリ、此見地ヨリスレバ、寧ロ料金ノ引上ゲヲモ豫想セザルベカラズ、故ニ兩者ヲ併セ記載スルナラバ、差支ヒナキモ、世間ノ所謂思惑ナルモノハ、料金ノ引下ゲニ就

テハ大ニ之ヲ歡迎スルニ反シ、引上ゲニ關シテハ、兎角奇異ノ感ヲ抱クヲ常トスルモノナルガ故ニ、假令電力ノ不足ヲ生ズルコトアルモ、余ハ引上ゲ丈ハ實行スルノ意思ナキヲ以テ、單ニ覺書ニ對シテノミ、他日電球ノ新發明ニ由リ、著シク電力ヲ節減シ得ル機會到來セバ、料金ハ之ヲ固定セシムルコトナク、相當ノ遞減ヲ行フ旨ヲ記載セント考ヘタルナリ。是レ覺書中ニ其一項ヲ記載シテ、契約書ニ之レヲ除外シタル理由ノ全部ナリトスト答辯シ。渡君ハ、更ニ監査委員及交渉委員ノ員數ニ就キ質問シタルニ對シ、奥田市長ヨリ答辯スル處アリ、斯クテ渡君ハ、之レニテ質問ヲ打切ルベシトテ、今回ノ協定案成立ノ結果、果シテ該豫算面ニ現ハレツヽアル通リ、先ヅ日電ノ整理ヲ行ヒ、以テソノ缺損ヲ減ジ、市民ノ懷中ヨリ支拂フベキ金額ヲ尠カラシムルヲ得ルヤ否ヤ、云フ迄モナク、東京市ノ財政ハ、市役所ノ財政ニ非ラズシテ、市民夫レ自身ガ根本ナルヲ以テ、市民ノ懷中ヲ痛マシムル樣ニテハ、協定却ツテ有害ナル結果ヲ生ズベシ、市長ハ協定成立後、東電、日電ガ從來以上ニ市民ノ負擔ヲ重カラシメザル見込ナリヤ、更ニ市ノ財政ヲ整理スレバ、如何ニ多額ノ金錢ガ、東電、日電ニ流入スルモ差支ナキモノナリヤト問ヘバ。**奥田市長**ハ、東電、日電ノ內容ニ關スル件ハ、既ニ充分ナル調査ヲ經テ、立案ノ參考ニ供シタルモ、右ハ一切秘密ヲ嚴守スル條件ノ下ニ聞知シタル事柄ナルヲ以テ、德義上發表スル能ハザルヲ遺憾トス、併シナガラ强ヒテ是ヲ知ラントナラバ、每年遞信省ニ提出シツヽアル考課狀ニ依リ調査スルヲ便トスベシ、次ニ今回ノ協定ニ依リ、東電ト日電トガ、幾許ノ利益ヲ得ルヤト云フガ如キハ、余ノ立場ニ於テ明言スル能ハザルモ、果シテ貴說ノ如キ利益アリトセバ、株式ノ市價モ亦、勢ヒ暴騰セザル可ラザルノ理ナレドモ、左ナキダニ敏感ナル株式市場ニ影響ナキ所ヲ見レバ、外間ヨリ想像スル程ノ利益ヲ得ベシトハ信ゼラレズ、假リニ一例ヲ擧グレバ、東電ノ十燭燈ハ市內ニ於テ十五萬七千ヲ算スレドモ、余ノ手許ニ於テ、其平均ヲ算出シタルニ一燈五拾九錢八厘餘トナル、然ルニ右ハ今後內線使用料ヲ併セテ五拾五錢トナルガ故ニ、是丈ニテモ拾萬內外ノ減收トナル勘定ナリ。故ニ實際ニ於テハ甚ダシキ增收トナラザルノミナラズ、將來「ダングステン」ヲ使用スルコトヽナラバ、一面電力ノ節約トナル代リニ、電球ニ於テ大ナル負擔トナルガ故ニ、是又多大ノ增收ヲ見込ムコト不可能ナルベシ、現ニ「ダングステン」電球ノ使用ニ依ル負擔丈ニテモ貳拾八萬餘圓ニ上ル所ヲ見レバ、會社側ガ協定ニ依リテ、大ナル增收ヲ見ルコト殆ド不可能ナリト謂ハザル可ラズト答辯シテ、渡君ト市長トノ質疑應答ハ一段落ヲ告ゲタリ。

續イテ**横山勝太郎君**ハ、質問ノ第二陣ニ立チ大要左ノ如ク之ヲ述ベタリ。

奥田市長ノ說明ヲ要約スレバ、東京市ハ現ニ壹億參千萬餘圓ノ公債ヲ有ス、換言スレバ財政狀態極メテ危殆ニ頻シツヽアリトノ泣言ヲ竝ベタルニ過ギズ。其他ハ概ネ前理事者ノ爲セル所ヲ攻擊シタルモノニシテ、電燈案其物ノ直接說明ハ極メテ貧弱ナリシガ如シ。併シナガラ余ノ質問ニ對シテハ、何卒泣言ヤ前理事者ノ攻擊ヲ避ケテ、誠意ヲ以テ質問ノ要點ニ答ヘラレタシ。質問ノ第一ハ、吾人ガ多年市長ニ迫リツヽアル處ノ電氣局ノ整理如何ノ問題ナリ。大體市會ニ於テ電燈料金輕減ヲ意味スル公定料金ヲ公表セヨト主張スル趣意ガ、一面ニ於テ電氣局ノ整理ヲ包含シ居ルコトハ、今更云フ迄モナキ所ナリ。現ニ市ノ職員錄ヲ見ルニ、兼任乃至事務取扱等ノ名義ハアレドモ、專任ノ電氣局長、電燈課長ナク、市制及條例等ニ依リ、必要ナリトセラルヽ責任者ヲモ置カズシテ、市民生活ト密接ノ交渉ヲ有スル電燈問題ヲ解決セントスルハ其意ヲ得ズ。奥田市長ガ單獨ニテ本問題ヲ解決セントスル意氣ト熱心トハ、余ノ衷心ヨリ推賞スル所ナレドモ、市民トシテハ、甚ダシキ危險ヲ感ゼザル能ハズ、則チ市長ハ動モスレバ電燈ノ智識ハ不充分ナリ、數字ノ事ハ他ヨリ聞カレタシト言フ、本問題解決ニ要スル智慧モ意見モ貧弱ナル市長ガ、單ニ一人ノ力ヲ以テ之ヲ解決セントスルハ、啻ニ大ナル危險ヲ伴フノミナラズ、其根幹タ

ルベキ電氣局ノ整理ヲ放置シテ、一擧ニ本問題ヲ通過セシメントスルハ、倒行逆施ニ非ラズシテ何ゾヤ。市長ハ先ヅ此點ニ就キ詳細ナル答辯アランコトヲ望ム。

第二、市長及高級吏員諸氏ハ、電燈事業ヲ營利事業トシテ取扱ハントスルカ、只今前後二時間半ニ亙ル市長ノ演說要旨ナルモノハ、多額ノ借金ヲ有スル東京市財政ヲ論ズルニ止マリ、直接電燈問題ニ關係ナキ事柄多シ。而シテ偶〻電燈問題ニ觸レタル點ヲ考フレバ、之ヲ利用シテ利益ヲ擧ゲ、以テ何等カノ計畫ヲ樹テントスルガ如キモ、余ヲシテ云ハシムレバ、電燈事業ハ、本來ノ性質ガ私法上ノ法律關係ニシテ、東京市ガ電燈ヲ經營スルト云フ目的自體ハ、獨占ノ弊ヲ打破シテ、是レガ普及ヲ圖ルト云フ公ノ目的ヲ有ス。然ルニ市長ノ言明中ニハ、怪訝ニ堪ヘザル點少カラズ、故ニ此點ニ就テ詳細ナル答辯ヲ承リタシ。但シ電車賃ニ對スルト同樣ノ答辯ナラバ、同樣ナリト云フト丈ノ答辯ニテモ苦シカラズ、即チ電車賃ハ公法上ノ使用料ナリト云フガ如キ暴論ナラバ聞クニ及バズ、電燈料モ亦、公法上ノ使用料ナリト云フ考ヘナラバ、答辯ニハ及バザルナリ。

第三、三電協定ハ、洵ニ市ノ大問題タリ。然ルニ市民ノ利益ヲ代表スル市會議員若クハ參事會員、乃至高級吏員ニ對シ、豫メ何等ノ協議ヲ爲サズシテ、日電、東電ニノミ之ヲ謀リシ理由如何。即チ營利會社タリ、民營會社タリ、商人タル人々ト內相談ヲ遂ゲ、二百萬市民ノ代表タル吾々ニハ、一言半句ノ相談モ爲サズシテ、服從ヲ强ヒ贊成ヲ求メントスルハ、市民ノ面目ト利益トヲ蹂躙スルモノニ非ズシテ何ゾヤ。

第四、第二次桂內閣當時、後藤遞相ガ敢テ日電ヲ許可シタルハ、大都市ニ於ケル電燈事業ノ獨占橫暴ヲ防遏セントスルノ意ニ外ナラズ。然ルニ奧田市長ハ、本協定案ハ、將來民營乃至市營ニ統一セントスル前提ナリト云フガ如キ口吻ヲ漏ラサレタルモ、市長ハ果シテ行政監督權ヲ有スル後藤遞相ノ二電主義ヲ破壞セントスル意思ナリヤ否ヤ。

第五、次ニ質問セントスルハ、鬼怒川水電ノ壹錢七厘問題ナリ。右ハ法律問題トシテハ、某博士ガ第二ノ契約書ニ依リテ、第一契約書ノ壹錢七厘ヲ破壞スルコト能ハズト鑑定シタル由傳承セルヲ以テ、暫ラク其說ニ從ハンモ余ハ法律問題ヲ離レテ、壹錢七厘問題ニ就キ一言セン、市長若クハ高級吏員ハ、假令壹厘ニモセヨ、鬼怒電ニ對シテ値下ゲノ交涉ヲ爲シタル事實アリヤ。奧田市長ハ、電車事業ニ就テハ、電車事業ナルモノハ、行政上ノ營造物ニシテ、電車賃ハ公法上ノ手數料ナリト云フガ如キ暴論ヲ吐キタルコトアレドモ、賢明ナル地方裁判所ニ於テハ、市民側ノ說ヲ認メ居レリ。唯市長側ニ於テ勝訴トナリタルハ、私法上ノ運送契約ハ、切符ヲ販賣スルト同時ニ成立シ居レドモ、該契約タルヤ、當事者ノ一方ガ市民ノ公利公益ヲ圖ル所ノ所謂公共ノ團體ナルガ故ニ、後日電車切符ニ就テ東京市側ニ於テ條件ヲ變更スルナラバ、市民ハ夫レニ依リテ忍耐スベシトノ理由ニテ辛ジテ勝訴トナレリ。市長ハ以上ノ論據ヲ鬼怒電ニモ適用スルノ意思ナキヤ。鬼怒電ノ壹錢七厘ハ、固ヨリ私法上ノ契約ナレドモ、東京市ノ電氣局ハ、本來公利公益ヲ目的トシツヽアルモノナルガ故ニ、市場ノ價格若クハ電氣局側ノ事情ニ變遷アリシ場合ハ、電力ノ相場モ亦相當ノ程度迄低減スベク、同時ニ低減セシムベキモノナリト思惟ス。此見地ヨリスレバ、奧田市長ハ、當然鬼怒電ニ交涉スベキ義務アリト考フ。然ルニ事玆ニ出デズシテ、現ニ不當ナル電力料金ヲ支拂ヒ、且電氣局自身ノ整理ヲ行ハズシテ、漫然電燈協定案ヲ決セントス、是レ明カニ本末ヲ誤レル擧措ナリト云ハザル可ラズ。

第六、更ニ供給條例七八十箇條ハ、俱ニ何レモ佶倨贅牙ナル難解ノ文字ヲ以テ綴ラレタルモ、斯クノ如キ條文ヲ

東京市民ガ解釋シ得ル能力アリト思惟スルカ、多少法律ノ素養アル者ニスラ不明ノ文字尠カラズ、電燈ノ使用者ハ、目ニ一丁字ナキ階級者間ニモ甚ダ多シ、然ルニ斯ル難解ノ條文ヲ羅列シテ、多數ノ市民ヲ混迷ニ陷ラシメントスルハ、電燈事業ニ關スル限リ、一箇ノ商人タル市長ノ措置トシテ親切ヲ缺クノ誇リヲ免レザルベシ。

第七、電燈協定問題ニ着手シタルハ、昨年末頃ト記憶スルモ、該協定ノ成立スル迄ニ、東電、日電、市電ノ何レカハ、不法ニ現狀ヲ變更シタル場合、相互ニ如何ナル制裁ヲ以テ臨ミ、且相互ニ如何ナル覺悟ヲ以テ處理セントスルカ。假令ヘバ、東電ナリ、日電ナリガ今回ノ協定ヲ見越シ、擅ニ供給區域ヲ擴大シタルガ如キ場合ノ措置果シテ如何。

右ニ對シ**奥田市長**ハ、第一問ニ答フベシトテ、

成程電氣局長ハ缺員中ナレドモ、他ニ多クノ專門家アルニ依リ、夫々專門ノ知識ヲ傾到シテ本案ヲ立案シタリ、是レ以上ハ議員諸君ノ取捨ニ俟ツノ外ナシ。又電氣局ノ整理ハ、急激ニ之ヲ行フコト不可能ナリ、本協定問題決定後ニ至ラバ、徐ロニ之ヲ決行スベシ。第二、電燈事業ノ性質ニ關スル質問ナルモ、這ハ電車問題當時答辯シタルニ依リ、玆ニ之ヲ略ス。第三、本問題ヲ提出スル以前、市會、市參事會、高級市吏員ニ圖ル所ナク、却ツテ民間會社ニ相談シタルハ不當ナリトノコトナルモ、右ハ會社側代表者ノ意見ヲ徵シ、然ル後議決ヲ經テ、幸ニ之レガ通過ヲ見ルニ至ラバ、協定ヲ實現セントスルノ意思ニ外ナラザルヲ以テ、本末ヲ誤レルモノトハ考ヘズ。第四、政府ノ二電競爭主義ヲ破リテ協定セントスルハ、獨占ヲ承認スルモノニアラズヤトノ質問ナルモ、余ハ當時ノ政府ノ意嚮ヲ知ラズ、然レドモ現ニ名古屋、横濱ハ、一市一電主義ニシテ、大阪ニ於テハ電氣供給會社ハ現存スルモ、電燈其モノハ獨占タリ。更ニ京都ハ區域ヲ協定シ、上京區ハ市營、下京區ハ民營ニシテ、大都市ノ總テハ、今ヤ

電燈ノ併立競爭ヲ見ズ、第五、鬼怒電トノ關係ニ就テハ、同社株主等ノ關係モアリ、事甚ダ重大ナルヲ以テ、容易ニ之レヲ決スル能ハザルモ、徐々ニ解決スベク夫々準備中ニ屬ス、第六、條例ノ條文ガ難解ナリトノ說ハ、寔ニ御最モノ意見ナリト拜承ス。由來法律ハ國民ノ等シク遵守スベキモノナルガ故ニ、其字句ノ如キハ、一般ノ用語ヲ以テスベシト論ズル者多ク、現ニ「ベンザム」ノ如キ其主唱者ノ一人ナリシモ、容易ニ行ハレズ、各國トモ依然トシテ難解ノ文字ヲ使用シツヽアリ。東京市ノ如キモ「ドウナサイマセ」、「斯様々々デアリマス」ト云フガ如キ日常語ヲ使用シ居ラズ。依ツテ止ムナク斯ル文字ヲ使用シタルモ、一般市民ニ周知セシムル方法トシテハ、會社ノ營業案內ニ等シキモノヲ作製シテ頒布スル迄ノ間ニ於テ、不當ナル方法ニ依リ、需要者ノ爭奪ヲ爲シタル場合、其制裁ヲ如何ニスルカトノ問ヒナルモ、右ニ就テハ三者間ニ於テ豫メ之ヲ戒メ、斷ジテ此事ナキヲ誓約シタリ。

夫ヨリ橫山君及奥田市長間ニ二三ノ質疑應答アリテ、**安住佐太郎君**ノ質問ニ移ル、安住君曰ク、第一、大正五年十二月末現在ノ建設電燈數及動力馬力數幾許ナリヤ、第二、三電ノ對立區域、下谷、淺草兩區ノ外、外神田、本鄉湯島一丁目、同天神町一二丁目及妻戀町一圓丈ハ明瞭ナレドモ、ソノ他ハ如何ナル方面ナリヤ、第三、市電創立以來、大正六年五月末日ニ至ル現在ノ點燈數、定額燈及從量燈ノ五燭光及十燭光ニ對スル實際點燈數竝ニ休燈數ハ幾許ナリヤ、第四、市電設備ノ幹線中、不用ニ屬スル部分ヲ賣却シタリト聞クガ、右ハ三萬「キロ」ノ設備中凡ソ何割位ヲ處分シタリヤ、第五、平易ナル比喩ヲ以テ云ヘバ、我市電ノ營業狀態ハ、地主ヨリ借地シテ三萬戶ノ貸家ヲ建築スベク、材料全部ヲ仕入レテ工事ニ着手シ、既ニ大體ノ骨組ヲ終リタル時、地主ヨリ一萬戶以外ノ貸家ヲ貸與スベカラズトノ制限ヲ附セラレ、爾餘ノ二萬戶ノ始末ニ就テハ、如何トモ手ノ下シ樣ナキニ反シ、東電ニ在リテハ、無制限ニ貸家ヲ建テ、

自由ニ之ヲ貸與スルモ差支ナシト云フ狀態ガ、今ノ電燈界ノ實情ナリト解釋シテ支障ナキヤ、第六、一昨夜ノ會議ニ於ケル市長ノ說明ニ依レバ、今回ノ區域協定ハ、會社ノ欲セザル所ナリシヲ、却ツテ市長ヨリ提案シタリトノ事ナルガ、右ハ果シテ事實ナリト信ジテ差支ナキヤ、第七、市長ハ料金ノ協定ノミニテハ、新需要者ニ對シ、收支ヲ豫測スル能ハズト說明サレタルモ、今尙ホ左樣承知シテ差支ナキヤ、最後ニ東京市ト郡部トニ於テ三電ノ對立シツヽアルハ、何レノ方面ナリヤト質シ。**技師益田元亮君**ハ、第二問ノ對立區域ハ、安住君ノ述ベラレタル以外ニ、京橋ノ月島ニアルニ過ギズ、第四問、幹線中ニ處分シタルモノナシ、只嘗テ買入レタル貯藏品中ノ一部ヲ、東電ニ讓リタルコトアルノミ、第五問ノ比喩ニ依ル質問ハ、少シク事實ニ相違セリ、始メ設計ヲ爲スニ當リ、三萬「キロ」ノ設備ノ希望シテ、一部分ノ材料ヲ買入レタル事實ハ是レアリ、然レドモ現ニ設置シアルモノハ、一萬「キロワット」ノ設備ノ許可命令ニ從ツテ設備シタルモノニシテ、變電所ノ三萬「キロワット」ノ設備トハ全然ソノ性質ヲ異ニセリト答辯シ。**奥田市長**ハ、第六、第七ノ二問ハ、一昨日余ノ述ベタル處ト關聯スルガ故ニ、便宜上余ヨリ答辯スベシ、區域協定問題ハ正ニ余ノ提案ナリ。更ニ新需要者ニ對スル收支ノ豫測ハ不明ナリト言明シタルコトモ相違ナシ、其他ハ書面ニテ答辯センヨト答ヘ。**安住君**ハ引續キ、第四ノ東電ニ讓渡シタル貯藏品ハ、幾許ヲ賣却シタルヤ、ソノ賣却ニ因リ却ツテ高價ナル物品ヲ購入スルコトヽハナラザルカト問ヒ、右ニ對シ**益田技師**ハ、貯藏品トシテ買入レタルハ、四拾四萬五千九百六拾六圓四拾參錢ニシテ、東電ニ讓リタル金額ハ二十萬「サーキユラミル」ノ特別高壓ノモノ貳拾貳萬八千百拾壹圓五拾壹錢六厘、電氣局ニテ使用シタルモノ貳拾壹萬七千八百圓九拾壹錢四厘ナリ。更ニ三十萬「サーキユラミル」ノ「ケーブル」ヲ買入レタル金額ハ五拾九萬千貳百參拾圓拾八錢、東電ニ賣却シタル金額ハ六萬六千八百貳圓四拾七錢壹厘、電氣局ニ於テ使用シタル金額ハ五拾貳萬四千四百貳拾七圓七拾錢九厘ナリ。尙ホ參考書中ニ記載セルモ、今回ノ

擴張計畫ニ於テハ、再ビ前記ト同一品ヲ同一數量程度迄購入スルコトヽナルベシト答辯シタル後、尙ホ二三ノ質疑應答アリ。

續イテ**黒須龍太郎君**ノ質問ニ移ラントスル時、中野議長ハ、副議長山口憲君ニ議長席ヲ讓リテ退席ス、斯クテ黒須君ハ、順次左ノ如ク質問セリ。

黒須君　今回ノ協定案ハ、奥田市長自ラ之ヲ提示シタルニ、會社側ハ現狀ノ儘ニテ可ナリト主張シタリト聞ク。所謂現狀ノ儘トハ、大正三、四年ニ協定シタル料金ヲ其儘繼續シテ、手ヲ觸レザルモ可ナリトノ謂ナルカ。

奥田市長　然リ。

黒須君　會社ガ現狀ノ儘ニテ可ナリト云フニ拘ラズ、市長ガ自ラ進ンデ協定案ヲ成立セシメントスル理由如何。市長ハ其理由トシテ現在ノ儘ニテハ、多大ノ缺損ヲ生ズルコト、公平均等ヲ缺クコト等ヲ數ヘツヽアルモ、市長ハ果シテ右ノ理由ニ依リテ該協定案ヲ提出シタルモノナリヤ否ヤ。序ニ大正五年度收支概算ハ、豫算ノ示スガ如ク貳拾八萬圓ノ缺損ヲ生ジツヽアリヤ、更ニ料金ノ公平均等ハ、本案ニ依ラザル可ラズトスル理由如何。

奥田市長　會社ノ好マザルニ拘ラズ、余ガ敢テ自ラ本案ヲ提出シタル理由ハ、全ク市ノ財政ヲ鞏固ニシ、併セテ出來ル丈料金ヲ廉ニシ、同時ニソノ負擔ヲ均一ニセントスルノ意ニ外ナラズ。即チ現在ノ料金ハ、餘リ低廉ナラザルノミナラズ、日電ト東電トノ併立區域ト、市電、東電及日電トノ併立區域トニ於ケル料金ノ相違ハ、取リモ直サズ、公平ヲ缺ク證左ニシテ、此儘之ヲ整理スルコトハ、三電トモニ困難トスル所也。加之、依然トシテ之ヲ放置スル結果ハ、料金ノ値下トナルヨリモ、寧ロ値上ゲトナルノ虞ナキニアラズ、斯クノ如キハ頗ル不本意至極ニシテ、默視スルニ忍ビザルモノナルガ故ニ、玆ニソノ區域ヲ協定シ、以テ叙上ノ目的ニ副ハンコトヲ期シタル

次第ナリトス。五年度豫算ノ缺損ニ就テハ、未ダ決算ニ至ラザルヲ以テ正確ナル數字ハ言明スル能ハザルモ、公債替換ノ差金等アリテ、參拾八萬九千餘圓ヲ算スルニ至ラントス。以上ノ數字ハ豫算以上ニ超過スルモ、右ノ中ニハ公債ノ差金拾萬圓ヲ包含スルガ故ニ、之ヲ差引クトキセバ、矢張リ豫算ノ電燈事業ニ關スル貳拾八萬圓見當トナル譯ナリ。

黒須君　市長ハ料金ノ公平均一ヲ口ニスルモ、三電鼎立ノ場合ニ於テ、果シテ均等ナル料金ヲ期待シ得ベキヤ否ヤ疑ナキ能ハズ。資本ト人ト設備トヲ異ニシ、剩ヘ收支豫算ノ編製ヲモ異ニシツヽアルモノガ、何ヲ以テ料金ノミヲ均等ナラシムルヲ得ベキ。假リニ均等ナラシムルヲ得ルモノアリトセバ、收支計算狀態ノ最惡ナル事業者ヲ標準トスルノ外途ナカルベシ。何トナレバ料金ノ引下ゲハ、最モ利益多キ會社ヲ基礎トシテ、始メテ其目的ヲ達スルヲ得ベキモ、斯クテハ他ノ事業者ガ承認セザルベキヲ以テナリ。然ラバ何處ニ一致點ヲ求ムベキヤト云フニ、損失最モ多キガ爲メニ、高率ナル料金ヲ取ラザルヲ得ザル事業者ヲ標準トスルヨリ外ニ途ナカルベシ。奥田市長ハ先刻倫敦ノ例ニ就キ一言サレタルモ、倫敦ノ瓦斯會社ハ、一社獨占ニアラズシテ、而モ會社ニ依リ其料金ヲ異ニシ、倫敦市ハ之ヲ公認シ居レリ。右ハ會社ニ依リ資本狀態ヲ異ニシ、營業ノ內容ヲ異ニシツヽアルヲ以テ、公認料金モ亦自ラ相異セザルヲ得ザルナリ、然ルニ奥田市長ノ整理案ナルモノハ、內容實質ヲ異ニセル市電及兩會社ヲ一列ノ下ニ律セントス。是レ今回ノ協定ガ有害無益トナラザルナキカヲ憂フル所以ナリ。

次ニ今次ノ協定ハ大正六年ヨリ、大正四十二年ノ長期ニ亘ルモノニシテ、現ニ收支計算ノ如キモ、三十七年間ニ及ンデ算出シツヽアルガ、右ハ何ヲ基礎トシテ計算シタル豫算ナリヤ、今次ノ妥協ガ、今後三十七年間繼續シ得ルモノナリトノ前提ノ下ニ割出シタル數字ナリヤ如何。

奥田市長　貴說ノ如ク三電鼎立ノ今日ニ於テ、料金ノ公平均等ヲ期セントスルハ、或ハ多少ノ無理ナキニアラザルモ、既ニ市會ニ於テハ全市民ニ對シ、普ク公平均一ナル料金ニ依ラシムベシトノ建議ヲ先般通過シタルヲ以テ、余トシテハ其建議ノ趣意ニ副ハンガ爲メ、多少ノ無理ハ押切リテモ、市會ニ於ケル希望ノ實現ニ努力スベク、玆ニ自ラ信ジテ最善ナリトスル方策ヲ講ジ、以テ市會ノ協贊ヲ經ント試ミタルニ外ナラザルナリ。減損補塡ニ關スル質問モアリタル樣ナレドモ、成程會社ト東京市トノ計畫ハ、其內容ヲ異ニスルコト明白ナリ、然レドモ、會社ニ於テハ減損補塡ヲ必要トスル場合ニ在リテハ、配當ヲ減ズル等ノ方法手段ナキニアラザルモ、市ニ於テハ斯ル場合、直チニ增稅スルコトモ不可能ナルヲ以テ、豫メ事業ノ基礎ヲ確立センガ爲メ、正當ナル意義ヲ有スル減損補塡金ヲ作ルヲ可ナリト認メ、敢テ本計畫ヲ樹テタルモノニシテ、現ニ收支計算ノ如キモ、三十七年間ニ亘ル長期ニ於テ、大體需要者ガ決定スレバ、其後ニ於ケル需要者ノ動キガ甚ダシキモノニ非ラザルコトハ、一般社會ノ狀態ヲ見テ知ルヲ得ベシ。當局ニ於テハ斯ル豫想ノ下ニ豫算ヲ編製シタル次第ナレドモ、社會ノ變化ニ依リ、如何ナル事實ノ發生スルヤハ、豫測スル限リニアラズ。

黒須君　市長ノ答辯中、減損補塡金ノ說明ニ就キ詳細ヲ極メタルモ、減損補塡金ヲ異ニスレバ、自ラ元金償還額ヲ異ニセザルベカラズ、然ルニ東電、日電中、孰レノ會社ガ元金ヲ返濟シテ資本ヲ償却スルト云フ經營振リヲ示シツヽアリヤ。余ハ未ダ不幸ニシテ東京市ノ如ク、年々多額ノ資本元金ヲ返還シツヽ、堅實ナル經營ヲ爲セル會社アルヲ耳ニセズ。更ニ事業ニ對スル人ノ關係ヲ見ルニ、會社ノ使用人ト、東京市ノ吏員ト、ソノ何レガ能率的ナリヤ。余ハ今其優劣ニ就テ彼是決定的判斷ヲ避クベキモ、人ト事業ノ關係ニ就テハ、自ラ優劣ノ差ヲ生ズルコト明白ナリ。斯クノ如ク、資本金、資產狀態、營業成績、營業區域等ヲ異ニスル三事業家ガ果シテ完全ナル協定ニ

依リテ、料金ノ公平均一ヲ庶幾シ得ベキカ、是レ大ニ疑問ナキ能ハザル所ナリ。又市長ハ五年乃至十年ノ期間ヲ附シテ、協定ヲ成立セシムル由ナルモ、右ハ夫レ以後ニ於テモ尚繼續セントスルモノナリヤ否ヤ、明答ヲ乞フ。

奥田市長　會社ニ依リテ其内容ト實質トヲ異ニスルコトハ、余モ亦夙ニ之ヲ知ル。殊ニ市ハ稅金ヲ要セザルモ、會社ハ之ヲ支拂ハザルベカラザルガ如ク、各〻其立場ヲ異ニセリ。殊ニ會社ニ於ケル資本償還ノ積立金ハ當然之ヲ爲サヾルベカラザルニ拘ラズ、株主ガ配當ヲ急グ結果トシテ、之ヲ爲サヾルモノ多キガ爲メ、危險ナル會社ノ續出スルハ憂フベキ也。然レドモ今回ノ協定ハ、愼重調査ノ結果、三者ノ狀態ヲ取捨參酌シテ料金ノ公平均一ヲ期シタルガ爲メ、決シテ質問者ノ云フガ如キ不可能事ニハ非ラザルベシト信ズ、是レ今回本案ヲ提出スルニ至リタル理由ナリトス。從ツテ本案ノ立案ニ當リテハ、貧弱ナル事業者ノ狀態ヲ標準トセルガ如キコトナキノミナラズ、充分双方ノ意見ヲ戰ハシテ、ソノ一致點ヲ發見シ、然ル後玆ニ數字ヲ算出シタル次第ナリ。更ニ年限ノ件ハ契約ニ依リ協定スル以上ハ、何年カノ期限ヲ附セザルベカラザルハ當然ニシテ、余ハ先ヅ最初十年間ヲ適當ナリト信ジタルモ、其後五年ニ改正シテ參事會ノ議ヲ經タリ。期限經過ノ後、更ニ五年間ノ繼續ヲ爲スニ至ルヤモ知レザレドモ、右ハ豫メ之ヲ期スルコト能ハズ。又假リニ繼續スルコトナシトスルモ、前述ノ如ク社會ノ情勢ヨリ見テ、特別ノ變化ナキ限リ、擴張サレタル需要者ハ、大ナル動キナキモノト推定シテ差支ナカルベシ。而モ其推定ニ異議アリト云フナラバ、開ハ見解ノ相違ト云フノ外ナカルベシ。

黒須君　三十七年間ノ豫算ハ、何ヲ基礎トシテ計算シタルモノナリヤ。競爭時代、獨占時代、妥協時代、共ニ夫夫收支計算ニ影響アルハ勿論ナルガ故ニ、今回ノ立案ニ當リテモ、市長ハ是等ヲ考慮シタルモノヽ如ク察セラルルモ、五年乃至十年間ハ、妥協ヲ可ナリトシテ、爾後ノ二十七年間、若クハ三十二年間ハ何ニ依ツテ經營セントスルカ、此點特ニ市民ノ前ニ明瞭ナラシメ置クノ必要アリト信ズルガ如何。

奥田市長　本豫算ハ、貴說ノ所謂妥協時代トモ稱スベキ時期ノ收支ヲ標準トシテ立案シタリ。

黒須君　今回ノ協定ガ、料金ノ公平均一ヲ圖ルニ在リト稱シナガラ、何故ニ十「キロワット」以上ノ動力ニ關スル料金ヲ協定外ニ置キタルカ。料金ノ公平均等ヲ圖ラントナラバ、動力モ亦等シク之レニ均霑セシムベキニアラザルカ。多分市長ハ是等ノ問題ヲ一括シテ、覺書ニ記入セント云ハントスルナルベシ。果シテ然ラバ、契約書ニ記入セズ覺書ニ記入セントスル趣意果シテ如何。從來東京市ハ自ラ率先シテ、五燭燈ノ使用ヲ需要者ニ勸誘シ、以テ事業ノ基礎ヲ確立シタルニ拘ラズ、今回遽然トシテ民間事業家ト協定シ、强ヒテ十燭燈以上ヲ使用セシメントスルハ、其措置頗ル殘酷ニシテ、公平均等ヲ缺クノ甚シキモノト云ハザルベカラズ、此點詳細答辯ヲ乞フ。

奥田市長　動力ノ料金問題ニ就テハ、契約案二十一條ニ示スガ如ク、區域ハ之ヲ協定セザルモ、料金ハ矢張リ一定スル筈ナリ。更ニ五燭制限ハ不本意ナレドモ、右ハ協定ノ結果ニアラズシテ、條例改正ノ爲ナルヲ以テ、止ムヲ得ザルコト、承認アリタシ。

黒須君　條例ノ改正ハ余モ亦之ヲ知レリ、要ハソノ精神ヲ聞カント欲スルニ在リ。更ニ十「キロワット」以上ノ動力モ同時ニ協定シテ、條例中ニ包含スベキニアラズヤ、然ルニ事玆ニ出デザル理由如何。仄聞スル所ニ依レバ、市電ハ東電ニ對シ、ヨリ多クノ動力供給ニ關スル妥協ヲ爲サントシテ、端ナクモ東電ノ一喝ニ會ヒ、止ムナク東電ノ意思ニ從ツテ十「キロワット」ヲ基礎トシタリト聞ク、是レ余ガ特ニ質問セントスル理由ノ一ナリ。余ノ見解ニ依レバ、東京市ノ電燈經營方針トシテハ、民間ノ電燈會社等ニ遠慮スルコトナク、全ク獨自ノ立場ニ於テ一定ノ標準ヲ樹テ、以テ其理想ニ對ツテ邁進スベキナリ。而モ其結果ガ競爭トナルヤ否ヤハ自ラ別箇ノ問題ニシテ、

之レガ爲メ東電ガ窮地ニ陷ルガ如キコトアルモ介意スルニ足ラザルナリ。市電及日電ノ存在ハ、或意味ヨリスレバ、寧ロ東電ト競爭シテ、之ヲ窮地ニ陷ラシムルニアルニ非ラズヤ、市電ニ於テモ、無鐵砲ナル料金ヲ定ムルコトハ注意スベキ事柄ナレドモ、經濟ノ許ス範圍ニ於テ、出來ル丈低廉ノ料金ヲ以テ營業スルコトハ、市長ニ於テモ異議ナキ所ナルベシ。然ルニ敢テ協定案ヲ提出シタルハ、東電トノ競爭ニ對シテ勝算ナキガ爲メナリヤ否ヤ、其點ヲ明瞭ニセラレンコトヲ望ム。

奥田市長　市ガ競爭ノ立場ニ在ツテ事業ヲ經營ストセバ、市ノ財政ヲ危機ニ陷ラシムルノ虞アリト信ズ。

黒須君　市長ノ答辯ニ依レバ、競爭ニハ堪ヘザルモノヽ如シ、果シテ然ラバ、競爭ヲ避ケ、協定ニ依ツテ經營スル五年後ノ事業ハ、如何ナル方法ニ依リテ經營セントスルカ。即チ現在競爭ニ堪ヘザル市電ガ、協定期限滿了ノ五年後ニ於テハ、競爭ニ堪フルノ理由アルベカラズ。而モ市長ハ、五年後ニ於テ、更ニ協定ヲ繼續スルコトヲ明言セズ、同時ニ其後ノ經營ニ關シテ、何等ノ抱負ヲ語ラズ、市長ハ協定ノ五年間ニ於テ市電事業ヲ回復シ得ル見込アリヤ如何。

奥田市長　余ノ考フル處ルニ依レバ、本契約滿期ノ後、再ビ以前ノ競爭狀態ニ陷ラシムルガ如キコトアリテハ一大事ナリ。從ツテ本契約滿期ニ先ダチ、再ビ激烈ナル競爭ノ起ラザルヤウ、市トシテ豫メ善處スルノ要アリト認ム。

黒須君　市トシテ最良ノ方法ヲ講ズルハ當然ナリ。余ハ今ニ於テ之ガ方法ヲ講ズルノ要アルガ爲メ、敢テ質問ヲナシツヽアルナリ、故ニ市長ハ如何ニ之ヲ善處スルカヲ明答スベシ。余ハ今回ノ協定ナルモノハ、却テ市電ノ健全ナル發達ヲ阻害スルノ虞アランコトヲ憂フルモノナリ。市長ハ現狀ニ於テ、豫斷ヲ許サザル仕事ニ對シ五百萬圓ノ巨大ナル資本ヲ投下スルハ、甚ダ愚ナル政策ニ非ラザルナキカ。次ギニ市長ハ從來ノ需要者タル郡部ノ區域ハ、今回之ヲ拋擲シタリトノ事ナルモ、東京市ノ本質ヨリ考ヘ、一應當然ノコトニ屬ス。然レドモ東電ニ在リテハ、今ヤ勸誘料ヲ支出シツヽ郡部ニ擴張ノ手ヲ廣ゲ、益ミ將來ノ發展計畫ヲ圖リ居レリト聞ク、斯ノ如ク有益ナル郡部ヲ拋棄スルトハ何事ゾ、市電ニ於テ有利ナラザル區域ナラバ、東電ニ於テモ亦同樣ナルベキ筈ナルニ、東電ガ喜ンデ之ヲ引受ケタル理由如何。

奥田市長　余ハ郡部ノ將來ノ需要者ヲ打切ルコトニ就キ、市營ノ電燈事業ガ市ノ營造物タル性質ニ背クガ爲ナリトハ言ハズ、市ノ營造物ノ本質ヨリスレバ、市内ニ限ルコト當然ナレドモ、郡部ノ承認ヲ得バ、何等差支ナキコト尚ホ郊外ニ公園ヲ有スルガ如シ。故ニ余ハ、市ノ營造物ノ本質ヨリ考慮シテ、成ルベク市内ニ集約センコトヲ欲シ云々ト述ベタル譯ニテ、決シテ本質ニ背クトハ明言セズ。市電トシテモ、市内及郡部ニ手ヲ擴グル丈ノ能力アラバ、從來既ニ許可ヲ得ツヽアル事業ナルヲ以テ、極力之ガ爲メニ盡クスベキ次第ナルモ、遺憾ナガラ手ヲ擴グル能力ナク、且郡部ニ擴張スルコトハ却ツテ引合ハザル結果トナルガ故ニ、將來ハ之ヲ見棄テル考ナリト言明セル譯ナリ。尚切換ニ就テハ說明シタル記憶ナキモ、既ニ余ノ口ヨリ切換ヘ、以テ一通リノ整理ヲ爲シタシト考フルモ、這ハ相手方ノ承諾スルト否トニ依リテ決スル事柄ナルニ依リ、ソノ承諾ヲ得ザル限リ、市電トシテハ依然供給ノ義務ヲ負フ譯ナリ。

黒須君　市長ハ切換ニ就テ言明シタル事ナキガ如ク答辯サレタルモ、余ハ明白ニ市長ノ答辯ヲ筆記シタルガ、其中ニハ明カニ言明セル事實アリ、此點更ニ一應明確ニ答ヘラレタシ。

奥田市長直チニ起ツテ答辯セントスルヤ、横山勝太郎君議事進行ニ就テ發言ヲ求メタルモ、山口副議長之ヲ許サズ、玆ニ於テ横山君ハ、尚モ發言ヲ求メ、定數ヲ缺ケル市會ニ於テ、平然トシテ議事ヲ進ムルノ不都合ヲ詰リ、議長ハ議

員ニ着席ヲ注意シ、定數ニ達シタリト報告シテ質疑應答ヲ繼續ス。

奥田市長　切換ニ關シ、余ガ一昨日述ベタルコトガ誤解ヲ招クニ至リタルハ、言葉不足ノ爲ナラン、抑ミ全部切換ト云フガ如キハ、到底爲シ得ベキ事柄ニ非ラズ。只或部分ノ需要者ガ承諾ストセバ、切換フルコトアルヤモ知ラズトノ大意ヲ述ベタルニ過ギザルナリ。

黒須君　今回ノ條例ヲ見ルニ、其内容ハ事業家ニハ有利ナレドモ、需要者ノ自由、權利擁護等ノ規定ニ見ルベキモノナク、全ク事業家本位ニ墮シ、市民ハ全然顧ミラレズ。例セバ條例第六十條ノ如キ、市電ハ一日引續キ六時間停電スルコトアルモ、需要者ニ對シ何等ノ損害ヲモ支拂ハズ、東電ハ六時間以内ノ停電勝手タルベシト云フガ如キ條文アリテ、需要者ヲ保護スル規定ハ見當ラズ、右ニ對スル市長ノ見解ヲ問フ。

奥田市長　法令ノ規定又ハ第二十條ノ規定ニ依リ、「電氣工作物ニ故障ヲ生ジ若ハ生ゼントスル虞アルトキ又ハ修繕其他工事上已ムヲ得ザルトキ」「非常變災其他不可抗力ニ因ルトキ」ヲ條件トシタリ。六時間以上ト云ヘバ、頗ル長時間ナルガ如キモ、從來ノ例ニ依レバ、東電ノ如キハ、「天災其他不可抗力ノ爲メ一時送電中止ノ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ會社ハ其責ニ任ゼズ候、但引續二日以上停電シタルトキハ料金ハ日割ヲ以テ計算ス」ト規定シ。日電ノ營業規程ニハ、「天災其他不可抗力ノ爲メ已ムナク一時送電ヲ中止スルトキハ會社ハ其責任ヲ負ハズ但三日間以上停電シタルトキハ日割ヲ以テ差引計算ヲ爲ス」トアリ。故ニ此點ニ就キ遞信省ノ統計ニ依リ調査シタルニ、風害、雪害ノ爲メ一日以上停電狀態トナリタルモノ意外ニ多キヲ發見セリ。固ヨリ需要者ノ便宜ヲ圖リ、長時間ノ停電ヲ避クル樣、萬全ノ策ヲ講ズベキモ、復舊工事ヲ施ス能ハザル場合ヲ豫想シ、特ニ斯ル規程ヲ設定シタリ。

黒須君　假リニ今晩ノ七時ヨリ十二時迄停電スレバ、六時間以内ナルガ故ニ損害ヲ支拂ハズ、又十二時過ギヨリハ明日トナルガ故ニ、停電更ニ六時間ニ及バザレバ損害ノ責ニ任ゼズ、斯ノ如キ場合、一晝夜ノ點火時間通算十一時間ノ全部ニ亘リテ停電スルコトアリトスルモ、事業者ニ對シテハ何等ノ制裁モナク、需要者ハ依然トシテ料金ヲ支拂ハザルベカラザルカ、市長ハ非常變災等ノ場合ニ限リテ停電アルガ如キ口吻ナレドモ、鬼怒川電氣ノ如キハ屢〻停電ヲ繰返シツヽアルノミナラズ、其間粗漏ノ爲ノ停電モ是レナシトセズ。殊ニ甚ダシキハ停電二三日ニ及ブコト珍ラシカラズ、而モ其停電ノ主因ナルモノガ、全ク粗漏ノ然ラシムルトコロナル場合、尚ホ東京市ハ之ヲ不可抗力ト看做スベキヤ否ヤ、敢テ明確ナル答辯ヲ乞フ。

奥田市長　停電六時間ノ計算ハ、朝ノ零時ヨリ午後零時迄一日ノ間ニ引續キタル六時間ヲ云フ。勿論場合ニ依リテハ、不公平ヲ生ズルコトナキヲ保セズ、又非常變災ノ解釋ニ就テハ、鬼怒電ト市トノ契約ハ勿論、一般電氣會社ニ於ケル不可抗力ハ落雷等ノ場合最モ多シト信ズ。

黒須君　市長ハ今回ノ協定ニ於テ、芝、麻布、小石川、本郷、牛込ノ五區ヲ採用シツヽアルガ、其理由トシテ、人口、建物、坪數、戸數ノ增加ニ對シ、將來ノ需要ヲ豫想シタリト言明シタルモ、該豫想中、五區ニ於テ年々增加スル燈數ガ四萬何千個、是レニ安全率ヲ加ヘテ、三萬餘ノ增加ヲ見込ミタルガ如キモ、其人口增加率ヲ千分ノ四十四ト計算シタル根據如何。更ニ前記ノ五區ヲ選定スルニ際リテハ、單ニ新需要者ノ增加率ヲノミ標準ト爲シタリヤ如何。即チ之ヲ具體的ニ云ヘバ、如何ニ新需要者ノ增加ヲ見ルコトアルモ、料金徵收ニ缺クル所アリテハ遺憾ナリ。故ニ右ノ計算中ニハ、收支上重大關係ヲ有スル集金狀態ヲモ考慮シタリヤ否ヤ。同時ニ休燈狀態、盜用狀態ヲ如何ニ觀察シ、調査シタルヤ。

此質問ニ對シ、益田技師ヨリ答辯セントシタルニ、黒須君ハ、市長ハ嘗テ部下ヲ使用人ト稱シ、使用人ノ責任ハ之ヲ負ハズ、使用人ノ言說ニハ關知セズト明言シタルコトアリ、故ニ余ハ最後迄責任アル市長ノ答辯ヲ求ムト迫ル、玆ニ於テ左ノ如キ問答アリタリ。

奥田市長　人口ノ計算又ハ技術上ニ關スル事項ハ、余モ一通リ承知シ居レドモ、專門的ノ智識ニ乏シキヲ以テ、右ニ就テハ益田技師ノ答辯ニテ滿足サレタシ。萬一飽迄モ余ノ答辯ヲ要求ストナラバ、余ハ無能力ニシテ答辯スル能ハズト云フノ外ナシ。但シ人口計算ノ基礎ニ就テハ、他ニ材料モアルコトナレバ、書面ニテ提出スベシ。市電ノ區域ヲ五區トシタル標準ニ就テハ、一昨日詳述シタル所ノ如クナルヲ以テ再述セズ。又集金狀態、休燈狀態ニ就テハ、標準中ニハ算入セズ。

黒須君　市長ノ收支計算ニ從ヘバ、大正六年ヨリ同四十二年迄ノ三十七年間ノ休燈率ハ、二割二三分ト見積リツアルガ如キモ、右ハ其多寡ニ依リテ、數十萬圓ノ狂ヒヲ生ズルモノナルガ故ニ、多大ノ考慮ヲ要スル事項ナリトス。然ルニ市長今回ノ整理案ニ依レバ、大正六年ヨリ同四十二年迄、三十七年間、休燈二割二三分ト算定シタルモ、右ハ休燈整理ヲモ見込ミタル數字ナリヤ否ヤ、最近開ク處ニ據レバ、休燈率ハ二割二三分ナリトノコトナルモ、競爭時代ニハ休燈多キニ苦メリトハ、市長及松木電氣局長ノ言明ナリ。故ニ競爭ナキ時代、即チ協定時代ニ入ラバ、當然休燈率ノ減ズベキ筈ナルヲ以テ、市長ハ之ガ整理ヲ爲スノ用意ナカルベカラズ。先刻大阪、名古屋、横濱等ヲ引例シテ休燈率ヲ說明シタルモ、其他ノ地方ニ於ケル獨占會社ニ在リテ、二割乃至三割ト云フガ如キ、夥シキ休燈ヲ見ツヽアルノ實例果シテ何處ニ在リヤ。

奥田市長　休止燈數ハ、大正三、四、五年ノ平均率二割三分ニ達シタルヲ以テ、以上ノ數字ハ之ニ基準ヲ置ケリ、而シテ之レガ整理ニ關シテハ、二社ト折衝シタル當時既ニ話頭ニ上リ、休燈ヲ許ス期間ヲ半年又ハ一年トナスノ議モアリタレドモ、急激ナル變化ヲ生ズル事ハ、却ツテ需要者ニ迷惑ヲ及ボスノ結果ヲ生ズルガ故ニ、彼是事情ヲ參酌シテ無期限ノ休止ヲ認ムルコトヽナレリ。所謂整理ノ方法トシテハ、期限ヲ短縮スル以外ニ途ナク、斯クテハ需要者ニ急激ナル變化ヲ與フルヲ以テ、夫等ノ事情ニ鑑ミ、從來ノ平均ヲ以テ豫算ヲ編製シタリ。

黒須君　答辯ノ內容徹底ヲ缺クノ恨アルハ、質問ノ方法惡シキガ爲ナランモ、余ガ質問ノ趣意ヲ要約スレバ、市長提出ノ豫算中、三十七年間ノ休燈率ガ每年二割二三分ト計上サレタルモ、右ハ現在ニ於ケル電氣局紊亂時代ノ狀態ヲバ、今後三十七年ノ永キニ亘リテ繼續ストノ豫想ノ下ニ立案シタル收支豫算ナリヤ如何ト云フニ在リ。

益田技師　本計算ハ、將來增加ノ實點ヲ目安トナセリ。即チ其實點ヲ得ル爲ニ、幾許ノ建設費ヲ要スルヤ。又現在ノ休燈率ガ今回ノ料金改正ノ爲メ、如何ニ變化スルヤヲ考慮シテ、約二割二分ノ數字ヲ得タリ。故ニ右ノ數字ヲ建設燈數ニ加ヘテ建設費ヲ計算セリ。而シテ右ノ方法ハ、安全ナル措置ニ非ラズトノ懸念アルヤモ知ラザレドモ、反對ニ取附ケ燈數ヲ標準トシ、休止燈數ヲ少クシテ計算スレバ、實點頗ル多キ結果ヲ生ズルニ依リ、敢テ前項ノ方法ヲ本トシテ計算シタル次第ナリ。

黒須君　市長ノ豫算ヲ見ルニ、一燈當リノ經營費ハ七錢九厘參毛トアリ、而モ將來三十七年間ノ永キニ亘リテ、同一數字ヲ基礎トスルハ其意ヲ得ズ。即チ將來五十萬燈トナリ、百萬燈トナラバ、營業費一燈當リモ亦自ラ減ズベキ理由ナラズヤ。假リニ一燈ニ付壹錢ヲ減ズルトシテモ、三十七年ノ長期ニ亘ラバ、其額蓋シ僅少ニハ非ラザルベシ、而モ本豫算ハ夫レ等ノ數字ヲ見込マザルガ如シ、如何。

奥田市長　營業費一燈當リ七錢九厘參毛ガ、將來迄モ持續スルコトニ就テ御不審アルガ如キモ、成程燈數ノ增加

ト共ニ營業費ノ減ズルコトハ御説ノ通リニ相違ナシ、然レドモ世ノ進運ニ伴ヒ、各種ノ物價ハ自然騰貴ヲ免レズ、從ツテ經營費モ亦增加ノ趨勢ヲ辿ルヲ常トス。故ニ其都度數字ヲ變更スルハ煩雜ナルヲ以テ、暫ク別表ノ如ク定メタルモ、物價ノ著シク下落シタルトキハ、年々ノ實行豫算ヲ代フルコトヽセバ可ナルベシ。

黒須君　市長ハ先日五燭ハ九「ワット」十燭ハ、「十四ワット」ナリト言明シタルモ、尚ホ自家用電燈其他計算外電燈トハ如何ナルモノナリヤ、或ハ盜用ヲ指スモノニハ非ラザルカ、如何。

奥田市長　盜用ニハアラズ、假令バ電氣團扇ヲ附ケタル際、思ハズ點燈シテ「ロッス」ヲ生ズル場合多々アリ、計算外電燈トハ之ヲ指稱スルモノナリト承知スルモ、詳シキコトハ專門技師ヨリ答辯セシムベシ。

玆ニ於テ黒須君ハ、所謂計算外電燈中ニハ、盜用ヲ包含スルヤ否ヤヲ問ヒ、益田技師ハ、右ハ五燭ガ幾ラト計算シタルヲ以テ、夫レ以外ノモノハ悉ク計算外電燈ナリト答ヘタルモ、黒須君尚モ盜用ヲ見込ミタルモノナリヤヲ確メ、益田技師ヨリ然リトノ答辯ヲ得テ、更ニ市長ニ向テ質問ヲ續行ス。

黒須君　尚市長ノ答辯ヲ乞ヒタキハ、今回ノ協定案ガ假リニ市會ヲ通過スルモノトシテ、東京市當局ハ果シテ之ヲ支持シ得ルノ力アリヤ否ヤ、余ハ前途市民ノ利害ヲ憂フルノ餘リ特ニ之ヲ聞カンコトヲ欲ス。奥田市長ハ余ガ一昨年ノ市會ニ於テ、淺野セメント會社ニ供給シタル電力ガ、東電ノ爲ニ奪ハレタルコトニ關シテ質問シタル事實ヲ記憶スルナルベシ。當時市長ハ三電協約ニ依リ、互ニ切換ヲ爲サズト答ヘ、且事務報告書ニモ、從來競爭ノ弊ニ苦ミツヽアリシモ、今日ニ於テハ競爭モ根絶シ、電燈事業ハ頗ル安全性ヲ帶ブルニ至レリトアルニ拘ラズ、市電ガ淺野ニ供給シツヽアリシ電力ヲバ東電ノ爲メニ之ヲ奪ハレ、年額壹萬圓以上ノ利益ヲ失フニ至レリトテ、追加豫算ヲ市會ニ要求セリ。協定ニ依リテ互ニ需要者ノ爭奪ヲ行ハズト稱シナガラ、大需要者ヲ奪ハレツヽ、追窮ヲ

モ爲サズ、泣イテ之ヲ忍ベリト云フ所ヨリ見ルモ、市當局ノ力ヲ知ルニ足ルベキナリ。彼ノ鬼怒電ニ對スル交涉等ヲ見ルモ、其手緩サハ想像スルニ餘リアリ、「市長ハ監査委員ヲ置クト稱スルモ是スラ信賴スルニ足ラザルナリ。玆ニ於テ余ハ特ニ市ガ之ヲ支持スルノ力アリヤ否ヤ疑ナキ能ハザルナリ。

奥田市長　只今ノ質問ハ、質問者ノ判斷ニ任セタシ。

黒須君　市電ノ經濟ヨリ見レバ、「サイクル」變換費丈ハ鬼怒電ニ持タシムルヲ有利トストノ見解ニ基キ、市長就任前ヨリ問題化シテ、現ニ鬼怒電ニ交涉中ナリ。右ニ關シテハ一昨年市會ニ於ケル建議案モアル事ナレバ、市長ハ夙ニ之ヲ詳知セル筈ナルモ、就任以後右ニ就キ鬼怒電ニ對シテ「サイクル」變換費負擔ヲ請求シタル事實アリヤ。

奥田市長　余ハ就任以來「サイクル」變換費ヲ鬼怒電ニ請求シタルコトナク、又他ノ者ニ於テモ嘗テ同樣ナリト聞ケリ。

黒須君　請求シタル事實ナシトセバ、今後該問題竝ニ電力費減價ニ就キ改メテ交涉アランコトヲ希望シテ止マズ。更ニ條例ニ關シテ質問セン、市長ハ監査委員乃至交涉委員ヲ設置セントスルガ如キモ、獨占的協定ニ依リ、當然起ルコトアルベキ橫暴ノ弊ヲ防グ爲メニ、果シテ有效適切ナリト信ズルヤ否ヤ、一例ヲ擧グレバ、電球ノ壞レタル場合、直チニ會社ニ對シテ、之ガ取換方ヲ要求スルモ、社員不在ト稱シテ之ニ應ゼズ。斯クノ如キハ市井至ル處ニ發生シツヽアル事實ナルニ拘ラズ、其弊害ノ矯正セラレタルコトヲ聞カズ、然ルニ市長ハ一監査委員ノ設置ニ依リ、是等ノ弊害ヲモ芟除シ得ベシト爲スカ。

奥田市長　監査委員ハ單ニ戒告ヲ與フルモノニシテ、實際ノ仕事ハ、會社ニ於テモ、市ニ於テモ、事業員ヲ督勵

シテ、敏速ニ處理セシムル考ナリ。

黒須君　最後ニ契約締結ニ關スル第六十九條ニ依レバ、從來東電乃至市電ガ或期間或條件ヲ約シテ、特別ノ利益ヲ得ツヽアル電燈需要者ハ、本契約ガ實行セラルヽノ日ニ至リテモ、尚ホ現在ノ利益ヲ維持シ得ルガ如ク見ユルガ、事實果シテ然ルカ。現在市電乃至東電等ヨリ、一般需要者以上ニ低廉ニ供給セラレツヽアル者ガ、特ニ期間ヲ定メテ其利益ニ均霑シ、然ラザル者ハ、何故ニ保護セラレザルカヲ怪マザルヲ得ザルナリ。余ハ右ノ結果、東電ノ如キハ、相當ノ利益ヲ享受スルヲ得ベキモ、反對ニ市民ハ一大不利益ヲ被ルコトヽナルニアラザルカヲ憂フルモノナリ。

奥田市長　特別ノ期限ナキモノハ、何時ニテモ解約スルコトヲ前提シタルニ過ギズ。斯クテ長時間ニ亙ル黒須君ノ質問ヲ終リ、山口副議長休憩ヲ宣告セントスルヤ、**笠原文太郎君**引續キ質問スベシトテ、尚ホ質問ヲ繼續セリ。

笠原君　第一、本契約ハ公ノ秩序ニ反スルコトナキカ。東京市電氣局ガ他ノ二營利會社ト契約シ、一定ノ地域内ニ於テ電力電燈ヲ供給スルコトハ、一定ノ價格ヨリ廉價ニ販賣スベカラズ、萬一廉賣スルガ如キコトアラバ相當ノ制裁ヲ加フベシト云フコトハ、所謂事業者ガ聯合シテ、需要者ノ自由意思ヲ奪フ所ノ法律行爲トナルノ虞ナキカ。云フ迄モナク賣買ハ自由ナラザルベカラズ、買フ者ト賣ル者ト、供給者ト需要者トノ間ニ於テハ、自由ニ代金ヲ定メテ取引スルヲ原則トス。然ルニ三事業者ガ契約シテ一定ノ値段ヨリ廉價ニ販賣スベカラズ、若シ之ニ違反セバ罰金ヲ徴收ストノ規定ヲ設ケ、而モ一定ノ區域ヲ定メテ强制ス。斯ノ如キ契約ハ、民法上果シテ有效ナリヤ否ヤ疑ナキ能ハズ。即チ民法第九十條ニ依レバ、公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル法律行爲ハ無效トストアリ。故ニ本契約ハ、市民ノ自由行動、自由ナル法律行爲ヲ拘束シ、公ノ秩序ニ反スル契約ニハアラザルカ。奥田博士ハ、斯道ノ專門家ナルガ故ニ、既ニ夫々調査研究ヲ遂ゲタルナランモ、余ハ本席上ニ於テ、特ニ市長ヨリ法律上、事實上、一點疑フノ餘地ナシトノ言明ヲ得ル事ハ、市民ヲ安堵セシムル上ニ必要缺クベカラザルコトナリト信ズ。殊ニ過怠約款ヲ見ルニ、一使用場所ヲ犯シタルトキハ、亙ニ百圓宛ヲ支拂ヒ、其他ノ違反ハ五拾圓支拂フトアルモ、假リニ一箇所ニ就キ千乃至二千ノ利益アル場所ニ對シ、事業者ガ殊更ニ之ヲ犯シタル場合、五拾圓乃至百圓ノ罰金ハ覺悟ノ前ナリトノ態度ニ出デタルトキハ如何ニスルヤ。斯クノ如キ行爲ガ、假リニ法律上差支ナシトスルモ、道德上、人道上、果シテ許サルベキコトナリヤ否ヤ。現ニ極メテ低廉ナル料金ヲ以テ供給シツヽアルニ拘ラズ、一定ノ價格ヲ定メテ廉賣ヲ拘束スル事柄ナリト信ズルガ如何。

第二、電燈事業ノ不成績ナル主因ハ、買入當時ノ價格ノ不當ナリシ事、競爭ノ激甚ナリシ事等ニ在ルコトハ、既ニ市長ノ說明ニ依リ明カナルモ、余ハ更ニ當局吏員ガ、或ハ物品ヲ購入シ、或ハ不用品ヲ賣却スルニ際リ、適法ナラザル行爲ヲ敢テセルノ事實ナキヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ザルナリ。今實例ヲ引證センニ、電氣局ニ於テハ最近三十萬「サーキユラミル」ノ電線一萬二千六百四十尺ヲ、一尺當リ貳圓六拾四錢參厘ニテ賣却シタルガ、ソノ直後ニ於テ、同一物ヲ一尺當リ四圓ニテ購入シタリト聞ク。此差額一尺當リ壹圓參拾五錢七厘ニシテ、總額實ニ壹萬七千參百七拾圓ニ達ス。次ニ二十萬「サーキユラミル」ノ電線十一萬尺、一尺壹圓八拾六錢ニ賣却シテ、ソノ後又直チニ貳圓五拾錢ヲ以テ購入スルノ約束ヲ爲シタリト云フ。此一尺ノ差額六拾四錢、總額七萬七百圓ニ上ル、而モ右二口ヲ合計スレバ、八萬七千七拾圓ニ達ス。更ニ東京市備附ノ煽風器ハ、大正五年十二月末日現在、千六十三

臺ナリトハ、財產目錄ノ記載スル所ナリ。而シテ其內譯ヲ見ルニ、交流式ハ九百三十七臺ニシテ、直流式ハ百二十七臺ヲ算ス。然ルニ其後ノ豫算ノ說明ニ依レバ、倉庫在中ノ煽風器ハ、僅カニ五百四十四臺ニ過ギザルヲ以テ、新ニ七百五十臺ヲ購入セザル可ラズト云フ。煽風器一臺ノ價格ヲ假リニ拾五圓トスレバ、壹萬貳千九百四拾五圓トナル勘定ナリ。以上ノ事實ハ確實ニ某市會議員ヨリ聞込ミタル所ナルガ、市當局ハ何故ニ斯クノ如キ無定見ヲ繰返シツヽアルカ。由來電氣局ハ伏魔殿ト稱セラレ、其廓淸ヲ要スルモノアリトシテ、從來建議案、又ハ決議案等ノ提出サレタルコト一再ニ止マラザリシノミナラズ、奥田市長モ亦改革ノ必要ヲ容認シツヽアリシニ拘ラズ、今尙ホ斯ル事實ノ存在スルトコロヲ見レバ、電氣局ガ年々貳拾八萬圓ノ缺損ヲ重ネツヽアルハ、電燈料ノ廉カリシ爲メニアラズシテ、別ニ電氣局內ニ不穩當ナル何物カノ存在スル結果ニ非ラザルナキカヲ疑ハルヽモ、恐ラクハ辯明ノ辭ナカルベキナリ。市長ノ所見果シテ如何。尙本協定ヲ中止シテ現在ノ儘經營ヲ持續スルモノトセバ、電氣局ハ如何ナルベキ、併セテ此點ニ關スル市長ノ見解ヲモ承リタシ。由來電氣供給事業ノ如キハ今後大ニ發展性ヲ有シ、斷ジテ悲觀スルノ要ナシト信ズ。嘗テ阪谷市長モ、本事業ハ極メテ有望ナリ、他ノ會社ノ狀況ヲ見ルニ、何レモ八分ノ配當ヲ爲シ、積立金ヲ有シ、繰越金又百拾餘萬圓ニ達スト云ヘリ。事實黑須君モ質問セルガ如ク、東京市ノ人口ハ年々五六萬人宛增加シ、戶數モ亦從ツテ增進ノ一途ヲ辿リツヽアリ。余ガ大正五年六月中ニ調査シタル所ニ依ルモ、戶數ニ於テ八百二戶ヲ增シ、電燈ニ於テ二千七十五燈ヲ增シ、更ニ最近公報ノ示ス所ニ依レバ、三千二百八十五燈ノ增加ヲ見タルガ如シ。斯クノ如ク需要家ノ增加スル以上、電燈ノ增加ハ必然的ナリ。然ルニ本年三月ノ如キ一萬五千燈ノ低減ヲ見タルガ、右ハ何故ニ急激ニ低減シタルヤ、余ハ飽迄モ將來益々發展スベキ現下ノ電燈事業ニ對シ、徒ラニ前途ヲ悲觀シ、煩悶焦燥、急遽妥協案ヲ提出スルノ必要何レニ在リヤヲ疑ハザルヲ得ザルナリ。理事者ハ宜シク進ンデ電氣局內部ヲ改良シ、眞ニ役人氣質ヲ去リテ、商人氣質ト爲リ、先般同僚ノ議員星野君ノ結婚式上、電氣局ニ番人不在ナリシ爲メ、消燈セシメタルガ如キ失態ヲ繰返サヾラン事ヲ希望シテ止マザルナリ。

第三、區域協定ニ關シ、市長ハ如何ナル根據ニ基キタルヤヲ質サント欲ス。即チ供給區域ヲ三區ニ分チ、郡部ハ之レヲ東電ニ讓リタリトノコトナルモ、余ハソノ理由ヲ知ルニ苦シム。東京市ガ從來市內十五區ト郡部トニ對シテ投資セル金額ハ、電線ニ於テ七百拾貳萬餘圓、需要家室內設備費貳百拾餘萬圓、合計約九百餘萬圓ニ達ス。即チ十五區六町六ケ村ニ埋設シタル地中線ト室內設備トハ一區當リ幾許ナリヤ。又今回ノ協定ニ依リ市電ノ供給區域トナルベキ山手五區ハ、右投資々本ノ何割ニ相當スルヤ。同時ニ東電ノ管轄トナルベキ部分ニ對シ、既ニ東京市ノ投資シタル割合ハ幾許ニ上ルヤ、詳細ナル數字ヲ承リタシ。

第四、設備ト能率ノ關係ヲ聞カン。市電ノ供給區域トナルベキ山手五區ノ設備ハ、現在十ノ力ニ對シ、其半數五ノ程度ニ達シツヽアリヤ、又ハ六ノ程度ニ上レルモノナリヤ、而シテ今後ニ殘サレタル餘力ハ、如何ナル割合ナリヤ、之ニ隨伴シテ剩餘ノ市內十區ニ亙ル特別供給區域ニ設備セルモノハ、現ニ幾千ノ能力ヲ有シ、且今後幾許ノ餘力ヲ存スルヤ。更ニ郡部ニ敷設セル配電線路ノ有スル能率如何、余ガ殊更ニ以上ノ理由ヲ質サントスルハ、所謂下町十區ニ於テハ、既ニ競爭スル餘地ヲ存セズ、又新需要者ノ求メニ應ズルノ餘地ナシト說明スル者アルモ、余ノ考ヲ以テスレバ、市ニ於テ敷設シタル高壓配電線ハ、市全體ニ供給スル所ノ最モ太キ幹線ナリト聞クガ故ニ、將來ノ下町ニ於テモ、尙充分發展ノ餘地アリト信ズルモノナリ。刻下市中發展ノ狀勢ヲ見ルニ、二階建ハ三階トナリ、三階ハ四五階トナリツヽアルノミナラズ、三菱ケ原ノ如キハ益々上ニ向ツテ膨脹シ、山手ノ橫ニ發達

スルニ反シ、下町ハ縱ニ膨脹セントスルノ勢ヒヲ馴致シツヽアルニ對シ、之ニ應ズル市電ノ能力ガ、現在果シテ幾許ノ餘裕ヲ存スルヤハ、蓋シ重大ナル問題タラザル可ラズ。然ルニ市長ハ黒須君ノ質問ニ對シ、郡部ヲ東電ニ讓リタルハ、競爭會社ノ存スルアリテ、需要者散漫ナルガ故ニ利益少シト答辯サレタルモ、余ハ近來較著ナル郡部發展ノ狀況ヨリ見テ、市長ノ答辯ニ滿足スル能ハザルナリ。現ニ市公報ニ依ッテ見ルモ、一年中ノ增加率ハ、人口ニ於テ大正三年ト同四年トヲ比較スレバ、品川町ニテ三千八百二十一人ヲ增シ、大井町ニテ四百八十七人、澁谷町ニテ千七百七十五人、代々幡町ニテ二千七百五十三人ヲ增セルガ如ク、郡部ノ發展ハ想像以上ニ目覺マシク、戸數モ亦之ニ伴フノ大勢ヲ示シツヽアリ、何故ニ斯クノ如ク人口戸數ノ增加甚シキヤト云フニ、右ハ全ク市民唯一ノ交通機關タル電車ノ普及ニ負フ所少カラズ。而モ該電車ハ東京市ノ營造物ナルヲ以テ、市ハ其電車ニ依リテ郡部住民ノ增加ニ便シ、事實上所謂御得意ヲ殖ヤシツヽアルヲ以テ、電燈モ亦市電ノ需要者トシ爲スヲ至當トス。然ルニ電氣局今回ノ態度ヲ見ルニ、多大ノ犧牲ヲ拂ウテ自ラ作リタル御得意ヲ、其儘東電ニ引渡スガ如キハ、到底東京市ノ利益ヲ考慮スルモノトハ認ムル能ハズ。今郡部ニ於ケル東電市電ノ關係ヲ見ルニ、市電ノ十一萬六百五十二燈ニ對シ、東電ハ三萬三千五百十八燈ニシテ、殆ド三分ノ一ニ過ギズ、更ニ圖面ヲ見ルニ、市電ノ配電線ハ六町六村ニ亘リ、其動力ハ二千六百二十四馬力ニ達シ、東電ハ九百三馬力ニ過キズ。以上ノ諸點ヨリ見ルモ、郡部ハ實ニ市電ノ管轄區域ニシテ、其協定ニ就テハ、恐ラクハ十一割增シ程度ニ依リテ其利益ヲ獲得シ得ベキ有利ノ立場ニ在リ。然ルニ市電ハ今回ノ協定ニ於テ、漫然之ヲ東電ニ讓リテ顧ミズ、而モ尙ホ理事者ハ、口ニ市電ノ利益ヲ考慮セリト斷言シ得ルカ。理事者ノ說明スル所ニ據レバ、外ニ競爭會社ノアルアリ、從ッテ營業狀態モ自ラ散漫ニ流ルヽノ嫌ヒアリトノコトナルモ、余ヲシテ云ハシムレバ、其散漫ナル營業狀態コソ、市ノ乘ズベキ所ニ非ラザルナキカ。

第五、市長ハ今回ノ電燈整理案ニ依リテ、市民ノ負擔幾許トナルヤヲ考慮シタルコトアリヤ、市長ハ渡君ノ質問ニ對シ、會社ノ秘密ニ屬スルコトハ口ニスルヲ好マズトテ、自己ノ想像說ヲ述ベラレタルモ、余ノ見解ニ從ヘバ、市長ハ其責任上、當然或程度迄市民ノ負擔關係ヲ言明スルノ義務アリト信ズルモノナリ。即チ今回ノ協定ニ依リ、市ハ幾許ノ收入ヲ見積リツヽアリヤ、其數字ガ增大スレバ、勢ヒ市民ノ負擔モ大ナラザルヲ得ズ。假リニ市ノ收入ニ於テ拾萬圓ヲ增ストセバ、市民ハ自己ノ懷中ヨリ五六拾萬圓ヲ吐キ出サヾルベカラズ、而モ市民ノ提供スル五六拾萬圓ハ、市ノ經濟ニ於テハ何等得ルトコロナク、却ッテ年八分ノ配當ヲ爲シツヽアル東電及日電ヲ利益セシムルニ過ギズ、此點特ニ明答ヲ乞フ。

第六、今回五燭ヲ廢シテ十燭トストノコトナルガ、其結果、十燭ハ何燈トナル計算ナリヤ、余ノ計算スル所ニ據レバ、五萬五千五百二十箇トナリ、其料金合計六萬六千六百貳拾四萬圓トナリ、市電ヲ合算スレバ參拾萬圓以上ノ金ガ、已ムヲ得ズシテ五燭ヨリ十燭ニ移動スル結果ヲ生ズ。五燭ヲ十燭ニ變更スル自然ノ結果トシテ、參拾萬圓ト稱スル大金ヲ取立ツルコトハ、東京市トシテ果シテ正當ナリト信ズルヤ、又不當ナリト信ズルヤ。前陳ノ如ク市ノ事業トシテハ、飽迄モ道德的ナラザル可ラズ。然ルニ五燭ガ自家ノ必要燈ナルニ拘ラズ、無理ニ十燭ヲ點ゼシムルコトハ、所謂物ヲ押賣リスル道理ニシテ、五燭ト十燭トノ差ハ、年額壹圓貳拾錢トナリ、各需要者ノ累計ハ參拾萬圓ヲ突破スルニ至ル。而モ斯ノ如キ不要ノ電燈ヲ强ヒラルヽ階級ハ、都市政策上、社會政策上、當然市ガ保護スベキ下級者ナル實情ニ於テ、市ハ相當ナル考慮ヲ拂フノ要アルベシ。今ヤ市民ノ間ニ於テ、家屋稅ノ高率ヲ批難スルノ聲高キ今日、家屋稅ノ倍額ニ相當スル電

燈料金ヲ增徵スルハ、明白ニ德義ニ反スル行爲ナリト認メザルヲ得ズ。

第七、市長ハ今回ノ整理案ハ、値上ニアラズト說明サレタルモ、余ヲ以テ之レヲ見レバ、非常ナル値上トナル。即チ前述ノ參拾萬圓ノ外、更ニ目ノ子勘定ニ依ルモ、內線使用料、休止手數料等ヲ合算スレバ、現在市民ガ三電ニ支拂ヒツヽアル料金ヨリモ百萬圓以上ノ增徵トナリ、夫レ丈市民ノ懷中ハ痛ム勘定ナリ。或新聞ノ如キハ、增徵總額ハ貳百萬圓ニシテ、一戶當リ參圓宛ノ負擔增加ナリト揭載シタルモノアリ、市長ハ或ハ會社ノ秘密ト稱シ、或ハ答辯ノ限リニアラズト云フガ如キモ、市民ノ重キ負擔ガ、軈テ其苦痛タルヲ思ハヾ、市民ノ父タル市長トシテ、先ヅ第一ニ此點ニ注意セザル可ラザルナリ。然ラザレバ數年來吾々議員ガ、電燈料輕減ニ關スル建議案ヲ提出シ、且ツ電氣局ノ整理ヲ絕叫シ來リタル理由ノ那邊ニ在リヤヲ知ル能ハザルニ非ラズヤ、會社ガ過去二十年間市民ヲ苦シメタルコトニ就テハ、今更之ヲ贅スルノ要ナク、電氣局ニ電燈兼營ヲ許シタル事實、最モ能ク其間ノ事情ヲ盡シテ餘リアリ。然ルニ市長今回ノ計畫ハ、全ク獨占ニ改惡セントスルニアルモ、余ヲ以テ之レヲ見レバ、市長ハ今回ノ計畫ニ依リ、市民ガ如何ナル程度迄困惑スルカヲ調査シタル後ニアラザレバ、本案提出ノ資格ナシ。

第八　最後ニ、余ハ三電協定實行後ニ於テ東京市ハ大ナル不利ニ陷ルベキコトヲ信ジ、密カニ悲觀ニ堪ヘズ、道聽途說ニ據レバ、市ハ將來行詰リタル結果、二東三文ニテ拂下グルニアラズヤト云フ者アリ、果シテ噂ノ如ク、五年十年ノ後民間ニ拂下グルノ眞意ナリヤ、夫トモ亦市ニ於テ民間會社ヲ買收スル考ナリヤ、以上ハ最モ深ク市民ノ知ラントスル所ナルヲ以テ、特ニ詳細ニ言明アランコトヲ乞フ。

奧田市長　第一ノ質問ニ就テハ、余ハ笠原君トハ反對ノ意見ヲ有スルモノナリ。或ハ廉ク供給シ、或ハ高ク供給スルモノアルハ、要スルニ事業者相互ニ競爭シ、料金ヲ區々ニシテ紊亂セシムルコトコソ、却ツテ秩序ヲ紊リ、公德ヲ害シ、甚ダシキニ至リテハ、設備ヲ粗略ニシテ得意ヲ獲得スル等ノ弊害ヲ誘發シ、却ツテ公ノ秩序ニ反スルノ結果ヲ招徠スルノ虞アリ。此意味ニ於テ矢張リ料金ヲ公平均一ニスルコトハ、公ノ秩序ヲ維持スル上ニ、寧ロ却ツテ效果的ナリト信ズルモノナリ。

第二、過怠約款云々ノ件ハ、多分契約案中ノ違約金ノ事ナランガ、果シテ然ラバ、一使用場所ニ就キ百圓ノ違約金ヲ徵セントスルハ、一種ノ制裁的意義ヲ有ス、御承知ノ如ク民法ニ於テハ、違約金ハ損害賠償ノ前提ニシテ、制裁トシテ違約金ヲ徵收スル事トセバ、併セテ損害ノ要求ヲ爲スコトヲ得ルモノト解釋シ、敢テ本項ヲ插入シタリ。

第三、電氣局ノ不成績ハ、經營ノ拙ナルニ因由シ、且不都合ナル幾多ノ事實アリトテ、一々實例ヲ引證セラレタルモ、其中貯藏品賣却ニ就テハ、明治四十五年三月八日附ニテ契約ヲナシ、同年九月ヨリ十一月迄ノ間ニ購入シタル特別高壓電線中、大正三年八月以後大正四年五月迄ノ間ニ東電ニ賣却シタルガ、右ハ當時ノ考トシテ、何時迄モ斯ルモノヲ貯藏スルモ無益ナリト考ヘ、幸ヒ東電ノ希望モアリシ爲メ賣却セルモノニテ、已ムヲ得ザルニ出デタルモノナリ。更ニ電氣局ハ現在ノ儘ニテハ、將來ノ見込立タザルニ非ズヤ、眞面目ニ內部ヲ改良スレバ、充分ナル成績ヲ擧グルヲ得ベシトノコトナルモ、余ノ見解ニ據レバ、現在ノ儘ニテハ到底將來見込ナシト考フルナリ、次ギニ第五、第六等ニ於テ設備ト線路ノ能率ニ就キ質問アリタルモ、右ハ益田技師ヨリ答辯セシムルコト、シ、第七問、郡部ヲ會社ニ讓リタルコトニ就テハ、一口ニ云ヘバ、引キ合ハヌト云フコトニ歸着ス。則チ郡部ハ地中線ニ變更セザルベカラザル義務ヲ負フガ故ニ、是等ノ建設費ヲ見込ムトセバ、相當ノ鉅額ニ達スルガ故ニ、

需要者ガ增加スレバ格別、然ラザル限リ、競爭者ノアル今日、是レガ經營ハ容易ノ業ニアラズ。更ニ今回ノ協定ハ、會社側ニ有利ニシテ東京市ニ不利ナラズヤトノ質問ナルモ、余ヲ以テ之レヲ見レバ、決シテ斯ル懸念ナキノミナラズ、事實上唯リ會社ヲ利スルガ如キコトナカルベシト信ズ。尙ホ會社側ニ於テ如何ナル利益計算トナルヤハ、余ニ於テ言明スルコトヲ差控ヘタシ。

次ニ五燭光ヲ十燭光ト爲スハ、市民ノ要求セザルモノヲ押賣リスルニ等シク、其行爲ハ道德ニ反ストノ質問ナルモ、余ハ之ヲ信セズ。現在ノ五燭燈ハ、實點數九十五萬四千六百六燈ニシテ、其中市電十六萬五千三百五燈ヲ有ス。而シテ今回ノ條例ニ基キ、幾許ガ殘ルヤト云フニ、九十五萬四千六百六燈ヨリ、六十六萬二千燈ヲ差引キタル二十九萬二千燈ガ、或ハ廢燈トナリ、或ハ十燭燈ニ變化スルコトヽナル、五燭以上ヲ要求セザルモノニ對シテ、十燭ヲ强ヒントスルハ、不道德ニアラズヤトノ說ナルモ、前記五燭乃至十燭燈ハ、時ニ或ハ廢止スルコトアルヤモ知ラズ。現ニ大阪及京都ニ於テハ、五燭及十燭ヲ廢止シテ、八燭、十六燭トナセル例スラ之レアリ、斯ノ如キハ、時ノ狀況ニ依リ止ムヲ得ザル事柄ニシテ、道德ニ反スル行爲トハ認メザルナリ。最後ニ本案ハ、拂下ノ前提ニシテ結局民營トナサントスルニアラズヤトノ質問ナルモ、是亦時機到來ノ結果、或ハ市營ニ統一セラレ、或ハ民營ニ統一セラルルコトアルベク、今日ニ於テ之ヲ豫測スル能ハザルノミナラズ、余モ亦斯ルコトヲ考慮シタル結果提案セルニハ非ラザルナリ、但シ個人トシテハ、他日必ズソノ何レニカ統一セラルヽモノナラント信ズ。

益田技師　競爭區域別ノ設備ニ就テハ、下谷ノ變電所ヲ通ジテ淺草ニ供給シツヽアルガ如キ狀態ナルヲ以テ、計算ハ容易ナザラルナリ。又設備ノ餘裕又ハ能力問題ニ就テ答辯センニ、右ハ百萬燈計畫ニ依リテ着手シタルモノ一部分アリ、此事ハ參考書ニモ詳細記載シ置キタルガ、鬼怒川ヨリ供給ヲ受クル小沼ノ開閉所ヨリ、上野ノ開閉所ニ至ル途中、角土管式暗渠ヲ敷設シテ「ケーブル」ヲ埋メタルモノ十二條アリ、其中線ヲ敷設シタルモノハ五本ニ達シ、他ノ七本ハ角土管式ニシテ、未ダ線ヲ敷設セズ。其角土管モ山手附近ノ分ハ「トラフ」式ト稱シ、唯「マンホール」丈ヲ餘分ニ備ヘタルニ過ギズ、因ツテ今回ノ增設計畫ニ從ヒ、更ニ三條ヲ入ルヽ豫定ナリ。ソノ他市內ニ於ケル地中線ハ千三百萬間、一萬「キロ」ノ設計ナルガ故ニ、多少ノ餘裕ハ之レアルベシ。又郡部ハ特別供給區域ナルニ拘ラズ、架空線ノ如キハ現在ニ於テモ不足ヲ感ジツヽアル狀態ナリ。

笠原君　市長ノ答辯中、市民ノ負擔ハ幾許ナリヤ、其點ニ對スル答辯ナキハ如何。

奥田市長　市民ノ負擔增加ニ就テハ、今日料金區々ナルガ故ニ、今回ノ協定ニ依リ之ヲ一率トスレバ、從來割引料金ニテ供給ヲ受ケツヽアリシ部分ハ、悉ク値上トナル勘定ナリ。故ニ總額ハ不明ナレドモ、是等ノ方面ニ於ケル負擔ノ增加スルコトハ事實ナリ。因ツテ成ルベク急激ナル影響ヲ避クル爲メ、條例ノ最後ニ、實施後三箇月間ハ從來ノ例ニ依リテ供給スル規定ヲ設ケ、四箇月目ヨリ新料金トナスコトヽナセリ。但シ以上ノ如ク事實上ノ値上トナルモノアル反面ニ於テ、値下ゲトナルモノモ亦之レ有リ、然レドモ差引幾許ノ額ニ達スルヤハ不明ナリ。

益田技師　「煽風器ノ供給ニ就テハ一箇年百臺宛五箇年間ニ五百臺增加スルモノトナシ、之ヲ大正五年度ニ於ケル箇數七百臺ト併セ千二百臺ヲ以テ本計畫完成後ニ於ケル需用トナシ」云々ト參考書ニ記載セルガ如キ豫定ヲ以テ進ミツヽアルガ、目下ノ處交流ノ煽風器ハ八百九十一臺、直流百二十六臺、合セテ千十七臺ニ達ス。其中直流ノ分ハ、東電ヲ切換ヘタルモノナラント想像スルガ、右ハ卷換フルカ、大修繕ヲ加フルノ要アルベシ。尙市電ノ方ハ全部交流ニシテ、八百九十一臺中、七百臺ヲ貸付ケ、現ニ料金ヲ徵收シ、其他ハ豫備トナセリ。但本豫算ニハ豫備ノ外將來增加スベキモノヲ計上セリ。

笠原君　最後ニ市民ノ負擔ニ就テハ、市長ヨリ遂ニ明確ナル答辯ヲ得ル能ハザリシモ、何レ委員會モアルコトナレバ、其時迄ニ調査ノ上答辯アランコトヲ望ム。實ハ本案審議ニ當リ、市民ノ負擔問題ハ最モ重要ナル案件ニシテ、電氣局ノ收入ヲ計ランガ爲メ市民ニ對シテ五倍六倍ノ負擔ヲ課セシムルコトハ、特ニ愼重ナル考慮ヲ要ス。

作間耕逸君　三事業者契約ノ下ニ、協定區域ヲ限定スルコトハ、現在三事業者ニ對スル政府ノ特許命令ノ趣意ヨリシテ、法律上無效ナリト信ズルガ、而カモ是レ唯リ本員ノ解釋ニ止マラズ、有力ナル學者モ亦同一ノ見解ヲ有ス。即チ政府ガ三事業者ニ對シ、各〻一樣ニ東京市一圓ヲ供給區域トシテ事業ノ實行ヲ許可セルハ、該區域內ニ於ケル東京市民ハ、各事業者ニ對シ、事實上設備アル區域內ニ於テハ、必ズ自由且ツ平等ニ其需要ヲ申込ミ、其供給ヲ受クルノ權利ヲ有スト思惟スルガ爲メニシテ、同時ニ各事業者モ、亦ソノ需要ニ應ゼザルベカラザル義務アルコト勿論ナリ。而シテ電氣事業法竝ニ特許命令中ニモ、事業者ハ正當ノ事由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ズトノ明文アリテ、事業者ハ勝手ニ自己ノ營業上ノ競爭ヲ防ギ、料金協定ノ契約アルガ故ニ、契約ニ定メタル區域以外ノ申込ニハ應ズル能ハズトテ拒絕スルコトヲ得ズ。此點ニ關シ、余ハ嘗テ電氣局ノ幹部ニ對シテ非公式ニ質問ヲ試ミタルニ、京都及大阪ノ營業規則モ亦同樣ナリト答ヘタルガ、警察部長ノ古手ヲ市長ニ戴ク上方ノ都市ヲ標準トシテ、帝都ノ施設ヲ律セントスルハ心得ズ。今ヤ我東京市ハ、名譽アル法律學者中ノ先輩ヲ市長ニ戴キツヽアルガ故ニ、他日特許命令ノ公許規程ニ反スルガ爲メニ無效ナリ等ノ事態ニ立チ至ラバ、市長ハ如何ナル處置ニ出デントスルカ。余ハ最近一需要者トシテ、該契約實施後ニ日電又ハ市電ニ對シテ供給ヲ申込ミ、萬一契約ヲ楯ニ拒絕サレタル場合ハ、利害關係人トシテ其申込ヲ拒絕シタル者ヲ相手方トナシ、無效確認ノ訴ヲ爲サントス。而モ本訴ニ就テハ勝訴ノ確信ヲ有スルモノナリ。萬一余ノ訴ニシテ勝訴トナラバ、東京市ノ面目ニ關スルヲ以テ、豫メ市長ノ高見ヲ承リタシ。

更ニ當局ハ何故ニ一昨年ノ東京市會決議ニ基キ、電燈事業計畫ヲ樹テザリシカ、假リニ該決議ニ依ラズトシテモ、セメテ責任アル收支豫算ヲ作製シ、一應議員ノ考慮ヲ求ムルノ措置ニ出デザリシヤ。吾々議員ハ多年ノ研究ニ基キ、電燈事業ノ完全ナル改正ニ關スル決議ヲナセリ。而シテ右ハ市民多年ノ輿論ニ基ク極メテ尊重スベキ一大決議ナルガ故ニ、當局ハ市會ノ權威ヲ尊重シ、少クトモ一度ハ該決議ノ趣旨ヲ汲ンデ立案スルノ必要アリト信ズルニ拘ラズ、甲、乙、丙ノ三案共ニ之ヲ參考トシタル形跡ナキハ、餘リニ市會ノ決議ヲ侮辱シタル行爲ナラズヤ。一體今回ノ計畫ニ依リ、幾許ノ收入不足トナリ、若クハ幾許ノ經費增大スルヤ、委員會開會迄ニ詳細ナル數字ヲ示サレタシ。

市長ハ本案提出ニ際リ、滔々二時間半ニ亙ル理由ノ說明中、其大部分ハ市財政ノ窮狀ヲ述ベ、之レガ經濟ノ調節上增收ヲ圖ルノ必要アリ、因ツテ本案ヲ提出スト說カレタルモ、斯ノ如キハ市民ヲ愚弄シタル羊頭狗肉ノ說明ト云ハザルヲ得ズ。幷ハ豫算表ニ明ナル如ク、市ノ普通經濟ガ多額ノ金ヲ要スルニ依リ、電氣經濟、軌道經濟、殊ニ電燈經濟ヨリ五萬圓ヲ繰入ルヽコトヽナリ居レリ。然レドモ如何ニ電氣經濟ニ餘裕ヲ生ジ、且五萬圓以上ノ利益アレバトテ、其金ヲ以テ一般經濟ノ不足ヲ訴フルヤ。若シ電燈經濟ガ豫算以上ノ利益ヲ見タル場合、五萬圓ノ編入制限ヲ超エテ迄モ、尙ホ且ツ一般經濟ヲ補ハントスル意思ナリヤ。市長ガ聲ヲ大ニシテ言明スル結果、市民ノ代表者ハ止ムナク同意セザルベカラザルニ至ルベキヲ恐ルヽガ故ニ、此點ニ關シ特ニ明答ヲ望ンデ止マズ。

次ニ本案中、吾々ノ最モ不滿ニ堪ヘザルハ供給區域ノ制限ニ存ス。何故ニ斯ル不合理ナル計畫ヲ樹テタルカ。聞ク處ニ據レバ、東電及日電ハ、今回ノ協定ヲ喜バス、殊ニ區域ノ協定ヲ破ルガ如キコトアラバ、本契約ハ成立セズトサヘ聞キ及ベリ。然ルニ市長ノ說明ニ依レバ、右ハ市電ニ對スル將來ノ計畫ヲ樹テンガ爲メニ敢テ供給區域ヲ制限セリト云ヒ、結局他ノ二事業者ハ、決シテ之ヲ希望シ居ラズト云フ所ヨリ見レバ、市長一己ノ考ヨリシテ、立案シタル制度ナルヤモ知ルベカラズ。該制度ノ設定ニ由リ、電氣事業ノ數字上、果シテ幾許ノ利益アリヤ、又該制度ハ增收乃至經濟上ニハ關係ナキモ、之ヲ設定スルニ非ザレバ、計畫ノ見込立タザルガ故ニ、數字ヲ離レテ之ヲ設ケタルニ非ザルカ、此點特ニ明確ニセラレンコトヲ望ム。

更ニ本案中不滿ニ感ズル他ノ一點ハ、五燭燈ヲ制限スルトセザルトノ差額ハ、七萬貳千圓ナリト承知スルガ、其問題ハ暫ラク措キ、市當局ノ言葉ヲ藉リテ言ヘバ、五燭燈制限ノ本旨ハ、聞クダニ忌ハシキ盜用ヲ防グニ在リト云フ。一昨年ノコトナリキ、市電ハ市會議員ニ無斷ニテ、他ノ事業者ト勝手ニ秘密協定ヲ行ヒテ料金ヲ定メタルヲ以テ、爾來三者間ノ競爭ハ根絕セリ。競爭時代ノ市電ハ需要者ニ對シ、自ラ計算外電力ノ使用ヲ慫慂シ、五燭モ十燭モ任意ニ使用シテ差支ナシトテ默認シタル程ナレバ、此際盜用問題ニ就テハ敢テ彼是レ云ハザルベシ。然レドモ料金協定以後ニ於テハ、事實上競爭ナカリシヲ以テ、計算外ノ電力ヲ使用者ニ奬ムルコトモ亦是レナカリシナリ。只一昨年ノ料金協定以來、電氣局ニ現ハレタル盜用事件ハ幾許ニ上リシヤ、同時ニ計算外ニ徵收サレタル料金、說諭注意ヲ促シタル件數、盜用トシテ告訴、告發シタル件數等、詳細ナル統計ヲ示サレタシ。余ガ敢テ之ヲ請求スル所以ノモノハ、萬一統計上ノ數字ガ微細ナラバ、盜用防遏ノ原因自ラ消滅スル次第ナルヲ以テ、更ニ一考ヲ要スルコトヽナルナリ。即ヲ前述ノ七萬貳千圓位ノ金ハ、事務費ノ一割、經營費ノ五分ニ過ギサルヲ以テ、此程度ノ增收ヲ圖ランガ爲メニ、斯ル制度ヲ設定スルコトハ、余ノ頗ル不滿トスル所ナリ、故ニ以上ノ數字ハ特ニ明細ニ提示センコトヲ望ム。

又先刻橫山君ノ質問中ニアリシガ如ク、今回ノ契約書ハ措辭極メテ佶倔聱牙ニシテ、事業者双互間ノ契約トシテハ、ソノ趣意ニ多クノ疑義ヲ存シ、實際ノ取扱上ニ於テ紛爭ヲ生ジタル場合、如何ナル機關ガ之ヲ仲裁シ、協定シテ、圓滿ナル解決ヲ爲サントスルカ。該契約案中ニハ、監査委員乃至交涉委員ノアルアリト雖モ、ソノ委員ハ事業者ト特別ノ關係ヲ有スル者ニ依リテ選出セラルヽ事業者ノ機關ニシテ、云ハヾ內輪ノ紛爭紛議等ヲ解決調停スル機關ニ過ギズシテ、需要者ニハ何等ノ關係ナキ制度タリ。故ヲ以テ區劃協定ノ結果、假令橫暴ノ行爲アルモ、一般需要者ノ權利ヲ保護スベキ機關ヲ缺如セリ。市當局ハ此點ニ關シ、如何ナル見解ヲ有スルヤ。最後ニ本案ガ本會ニ提出セラルヽ前、東京瓦斯株式會社ヨリ點火料、燈火料ノ値上ニ就テ、本市ニ對シ交涉又ハ請願シタル事實アリヤ、等シク之レ燈火業者ナルガ故ニ、此際併セテ之ヲ質問セントス。

奧田市長、第一ノ質問ハ、電氣事業法ニ依リテ見ルモ、區域協定ノ契約ハ無效ニアラズヤトノ說ナルモ、余ノ見解ニ從ヘバ、電氣事業法ノ所謂正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズトハ、設備不行屆ノ爲ニ拒絕スルコトモ正當ノ事由ニ相違ナク、又今回ノ如キ區域ノ協定ヲナシ、監督官廳ニ於テ之ヲ認メタルトキハ、夫レガ直チニ需要者ニ對シテ拒絕ノ正當ナル事由トナルモノナリト解釋ス。彼ノ京都ニ於ケル區域協定モ、亦同一理由ニアラザルナキカ、故ニ余ハ電氣事業法ニハ背カズト信ズルモノナリ。

次ニ何故ニ市會ノ建議ニ基ク所ノ計算ヲ本トシテ收支ヲ示サヾルカトノ問ヒナレドモ、市會ノ建議ニ依ル電燈料金ノ計算ト、條例案ノ電燈料金トノ比較關係ニ就テハ、粗略ナガラモ一書ヲ作製シテ、參事會員諸君ノ一覽ニ供

シタリ。然レドモ右ハ根本ニ相違ノ點アルニ依リ、充分ナル比較ハ不可能ナリシモ參考トシテ贈呈スベシ。又余ガ市債ノ現狀ヲ述ベ、東京市ハ破產ニ頻スルコトナキモ、今後爲スベキ多クノ事業ヲ有スルガ故ニ、更ニ巨額ノ負債ヲ生ゼザルヲ得ザル狀態ニ在リト述ベタルハ事實ナリ。右ノ次第ナルヲ以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルハ目下ノ急務ニシテ、萬一他日破產ヲ生ズルガ如キコトアラバ、各方面ニ影響スル所尠カラザルヲ以テ、將來斯ル事ナキヲ期スル爲メ、市債增加ノ狀況ヲ述ベタルニ過ギズ。決シテ電燈ノ利益ヲ以テ、他ノ事業ニ振リ向ケントスルガ如キ考ヘハ之ヲ有セズ。次ギニ供給區域ノ制限ハ、唯計畫上ノ便宜ノ爲メニ定メタルモノニシテ、經濟ノ維持ヲ離レテ斯ル制度ヲ設ケントスルハ不都合ナリトノコトナルモ、右ハ決シテ計畫上ノ便宜ノ爲メニスル制限ニハアラズシテ、經濟ヲ維持スル爲メニ必要ナル手段ニ出デントスルニ外ナラズ。又五燭光制限ニ就キ詳細ナル質問アリシモ、假リニ之ヲ無制限トスレバ、七八萬圓ノ減收トナル、斯ル小經濟ニ於テ七八萬圓ノ減收ハ容易ニアラズ、ソノ減收ヲ認ムルコトヽセバ、勢ヒ一般經濟ノ編入金ヲ中止スル等ノ方法ヲ採ラザルベカラズ。而モ右ハ容易ノ業ニ非ラザルノミナラズ、東電ノ如キハ、其損失多大ナルモノアルベク、從ツテ現在高率ヲ支拂ヒツヽアル方面ノ料金ヲ低減スルコト能ハザルニ至ルベシ、夫レニテモ差支ナシトセバ、五燭光制限ノ必要ハ之レナキニ至ルベシ。然レドモ上部ノ料金ヲ引下ゲ、社會ノ進歩ニ伴フノ措置ニ出ヅルノ要アル限リ、五燭光制限ハ止ムヲ得ザルコトナリト思惟ス。

又條例ノ文章難解ナリトノ質問ハ橫山君ニ答辯シタルガ如ク、全ク已ムヲ得ザルトコロニシテ、仲裁機關ノ問題ハ、貴說ノ如ク完全ナルモノ之レナキハ事實ナルモ、交涉委員、監査委員ヲ設置シテ、双方互ニ約束ヲナシ、萬一約ニ背クノ行爲アラバ、二十二條ノ二項ニ依リ損害ヲ要求スルコトヽシ、更ニ二十八條ニ於テハ「前各條ニ規定スルモノヽ外、此契約ノ目的ヲ遂行スル爲必要ナル事項ハ三事業者ノ代表者間ニ於テ別ニ協定スルモノトス」ト規定シ、其他ニ關シテハ詳細覺書ニ記載シ、各事業者ガ、交涉委員、監査委員ノ決定ニ從ハザル場合ハ、契約違反トナルガ故ニ、其時ハ損害要償ノ訴ヲ提起スルコトヽナスノ外ナシ。斯クテ該契約ニ定メタル以外ノ事柄ハ、代表者間ニ於テ別ニ協定スルノ要アルガ爲メ、覺書中ニ詳細ヲ盡シ、夫々適當ナル措置ヲ執ルコトヽナセルガ故ニ、別段ニ仲裁機關ヲ設ケズ、最後ニ瓦斯會社ニ對スル質問アリタルモ、同會社ヨリ値上其他ニ關シ、未ダ何等ノ請求又ハ陳情ニ接シタル事ナシ。

作間君、電氣事業ヨリ一般市經濟ニ繰入ルベキハ、五萬圓ニ限定セラルヽヲ以テ、本案提出ニ際リ、特ニ市長ヨリ道路、上下水道ノ改良問題迄モ持チ出スノ必要ナカルベシ。右ハ動モスレバ市民ヲ誤ルノ虞アルガ故ニ特ニ一言シ置クモノナリ。次ニ供給制限ヲ附スル結果ハ、幾許ノ利得トナルヤ、委員會ニ書面ヲ以テ提示センコトヲ望ム。又五燭燈制限ヲ設ケタル結果、無制限時代ニ比シ、市ノ經濟ハ去ル事ナガラ、東電ノ損害ハ莫大ナリトノ說ナリシモ、余ハ東電ノ代表者トシテノ意見ヲ聞クニ非ラザルト共ニ、又市電代表者トシテ質問スルニモアラズ、眞ニ我東京市民ノ代表者トシテ答辯ヲ聞カントスルモノナリ、此點特ニ注意アリタシ。

奧田市長、一言辯明スル所アルベシ、今回制限ヲ定メタルハ、三電協議ノ結果ニシテ、之ヲ決定スルニ至リタル根本ハ、抑ゝ何レニ在ルヤト云フニ、要スルニ五燭燈制限等ヲ以テソノ財源ト爲サントスルニ在リタルモ、市電ノミヲ切離シテ語ルヲ得ザルガ爲メニ、言偶ゝ東電ニ及ビタルモノニシテ、決シテ會社ノ代表者タル資格ニ於テ答辯シタルニハ非ラザルナリ。

玆ニ於テ作間君ノ質問ヲ打切リ、通告順ニ依リ、續イテ松崎英太郎、尾後貫朝吾郎、鈴木彌吉三君ノ質問ニ入ル筈ナ

リシモ、折柄時間切迫ノ爲メ、松崎、尾後貫兩君ハ、書面ヲ以テ質問書ヲ提出スルコトヽシ、鈴木君ハ之ヲ取消スコト、ナリタルガ、此時川久保源治君ヨリ動議ノ提出アリタリ。

川久保君、余ハ委員會設置ノ動議ヲ提出ス、本案ニ就テハ、詳細ナル市長ノ提案理由說明、周到ナル各議員ノ質問等ヲ拜聽シタルモ、何分ニモ案ノ內容複雜多岐ニ亙リ、更ニ愼重審議ヲ要スルモノアルガ爲メニ、此際委員會ヲ設ケ、鄭重ニ調査スルノ必要アリ、依ツテ議長指名十五名ノ委員ヲ設置センコトヲ望ム。

ト述ブルヤ、滿場異議ナク之ヲ可決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

安住佐太郎　糸川正鐵　大村五左衞門　清鉴太郎　大貫傳兵衞
豐川良平　淺川保平　木村正孝　西川嘉門　作間耕逸
川久保源治　橋本直一　渡龜造　三浦良幹　太田信治郎

▽答辯中ノ訂正ト書面ニ依ル答辯

七月九日ノ市會ニ報告シタルモノ左ノ如シ

庶發第八九二號

六月二十日ノ市會ニ於ケル市會議員安住佐太郎君ノ質問ニ對スル番外五番ノ答辯中、東京市、東京電燈株式會社及日本電燈株式會社ノ三事業者ガ重複シテ現ニ電氣ヲ供給スル區町名別紙ノ通訂正候也

大正六年七月七日

東京市會議長中野武營殿

東京市長法學博士　奥田義人

（別紙）

（大正六年六月現在）

神田區			
佐久間町一丁目	和泉町	仲町二丁目	元佐久間町
同　二丁目	花房町	山本町	龜住町
同　三丁目	松永町	末廣町	田代町
同　四丁目	仲町一丁目	榮町	飼鳥町
本鄉區			
湯島天神町一丁目	湯島天神町三丁目	湯島同朋町	湯島三組町
同　二丁目			妻戀町
下谷區			
二長町	山伏町	金杉上町	下谷町二丁目
竹町	萬年町一丁目	同　下町	坂本町三丁目
御徒町一丁目	同　二丁目	上根岸町	同　四丁目
同　二丁目	西黑門町	上野三橋町	上野廣小路町
同　三丁目	上野元黑門町	五條町	同　朋町
練塀町	上野町一丁目	上野公園地	同　仲町
仲御徒町四丁目	同　二丁目	西町	長者町一丁目
下車坂町	東黑門町	南稻荷町	入谷町
豐住町	下谷町一丁目	北稻荷町	上野南大門町

淺草區

下平右衞門町	馬道町三丁目	南松山町	新吉原五十間町
茅町一丁目	同四丁目	北松山町	同江戸町一丁目
同二丁目	同五丁目	七軒町	同二丁目
旅籠町一丁目	同六丁目	永住町	同揚屋町
瓦町	同七丁目	南清島町	同角町
福井町三丁目	同八丁目	新福井町	同京町一丁目
三好町	千束町一丁目	向柳原町一丁目	今戸町
黒船町	同二丁目	猿屋町	橋場町
新猿屋町	同三丁目	須賀町	龜岡町一丁目
新福富町	花川戸町	御藏前片町	吉野町
壽町	山之宿町	森田町	山谷町
森下町	東仲町	聖天町	北田原町
三間町	西仲町	聖天横町	新畑町
駒形町	田原町一丁目	猿若町一丁目	北仲町
材木町	同二丁目	田町一丁目	淺草公園地
並木町	同三丁目	同二丁目	馬道町一丁目
茶屋町	高原町	東町	諏訪町
馬道町二丁目	阿部川町	象潟町	西鳥越町

庶發第八九三號

答辯書

六月二十日ノ市會ニ於ケル市會議員安住佐太郎君同笠原文太郎君同黒須龍太郎君ノ質問ニ對スル答辯書別紙送付候也

大正六年七月七日

東京市會議長中野武營殿

東京市長法學博士　奥田義人

（別紙）

一、安住佐太郎君ノ質問ニ對スル答辯

大正五年十二月末現在ニ於ケル電燈及動力取附箇數左ノ如シ

電燈		五一七、四七八燈
動力		八、五五八馬力四五
	（外ニ）四、〇五〇「キロワツト」（砲兵工廠及鐵道院ヘ供給ノ分）	

大正六年五月末現在ニ於ケル電燈箇數內譯左ノ如シ

種別	實點箇數	休止箇數	取附箇數
定額電燈	二一二、五四〇	一一〇、二六八	三二二、八〇八
五燭光	一七一、八七六	九九、〇二八	二七〇、九〇四
十燭光	三〇、九七七	九、五三三	四〇、五一〇

十六燭光以上	九、六八七		
從量電燈	一九四、四一〇		
計	四〇六、九五〇		

二、安住佐太郎君及笠原文太郎君ノ質問ニ對スル答辯

貯藏物品中ノ特別高壓電纜一部賣却高左ノ如シ

摘要	二十萬「サーキュラミル」特別高壓ケーブル			三十萬「サーキュラミル」特別高壓ケーブル		
	數量	單價	金額	數量	單價	金額
購買高	二四〇、〇二五尺	一八五八円	四四五、九六六円	一、七〇七	三九一、二三〇円	一一、三九四
賣却高	一二二、六四〇・六	一八六〇	二二八、一一一	一〇、三四六	六六、八〇二	二〇四、七五六
使用高	一一七、五八四・四	一八五〇	二一七、八五四	一二〇、六一四	五二四、四二七	五二七、五六四
差引殘高			九一四		七〇九	

備考　×印ハ東京電燈株式會社ニ賣却セリ

三、黒須龍太郎君ノ質問ニ對スル答辯

人口增加ノ趨勢（第六十四號議案參考書二十一頁ノ市所屬普通供給區域內現住人口增進豫想表記載）ハ現住人口ニ付過去ノ實績ニ依リ算出セルモノニシテ本籍人口ニ依リタルモノニ非ス而シテ現人口ノ增加ハ前年ニ對スル增加ヲ百分率ニ示セルモノ變化甚シク或ハ五分六厘ト爲リ或ハ一分二厘ト爲リ百分率ヲ以テ將來ノ趨勢ヲ定ムルコト困難ナルカ故ニ參考書記載ノ如ク「リーストスクエヤー」法ニ依リ過去ニ於ケル平均增加數ヲ算出シ之ヲ以テ近キ將來ニ於ケル人口增加ノ趨勢ト想定シタルモノナリ

庶發第八九四號

答辯書

六月二十日ノ市會ニ於ケル市會議員黒須龍太郎君ノ質問ニ對スル答辯書別紙送付候也

大正六年七月九日

東京市會議長中野武營殿

東京市長法學博士　奥田義人

（別紙）

大正五年度ニ於ケル區町村別集金成績

市內	調定額ニ對スル收入額割合	郡部	調定額ニ對スル收入額割合
麹町區	〇、九九六	品川町	〇、九七九
神田區	〇、九九七	大井町	〇、九八八
日本橋區	〇、九九〇	池上村	〇、九九三
京橋區	〇、九九六	馬込村	〇、九七九
芝區	〇、九九五	平塚村	〇、九六二
麻布區	〇、九九〇	大崎町	〇、九九〇
赤坂區	〇、九九〇	目黒村	〇、九七七
四谷區	〇、九四九	碑衾村	〇、九三九
牛込區	〇、九八一	世田ヶ谷村	〇、九六七
小石川區	〇、九九五	千駄ヶ谷町	〇、九八八

總平均	
本郷區	○、九六九
下谷區	○、九六二
淺草區	○、九六六
市内平均	○、九八七
代々幡町	○、九三一
澁谷町	○、九八三
郡部平均	○、九八一
	○、九八六

備考　調定額ニ對スル收入額ハ大正五年度分使用料ノ内大正六年四月迄ニ收入ノ分ヲ以テ計算セリ

電燈取附箇數ニ對スル休止箇數ノ區町村別割合　（大正五年十一月末）

市内	取附箇數ニ對スル休止箇數割合	郡部	取附箇數ニ對スル休止箇數割合
麹町區	○、二一一	品川町	○、二一六
神田區	○、三三八	大井町	○、二四一
日本橋區	○、二〇五	池上村	○、〇九二
京橋區	○、一六四	馬込村	○、二〇二
芝區	○、二〇一	平塚村	○、二二八
麻布區	○、二七六	大崎町	○、二四一
赤坂區	○、二〇七	目黒村	○、二三九
四谷區	○、二四一	碑衾村	○、〇一五
牛込區	○、二六三	世田ヶ谷村	○、三七七
小石川區	○、二二三	千駄ヶ谷町	○、二二九
本郷區	○、二四五	代々幡町	○、一八二

總平均	
下谷區	○、二七九
淺草區	○、二六七
市内平均	○、二四一
澁谷町	○、二四五
郡部平均	○、二三四
	○、二三九

是レヨリ先委員ハ、豐川良平君ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、七月九日ノ會議ニ於テ委員長ヨリ、口頭ニテ左ノ如ク報告セリ。（委員會ノ修正、削除ハ、本件冒頭ニ記載シタル議案ニ併記シタリ）

豐川委員長　即チ曰ク、委員會ハ六月二十二日ノ第一回ヲ始メ、七月四日ノ第七回ニ至ル七回ノ多キニ亙リテ開會、愼重ニ之レヲ審議シタリ。此間安住佐太郎君ヨリ、市長ノ提案シタル責任案ハ、一應之ヲ撤回シ、新規ニ作リ代ヘタル後、改メテ提案スベシトノ否決說アリシニ對シ、一方ニ於テハ贊成スルモノモアリテ、議論二派ニ岐レタルニ依リ、採決シタル結果、否決論者四人、贊成論者七人ナリキ。併シ右ハ第六十二號、第六十三號ノ二案ニ對シテ贊否ヲ問ヒタルモノニシテ、市長ノ提案全部ニ非ラズ。因ッテ引續キ逐條ニ亙リテ修正スルコトヽナリタルモ、斯クテハ重複スルノ虞レアルニ依リ、各自意見ヲ纏メテ提出スルコトヲ申合セ、三日午前中ニ之ヲ取纏メタル上、各委員ニ交付、四日午後二時開會、玆ニ改メテ修正ニ對スル贊否ヲ採決シタル結果、否決者四名、贊成者九名トナリ、本日ノ議題トナリツヽアル修正案ニ決定シタリ。尙ホ少數意見ハ、當該者ヨリ夫々提出セル筈ナリト。次ニ委員安住佐太郎君ヨリ左ノ如ク少數意見ノ開陳アリタリ。

安住佐太郎君　余ハ委員會ニ於ケル少數意見ノ經過ヲ報告スベシ。本案ハ東京市多年ノ懸案ニシテ、頗ル重大ナル案件ナリ。余ハ最初ヨリ本案ノ内容ニ關シテ懸念ヲ抱キ、假リニ市會ヲ通過スルコトアルモ、果シテ完全ナル

實施ヲ期待シ得ベキヤ否ヤ、疑シキモノアルヲ以テ、委員會ニ於テハ違法ノ謗ハ免レザルモ、否決ノ意見ヲ述ブルノ前、先以テ本案撤回ヲ勸告シタルモ、容レラレズ、仍ツテ已ムナク否決ヲ主張シタルモ、遂ニ少數ヲ以テ破レタリ。余ガ本案撤回ヲ主張シタルハ、最善ヲ盡シテ審議センガ爲メニ外ナラザリシモ、遂ニ其容ルヽ所トナラザリシヲ以テ、六箇條ニ亙ル修正意見ヲ提出シタリ。即チ其一ハ獨占的供給區域ノ劃定ヲ中止セヨトノ要求ナリ。本案ヲ通覽スルニ供給區域ノ劃定ハ、殆ド其骨子ト見ルベキガ如ク、而モ區域ノ決定ハ、會社側ノ主張ニアラズシテ、市長自身ノ發案ナリトノコトナレバ、市長自身ニ於テ撤回スルコト敢テ難キニ非ラザルベシト信ジタルヲ以テ、斯クハ其撤回ヲ要求シタル次第ナルモ、市長ハ飽迄是レニ應ゼザリシ也。然レドモ該區域ノ協定ハ、將來多數市民ニ對シテ苦痛ヲ感ゼシムルコト大ナルベキヲ憂ヒ、極力之ガ撤回意見ヲ主張シタルモ、不幸ニシテ否決ノ運命ニ陷レリ。第二ハ五燭光制限ノ撤廢ヲ要求シタリ、即チ區域協定ヲ撤回セザル以上ハ、セメテ五燭光ノ撤廢ヲ中止スベシ、最初東京市ガ電燈事業ニ着手セントスルニ際リ、五燭光ハ永久ノ顧客ヲ獲得スルノ目的ヲ以テ、四十萬燈ヲ豫定シタル歷史ヲ有ス。然ルニ理事者ノ五燭廢止理由ヲ聞クニ、計算外ノ電流ヲ消費スルハ、主トシテ五燭光ニ在リト認メタルト、時勢ノ進運ハ、今ヤ五燭光ニ滿足セズトノ極メテ薄弱ナル理由ニ過ギズ。然ルニ吾々少數意見ノ立場ヨリ見レバ、最初市民ニ對シテ無理ニ五燭光ノ點燈ヲ勸メタルニ拘ハラズ、今日ニ至リテ五燭光ハ時勢ニ伴ハザルヲ以テ之ヲ中止シ、一般ニ十燭光ニ改ムベシト强フルコトハ、商略上不可ナリ、故ニ本項ハ撤廢スベシ。而モ本項撤廢ニ由ル豫算上ノ數字ノ相違ハ、僅カニ貳萬數千圓ニ過ギズ、因ツテ本項ハ現在ノ儘存置スベシトノ第三修正意見ヲ提出シタルモ否決トナレリ。第四ハ、從量燈ニ對シ適當ノ整理ヲナシ、以テ料金ノ低減ヲ行フベシトノ修正意見ナリトス。即チ定額燈ハ、「メートル」ニ依ラズシテ燭光ニ依ルモノナルガ故ニ、計算外電力使用者、換言スレバ盜用者多シトノ說アリ、之ニ反シ「メートル」ハ從量制ナルガ故ニ、盜用者ナシトノコトナルモ、余ノ見ルトコロヲ以テスレバ、從量制ニモ亦怪シムベキモノナキニ非ズ。ソノ證據トシテ收入ノ實際ガ、市ノ定メタル金額ト大差アリテ、年々勘カラザル損害ヲ被リツヽアルコトハ、遺憾ナガラ之ヲ認メザルヲ得ザルノ實情ニ在リ。理事者ノ答辯ニ依レバ、從量燈ノ一燈當リハ貳拾六錢壹厘六毛ナルモ、是レガ實收ハ拾七錢貳厘五毛ナリト云フ。該數字ハ予ノ考ト相違スルモ、假リニ一步ヲ讓ルトシテモ、其差ハ八錢九厘壹毛ニシテ、之ヲ一箇年ノ延實點數ニ乘ズレバ、其金額ハ拾七萬八千六百拾參圓貳拾四錢四厘ノ多額ニ上ル。從量燈ニ於テスラ尙ホ斯ノ如キ不都合アリ、故ニ今日ノ場合、定額燈ト共ニ從量燈ニ於テモ、亦整理ノ餘地アリト主張シタルモ、不幸是レ又否決ノ運命ニ遭遇シタリ。第五ハ、事業者ト需要者ノ紛議ニ對シ、仲裁々判制度トシテ委員ヲ常置シ、以テ其職務ヲ行フトアルモ、其內容ニ至リテハ、事業者双互間ノ事柄ハ、會社及市電當事者等所謂供給者側ノ人々ニ依リテ處理スルモノニシテ、事業者ト需要者ノ間ニ紛議ヲ生ジタル際ハ、何人ニ依リテ之ヲ處理セントスルヤ、此點明カナラズ、故ニ余ハ此場合、事業者需要者間ノ紛議ヲ處理スル爲メ各區ニ常置機關ヲ置キ、各區ニ於ケル紛議ヲ處理セシメ、以テ一面監査委員ヲ助クルコトヽシテハ如何ト主張シタルモ、是レ亦否決トナレリ。第六ハ、三事業者中二ツノ事業者ガ合併セントスル場合、殘ル一ツノ事業者ノ承諾ヲ要ストノ一箇條ヲ挿入センコトヲ要望シタリ。市電ハ市民ノ利益ヲ圖ルベク存在スル以上、他ノ會社ト合併スルガ如キコトナカルベキモ、東電、日電ハ營利會社ナルガ故ニ、合併ハ極メテ容易ナルヲ以テ、場合ニ因リ之ヲ拒ミ得ル條文ヲ必要トス、是レ即チ今日折角協定案ヲ通過セシムルモ、他日兩會社ノ合併ニ由リテ無效トナル虞アレバナリ、然ルニ

之レ亦否決ノ運命ニ逢着シタリ。斯クノ如ク前述六項ニ亙ル修正意見ハ、何レモ將來重大ナル關係ヲ有スルモノナルガ故ニ、委員會ニ於テハ、假令否決トナリタルニモセヨ、少數意見トシテ報告スルノ必要アリト信ズ。

次ニ、**作間耕逸君**ヨリ、更ニ左記少數意見ノ陳述アリ。

本員ハ契約竝ニ附則、準則ニ就キ、料金ニ關セザル事項ノ修正意見ヲ開陳スベシ。本條項ノ修正意見ハ、唯其趣意及精神ヲ採用サルレバ、以テ滿足トスルモノニシテ、敢テ字句ニ拘泥スルモノニ非ラズ。即チ契約案第三條ノ「普通」ヲ「獨占」トシ、「區域」ヲ「地域」トシ、「其區域ノ」四字ヲ削ラントスルハ、唯「普通」ニテハ、市民一般ガ契約案ノ內容ヲ調査シタル上ナラデハ分明セザルヲ以テ、寧ロ最初ヨリ「獨占」ノ文字ヲ使用スル方便宜ナラント思料シタルニ因ル。次ニ「區域」ヲ「地域」トセントスルハ、現在電氣事業ニ關スル法令竝ニ特許命令等ニ於テ東京市或ハ隣接町村一圓ヲ許可區域ト稱シ居レリ。然ルニ契約案ニ於テハ普通區域、特別區域ト稱シテ、是等法令ト同一ノ文字ヲ使用シツヽアルハ、啻ニ紛ラハシキノミナラズ、法令ノ所謂區域ト混同スルノ虞レアリ、即チ區域ノ分割ナラバ、特許命令其モノヨリシテ改正スルノ要アリ、然レドモ特許命令ノ變改ハ、當局ノ豫期セザルトコロナルヲ以テ、法令ノ所謂「區域」ト區別スル爲ニ、地域ノ文字ヲ使用スルヲ穩當ト認メタルヲ以テナリ。又第四條中「代表者」ノ四字ヲ削ルベシ、右ハ契約ノ當事者ヲ表示スルニ、殊更ニ三事業ノ代表者ナル文字ヲ使用シ居レルモ、蛇足ノ嫌アルヲ以テ削除スルヲ適當トス。又第六條中ノ事業者ニ屬スル既定使用場所ノ下『ト同一場所ニ生ジ且其事業者ガ同一引込線ニ依リテ供給シ得ベキ』ノ二十九字ヲ削リ、『ニ生シタル』ノ五字ヲ加ヘ、同條ニ『前項ニ於テ既定使用場所ト稱スルハ同一引込線ニ依リ電氣ヲ供給シ得ル同一ノ構內ヲ云フ』『左ニ揭グル電氣工作物施設ノ範圍ハ之ヲ使用場所ト看做ス』ノ二項ヲ加フ。右ハ既定使用場所ガ、供給區域確定ノ上ニ重要ナル事項トシテ契約案ノ主ナル部分ヲ占ムルニ拘ラズ、既定使用場所トハ如何ナルモノナリヤノ原則的規定、即チ定義ナルモノナシ。斯ノ如キハ將來ノ供給區域ガ確定サレタル曉ニ於テ、三事業者間ニ於テ、既定使用場所ノ見解ニ關シ紛擾ヲ生ズルノ虞アルコト、今ヨリ想像スルニ難カラズ、故ニ特ニ一箇條ヲ設クルノ必要ヲ痛感ス。人或ハ既定使用場所ナルモノハ、實際ニ臨ンデ千差萬別ナルヲ以テ、到底一項ノ原則ヲ以テ律スルコト困難ナリト見ルモノナキニ非ラザルモ、併シナガラ有ハ無ニ勝ルコト萬々ナルガ故ニ、敢テ之ヲ主張セントスルモノナリ。即チ斯ル規程ヲ缺如シ居ルヨリモ、種々ノ方面ニ共通シ、大部分ノ場合ニ適用シ得ベキ原則ヲ存置スルヲ便宜トストノ精神ヨリ出デタルナリ、從ッテ「使用場所」ニ就テハ、豫メ紛議ヲ防グノ一助タルベシ。

更ニ第九條中ニ「一箇年」トアルヲ半減シテ、「六箇月」トシタルガ、思フニ需要者ト契約シタル結果、電氣事業者ヨリ供給ヲ拒絕サレタル場合、一年間ハ仍ホ既定使用場所ト看做サレ、他ノ事業者ヨリ、一切電氣ヲ供給スルヲ得ザル本契約案ハ、使用者ニ取リテ甚ダ殘酷ナリ。假リニ使用者ニ契約違反ノ責アリトスルモ、是レガ爲メ帝都ノ眞中ニ於テ、一箇年ノ間、眞暗闇ノ人家アルガ如キハ、市ノ面目上許スベカラザル不合理ニシテ、極端ニ云ヘバ一種ノ人權蹂躙ナルヲ以テ、寧ロ之ヲ撤廢センコトヲ希望スルモ、斯クテハ市當局ノ意見ヲ無視スルノ嫌ヒアルガ故ニ、一步ヲ讓リテ六箇月ニ半減スルノ修正ヲ試ミタリ。又第十一條ハ、三事業者中ノ孰レカノ事業者ガ、普通供給區域內又ハ特別供給區域內ニ於テ、已ムヲ得ザル事情ニ因リ電氣ノ需要ニ應ズル能ハザルトキハ、他ノ事業者ガ其供給ニ應ズルコトヲ得ト、契約案ニ明記シテ、事業者ノ自由ニ任スルモ、斯ノ如キハ需要者ニ於テ啻ニ大ナル不安タルノミナラズ、又甚シキ危險ヲ感ズ。故ニ是ヲ事業者ノ權利ニ委スルヨリモ寧ロ其義務ニ委シ、斯ル場合ハ必ズ他ノ事業者ガ其供給ニ應ゼザル可ラザルコトヽセバ、需要者側ニ於テモ安心スベキガ故ニ、「供

給スベシ」トノ强制規定ヲ設ケタリ。次ニ『第十五條第一項第一號中、十「キロワット」トアルヲ二十「キロワット」ト改ム』トシタルハ、料金ノ說明ヲ爲ス委員ニ讓リ、第二十五條ハ、唯今安住君ガ第五項ニ於テ述ベタル修正意見ノ精神ヲ明文ニ現ハシタルニ過ギズ。唯本員ガ「假リニ」ト述ベタルハ、先刻モ言ヘル如ク、其趣意ヲ參酌セラルレバ、條章字句ノ如キハ之ヲ諸君ノ意見ニ一任シテ、更ニ審議ヲ重ヌルモ可ナリトノ意ニ外ナラズ。即チ「此契約ノ適用ニ關シ事業者ト電氣使用ノ申込者又ハ使用者トノ間ニ見解ノ相違ヲ生ジタルトキハ、其係爭事實ノ存スル區町村ノ電氣裁定委員ノ調停ニ委シ互ニ其裁定ヲ求ムルコトヲ得」トシ、而シテ此區町村トハ、市電及東電ニ於ケル隣接町村ヲ指シタルナリ。又電氣裁定委員ナル名稱ハ、是レ亦一種ノ假定ニ過ギズ。本員ノ意思ハ、其調停及裁定ヲ委セントスルニ在リ。第二項「電氣裁定委員ハ各區域町村會議員三名ニ之ヲ囑託シ其期間ヲ一箇年トス」、本員ガ假リニ電氣裁定委員ヲ設クルトシテ、偖テ何人ニ之ヲ委託シ、如何ナル機關ヲ組織スルコトガ、最モ實際ニ適切ナリヤ、右ハ少數意見提出者タル本員ガ頗ル苦心ヲ重ネタル所ナリ。此點ニ就テハ市ノ幹部殊ニ電氣局ノ主ナル人々ニ於テモ、商業會議所ノ役員等ニ囑託スルヲ得バ妙案ナリト非公式ニ述ベラレタリ。然レドモ斯クノ如キハ、東京市關係者以外ニ迷惑ヲ掛クル結果トナルガ故ニ、矢張リ議員ヲ以テ之ニ充テ、其期間ヲ一箇年トナスヲ至當トス。第三項「電氣裁定委員ノ裁定ニ對シテハ異議ヲ述フルコトヲ得ス」、右ハ電氣裁定委員ニ一任スルトセザルトハ、事業者竝ニ需要者ノ自由ナレドモ、萬一之ヲ一任シタル以上ハ、異議ヲ述ブル能ハズトノ拘束力ヲ設ケタリ。該條項ニ就テハ、市條例ニ依リ無效ナリトノ意見ナキニ非ザルモ、余ハ斷ジテ左ルコトナシト信ズルノミナラズ、本條項ガ契約案中ニ於テ認メラレ、幸ニ市會ヲ通過スレバ、他ノ條項ト共ニ立派ニ效力ヲ生ズベシ。

次ハ附錄準則第三條「本規定ニ依リ有スル權利」ノ下、「義務」ノ二字竝ニ「遺贈等ニ因リ之ヲ」ノ下「包括シテ」ノ四字ヲ削ル。第三條ハ權利義務倶ニ使用者ガ全部包括シテ他人ニ承繼相續セシムルコトヲ得トノ規定ナレドモ、右ハ相續、遺贈等ノ場合ヲ除キ、單ニ賣買讓渡ニ依ル場合ハ、使用權ノミヲ讓渡セシムルコトヽシ、義務ノ讓渡ヲ爲サシメザル方可ナルベシ。萬一之ガ讓渡ヲ認ムルコトヽセバ、總テ後者ニ於テ前者ノ義務ヲ承繼セザルベカラズ。其結果ハ事業者ニ於テ、前者ノ義務ノ全體ヲ後者ヨリ徵收センコトヲ企テ、若シモ後者ガ之ヲ遲延スレバ、直チニ電氣供給ノ中止、停止等ノ制裁ヲ加フルノ虞アリ。又「第二十一條ニ左ノ二項ヲ加フ」「電氣供給ノ停止、又ハ拒絕ノ原因タル事實ガ消滅シタルトキハ、事業者ハ速カニ其處分ヲ取消スコトヲ要ス』前項處分ノ取消前ト雖モ使用者ガ三箇月分ニ相當スル使用料ヲ事業者ニ前納シタルトキハ假ニ電氣ヲ供給スルコトヲ要ス」、契約案ニ依レバ、本條ハ電氣ノ使用者ガ、僅少ナル事項ニテモ契約ニ違反セバ、事業者ヨリ其制裁トシテ電氣ノ供給ヲ中止又ハ停止セラルヽ場合アリ、而シテ其中止ハ六箇月ナルモ、拒絕ハ一年間ナリ。斯クノ如キハ甚ダ殘酷ナリトハ、第九條ノ修正ニ際シテ本員ノ旣ニ論述シタル所ナルガ、余ハ此點ニ關シ市長ニ對シテ、若シ斯ル場合、事業者ガ電氣ノ供給ヲ拒絕シタル後、更ニ供給ノ申込ヲナシタルトキハ、事業者ハ果シテ之レニ應ズルヤ否ヤト糺シタルニ、市長ハ處分ノ原因タル事實ガ消滅シタルトキハ、當然之レニ應ズル筈ナリト明答シタリ。然レドモ實際ニ於テ、事業者ガ使用者ニ對シ、契約ヲ楯ニ其申込ニ應セザルノ虞アルガ故ニ、特ニ本條ニ明文ヲ設ケ、市長ノ答辯ノ通リ、萬一供給ノ中止又ハ停止ヲ受ケタリトスルモ、其原因タル事實ガ消滅シタルトキハ、事業者ハ當然停止又ハ拒絕處分ヲ取消サヾルベカラズ。而シテ假令處分ハ取消サズトスルモ、使用者ガ假リニ三箇月ニ相當スル使用料ヲ事業者ニ前納シタルトキハ、事業者ハ矢張リ電氣ノ供給ヲ爲サヾルベカラズトノ注意ノ規

定ヲ設ケタルナリ。右ハ事業者ノ横暴跋扈ヲ防ギ、使用者ノ權利ヲ保護セントスルノ精神ニ外ナラズ。

次ニ契約案中ニハ業務監査委員及交渉委員ヲ設置シ居レドモ、右ハ單ニ其權限ニ關スル明文ヲ記スニ止マリ、其選任及ビ組織ニ關スル規定ナシ。幸ニシテ少數意見タル電氣裁定委員ノ如キ機關ノ特設ヲ見ルニ至ラバ、余ノ本懷トスル所ナレドモ、萬一斯ル機關ヲ特設スルノ運ビニ至ラザルトキハ、矢張リ間接ニ是等委員ノ力ヲ藉ラザル可ラズ。然ラバ其委員ハ如何ナル方法ニ依リテ選任セラレ、其委員會ガ如何ナル方法ニ依リテ組織セラルヽカハ、電氣使用者ノ權利保護上、重要ナル影響アリ、市長ハ此點ニ關シ、右ハ覺書ニ讓ルト言明シタルモ、若シ覺書ニ依リ、我々ノ審議ヲ經ザル不安ナル規定ヲ設定スルコトアラバ、前途甚ダ寒心ニ堪ヘズ。故ニ此點ハ、明カニ契約案中ニ明記センコトヲ希望シテ止マズ。更ニ第四項ハ電氣料徵收ノ時期ニ關スル規定ナルガ、右ハ漫リニ電氣料徵收ヲ許サズトノ趣意ヲ明カニスル程度ニ於テ差支ナク、第五項ハ「電球ガ自然ニ心切レ又ハ燭力二割以上減退シタルトキハ無償ニテ引換ヘシムルコト」、右ハ電氣事業法令中ニ明文アレドモ、念ノ爲メ契約案又ハ準則案中ニモ重複ヲ厭ハズ記載センコトヲ望ム。第六項ハ、「電球破損又ハ紛失ノ場合ニ於ケル賠償金額ノ豫定ニ關スル規定」ナルモ、是レ亦漫リニ使用者ニ對シテ、高額ナル賠償ヲ要求スルガ如キコトアリテハ遺憾ナルヲ以テ、契約案又ハ條文中ニ明文ヲ設ケ、豫メ賠償金ヲ定メ、實際上何等ノ紛議ヲモ生ゼシメザルヤウ希望シ、第七項ハ「料金ノ厘位ヲ切捨テ錢位ニ止ムルコト」トシテ計算ヲ簡易ナラシメントスルノ意ニ過ギザルナリ。

此時**豐川委員長**ヨリ、報告ニ漏レタル所アルヲ以テ一言セントテ、第六回委員會ノ時、第六十二號ト第六十三號トニ就テ賛否ヲ諮ヒタルニ、反對者少數ニテ原案ヲ可決シ、更ニ第七回ノ時、第六十四號、同第六十五號、同第六十七號ニ就キ、安住君ヨリ右三案ハ撤回サレタシ、然ラザレバ否決スベシト提議サレタルニ因リ、賛否ヲ諮リタルニ、多數ヲ以テ原案ハ撤回スルニ及バズトテ之ヲ承認シタリ。此點何レモ報告漏レトナリタリ。尚ホ委員會經過ノ報告ハ既ニ余ヨリ之ヲ試ミタルモ、詳細ハ太田、作間、大貫三理事ヨリ答辯スルコトヽセント述ベ、夫ヨリ木村正孝君ハ、委員會ニ於テ、余ノ提出シタル案ニ就キ意見ヲ述ブベシトテ、大要左ノ如ク開陳シタリ。

木村正孝君　第六十二號議案調査委員少數意見報告中、附錄準則ノ修正意見第三十一條表中「五燭光」ノ下「門燈軒燈參拾七錢」ノ「八字ヲ加フ」ノ文字ヲ挿入シアルモ、右ハ甚ダ粗漏ニシテ「參拾七錢」ハ「參拾貳錢」ノ活字ノ誤リナリ。五燭光ニ對シテハ、從來ノ如ク門燈軒燈ニ付特別料金ヲ設定センコトヲ望ミタルモ、委員會ニ於テハ、委員ノ提案ノ悉ク之ヲ否決シ、余ノ五燭光中ニ特ニ門軒燈ニ對シテ、從來ノ如ク割引ノ制度ヲ設ケラレタシトノ提案モ否決トナレリ。本來街頭照明ノ用ヲ作ス門軒燈ノ如キハ、市ノ財源ガ許スナラバ、市自身ニ經營スベキモノナルヲ以テ、市民ガ好意ヲ以テ自ラ點燈センコトスル場合、市ハ豫メ二電ト協定シテ、特別割引料金ヲ以テスルノ必要アリト認ム。殊ニ況ンヤ道路ノ安全、交通ノ利便ニ資スル結果ヲモ考慮セバ、現在市ガ公園及橋梁等ニ點燈スル電燈ヲバ、二電會社ヨリ何レモ二割引ヲ以テ供給ヲ受ケツヽアルガ如ク、多少ノ特典ヲ與ヘテ奬勵スルノ要アリト信ズ。故ニ「五燭光料金ノ四拾錢」ノ下ニ「門燈軒燈參拾貳錢」トナサント欲ス、何卒諸君ノ賛成ヲ乞フ。

安住君　第十五條ノ第一項第一號中ニ「十キロワツト」トアルヲ、「二十キロワツト」ニ改ムト主張シタルハ、「十キロワツト」ニテハ、夫レ以上ノモノハ自由ニ競爭シ得ルガ如キ規定ナルヲ以テ、「二十キロワツト」トスル方便宜ナラント信ジタルニ因ル。次ニ第二十七條第二號中「廊下」ノ上ニ「卓上」ノ二字ヲ加フトシタルハ、卓上電氣トシテ五燭ヲ許スノ必要アリト認メタルモノニシテ、第四十四條中ノ表ニ對シテ修正ヲ加ヘタルハ、動力料金ガ他

ノ都市ニ比シ、東京市ガ最モ高率ナルヲ以テ、「貳圓」ヲ「壹圓七拾錢」ニ、「參圓五拾錢」ヲ「參圓」ニ修正シ、現在發展シツヽアル各種工業家ヲ助成セントノ趣意ニ外ナラズ、又第四十五條ノ表モ同一意味ト承知アリタシ。

更ニ「左ニ揭グル規定ハ之ヲ契約又ハ附錄準則中ニ明記スルコトヲ希望ス」ト云フ第二ニ「十燭光ヲ四拾五錢トシ更ニ二十燭光ヲ新設シ順次料金ヲ遞減改定スルコト」、右ハ今回ノ提案ニ依レバ、五燭ヲ廢シテ十燭トナスコトヽナリ居ルモ、余ハ極力五燭ノ存置ヲ希望シタルニ、反對者多クシテ其主張貫徹セザルニ依リ、十燭ノ料金五拾錢ヲ現在ノ五燭ノ料金ト同樣、四拾五錢トナサントスヽ。而モ其結果ハ決シテ損失トハナラズシテ、利益ヲ見ル計算トナル筈ナリ。假リニ將來五燭ヲ二十萬燈トシテ、其平均料金ヲ四拾五錢トセバ、月額ハ八萬圓、一箇年ハ九拾六萬圓トナル。次ニ十燭ノ將來ヲ四萬燈ト見テ、其平均ヲ五拾錢トセバ、一箇月ハ貳萬圓、一箇年ハ貳拾四萬圓トナルガ故ニ、彼是合計セバ百貳拾萬圓トナル、今二十四萬燈ヲ悉ク十燭トシテ、其料金ヲ四拾五錢トスレバ、月額ハ拾萬八千圓、一箇年百貳拾九萬六千圓トナリ、十燭ヲ四拾五錢ニ低下シテ、結局九萬六千圓ノ利益アル計算トナル、十燭ノ料金ヲ五燭ノ料金ニシテ供給スルコトヽセバ、啻ニ市民ヲ利スルニ止マラズ、計數ニ於テモ亦利益アルコト明白ナリ。然レドモ理事者ハ、他ニ二會社ト云フ相手ノアルコトナルヲ以テ、飽迄モ之レニ同意セザルモ、東電ハ現ニ五燭燈六十六萬燈ヲ有スルモ、夫レヲバ一燈四拾五錢ニテ供給スルモノトシテ計算スレバ、確カニ現在ヨリモ利益アルコト明カナリ。次ギニ「二十燭光ヲ新設シ」ト特記シタルハ、從來三電ノ協定セル覺書中ニ、二十燭光ハ東電ニ於テ倍燭光即チ十燭ヲ二倍シタルモノトシテ、現ニ之ヲ供給シツヽアルニ拘ラズ、今回ノ案ニ於テハ全然之ヲ省キ、五十燭光ト百燭光トノ間ニ、八十燭光ヲ認メツヽアルガ如シ、聞ク所ニ據レバ、今後「タングステン」ノ設備トナレバ、倍燭制度ノ必要ナキヲ以テ、所謂二十燭光ハ十燭光ニ對スル倍燭ニ相當スルニ依リ、其必要ナキニ至ルナランモ、右ハ從來二會社ニハ存置セラレツヽアルニ拘ラズ、市電ニ之レナカリシヲ以テ、二十燭光丈ハ市電ニ存置シ、順次是等ノ料金ヲ定ムル事トセバ、嘗テ市長ガ各區ニ巡回シテ說明シタル當時ノ數字ニ達スベシ。更ニ第三ノ「四疊半以下ノ室內ニ五燭光一燈ヲ限リ許可スルコト」ハ、廊下、便所、湯殿等ノ特例以外、宿屋、下宿屋等ニ住居スル者ノ便宜ノ爲ニ、特ニ一箇條ヲ加ヘタル次第ナリ。

ト報告シ、一旦休憩、午後八時再開、中野議長ヨリ、九時モ間近ナルヲ以テ時間ノ延長ヲ諮リ異議ナク決定、夫レヨリ質問ニ移ル。

黑須龍太郎君　第一、最近ニ於ケル東電、日電等ノ燈數、動力數、從量燈等ノ詳細ナル數字ヲ承リタシ。第二、今回提出ニ係ル契約案ハ、市會ノ決議ヲ要セズシテ、市長自ラ決定シ得ルモノナリヤ、將又市會ノ意見ヲ徵シテ決定スルヲ適當ナリト信ジテ提出シタルモノナリヤ。或ハ市會ノ議決ヲ經ザルベカラズトノ理由アリテ提出シタルモノナリヤ。余ハ今斯ル疑義ヲ起スニ至リタル原因ニ就キ一言スベシ。周知ノ如ク東電及日電トノ暫定契約ハ、大正三年及四年度中ニ成立セリ、而シテ右ハ何レモ市會ノ議決ヲ經ザルモノナリ、ソノ內容ニ於テ、切換ノ中止、料金ノ協定等ヲ定メツヽアルニ拘ラズ、一回モ市會ノ議決ヲ經タルコトナシ。右ノ協約ト云ヒ、今回ノ協定案ト云ヒ、阪谷市長時代ノ如ク任意ニ契約シテ、市會ノ議決ヲ經ルノ要ナシトセバ、折角市會ガ愼重審議ノ末決定シタリトスルモ、市長ハ隨意ニ之ヲ變更スルコトヽナルノ虞アリ。嘗テ余ガ公園條例問題ニ關シテ質問シタル當時、奥田市長ハ公園使用問題ハ、市長ノ管理權ニ於テ自由ニ處置シ得ルモノナレドモ、便宜上條例ニ依ラトンスト答辯セリ。本契約案ニ付テモ亦同樣ノ見解ヲ持シツヽアルモノナリヤ、第三、本契約案ハ特

許命令違反トハナラザルカ、即チ既ニ特許命令ニ在リテハ、夫々供給區域ニ制限ヲ附シ、其區域内ニ於ケル營業ヲ認メツヽアリ。然ルニ東京市ハ今契約ニ依リテ妥協ヲ爲シ、新ニ其區域ヲ變改制定セントスルノ擧ニ出デントス。此點明答ヲ請フ。

奥田市長　東電、日電ノ燈數其他ハ、書面ヲ以テ答辯スベシ。次ニ今回提出ノ契約案ハ、市條例ノ基礎トナルモノナルガ故ニ、必ズ市會ノ議決ヲ經ルノ要アリト信ズ。最後ニ特許命令ニハ決シテ違反セズト考フ。

黒須君　次ニ監査委員及交渉委員ノ組織竝處務規程アラバ發表サレタシ。又先刻木村君ノ意見中ニモアリタレドモ、門燈ト室内燈トヲ同一料金トナシタル理由如何。余ハ性質上全然區別スルヲ至當ト考フ、門燈ナルモノハ、之ヲ利用スルモノ廣範圍ニ亘ルヲ以テ、門燈自體公共的社會的性質ヲ有ス。東京市竝ニ會社ガ、從來廉價ヲ以テ門燈ヲ供給シタルハ、是レガ爲ニ外ナラズ。市長ハ屢〻外國ノ事例ヲ引證スルモ、海外ニ於テハ室内燈ニテモ、廊下ノ如キ多數人ノ出入ニ利用スル電燈ニ對シテハ、特ニソノ料金ヲ半減シツヽアルノ事例尠カラズ。然ルニ今回突如之ヲ廢止セントスル理事者ノ眞意那邊ニ在リヤヲ知ルニ苦シム。次ニ今回ノ三者協定年限内ニ在リテハ、需要者ニ對シ、從來以上ノ負擔ヲ課スル憂ナキヤ否ヤ。果シテ然ラバ是レ需要者ノ甚ダシク迷惑トスルトコロナリ。市長ノ更迭スル毎ニ其說ヲ二三ニスル前例尠カナラザルニ因リ、此點特ニ明確ナル答辯アランコトヲ望ム。

奥田市長　監査委員及交渉委員ノ組織ハ未ダシ、故ニ玆ニ答辯スル能ハズ。次ニ門燈ト室内燈トノ料金ヲ同額トシタル理由如何トノ質問ナルガ、從來市電ト東電トノ併立區域ニ於テハ、五燭燈一箇月一燈ニ就キ四拾五錢、外燈モ亦同額ニシテ、何等從前ト異リタルトコロナシ。最後ニ契約期間内市民ノ負擔ヲ增加スルガ如キ協定ハ斷ジテ之レナキコトヲ明言シテ憚ラズ。

黒須君　更ニ五燭制限ハ稍〻寬大ナルモ、制限ノ事實ハ明白ナリ。以上ノ制限ニ由ル收入狀態ト何等ノ制限ナキ現狀ノ收入トノ差異幾許ナリヤ。又電球ハ一箇年幾許ノ數字ニ達スルヤ、冀クハ最近一二箇年間ニ於ケル、五燭、十燭、十六燭等ノ使用電球數ヲ承知シタシ。次ニ電力費ノ中、計算外ノ電力量即チ盜用ニ關スル電力計算ニ相違アリト信ズルガ如何。市長提出ノ整理案乙號、電燈供給條例ニ據ル收支豫算說明書ニ從ヘバ、自家用電燈其他計算外電力ハ三百四十萬「キロワット」トアリ、甲號案ニハ二百九十四萬「キロワット」トアリ、而シテ今回ノ責任案ニハ百十三萬「キロワット」トアルモ、右ノ數字ハ何レモ大正十年度ノ標準ナルガ、余ガ何故大正十年度ヲ標準トスルヤト云フニ、曩ノ整理案ニハ、主トシテ十年度ノ收支豫算ヲ揭出シアルガ故ナリ。斯クテ該整理案中ニ於テモ、「キロワット」ノ數字ニ著シキ差ヲ生ジ、責任案ニ至リテハ、其差殊ニ甚ダシキモノアリ、其何レヲ信ジテ可ナルヤヲ知ルニ苦シム、市長ハ多分責任案ヲ信ゼヨト答辯スルナランモ、果シテ然ラバ甲、乙兩案ノ數字ノ相違ハ何レヨリ出デタル計算ナリヤ。次ハ新需要ノ數字ナルガ、市長最初ノ整理案ニ依レバ、實點燈數ハ十六萬三千ノ增加トアルモ、其後ノ整理案ヲ見ルニ十四萬三千ニ訂正シ、其後更ニ亦十六萬三千ト書替ヘタリ、右ハ收入上至大ノ關係アルガ故ニ、數字ノ根據ニ就キ明確ナル答辯ヲ乞フ。

奥田市長　五燭燈制限ノ下ニ、十箇年中年額幾許ノ相違アリヤトノ質問ニ對シテハ、參萬參千圓内外ナリト答フルヲ得ベシ。次ニ電球ハ平均二個二分位ノ割合ニテ使用シツヽアレドモ、京都其他ニ於テハ、二個ト決定シ居レリ、仍テ東京市モ二個トシテ豫算ヲ編製セリ。更ニ契約外電力費ノ整理案ト今回ノ協定案トノ差異ニ就テハ、益田技師ヨリ答辯セシムベク、最後ニ新需要數ガ整理案ト今回ノ協定案トニ於テ相異スル理由如何トノコトナル

ガ、右ハ今回ノ提出案ヲ作成スルニ當リ、更ニ精密ニ調査シタル結果、此程度ノ新需要者ハ之レアルベシトノ推定ヲ爲スニ至レル結果ニ外ナラズ。

益田技師　整理案ノ燈數ハ、始メ十六萬三千燈ニシテ、其次ハ十四萬三千燈トナシタルモ、計算ニ相違アリシガ爲メ直チニ訂正シタルヲ以テ、訂正シタル方ヲ正確ト承知アリタシ。次ニ計算外ノ電力費ハ、是亦大ナル數字ヲ表ハシ、今回ノ計算ニ從ヘバ、七百萬「キロワット」以上トナルベシ。併シ大正四年ニハ夫レ以上ノ數字ヲ示シタルモ、參考案ヲ提出スルニ當リテハ、十年後ノ事ヲ考ヘ、約半分位ノ整理ハ可能ナルベシトノ推定ニ依リ、斯クハ今回ノ如キ數字ヲ計上セリ。

黒須君　更ニ最近一二箇年間ニ於ケル電球ノ實際使用高ニ關シ燭光別明細表ノ提出ヲ望ム。次ニ契約案第四條ノ末尾ニ「三事業者ノ代表者間ニ於テ別ニ其所屬ヲ協定スルモノトス」トノ規定アルモ、右ニ就テハ、市長ハ委員會ニ於テ、從來市又ハ會社ノ代表者ニ非ザルモノガ、種々ノ交渉協定ヲ爲シタル爲メ、今回特ニ三事業者ノ代表者ト爲スノ要アリテ、之ガ規定ヲ設ケタリト說明シタル由ナルモ、右ハ殊更ニ三事業者ノ代表者ト斷ル迄モナキニ拘ラズ、該規定ヲ設定シタルハ奇異ナラズヤ、唯單ニ「三事業者ノ間ニ於テ」トシテ毫モ差支ナカルベシ、理由如何。

奥田市長　三事業者ノ代表者ナル文字ハ、何等深キ意味ヲ有スルモノニ非ラズ、唯從來局長又ハ課長等ニ於テ爲シタル交涉又ハ協定ニ對シ、代表者ヲ以テ之レニ充テントシタルニ過ギザルナリ。

黒須君　第五條ニ「新ナル需用」トアルモ、他ニ「從前ノ需用」ナル文字アリ、市電ハ百萬燈ヲ經營センガ爲メ、大資本ヲ投ジテ需要者ヲ募集シツヽアルモ、其當時ノ需要者ハ當然從前ノ需要者ト看做スベキモノナリヤ否ヤ。第六條ニ「同一引込線」ノ文字アリ、右ハ從來ノモノヨリモ多量ノ送電ニ耐フベク敷設スル所ノモノヲモ、「同一引込線」ト看做スカ如何。更ニ第十一條ハ、普通供給區域内ノ事業家ガ已ムヲ得ザル事由ニ依リ、ソノ需要ニ應ゼザリシトキ、左表ニ揭グル順序ニ依リテ需要ニ應ズ云々ノ規定トナリ、極メテ明細ニ其順序ヲ表示シツヽアルモ、今其中ノ日電ニ屬スル箇所ヲ見ルニ、日電ノ供給區域ニ於ケル第一ノ順位ノ事業者ハ東電ニシテ、市電ハ第一、第二双方ノ順位中ニ記載セリ。然ルニ本所、深川ニハ市電ノ設備ナキ筈ナルニ、何故斯ル協定ヲ爲シタルヤ。更ニ條例第四條ニ依レバ、或特別ノ場合ニハ、配電線全部及引込線全部ノ施設費ヲ需要者ニ負擔セシメ、其所有權ハ東京市其他ノ事業家ガ獲得スルトノ都合ヨキ規定ナルモ、右ハ第十一條ニ依ル本所、深川ノ如キ場所ノ需要ニ應ズル場合ニモ、前記第四條ヲ適用スル考ナリヤ、更ニ東電ノ普通供給區域ニ就テモ、東電ガ其需要ニ應ゼル場合、市電ハ第一ノ順位者トシテ、之レニ應ズル覺悟ナリヤ。惟フニ配電線及引込線ナキ所ニ於テハ、其需要ニ應ズルコト困難ナルベシト信ズルガ如何。假リニ其需要ニ應ズルトスルモ、該配電線及引込線ノ費用負擔ヲ需要者ニ負ハシムル考ナリヤ否ヤ。

奥田市長　百萬燈計畫當時市民ヨリ需要ノ申込ヲ受ケタル分ニ對シテハ、依然トシテ市電之ヲ供給シツヽアリ。次ニ同一引込線ニ依リ供給シ得ベキモノアルトキハ、尚電氣ヲ供給スル能ハザル同一引込線ニ改良ヲ加ヘテ迄、點燈シテ差支ナキヤトノ質問ノ如クナルモ、右ハ差支ナシト考フ。更ニ順位ノ問題ハ、設備ノ關係ニシテ、深キ意義アルニ非ラズ。即チ大抵ノ場合、市電ニ於テ需要ニ應ジ得ル見込ナルモ、設備尚ホ行屆カザル場合ハ、時ニ需要ニ應ズル能ハザルコトアルヤモ未ダ知ルベカラズ。斯ル場合ニハ右ノ順位ニ依リ、第二位ニ移スコトアルベシトノ意ニ外ナラズ。又需要者ガ配電線等ノ設備費ヲ負擔シナガラ、其所有ガ東京市ニ歸屬ストノ規定アルモ、斯

ル場合、夫レ等ノ規定ヲ適用スルヤトノ質問ニ對シテハ、左ルコトナシト信ズルモノナリ。即チ自分ニ於テ應ズル能ハザルトキハ、第二順位ニ移スガ故ニ、勢ヒ遠方ニ配電線ヲ取附ケザルベカラズ、其結果ハ多額ノ費用ヲ要スルニ因リ、需要者ニ之レガ負擔ヲ爲サシムルコトハ、差控フル考ヘナリ。

黒須君　更ニ契約案中ノ第六條ト第十二條トノ規程ハ、一ハ普通供給區域ヲ、他ハ特別供給區域ヲ規定シツヽアルモ、右ハ何故ニ双方ヲ存置スルノ要アリヤ。更ニ第二十五條ハ、戒告ヲ受ケタル當事者ガ、其戒告事項ヲ履行セザル場合ヲ規定シツヽアリ。右戒告ハ多分監査委員ニ依ツテ行ハルヽコトナランモ、萬一三事業者中、二事業者ガ戒告ヲ受クル場合アリトセバ、所謂被告ガ多數トナリテ、戒告ノ事實行ハレザルニ至ルノ虞アリト信ズ。即チ多數ノ惡人ガ少數ノ正義ヲ壓迫スルコトヽナルノ憂ヒアリ、依ツテ其運用竝ニ效果ニ關シ、理事者ノ考ヲ問フ。

奥田市長　第六條及第十二條ヲ箇別ニ存置シタルハ、質問ノ如ク其供給區域ヲ、特別ト普通ノ二樣ニ區別スルノ便宜ナルヲ認メタルニ依ル。次ニ戒告ノ件ハ、二事業者ニ戒告セザルベカラザル場合、一人ノ監査委員ニ依ツテ之ヲ爲スガ如キコトナキ組織ト爲ス筈ナリ。

黒須君　更ニ準則ニ就キ質問スベシ。第二條ニ、「電氣ヲ使用セントスルモノハ、事業者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス」トアルモ、右ハ無キニ如カザル規程ナリト信ズルガ如何。第四條ハ前質問ニ關聯シ、場合ニ因リテハ、配電線及引込線ノ費用ヲ需要者ニ負擔セシムル規定ニシテ、請求シタル場合ハ論ナキコトナガラ、「施設地ノ狀況ニ因リ」云々等ノ文字アルヲ以テ、特ニ市會ニ於テ其意義ヲ明瞭ニ說明アランコトヲ望ム。又第十一條、第十二條等ニ、工事費ガ需要者ノ負擔トナルコトヲ規定シアレドモ、右ニ關シテハ別ニ覺書等ニ依リ、一定ノ標準ヲ定ムルヤニ仄聞スルモ、果シテ然ル事實アリヤ否ヤ、又右工事費ナルモノハ、實費ナリヤ否ヤ。更ニ第七條ノ檢査費用ノ金額ハ、未ダ定マラザルガ如クナルモ、幾許程度ト爲スモノナリヤ。以上ノ問題ハ、供給者ト需要者トノ間ニ於テ、其費用ノ多寡ニ就キ爭ヲ生ズル恐レアルニ依リ、特ニ此點ヲ明カニセンコトヲ望ム。更ニ第十五條第二項ニ「前項ノ規定ハ使用者以外ノ者ノ行爲ニ因リタル場合ト雖仍之ヲ適用ス」トアルモ、所謂使用者以外ノ範圍ヲ明ニセラレタシ。同時ニ東京ハ火災ノ多キ所ナルガ、類燒トカ放火等ニ由リテ電氣工作物ヲ毀損亡失シタル場合ハ、本規定ニ據ラザルコト、思惟スルモ、實際問題トシテハ此點ヲモ明カニスルノ要アリト信ズ。次ニ第十六條ハ、「使用場所ニ施設スル電燈、電動機、電熱器其他電力裝置ノ容量、燭光能率等ハ記銘又ハ試驗ニ依リ事業者之ヲ認定ス」トアルモ、右ハ需要者ヨリ事業者ニ對シテ試驗ヲ要求シ得ルモノナリヤ否ヤ、實際問題トシテ、「メートル」又ハ電動機等ニハ粗惡ナルモノ少カラザルモ、斯ル場合、需要者ヨリ試驗ヲ申出ヅレバ、當事者ハ之ニ應ズルヤ如何。

奥田市長　準則中ノ「電氣ヲ使用セントスル者ハ、事業者ノ承諾ヲ受クベシ」トアルガ、右ハ實際ニ於テ必要ナル條文ナリ、本來ヨリ云ヘバ、市長ノ許可ヲ受クベシト云フガ如キ文字ヲ入ルベキ所ナルモ、條例ニ於テハ少シク文字ヲ軟カニシ、京都、大阪等ニ於テハ、承認ノ文字ヲ使用シツヽアルニ拘ラズ、今回ハ之ヲ承諾トナシタルナリ。

次ニ配電線、引込線ノ費用等ヲ事業者ノ負擔トスル場合ニ於テ、「施設ノ狀況」云々ヲ設ケタルモ、右ハ例ヘバ其施設ガ河口ヲ橫斷シ、又ハ特種ノ保安設備ヲ要シ、普通ノ工事標準ニ據ル能ハザル爲メ、特別ノ材料若クハ設計方法ニ因リ、施工セザルベカラザル場合ヲ指シタルモノニシテ、尙詳細ハ細則ニ規定セントスル考ナルモ、要ハ

莫大ナル費用ヲ必要トスル場合、時トシテ其費用ヲ負擔セシムルコトナルベシトノ意味ニ外ナラズ。又檢査費ノ問題ハ、別ニ工事規程ヲ定ムル考ナルモ、之レニ關シテハ、大體實費ヲ基礎トスル心算ナリ。而シテ其實費ヲ徵收スル場合ニモ、監督者ヲ置キテ監督シ、職工等ニ不都合ナキ樣取締ル考ナリ。更ニ第十五條ノ使用者以外ノモノガ過失又ハ故意ニ出デタル場合ニモ、尙ホ使用者ガ其責ニ任ゼザル可ラズトノ規定ハ、一見使用者以外ト云ヘバ、廣キ範圍ニ亙ル樣ナレドモ、本條ニ就テハ頗ル其編制ニ苦心シ、他ノ市ノ條例等ヲ參照シ、尙ホ民法商法等ヲモ考慮ニ入レ、成ルベク不體裁ニ陷ラザルヤウ、斯ル文字ヲ使用シタル爲メ、廣範圍ニ渉ル樣見ユル次第ナルモ、實際ノ運用ニ當ツテハ、餘リ殘酷ニ取扱フガ如キコトヲ避クル考ナリ。又火災ノ際ニ關シテ憂慮セラルヽ樣ナルモ、斯ル場合ハ、本規定ニ據ラザルベシ。最後ニ第十六條ノ質問ハ、需要者ヨリノ請求ハ、曾ニ之ヲ妨ゲザルノミナラズ、寧ロ其請求ヲ希望シテ止マザルモノナリ。

黒須君　遠距離ノ爲メ需要者少シトノ理由ニ因リ、供給ヲ拒ムコトナキヤ、而シテ右ハ第四條ノ所謂「施設中ノ狀況」ニ包含サルヽモノナリヤ。次ニ第二十條「非常變災其他不可抗力」ノ意義如何。第二十三條ニハ、夜間送電ト晝夜間送電ノ二種アルガ、余ハ夜間丈送電スル市電ノ從量燈ヲ使用シツヽアルモ、申込ニ依リテハ、直チニ晝夜間送電ニ應ズルモノナリヤ。又電燈料金ハ夜間モ晝間モ同一ニ定メタルモ、右ハ如何ナル理由ニ基クヤ、動力ノ如キハ明カニ晝夜間ノ料金ヲ區別セルニアラズヤ。

奥田市長　第四條ハ、其使用場所既設ノ配電線路ヨリ、若干隔リ居ル地點ニ在リテ、使用承認ノ日ヨリ一箇年以內ニ施設スル市ノ豫定線路ニ屬セザルガ如キ場合ニ適用スル考ニテ定メタルモノニテ、詳細ハ細則ニ規定セントス。次ギニ非常變災ノ文字ニハ特別ノ意味アルニ非ズ、之ヲ妥當ト認メタルノミ。晝夜間送電ノ件ハ、既ニ其設備アル箇所ナラバ、晝間ニテモ直チニ送電スル考ナルモ、設備ナキ箇所ナラバ如何トモスルコト能ハズ。

益田技師　晝夜間送電ニ對スル料金ハ、相當低減スベキ筋合ナレドモ、目下晝夜間送電ノ範圍極メテ狹小ナルヲ以テ、之ニ要スル設備ヲ考慮シ、旁〻相關聯シテ當分ノ間夜間モ晝夜間モ同一率トナシタルナリ。次ニ定額料金ノ同一ナルハ、特別定額ノ分ハ特ニ送電時ヲ定メ、例ヘバ活動寫眞館、劇場ノ如キモノニハ、晝夜間送電スルコトヽナリテ、間接的ニ使用スルモ、其性質ニ至リテハ、夜間ノミニ使用スル「イルミネーション」ト同一ナリトノ考ノ下ニ、同一料金トナシタルナリ。

黒須君　益田君ノ說明ハ要領ヲ得ザルモ、晝間ト晝夜間トハ、當然料金ヲ異ニスベキ筈ナレドモ、目下晝間ノ設備整ハザルガ爲、一時此方法ニ依ルト解シテ差支ナキカ、果シテ然リトセバ、一時的規定ト云ハザル可ラザルモ、右ハ三電倶ニ關係アル條項ナルガ、今後間モナク晝間及晝夜間ノ區別ヲ設クルトノ意味ナリヤ。更ニ第二十九條ノ屋外ニ施設セル電燈ノ定義如何、又第三十二條ノ取附燈數ニ依ルモノ及最大使用電力ニ依ルモノヽ兩者ノ中、「活動寫眞館劇場其他之ニ類スル場所」ハ、如何ナル範圍ニ及ブモノナリヤ。從來貸座敷ノ如キハ、特別ノ條文ニ依リ割引ノ制ヲ設ケタルガ、本條中之ニ類スル場所中ニハ、貸座敷ヲモ包含スルモノナリヤ。次ニ煽風機ハ許可ヲ受クルニアラザレバ使用スル能ハザルヤ、煽風機使用ト內線使用料トノ關係如何。最後ニ第六十五條ノ違背者ニ對スル制裁規定中、「其事實ニ依リテ免レタリト認ムル電氣料ヲ支拂ハシムルモノトス但其電氣料ハ各所定料金ノ倍額トス」トアリ、更ニ其末項ニ「前項ノ場合ニ於テ其事實アリタル期間不明ナルトキハ其事實ヲ確認シタル時ヨリ溯リ、六箇月以下ニ於テ事業者其期間ヲ定ム」ト規定セルモ、右ハ電車條例及公園條例ノ如ク、使用條例ニ背キタル者ヨリ科料ヲ徵收ストノ趣旨ニ對シテ矛盾スルガ如シ。斯クノ如キハ市ノ立法トシテ曾ニ不統一ナル

ノミナラズ、不體裁千萬ナリト謂フ可シ。市長ノ立法ノ趣意果シテ如何。

益田技師　晝夜間料金ノ同一問題ハ、晝夜間大部分ニ對シテ送電シ得ル時期到來セバ、當然條例ノ一部ヲ改正スルノ要アリト信ズ。第二十九條ノ屋外ニ施設スル電燈トハ、屋内以外ノモノ、即チ門燈、「イルミネーション」等ヲ指ス。第三十二條「之ニ類スル場所」トハ、假ヘバ角力常設館、寄席等ニシテ、貸席及貸座敷ハ之ヲ含マズ。煽風機ハ今回ノ條例ニハ晝夜間料金ト明記シアルガ故ニ、電燈一箇ヲ休止シテ煽風機ヲ使用スルトキハ料金ヲ徴收セザルモ、双方ヲ使用スル場合ハ之ヲ徴收ス。而シテ今回ヨリハ、双方ヲ使用シ得ル裝置ヲ爲シタル上貸附クルコトヽ爲ス筈ナリ。又内線使用料ハ、煽風機ノ爲メ内線ヲ布設シタル場合ハ之ヲ徴シ、電燈ヲ休止シテ煽風機ノミヲ使用スル場合ハ、内線料五錢ヅヽヲ徴收スル定メナリ。

奥田市長　第六十五條ハ、御意見ノ如ク如何ニモ不統一ノ嫌ヒアルモ、水道ノ如キモノナラバ、其使用料ハ稅金ト同樣、區役所ヨリ命令書ヲ發シテ徴收スルモ、電燈電力ハ他ニ競爭會社ヲ控ヘツヽアル有樣ナルヲ以テ、殊更ニ集金人ヲシテ徴收セシムルノ要アリ、故ニ如何ニモ不統一ナリトハ信ズルモ、止ムヲ得ザル次第ナリシ。

黒須君　第六十五條ノ制裁ニ關スル不統一ハ、市長自ラ之ヲ認ムル程ナルヲ以テ、公平ヲ保ツ意味ニ於テ、低廉ニ統一スルノ意思ナキカ。

ト質シ、更ニ煽風機ノ件ニ就キ、益田技師ト應答シタル後、

閉ク所ニ據レバ、電燈問題ノ整理ニ關シテハ、市長ハ全然助役ニ協議セザリシ爲、同委員會ニ於テ問題トナリシ由ナルモ、他ノ吏員即チ井上電氣局長又ハ技師等ニ相談シテ、助役ヲ除外シタル理由如何。次ニ電燈問題其他公共的營造物ノ經營ニ關スル根本主義ニ就キ質問セン。市長ハ常ニ電燈問題ノ缺損ヲバ、市稅ニ依ツテ補フノ非ヲ公言シツヽアリ。余ハ右ニ關シ多大ノ疑問ヲ有スルモノナリ、市長ガ世間ニ對シテ說明シタル所ニ據レバ、納稅者ト電燈使用者トハ必ズシモ一致セズ、故ニ納稅者ヲシテ、電燈使用者ヲ保護スル爲ノ稅金ヲ負擔セシムルハ不可能ナリトノ論據ナルモ、如何ナル公共ノ事業ト雖、多クノ場合、需用者ト納稅者トハ一致セザルヲ常トス。例ヘバ小學校ノ如キ就學兒童ヲ有スル者、必ズシモ納稅者ニアラズ、殊ニ慈善的、敎育的事業ニ於テ、其例少カラザルノミナラズ、貧民ノ養育施療ノ如キ其最モ著シキモノナリ。然ルニモ拘ラズ、當局者ハ公ノ事業トシテ之ヲ營ミ、國家モ亦奬勵シツヽアルニ非ズヤ、是等ノ事實ヲ前ニシテ考フル時、市長ノ論據ハ、余ノ頗ル解スル能ハザル所ナリ、冀クハ其論據ヲ明ニセンコトヲ。

奥田市長　本問題ニ關シテ助役ニ相談セザルハ余ノ自由也、由來助役ハ市長ヲ補佐スル者ニシテ、總テノ事柄ヲ相談セザル可ラズトハ市制ニ於テ强制セズ。斯クノ如キ案件ニ對シテハ、直接關係アル者ハ格別、成ルベク他人ニ迷惑ヲ掛ケザル爲メ、特ニ相談スルノ擧ニ出デザリシノミ。更ニ電燈ノ不足ヲ、市稅ヲ以テ償フハ不可ナリトノ余ノ說ガ、疑問ノ存スル所ナリトノ質問ナルガ、這ハ全ク意見ノ相異ナリ、即チ電燈事業ノ如キハ、必ズシモ市ガ之ヲ經營セザル可ラザル性質ヲ有セズ、現ニ民營ノ事業アレバコソ今回ノ如キ協定ヲモ要スル次第ニテ、市ニ於テ經營セザルトキハ、民間ニ拂下グル場合スラ之レナキニアラズ。市ノ事業トシテハ、道路其他頗ル多ク、如何ニシテ之ヲ遂行スベキヤニ就テハ、財政上多大ノ懸念アリ、斯ル場合ニ處シ、電燈ノ不足金迄モ、市稅ニ依リテ補塡スルガ如キハ、現狀ニ於テ既ニ之ヲ許サズ、況ンヤ其性質ガ市ニ於テ爲サヾル可ラザル必要性ナキニ於テヲヤ。

黒須君　市長ノ意見ニ據レバ、電燈事業ハ固有事務ニアラズ、任意事務ナリトノ趣意ナルガ如シ、然レドモ東京市トシテハ、固有事務以外、市民ノ福利ヲ增進スベキ任意事務多々アリテ存ス。水道然リ、電車然リ、養育院、施療病院亦然リ、其他實科女學校、高等小學校ノ如キ、市ニ於テ經營セザル可ラザル義務アルコトナシ。又教育會、講習會ニ對シテ補助金ヲ交付スルノ義務アルコトナシ。而モ市長ハ夫レ等ノ議案ヲ審議スルニ當リ、余ノ質問ニ對シテ、該費用ヲ支出スルノ必要アリト答辯セリ。市長ハ今余ノ列擧シタル事業ノ外、東照宮奉賛會、無料宿泊所、職業紹介所ノ如キ、市本來ノ固有事務ニアラズシテ、而モ公共ノ利益ノ爲ニスル事業ヲ營ミ、現實ニ稅金ヲ以テ其費用ヲ補助シナガラ、何故ニ唯リ電燈事業ニ對シテノミ、稅金ヲ以テ補助スルヲ不可ナリト爲スカ、余ハ今明白ニ其理據ヲ闡明センコトヲ望ム。

奥田市長　是レ以上ハ意見ノ相違ナルヲ以テ答辯セズ。

黒須君、玆ニ於テ、「然ラバ答辯ヲ要求セズ」トテ質問ヲ打切リ、尾後貫君ト代ハル。

尾後貫朝吾郎君　本案ハ奥田市長ノ責任案ナリトノ事ナルモ、市長ハ如何ナル程度ノ責任ヲ負フ考ナリヤ、市長ノ職ヲ辭スルモ責任ノ一ナリト信ズルガ、余ハ本案施行ノ上ハ、市民ニ對シテ多大ノ損害ヲ與フルモノナリト信ズ。市長ノ所謂責任ナルモノハ、斯ノ如キ場合、其損害ヲ辨償セントスル意味ノ責任ナリヤ、將又ソレ以上ノ責任ナリヤ、委員會ニテ答辯シタリトセバ、其內容ヲ聞カン。

此時太田信治郎君ヨリ退席中ニテ質問ノ要領ヲ聞カザリシトテ、尾後貫君ニ之ヲ糺シタル後。

太田信治郎君　委員會ハ屢〻、集會審議シタルモ、市長ガ如何ナル程度ノ責任ヲ有スルヤトノ質問ハ之レナカリシナリ、唯市長ハ本案ニ就テハ、責任ヲ帶ブベシト答辯サレタルニ因リ、委員會ニ於テハ、既ニ市長ガ提案サレタル以上、責任ヲ帶ブルモノナリト思惟シタリ。

尾後貫君　委員會ノ內容ヲ聞クニ、反對意見ノ出ヅル毎ニ、一々市長サン宜シウ御座イマスカト確メタル後、反對カ贊成カヲ決定シタリト云フ。（此時ノー〳〵ト呼ブ者アリ）又作間君ヨリ動議ノ提出セラルヽヤ、反對ナリト言明セル委員ノ一人ハ、今ノ案ハ市長サンガ贊成デアリマスト注意スルヤ、夫レナラバ私モ贊成デアリマスト答ヒタリト聞ク。余ハ未ダ斯ル委員會アルヲ聞カズ、委員諸君ガ何ヲ調査シタルヤヲ疑ハザルヲ得ズ、舊常盤會專制時代ニ於テ、森久保作藏君ハ、總テ市長ノ發案ハ、市會ガ全會一致ヲ以テ推シタル市長ナル以上、當然之ニ贊成スベシトノ態度ヲ以テ市會ニ臨マレタリ、甚ダシキニ至リテハ、證人トシテ裁判所ニ出頭シタルトキモ、同樣ノ答辯ヲ爲シタリト聞クガ、今回ノ委員會モ、市長ノ發案ニハ總テ盲從スベシトノ態度ヲ以テ、調査シタルモノナリヤ如何。

太田君　委員中市長ノ意嚮ヲ確メタル者アリシハ事實ナルモ、未ダ市長ノ贊否ヲ糺シタル後、贊否ヲ決シタル事實ナシ、即チ出席委員ノ多數ヲ以テ本案ヲ決シタルナリ。

尾後貫君　「メートル」ヲ使用スル需要者ガ、室內ノ器具ヲ買ハントスル場合、市ハ幾許ノ料金ヲ以テ讓ラントスルカ、又「メートル」ヲ買ハントスル場合、舊來使用シツヽアリシ「メートル」ハ、既ニ支拂ヒタル使用料ヲ引去リテ、其後ハ內線使用料ヲ徵收セズトノ意味ナリヤ。

太田君　從量燈ノ「メートル」使用料ヲ讓リ受クル場合ハ、市ノ定ムル相當ノ價格ヲ以テ讓渡スト承知セリ。

尾後貫君　右ノ答辯ハ市長ヨリ之ヲ聞キタシ、同時ニ現在需要者ノ使用シツヽアル「メートル」ニ就テハ、何會社ノ使用シツヽアル「メートル」ハ幾許ヲ以テ需要者ニ賣渡スカヲモ承リタシ。

益田君　「メートル」ノ讓渡價格ハ、其「メートル」ノ使用期間、保存年限等ヲ參酌シテ其都度之ヲ定ムル考ナルヲ以テ、唯今明答スル能ハズ。

尾後貫君　需要者ガ內線器具ヲ買ハントスル場合ハ、市ニ於テハ之ニ應ズルモノナリヤ、若シ之ニ應ズルトセバ、其價格如何。

益田君　內線モ、「メートル」モ、建設シタル時代、保存年限ヲ參酌シ、實地ニ就キ評價シタル上、讓渡セントス。

尾後貫君　市長ハ實費ヲ以テ之ヲ讓ルト言明セシ由ナルガ如何。

益田君　右ハ委員會ニ於テ、電球及ビ「メートル」ニ就キ斯ク答辯シタルヤニ記憶スルモ、市トシテハ今尙ホ然リ、但シ使用期間等ハ飽迄モ參酌スル考ナリ。

尾後貫君　余ハ敢テ委員會理事タリシ太田信治郎君ニ問ハントス、市長ハ數字其他ニ關シテハ、常ニ益田技師ヲシテ調査セシメタルガ故ニ、同技師ヨリ聽取セラレタシト答辯シツヽアリト聞ク。然ルニ益田技師ハ、濱松町工場ニ於テ現ニ電車ノ箱ヲ作リツヽアル大工ノ親方ニシテ、而モ民間ノ車輛會社ニ於テ、頗ル廉價ニ製造シ得ル車臺ヲ極メテ高價ニ仕上ゲ、以テ市ノ損害ヲ增大シツヽアルノ人ナリ。斯ル人物ニ對シ、何等經驗ナキ電燈問題ノ計數ヲ委ヌルコトスラ異樣ノ感ナキ能ハザルニ、其益田技師ヲ信賴スル市長ノ言ヲ信ジテ、委員會ハ本案ヲ可決シタリヤ、將又電燈問題ニ精通スル者ノ意見ヲ徵シテ決議シタルモノナリヤ。

太田君　委員會ニ於テハ、益田技師ハ電燈問題ニ關シ、曾ニ充分研究セラレタルノミナラズ、海外ノ事情ニモ精通シ、且ツ本問題ノ當初ヨリ、電燈會社トノ折衝ニモ當リタル人ナレバ、充分信賴シテ可ナリト思惟スルモノナリ。併シナガラ、唯リ益田技師ノミヲ信賴スルコトハ、尙ホ甚ダ遺憾ノ點アリトテ、安住委員ヨリ特ニ此旨市長ニ質シタルニ、市長モ勿論責任ヲ負フノミナラズ、益田技師ニ就テモ亦責任ヲ負フ旨言明セラレタリ、因テ委員會ハ技師及市長ノ說明ヲ信ジテ可決シタリ。

此時川久保源治君、尙ホ委員ノ一人トシテ辯明スベシト發言シタルモ、尾後貫君ヨリ余ハ單ニ希望ヲ述ベタルモノナリト言明セシ爲メ、此辯明ヲ止メ、秋山君ノ質問ニ入ル。

秋山朗君　第六十二號議案ノ附錄第二十九條但書中ニハ、門燈軒燈ヲ包含スルヤ、又同ジク附錄ノ條文中、百燭光以下乃至白熾光超過等ノ文字アルモ、右ハ電球一箇ヲ指スモノナリヤ。更ニ同第三十三條中從量燈料金計算ノ「キロワット」ノ電力ヲ使用シタル場合ノ料金、十五「キロワット」ノ電力ヲ使用シタル場合ノ料金、三十一「キロワット」ノ電力ヲ使用シタル場合ノ料金ハ、幾許ナリヤ。

益田技師　第二十九條但書中ニハ、門燈街燈ヲ含ム、百燭光超過ノ文字ハ、一箇ノ電球ガ百燭光ヲ超過スルノ意味ナリ。第三十二條ノ普通從量供給ニ依ル電燈「キロワット」使用シタル場合ハ、其十箇ノ電燈ガ全部百燭光以下ノモノト假定シ、十一「キロワット」時ヲ十ニテ割リ、一燈當リ平均一箇月間ノ使用電力料ヲ求ムレバ、一「キロワット」「ポイント」一トナル。仍チ本條文中ノ表ノ最初ニ揭ゲタル如ク一「キロワット」時迄、使用電力料拾八錢ナルガ故ニ、初メノ十「キロワット」時拾八錢トシテ、超過分使用電力量「ポイント」一ハ壹錢四厘トナル。故ニ合計一燈當リ料金拾九錢四厘、總計十箇ニ對シ壹圓九拾四錢トナル勘定ナリ。以上ノ方法ニ依リ計算スルトキハ、十五「キロワット」ノ場合ハ、十燈分四圓參拾錢トナル。「キロワット」ノ場合ハ、十燈分貳圓五拾錢、三十一「キロワット」ノ場合ハ、十燈分貳圓五拾錢、三十一

若林成昭君　余ノ質問ニ對シテハ、委員會ニ於テ連日委員長代理ノ職務ヲ執行シタリト云フ太田理事ノ答辯ヲ乞フ。東京市民ハ見様ニ因リテハ、値上案トナル今回ノ整理案實施ノ結果、凡ソ何拾萬圓ノ增價トナルカ、例ヘバ從量燈ニ就テハ、東電ニ於テハ普通從量燈四萬九千燈ヲ點ジツヽアルガ、右ハ何レモ四拾錢ノ計量器損料ヲ徵收シ、內線使用料モ、工費自分持チ以外ハ金五錢ヲ徵收ス。斯ル分ヲ差引キテモ尙ホ高價トナルコト明カナリ。何トナレバ、東電ハ拾六錢貳厘ナルモ普通拾四錢トセリ。然ルニ今回ノ案ニ依レバ、拾八錢トナル、今此數字ヲ一トシテ計算スルトキハ、市ト東電トハ、從量燈ニ於テ市民ハ幾許ヲ負擔セザルベカラザルカ。現ニ五燭光ハ九十萬燈ニシテ、其內四拾錢以下ニテ供給シツヽアル者六割ヲ占ム。而モ今回ノ案ニ於テハ此ハ四拾五錢トナル。而シテ右ノ差額ハ實ニ市民ノ負擔ニシテ、其額決シテ少カラズ、其負擔額果シテ如何。市長ハ渡君ノ同樣ノ質問中、今回ノ整理案ニ依リ東電ハ幾許ヲ利益スルカトノ問ヒニ對シテ、全然之ヲ知ラズ、然レドモ株價ノ騰貴セザル所ヨリ見レバ、東電ハ餘リ利セザルガ如シト答ヘタリ。然ルニ現在ノ株價ハ如何、試ミニ東京瓦斯ト東電トヲ比較スルニ、共ニ年八朱ノ配當ヲ爲シ、又俱ニ全額五拾圓ノ拂込株ガ、東京瓦斯ニ在リテハ五拾五六圓ナルニ拘ラズ、東電ハ七拾壹貳圓ノ間ヲ上下シツヽアルハ何ノ爲ゾ、本整理案ノ影響ナルコト明々白々ナルニアラズヤ、右ニ對スル太田君ノ處見如何。次ニ從量超過「キロワット」ノ減額ニ伴フ總金額幾許ナリヤ、即チ市長ノ所謂減額ニ依ル不足ハ何ニ依リテ補塡スルヤ。更ニ東電ノ電球ハ炭素線本位ナルガ爲ニ、金屬線ヲ使用スル者ニ對シテハ倍燭光ヲ許ス。今之ヲ二十四燭光トシ、三十二燭光トシテ使用スレバ、明カニ損害ナリ。而モ該損害ハ會社ニ於テ認メツヽアリ、然ルニ正直ニモ今尙ホ二十燭光ヲ點ジツヽアルモノ所在甚ダ少カラザルニ拘ラズ、本案中二十燭ノ料金ヲ定メザル理由如何、大正四年四月十四日黒須君ノ質問セル覺書中ニハ、明カニ之アリシノミナラズ、

東電ガ二十燭ヲ許シツヽアルコトハ、井上君モ之ヲ知レリ。然ルニ今二十燭ヲ廢ストセバ、十六燭ニテハ暗ク、二十四燭ニテハ高率トナリ、需用者ノ不便尠カラズ、委員會ハ如何ナル理由ニ依リテ之ヲ承認シタルヤ。

太田君　現在ノ從量燈料金ハ、明治四十四年ニ定メタルモノヲ標準トセルモ、其後競爭ノ結果屢〻料金ノ變更ヲナシ、當然取リ得ベキ料金ヲ取ラズ、甚ダシキニ至リテハ、最低料金ヲ免除シタル傾向サヘアリ、夫レ等ノ點ニ比例スレバ、値上トナルベキモノナキニアラザルモ、從來ノ從量燈ノ料金ガ決シテ完全ナルモノニアラザリシヲ以テ、今回ノ整理ヲ機トシ、斯クシタナラバ適當ナラントノ考ニテ調査シ、委員ノ多數ハ、市長提案ノ最低料金拾八錢ヲ認メ、之ニ市ノ豫算ニ因ル電力量ヲ加ヘ、平均收入額ヲ一燈貳拾五錢トナシタルナリ。次ニ五燭ヲ制限シタル爲ニ市民ノ負擔ヲ重クスベシトノ說ナルガ、成程五燭ハ減少シ、市民モ當然不便ヲ感ズルニ至ルベシ、去リナガラ最高七拾貳錢ヨリ最低參拾五錢迄ノ段階ヲ平均スレバ五拾錢トナリ、現在競爭區域ノ廉キ方面ヨリ見レバ、値上ゲトナリ、競爭區域外ノ高キ方面ヨリ見レバ、値下トナル。之ヲ要スルニ彼此相殺シテ、五燭燈ノ減收ヲ見込ミ、更ニ十燭燈ノ料金ヲ引下ゲタル減收等ヲ相殺シテ、從量燈ヲ値上ゲシ、豫算ノ上ニ於テ「バランス」ヲ取レリ。更ニ五燭ヲ制限シタル爲メニ會社ハ幾許ノ利益ヲ受ケ、市民ハ幾許ノ負擔增トナルヤノ點ニ就テハ、議場ニ於テモ屢〻質疑應答アリタルモ、會社ノ內容ハ營業ノ秘密ニ屬シ、理事者ニ於テモ取調ベ困難ナリシ由、然ラバ委員會ニ於テハ如何ト云フニ、斯クテハ止ヲ得ザルガ故ニ委員各自ニ於テ推算シタリト信ズルナリ。唯余ノ考トシテハ、十燭燈ノ料金ノ減額、五燭燈ノ制限ト相殺セバ、市民ノ負擔ハ左迄增加スルコトナカルベシ。更ニ從量燈ノ超過使用電力量三「キロワット」ヲ二「キロワット」ト爲シタル理由ハ、大體ニ於テ從量燈ノ電力ヲ成ルベク值下シタシトノ委員中多數ノ希望アリシガ爲ナルモ、而モ充分ナル値下ヲ爲スニ至ラザリシハ遺憾ナリ。之ヲ

要スルニ多量ニ電燈ヲ使用スルモノハ利益ヲ得、然ラズシテ從量燈ノ料金ヲ納入シツヽアリシ人々ハ、利少シト云フニ歸着スルナリ。更ニ具體的ニ云ヘバ、從來從量燈ハ「ランプ」ヲ點ケ續ケテ而モ無料ナリシニ、今後ハ最低料金拾八錢ヲ徴收スルコトヽナレリ。次ニ動力料ニ就テハ各地ノ狀況ヲ調査シタルモ、東京市ノ夫レハ比較的高率ナルヲ以テ引下ゲニ苦心セリ、假リニ之ヲ値下スルトセバ、所謂現在ノ標準料金ハ十「キロワット」以上ガ晝間六圓、夜間拾圓、二十馬力以上ノ定額ガ晝間六圓、夜間拾壹圓、更ニ十「キロワット」以上ノ動力ガ二「キロワット」時ニ就キ四錢五厘ナルヲ以テ、市長ハ夫レ以下ニ引下グルノ底意ナリト判明シタリ。仍テ委員會ハ市長値下ノ精神ヲ忖度シ、五圓五拾錢、九圓五拾錢ノ原案ニ贊成セリ。又「メートル」ノ分ハ、晝間ノ四錢ヲ參錢貳厘、夜間ノ六錢ヲ四錢トシテ、先ヅ最高料金ヲ定メ、市長ハ夫レ以下ニ於テ之ヲ裁量スルコトヽセリ。故ニ右引下ノ場合ハ市長ヨリ引上ノ額ヲ定メテ市參事會ニ諮ルコトヽナセルナルガ、右ハ從量燈一「キロ」平トシテ二「キロ」迄拾四錢、半ガ七錢ナルヲ以テ別段補塡ノ要ナカルベシ。「カーボン」ニ就テハ理事者ニ質サレタシ。

横山勝太郎君　重大ナル本問題ヲ提案スルニ際リ、市長ガ一回モ助役ニ相談セザルハ法律上何等差支ナシト答辯シタルモ、法律論ヲ拔キトシテ、市長ハ何故ニ多額ノ俸給ヲ支給シツヽアル助役ヲ無視セリヤ、若シ信任セザルガ故ニ協議セズトナラバ、免職スルヲ至當トス。信任シツヽ尙ホ協議セズトナラバ、部下ニ對スル不統一ヲ暴露セルモノト謂フ可ク、何レニシテモ市民トシテハ問題也。次ニ電燈ハ協定ニ依ラズシテ、輕減ノ意味ニ於ケル公定料金ヲ公表スル方法ナキヤ如何。余ノ考ニ從ヘバ、聲望アル奥田市長ガ嚴然タル公法人ノ市長タル態度ヲ以テ、公定料金ヲ一定スレバ、他ノ民營會社ハ當然是レニ追隨シ來ルモノト考フ。何ヲ苦シンデ市長自ラ鴉ヲ枉ゲ、民營會社ノ玄關ニ頭ヲ下グルノ要アランヤ。大正三年十月十九日ノ市會ノ決議ハ、決シテ斯ル協定ヲ依賴シタルモノニ非ラズ。故ニ今夕玆ニ議セントスル協定案ガ、當時ノ決議ヲ遵奉スルノ意味ナラバ、幷ハ條件附ニテ決議ヲ變更スル結果トナル、右ハ根本問題ナルヲ以テ明瞭ニ返答ヲ乞フ。更ニ東京市ハ或期間ニ滅亡スルモノニ非ラズシテ、帝國ノ存在スル限リ存續スル自治團體ナリ。然ルニ市長ハ今回ノ提案ニ基キ、今後幾年迄今日ノ如キ狀態ヲ繼續セントスル考ナリヤ。余ハ更ニ進ンデ大方針ヲ樹立シ、斷然之ヲ市營ト爲スカ、然ラズンバ民間ニ拂下グルカ、何レニシテモ百年ノ大計ヲ樹ツルノ要アリト認ム、市長ノ處見如何。次ニ假リニ本案ガ市會ヲ通過スルトシテ、從來七拾貳錢ヲ支拂ヒツヽアルモノガ、五拾五錢ニ値下ゲトナル方面ニハ異議ナキモ、淺草、本所、下谷、其他ニ於テ從來ヨリモ高率トナリ、又ハ無料ニテ供給シツヽアルモノ、或ハ多數ヲ點火シナガラ其一部ヲ休燈ト見做シテ料金ヲ徴セザルモノ等區々アルモ、本案ノ實施ニ依リテ從來以上ノ料金ヲ支拂ハザル可ラザル方面ノ需要者ヨリ見レバ、民法上ノ供給契約ニ依リテ獲得セル既得權ノ侵害トナル、民法學者タル市長ノ見解如何。次ハ第六十二號議案ノ契約締結ニ關スル件ト稱スル第八條ノ二項ニ「建造物ノ改築」「大修繕又ハ再築ヲ爲ストキ」等ノ文字アルガ、改築及再築ハ、法律上同義ナリ、重複ノ嫌ヒナキカ。又第三條ハ權利義務ヲ有スル者ガ、相續、遺贈ニ因リ、包括シテ權利ヲ承繼スルコトハ當然ノコトナルヲ以テ、規定トシテ存置スルノ必要ナキニ非ズヤ。準則第十五條ハ故意又ハ過失ニ依リ損害ヲ及ボシタル場合ノ規定ナルモ、同條第一項ノ規定ハ不用ニシテ、第二項ハ不當ナリ、「前項ノ規定ハ使用者以外ノ者ノ行爲ニ因リタル場合ト雖仍之ヲ適用ス」トアルモ、市電ノ供給ヲ受ケツヽアル余ガ、余以外ノ他人ニ依リ其工作物ニ不法ノ損害ヲ加ヘラレタル際、其損害ノ賠償ヲ余ニ於テ負ハザル可ラザルノ理何處ニ在リヤ。斯ノ如キハ他人ニ依ル不法行爲ノ責任ヲ負ハザル可ラザル結果トナリ、法律ノ原則ヲ破

壞スルモノナリ。更ニ東京市ノ公益事業ニ關係スル資本家、財閥諸君ノ態度ハ、從來甚ダシク不誠意ヲ極ム、其不誠實ナル東電、及ビ日電ト、本案ノ如キ協定ヲ爲スニ當リテハ、約束履行ノ確乎タル精神ヲ認ムルニ足ルベキ言質、擔保又ハ誠意ノ明確ナル材料ヲ得ルノ必要アリト信ズ、市長ニ果シテ其用意アリヤ否ヤ。次ニ供給契約ト準則トヲ見テ不安ヲ感ズルノ點アリ、即チ從來東電ノ供給ヲ受ケツヽアル者ガ、知ラズ識ラズノ間ニ日電ニ變更セラルヽノ惧ナキカ、而モ之ヲ禁ジ、之ヲ防グノ條文ハ、何レノ點ニモ見當ラズ、此ノ點如何。當局ハ今日迄毎年幾拾萬圓ノ損害ヲ掛ケ、其上市民ノ公德ヲ害スルガ如キ激烈ナル競爭ヲナシ、著シク市ノ財政ヲ危殆ニ陷ラシムルガ如キ不都合アリシニ拘ラズ、一人ノ責ヲ負フ者ナキハ遺憾ナリ、市長ノ處見如何。最後ニ今回ノ契約締結ニ關スル件ト稱スルモノ及ビ準則中ニハ、甚ダシク難解ニシテ、立案者タル市長ニモ、技師ニモ不明ナル點アルガ如シ、斯ル難解ノ條文ヲ周知セシムル方法如何。

奥田市長　第一、助役ニ謀ラザリシハ先刻答辯シタル如ク、決シテ不信任ノ意味ニアラズ。第二、本協定ニ依ラズシテ公定料金ヲ定ムルノ方法ナシト信ズ。第三、百年ノ大計ヲ樹ツルノ方法ハナシト考フ。第四、料金ノ高低ハ常ニ免ルヽ能ハザル所、故ニ既得ノ權利侵害トハ言ハラズ。第五、改築、再築ハ、總テヲ網羅スル爲ニ使用シタル文字也。第六、包括承繼ニ關スル規定ハ不用ナリトノコトナルモ、名義變更ノ申出ヲ爲サバ、直チニ其電燈ヲ使用シ得ルコトヲ定メタルモノニシテ、却ツテ大ニ必要ナリト信ズ。第七、第十五條ノ故意又ハ過失云々ノ箇條中「使用者以外ノ者ノ行爲ニ依リタル場合」ニ關シ不都合ナリトノ說ナルモ、電氣工作物ノ毀損ハ、需要名義人自身ガ損壞亡失スル場合少ク、子供、家族、召使等ノ粗忽ニ由ル場合多キヲ以テ、本條ハ必要ナリト信ズルモノナリ。第八、相手方ノ東電及日電ニハ誠意アリト信ズ。第九、使用者ノ知ラザル間ニ供給者ノ變更スルコトナキハ、夫々ノ條文ニ之ヲ規定セリ。第十、責任論ニ就テハ、市ニ於テハ市長之ヲ負フ。第十一、條文頗ル難解ナリトノ說アルモ、條文ハ概ネ此類ナルヲ以テ、一般ニ周知セシムル場合ハ、營業案內ノ如キモノトナシ、假名ヲ附シテ徹底ヲ期セントス。

横山君　新ニ住宅ヲ移轉シタル場合、前住者ガ電燈料金ヲ支拂ハザリシノ故ヲ以テ、新住者ノ需要ニ應ゼザルガ如キコトナキヤ。

奥田市長　斯ル場合ニハ、改メテ新住人ト新契約ヲ爲スガ故ニ迷惑ヲ蒙ルコトナカルベシ。

黒須君　電氣供給者ハ、需要者ノ申込ミタル燈數ト燈火ノ種類トヲ制限スルコトナキヤ。萬一制限スルコトアリトセバ、其標準如何、東京市ハ電燈ノ電力ヲ鬼怒電ヨリ供給セラルベキ豫定ノ下ニ收支豫算ヲ立テタルモノナリヤ。電燈ノ布線料及電燈料金ノ支拂ヲ家主ノ負擔トスルノ可否如何。電氣事業法第七條ニハ、「巡視ノ爲必要アルトキハ、他人ノ土地又ハ建築物ニ立入ルコトヲ得、但日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニアラザレバ占有者ノ意思ニ反シテ其邸宅又ハ建設物ニ立入ルコトヲ得ズ」トアルモ、是レ以外ニ徽章ヲ附クルト云フガ如キコトヲ條文ニ挿入スル考ナキカ、市民ノ權利保護上、何等カノ規定ヲ必要トセズヤ。

奥田市長　申込燈數及種類ノ制限ハ、使用ノ場所及商業上ヨリ見テ甚ダシク不當ノ申込ヲ爲シタル場合ハ、實際必要ナル他ノ需要者ノ不便ナキ樣制限スル考ナリ。次ニ電力ハ他日ハ知ラズ現在ニ於テハ、鬼怒電ヨリ受電スル建前トナリ居レリ。料金ノ家主負擔ハ、實際問題トシテ頗ル困難ナリ。最後ニ邸內立入問題モ、營業案內等ニ明記スル考ナリ。

笠原文太郎君　第一、市長ハ市電ノ電氣供給事業ガ不況ヲ來シタル主因ヲ、激甚ナル競爭ノ結果ト認メツヽアル

ガ如キモ、夫レ以外ノ助因、又ハ主因以外ノ原因アリトハ認メザルカ、若シ之レアリトセバ、是レガ救濟方法如何。第二、營業制度ノ改革ニ對スル所見如何。第三、營業費ノ上ニ於テ節約シ得ベキ程度如何、若シ節約シ得ルトセバ、之ヲ實行スルノ意思アリヤ否ヤ。

奥田市長　第一、電氣事業ニ於テ年々不足ヲ生ズル外、料金ノ不統一トナリツヽアル原因ハ、激甚ナル競爭ノ結果ニシテ、他ニ原因アリトハ認メズ。第二、經營制度ノ改正ニ就テハ多少ノ變革ヲ加フル考ナルモ、之ニ依ツテ經費ヲ節約スルコトハ困難ナリ。第三、營業費ニ就テハ、電力費ト電球費トヲ除キテ、一燈當リ七錢九厘貳毛ナルモ、右ハ他ノ會社ニ比スレバ、頗ル低廉ナリ、而モ之ヲ節約スルノ結果ハ、却ツテ事業發展ノ障害トナルノ虞レアルニ依リ、此程度ニ止ムルコトヲ至當ナリト信ズ。

笠原君　唯今ノ一燈當リ七錢九厘貳毛ハ、實點燈數ニ割當テタルモノナリヤ。

奥田市長　然リ。

中野議長　午後十二時ニ垂ントスルヲ以テ質問ノ終了セルヲ幸ヒ、本日ハ此程度ニテ散會シ、明日ヨリ討論ニ移リテハ如何。

滿場異議ナク之ニ決シ、午後十一時五十八分散會セリ。斯クテ引續キ、七月十日開會、劈頭左ノ報告アリ。

庶發第九一〇號

大正六年七月十日

東京市會議長中野武營殿

答辯書

七月九日ノ市會ニ於ケル市會議員黒須龍太郎君ノ質問ニ對スル答辯書別紙送付候也

東京市長法學博士　奥田義人

（別紙）

一　最近ニ於ケル東京電燈株式會社及日本電燈株式會社ノ燭光別電燈箇數及電動力馬力數竝「キロワット」數ニ關シテハ大正六年上半期ノ報告書ニ記載公表セルモノニ付別紙ノ通リ取附箇數ヲ掲ク尚詳細ノ事項ハ目下照會中ニ付其回答アリ次第答辯ス

東京電燈株式會社

一電燈箇數

區域	白熱燈 定額	白熱燈 從量	白熱燈 計	弧光燈 定額	弧光燈 從量	弧光燈 計
	燈	燈	燈	燈	燈	燈
麹町區	三一、一三四	五三、一五六	八四、二九〇	八八	四四	一三二
神田區	八四、三八〇	二一、三四八	一〇五、七二八	一六	二〇	三六
日本橋區	九一、二五四	三〇、九〇三	一二二、一五七	一四	一八	三二
京橋區	八五、六七三	四三、六〇一	一二九、二七四	二〇	三九	五九
芝區	八七、九二一	四二、四五八	一三〇、三七九	二八	九	三七
麻布區	三三、四五〇	二二、七七二	五六、二二二	七	九	一五
赤坂區	一七、九九九	二一、七七三	三九、七七二	二三	八	三一
四谷區	一四、九七三	一二、一〇二	二七、〇七五	〇	六	六
牛込區	四六、八八四	二八、一三七	七五、〇二一	一	七	八
小石川區	六〇、〇〇〇	三二、七一四	九二、七一四	三	六	九
本郷區	七一、四九一	二一、七一八	九三、二〇九	四	七	一一

下谷區	七五、八四六	一二、六八七	八八、五三三	四	四	八
淺草區	一二一、〇九六	一九、八三七	一四〇、九三三	六	六四	七〇
本所區	九七、三九〇	一〇、九〇一	一〇八、二九一	一三	九	二二
深川區	六六、一七〇	四、六五七	七〇、八二七	八	一〇	一八
市内計	九八五、六六一	三七八、七六四	一、三六四、四二五	二三四	二六〇	四九四
品川町	一二、六八八	四、四四七	一七、一三五	三	〇	三
大井町	三、七〇五	一、九六五	五、六七〇	〇	〇	〇
大崎町	二、一〇一	二、五七八	四、六七九	〇	〇	〇
千駄ケ谷町	五、八九七	六、二六六	一二、一六三	〇	〇	〇
澁谷町	九五八	六一九	一、五七七	〇	〇	〇
代々幡町	九四二	二、二一〇	三、一五二	〇	〇	〇
郡部計	二六、二九一	一八、〇八五	四四、三七六	三	〇	三
合計	一、〇一一、九五二	三九六、八四九	一、四〇八、八〇一	二三七	二六〇	四九七

二 電動力馬力數及「キロワット」數

區域	電動機 臺數 定額	臺數 從量	臺數 計	馬力數 定額	馬力數 從量	馬力數 計	電力裝置「キロワット」數 定額	「キロワット」數 從量	「キロワット」數 計
	臺	臺	臺	馬力	馬力	馬力	キロワット	キロワット	キロワット
麴町區	三七	一六八	二〇五	一六〇・〇〇	四三四・六二	五九四・六二	〇	一四九、八〇〇	一四九、八〇〇
神田區	二六一	三五五	六一六	三八七・六二	七〇六・三八	一、〇九四・〇〇	五、〇〇〇	四一、二七〇	四六、二七〇
日本橋區	一一九	三〇二	四二一	一七二・〇〇	六二四・六四	七九六・六四	〇	三五六、六七五	三五六、六七五
京橋區	二七五	四五五	七三〇	七五一・〇〇	二、三三五・八七	三、〇八六・八七	一一、八〇〇	四三一、五八二	四四三、三八二
芝區	二三三	五二九	七六二	四五四・四〇	三、三八二・四四	三、八三六・八四	一、〇〇〇	七二、七五〇	七三、七五〇
麻布區	九三	一二八	二二一	一三一・五〇	二一三・一三	三三四・六三	〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇
赤坂區	三五	五八	九三	四一・〇〇	七七・五〇	一一八・五〇	〇	八、〇三〇	八、〇三〇
四谷區	三八	九五	一三三	四三・〇〇	一五五・三八	一九八・三八	〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
牛込區	六五	一七六	二四一	六六・〇〇	二六〇・〇〇	三二六・〇〇	〇	三、六〇〇	三、六〇〇
小石川區	一〇〇	二九一	三九一	一九〇・五〇	七四四・七五	九三五・二五	一、〇〇〇	一三九、二〇〇	一四〇、二〇〇
本郷區	九一	一九三	二八四	一三五・〇〇	四〇八・六七	五四三・六七	〇	九二、六〇〇	九二、六〇〇
下谷區	一九一	二二五	四一六	二九八・五〇	三八九・〇〇	六八七・五〇	二、〇〇〇	八、五〇〇	一〇、五〇〇
淺草區	二三二	二九一	五二三	三三三・五〇	四四五・三八	七七八・八八	一五〇	一二三、三八〇	一二三、五三〇
本所區	六三五	五七〇	一、二〇五	一、六一九・九〇	二、三〇六・七五	三、九二六・六五	一、八〇七、五〇〇	二〇八、八〇〇	二、〇一六、三〇〇
深川區	二二二	三四三	五六五	五九二・〇〇	四、九一七・〇〇	五、五〇九・〇〇	〇	二九、二〇〇	二九、二〇〇
市内計	二、六二七	四、一七九	六、八〇六	五、三六五・九二	一七、四〇一・五〇	二二、七六七・四二	一、八二八、四五〇	一、六九二、三八七	三、五二〇、八三七
品川町	三五	五六	九一	六〇・五〇	三〇七・五〇	三六八・〇〇	〇	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇
大井町	三	二七	三〇	一一・〇〇	三五四・〇〇	三六五・〇〇	〇	三四、五〇〇	三四、五〇〇
大崎町	一三	二一	三四	一九・〇〇	一九四・〇〇	二一三・〇〇	〇	五〇六、〇〇〇	五〇六、〇〇〇
千駄ケ谷町	一一	一九	三〇	一三・〇〇	二五・五〇	三八・五〇	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
澁谷町	〇	六	六	〇	七・〇〇	七・〇〇	〇	〇	〇
代々幡町	一	四	五	一・〇〇	八・〇〇	九・〇〇	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
郡部計	六二	一三四	一九六	一〇四・五〇	八九六・〇〇	一、〇〇〇・五〇	〇	五六一、五〇〇	五六一、五〇〇
合計	二、六八九	四、三一三	七、〇〇二	五、四七〇・四二	一八、二九七・五〇	二三、七六七・九二	一、八二八、四五〇	二、二五三、八八七	四、〇八二、三三七

日本電燈株式會社

一　取附電燈箇數及「キロワット」數　（大正六年五月三十一日現在）

種別			合計	供給區域								
				事業者用	京橋區	深川區	本所區	本郷區	神田區	捷草區	下谷區
熱	白熱燈	五十燭光（六十二ワット）	従定額	三	四三	三六一	三六〇	四七	一六六	三三五	三三三
			従量額	三	四〇〇	三六一	三六	二三	一六六	三三五	二七〇
		三十二燭光（四十ワット）	従定額	三	二六	一四九	一〇〇	三一	一四一	五九	五一
			従量額	三	二六	一四九	一〇〇	八	一四一	五九	五一
		二十四燭光（三十ワット）	従定額	四	四	一四三	一四〇	七	一五	六四	六四
			従量額	四	四	一四三	一四〇	七	一五	六四	六四
		二十燭光（二十五ワット）	従定額	一四	一八	七四	六〇	二四	四	一六	一六
			従量額	〇	四九	一〇八	一一四	三四	五	二〇	一九
		十六燭光（二十ワット）	従定額	五六	八	五三	四八	一二	二六	一三	一三
			従量額	一	四八	一〇五	一一六	三四	五	二〇	一九
		十燭光（十二ワット半）	従定額	五	一八六	九三三	四五	一四	二	一	一
			従量額	三	四〇	九〇一	四四	一三	二	一	一
		百燭光（百二十五ワット）	従定額	一一	一六	八四	三	一	一	一	一
			従量額	九	一	四	一	一	一	一	一
		二百燭光（二百五十ワット）	従定額	一	一	一	一	一	一	一	一
			従量額	一	一	一	一	一	一	一	一
		千燭光（エナ五百トワット）	従定額	一							
		二千燭光（イチトワットエナ）	従定額	一							
			従量額	一							
		合計	従定額	一三三	一六	一三	一三	一四	一三	一三	一三
			従量額	一三三	一六	一三	一三	一四	一三	一三	一三
		計		一三三	一六	一三	一三	一四	一三	一三	一三
電燈		八十燭光（百ワット）	従定額	一三		一					一
			従量額	五		一					一
光弧時常		千六百燭光（二百ワット）	従定額	一							
			従量額	一							
		三千二百燭光（八百ワット）	従定額	一							
			従量額	一							

大正年間　鉄六拿　大正六年　鉄筋所　三電協定問題

一一　最近ニ於ケル電燈球取換數調

區域	電燈						電動機					
	臺數						計數		馬力			
	定額		從來						定額		從來	
	晝間用	晝夜間用	晝間用	晝夜間用	晝間用	晝夜間用	晝間用	晝夜間用	晝間用	晝夜間用	晝間用	晝夜間用
神田區	四一	六	一五	二	八		二五	一二	四五	一〇	二〇	一二
橋區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
日本橋區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
京橋區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
下谷區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
淺草區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
本所區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
深川區	一三	一	一五	二	一		一五	一	五	一	一三	一
合計	九三	一〇	一五	一三	一四	六	一六四	一四	五四	一〇	一六	一二

一二　電動力馬力數

總數	數個燈									
	合計									
個數	計	從來最多額	從來最少額	定額最多額	定額最少額	從來最多額	從來最少額	定額最多額	定額最少額	
計	一四三〇	四八三五	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
從來最多額	四八三五	四八三五	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
從來最少額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
定額最多額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
定額最少額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
從來最多額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
從來最少額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
定額最多額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
定額最少額	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四

果シテ然ラバ「カーボン」ヲ「タングステン」トシテ利益スル東電ニ對シテハ、必ズヤ市民輿論ノ聲トナリテ現ルベク分ノ一ノ電力ニテ足ルヲ以テ、多大ノ利益ヲ享受スル勘定ナリ。故ニ余ハ質問ノ際、當局者ハ燈火ヲ賣ルカ、電流ヲ賣ルカト問ヒタルモ答辯ナカリシガ、余ハ飽迄燈火ヲ賣ルニ非ズシテ、電流ヲ賣ルモノナリト信ゼントス。

渡邊藤遠君　余ノ意見ハ、本案ハ不合理ニシテ且ツ市民ニ不利益ナリト認ムルニ因リ、之ヲ否決スベシト云フニ在リ。而シテ其理由ハ、先ヅ賛成者ノ意見ヲ聽クニ、本案ニ據レバ公平均等ナル料金ガ制定セラルヽ、結果、市民ハ一樣ニ利益ヲ享受スベシト云フニ在ルモ、右ハ賛成ノ一部ノ理由トナルコトアリトスルモ、本案ヲ維持スル理由トハナラズ、即チ單ニ公平均等ナル料金ヲ制定セントナラバ、本案ニ依ラズ、區域ノ協定ニ依ラズシテ、確實ニ三事業者ガ勵行スル方法ニ依ルモ敢テ不可アルコトナシ。故ニ本案ハ宜シク之ヲ否決スベキナリ。今東電ノ事情ヲ見ルニ、同社ハ現ニ「カーボン」制度ヲ採レルモ、本案通過ノ後ハ「タングステン」電球ニ改ムルノ事實アリ。「タングステン」電球ヲ使用スル結果ハ、從來三十五「ワット」ノ電流ヲ使用シタル十燭燈ハ十四「ワット」即チ約二

中野議長　ヨリ、本日ノ會議ハ前日ノ繼續ナルコト、從ツテ日程第一乃至第五ヲ一括シテ議題ニ供シ、直チニ討論ニ入ラント欲ス、而シテ定刻九時ニ至レバ、時間ヲ延長シテ差支ナキヤ否ヤヲ滿場ニ諮リ、異議ナク決定シテ討論ニ入ル。

タルニ依ルモノニシテ他事業者ニ於テモ亦同樣ナルモノト推定セルカ故ナリ

日本電燈株式會社ニ於テ特定ノ需用家ニ就キ調査シタル結果五燭光電球使用數ノ比較的多數ナルノ事實アリタルコトヲ承知シ

大正五年度ニ於ケル「タングステン」電球ノ斷線又ハ暗色ニ因ル電球ノ引換數ハ四十三萬四千百八十八箇ニシテ同年度ニ於ケル

定額電燈ノ延箇數ハ二百四十三萬三千七百七十二燈此一燈當一箇月引換割合ハ一割七分八厘トナリ一箇年ヲ通シテ二箇二三六

トナルノ計算ナリ而シテ燭光別ノ使用割合ニ就テハ統計ナシ室內五燭光電燈ノ電球使用數カ比較的多數ナリト說明セシハ當テ

ク、從ツテ市民ノ代表者トシテハ、報償契約ノ如キモノヲ規定中ニ設ケザル限リ、輕々ニ之ヲ看過スルコト能ハザルナリ。更ニ東電ノ利益ナリト感ゼラルヽモノニ區域ノ協定アリ、市長ノ說明ニ依レバ、區域協定ハ市ノ發議ニ係ルトコロナルガ如キモ、市ハ何故ニ人口及戸數ノ增加較著ニシテ、電燈事業ノ將來ニ對シ、絕對ニ有望ナリトスル郡部ヲ東電ニ割讓セルカ。斯クノ如キハ百年ノ大計ヲ無視セル暴擧ニシテ、余ノ頗ル遺憾トスル所ナリ。道途傳フル所ニ據レバ、東電ハ郡部ヲ獲得シタル點ニ關シ、多大ノ滿足ヲ表シツヽアリト云フニ非ズヤ。次ニ不可解ニ堪ヘザルハ、何故ニ動力ノ十「キロワット」超過ヲ自由競爭ニ一任シタルカ。電氣事業ノ將來ヲ考慮スレバ、電燈ヨリモ寧ロ電力ノ需要ニ重點ヲ置クノ要アルコト言ヲ俟タズ。然ルニ其有望ナル電力協定ニ當リ、十「キロワット」以上ヲ自由競爭ニ委シ、以テ市電ノ利益ヲ無視シテ、東電ノ利益ヲ圖ラントスルハ遺憾ナリ。又區域ノ協定ハ、市長ニ於テモ好マシカラザリシ由承知シタルモ、此點ハ全然余ノ主張ト共通セリ。然ルニ遂ニ之ガ協定ヲ見ルニ至ルベシトセバ、今後各種ノ弊害ヲ生ズベク、其弊害ヲ矯正センガ爲メニ、所謂監査委員ト交涉委員トヲ設置スル由ナルモ、監査委員ガ事實事業者其者ナル以上、獨占橫暴ノ弊害ヲ矯正スルコト能ハザルヤ明ケシ。果シテ然ラバ、區域協定ノ結果如何ナル利益アリヤト云フニ、余ハ全然害アリテ利ナシト斷ゼザルヲ得ズ。成ル程一面ヨリ見レバ區域ヲ協定スル結果ハ、夫々持チ場ノ決定ヲ見ルコトヽナルガ故ニ、經營費ノ節約可能ナルガ如クナルモ、事實ハ之ニ反スルコト、宛モ大正六年ニ要シタル經營費參拾七萬圓ガ、同十一年度ニ至リテ五拾壹萬圓トナリタル實例ニ見テ明瞭ナリ。斯クノ如ク區域協定ノ結果トシテ、壹厘壹毛ノ節約ヲモ不可能ナリトセバ、現在市電ガ經營シツヽアル受電所、開閉所、變電所ノ如キモノニテモ、活用スルノ方法アリヤト云フニ、是レ又頗ル心細キモノナリト信ゼザルヲ得ザルナリ。現ニ小沼開閉所ノ如キハ、專門家タル益田技師ノ說明ニ據

レバ、地中特別高壓電纜ハ四條二千五百「キロワット」ヅヽ、合計一萬「キロワット」ニシテ、是レ以上利用スル餘力ナシト聞及ベルモ、委員會終了後、余自ラ安住、糸川兩君ト共ニ視察調査シタル所ニ據レバ、一萬「キロ」以上ノ餘力ナシトノ說ハ事實ニ非ズシテ、現ニ澁谷ニ送電シツヽアル五千「キロ」ヲ始メ、確ニ一萬「キロ」以上受電量ノ餘裕アルコトヲ認メタリ。然ルニ續イテ開カレタル委員會ニ於テ、益田技師ハ高壓線一本ニテ三千五百「キロ」以下ヲ受電スルヲ相當トスト述ベタルガ、果シテ然ラバ、現在四本ノ高壓線ハ、確ニ一萬四千「キロ」ヲ受電シツヽアル筈ナラズヤ。而シテ現在ノ設備ハ如何ト云フニ、尙ホ小石川、澁谷ニ各一千「キロ」ノ機械ヲ增設スルコト容易ナルヲ以テ、現在東京市變電所ノ設備ハ一萬三千「キロ」ニシテ、更ニ右一千「キロ」ノ機械二箇ヲ增設スレバ、優ニ一萬五千「キロ」以上ノ受電ヲ可能ナリトスベシ。故ニ區域ノ協定ヲ爲サズシテ僅カナル資金ヲ投ズレバ、一萬四千「キロ」ノ需要ニ應ズルコト易々タルノミ。然ルニ區域ヲ協定スル結果ハ、一般的ニ平均ニ電力ヲ販賣スル能ハザルノミナラズ、其普通供給區域中ノ五區ニ對ッテ電力ヲ集注セザルヲ得ザルコトヽナリ、剩ヘ之ガ設計建設ニ對シ、不廉ナル四百五拾八萬圓ヲ要スルノ由ナルモ、以上ノ金額ハ實ニ其半額ニ相當ス。僅カニ二千「キロ」見當ノ設備ヲナスニモ、公債ヲ募集セザル可ラザルガ如キ不利ヲ市民ニ强ヒントスルハ、是レ皆區域協定ノ惡影響ト斷ゼザル能ハズ。斯クノ如ク區域ノ協定ナルモノハ、第一ニ自然橫暴ノ弊害ヲ助長シ、第二ニ收支計算ニ於テ自然人員ヲ增加スルコトヽナリ、第三ニ幾百萬圓ノ借金ヲ負擔スル結果ヲ生ズ。是等ノ點ヨリ見テ、奥田市長ガ百方陳辯スル所ヲ基礎トシテ論ズルモ、區域ノ協定ニハ斷乎トシテ反對セザルヲ得ザルナリ。次ハ料金制度ノ不公平、不合理ノ點ナルガ、電燈會社ハ前述ノ如ク電燈ヲ賣ルニアラズシテ電力ヲ賣ルモノナリヽ、從ツテ十燭乃至二十燭云々ノ如キハ問題ノ末ニシテ、其根

本ハ電力ヲ賣ル開閉所、變電所等ノ設備ト、電球其モノニ幾許ノ電力ヲ要スルカニ在ルベキナリ。故ニ料金ヲ定ムルニハ所要電力ヲ斟酌シテ決スベキニ拘ラズ、本案ニハ何レノ點ニ於テモ、之ヲ發見スル能ハザルナリ。即チ市參事會ニ提案シタルモノニ就キ觀察スルニ、五燭モ十燭モ拾九錢七厘四毛ニシテ、減損補塡モ亦五燭モ十燭モ五錢參厘九毛ナリ。更ニ具體的ニ云ヘバ、九「ワット」ヲ要スルモノモ、十四「ワット」ヲ要スルモノモ、乃至二十燭モ五十燭モ同一ノ計算トナレルガ、多クノ電氣ヲ使用スルモノモ、少量ノ夫レヲ使用スルモノモ、資本金額ヲ平均シテ徴收セントスルコトハ、大ニ考慮セザル可ラザル所ナリ。余ハ此見地ヨリシテ、高燭力ノ料金ハ之ヲ高クシ、十燭以下ノ需要者ニ對シテハ、値下ヲナスコトヲ以テ至當ナリト信ズ。次ニ反對セントスル點ハ、收支計算ノ不確實ナル事ナリトス、即チ今回ノ電燈增加ノ割合ハ、普通供給區域內ニ於テ實點燈數四十六萬一千燈ヲ基礎トシテ割出サレタル結果、大正十一年ノ五年後ニハ實點燈數ハ十六萬六千七百箇增加スル勘定トナル。余ハ嘗テ委員會ニ於テ、現在市電ノ實點燈數ハ、三十九萬燈ナルニ拘ラズ、四十六萬一千燈ト計算スレバ、七萬燈ノ相違アリ、然ルニ之ヲ根據トシテ計算スルハ何事ゾト質問シタルニ、當局者ハ將來ノ實點燈數ヨリ二割ヲ控除シツアルヲ以テ確實ナリト答辯サレタルモ、余ハ之ヲ信ゼズ。何故ナレバ該計算ハ既ニ根本ニ於テ七萬燈ノ相違アルノミナラズ、普通供給區域內ノ十二萬五千燈、特別供給區域內ノ二十六萬六千五百燈ハ、云フ迄モナク前者ノ少キハ勿論ナリトスルモ、特別區域ニ於テハ、其區域內ニ人口戶數ノ增加スル以外、電燈ノ增加ヲ來スベキ理由ナシ。而モ尙ホ之ヲ同一率ト見タル計算ニ對シテ、確實ナリトハ如何ニシテモ承服スル能ハザルナリ。最後ニ本案成立ノ結果、市電ノ缺損貳參拾萬圓ノ整理セラルコトヲ云爲スルモノアルモ、余ノ見ル所ヲ以テセバ、右ハ東電、日電等ノ少數者ヲ利スルニ止マリ、二百萬市民ハ却ツテ重キ負擔ヲナスノ不利ナル地位ニ陷ルベシ。以上ノ觀察ハ或ハ余ノ錯誤ナルヤモ知ラザレドモ、市長トシテハ何故ニ此點ヲ明瞭ナラシムルノ方法ヲ講ゼザリシヤ、即チ今少シ市民ニ對シ、協定ノ有利ナル理由ヲ徹底セシムルノ手段ヲ講ゼサリシヤ。余ハ以上ノ主張ニ立脚シテ一般市民ニ徹底セシムベク改案センコトヲ望ミ、本案ノ否決ヲ主張スルモノナリ。

川久保源治君　本案ハ之ヲ是認シテ事業ノ經營整理ヲ圖ルコトガ、市ノ爲ニ有害ナルカ、又ハ本案ヲ根柢ヨリ破壞シ、以テ亂離ノ狀態ヲ演出セシムルコトガ、市ノ爲ニ有利トナルカ、以上二樣ノ見解ノ何レヲ執ルベキカハ即チ本問題ヲ論議スル二大要點ナリト信ズルモノナリ。而シテ余ハ大體ニ於テ本案ニ贊成セント欲ス。抑〻本案ハ、我二百萬市民ノ希望ト要求トニ依リテ提出サレタルモノニシテ、市民ノ輿論ヲ代表スル當市會ガ電燈事業ノ經營ニ對シ、亂雜不整理ナルヲ憂フルノ餘リ、大正三年十月十九日ノ建議ニ基キ提案シタルヲ直接ノ動機トナス。即チ今回ノ市長提案ノ要點骨子ヲ市會ノ決議ト對照研究スルニ、本市電燈料金ガ紊亂不整理ヲ極メ、甚ダシキニ至リテハ料金全ク區々ニシテ二三十種ノ多キニ及ビ、其結果市財政ヲ危殆ニ導キ、現ニ電燈事業經營以來年々平均貳拾七八萬圓ノ缺損ヲ生ジ、今日迄ニ約百六拾有餘萬圓ノ損害ヲ重ネツヽアルハ、是レ即チ市民ノ損失ナルヲ以テ、本案ニ依ツテ事業ヲ整理シ、財政上ノ缺陷ヲ救濟シ、併セテ市民ノ利益ヲ圖ラントスルモノナリ。又甲區ハ參拾錢、乙區ハ七拾貳錢ト云フガ如キ不條理ノ料金ヲ矯正シ、以テ市民ノ公德心ヲ維持シ、從來確立セザル本事業ノ經營方針ヲ確立セシメ、無謀ノ競爭ヲ避クベシトノ市會ノ決議ハ、本案ノ提出ニ依リテ實現セラルベク、玆ニ名實共ニ如上ノ弊害ヲ矯正スベキ所謂適當ノ方法ヲ講ゼントスルモノナリ。故ニ本案其モノガ果シテ前述ノ決議ニ於ケル市財政ノ基礎ヲ危クセズシテ、具體的ノ實行方法ヲ定ムルモノナリヤ否ヤガ、當議場ノ肝要ナル問題ナリトス。去レバ反對ノ意思ヲ有スル諸君モ、末節ニ拘泥セズ、大所高所ヨリ達觀シテ充分ナル考慮ヲ拂ハレ

ンコトヲ望ム。而シテ本員ハ、原案ヲ以テ本會決議ノ精神ヲ達成スル適當ナル方法ナリト確信スルモノナリ。想フニ電氣事業ヲ處理スルニハ大體四ツノ方法アリ、即チ其一ハ市營、其二ハ民營、其三ハ競爭、其四ハ協定ナリトス。而カモ熟ミ思フニ、營利會社ヲ買收シテ市營トナスハ、現時ノ情勢ニ於テ容易ノ業ニ非ラズ、反對ニ拂下ゲテ民營トスルコトモ、惡戰苦鬪シテ競爭ヲ繼續スルコトモ、何レモ公法人タル東京市ノ立場トシテ責任アル者ノ濫リニ斷行スベキコトニアラズ。故ニ現勢ヨリ推論シテ結局他ノ事業者ト協約ヲ締結シテ、一面市民ノ便益ヲ計リ、他面事業ヲ平和ノ間ニ遂行スルノ擧措ニ出デザルベカラズ、今此見地ニ立ツテ本案ヲ檢討スルニ、市ハ他ノ二事業者ト電燈電力ニ關スル料金ヲ協定スルト同時ニ、新需要者ノ申込ヲ受クルノ區域ヲ劃定セントスルモノナルガ、料金ニ就テハ、現在一燈一箇月高キハ七拾貳錢ヨリ六拾錢、五拾錢、四拾錢、參拾錢ト云フガ如キ區々別々ノ差別料金ニシテ、其不統一不條理言語ニ絕スル狀態ナルモ、其原因何レニ在リヤト云ハバ、是レ明カニ各事業者競爭ノ弊ニ外ナラザルヲ以テ、其弊害ヲ根絕シテ、市會決議ノ所謂公平均等ナル料金ト爲サントセバ、各業者間ノ競爭ヲ中止スルヨリ外ナク、競爭ヲ中止センニハ協約ヲ結ブノ要アルコト勿論ナリトス。而シテ假リニ料金ヲ協定スルモ、將來續々申込ミ來ルベキ需要者ニ對シ、甲乙事業者ガ各ミ其顧客ヲ獲得センガ爲メ、進ンデ其供給ヲ爲サントスルニ至ルベシ、是レ料金協定ヲ要スル所以ニシテ、此兩者ハ恰モ鳥ノ兩翼ノ如ク、車ノ兩輪ノ如キ密接不離ノ關係ナリトス。只茲ニ憂慮スベキハ、區域協定ノ結果、獨占橫暴ノ謗リヲ受クルノ惧ナキニアラザルモ、獨占ノ弊ヲ除カンガ爲メニハ、吾々議員共同努力ノ下ニ、市自ラ他ノ模範トナリテ、民營業者ヲ誘掖指導スルノ要アルハ勿論、特ニ綿密ニ制定シタル條文ノアルアレバ、當局者ヲ信賴シテ、之ガ運用ヲ委スレバ則チ足ラン。因ツテ余ハ當局者ガ熱誠ヲ以テ、一般使用者ノ便宜ヲ計ルコトニ努力センコトヲ望ンデ止マザルモノナリ。次ギニ料金ニ就テハ、原案ノ標準ヨリ見ルモ、市會ノ決議ニ接近スベク努メラレタルノ跡歷然タルモノアルヲ以テ、余ハ其誠意ト努力トニ對シテ敬意ヲ表セントスルモノナリ。而シテ十燭燈ニ對シテハ、建議中ニハ五拾錢トアルニ拘ラズ、今回ハ五拾五錢トアルモ、幷ハ當時ト今日トハ社會經濟狀勢ニ變化アリテ、市財政ヲ鞏固ナラシムル必要上、蓋シ已ムヲ得ザルモノナルベシト認ム。又五燭光ノ取附場所制限モ同一ノ理由ニ依リ止ムヲ得ズト考フ。況ンヤ各大都市ノ八燭光單位制實施ノ今日ニ於テ、時勢ノ進運ニ伴ヒ、東京市ガ十燭光本位トナサントスルハ、決シテ不當ナリト云フベカラズ。之ヲ要スルニ余ハ此場合理事者ニ對シ、第一、區域協定ニ依ル獨占的弊害ニ墮セザルヤウ、市自ラ模範ヲ示サンコトヲ望ミ、第二、高燭光即チ十燭光以上ノ增進ヲ計リ、五燭光取附ケ場所ノ制限ヲ緩和シ、又ハ撤廢センコトヲ期待シ、第三、事業經濟ノ安固ヲ圖リ、苟モ餘裕ヲ生ズルコトアラバ、更ニ一般料金ヲ引下ゲ、一層市民個人ノ便宜ヲ增進センコトヲ希望スル次第ナリ。本員ハ以上ノ三箇條ノ希望ヲ附シテ原案ニ贊成ス。終リニ臨ンデ後刻本會ニ現ルベキ委員會少數意見ハ、本員ノ論據ヲ根柢ヨリ破壞セントスルモノナルガ如キモ、本員ハ以上ノ趣旨ニ依リ、委員ノ修正意見ニハ絕對反對ナルコトヲ此機會ニ於テ明言スルモノナリ。

茲ニ於テ少時休憩、再會ノ後中野議長ヨリ、若林君外五名ハ、十名ノ贊成者ヲ得テ、修正建議ヲ書面ヲ以テ議長ニ提出サレタル旨ヲ報告シテ、笠原君ヲ麾ク、

笠原文太郎君　本案ハ二百萬市民ノ直接生活ニ關係アリテ、吾々ノ子々孫々ニ至ル迄、其利害ヲ痛感スル大問題ナルガ故ニ、余ハ本案ニ反對セントスルモノナリ。而シテ余ハ本論ニ入ル前ニ、發案者タル市長ガ如何ナル動機、

信念、理由ニ依リテ此電燈責任案ヲ提出シタリヤヲ疑ハザルヲ得ズ。市長ハ本案提出前ニ參考案トシテ、甲、乙丙ノ三案ヲ提出シタルモ、其後責任案トシテ甲案則チ協定案ヲ提出シタリ。而モ市長ハ本案ヲ以テ最善ノ案ナリト云フノミニテ、五年後、十年後ヲ如何ニセントスルカ、契約期間中如何ニ立至ルカ、實施後ノ變化ニ對處スル方策如何、市營統一乃至民營統一ノ前提ナリヤ否ヤ等ニ對シテ質問スルモ、答辯常ニ要領ヲ得ズシテ、不動ノ信念ナキニ似タリ。余ヲ以テ之ヲ見レバ、將來ニ於テハ結局市營ニ統一スルカ、民間ニ拂下グルノ外ナカルベシト信ズルモ、市長ガ飽迄確乎タル動機原因、信念、理想ヲ明示セザルハ、當ニ市民ニ對シテ不親切ナルノミナラズ、斯ル無定見ナルモノヲ責任案トシテ提出セルハ、早計ニ失シ、到底安ンジテ審議スル能ハザルナリ。次ギニ本案ハ永キ期間ニ亘リ、心血ヲ濺ギテ作製シタリト云フモ、其形式内容ヨリ見テ贊成スルコト能ハズ。市長ノ說明ニ從ヘバ、現在ニ於ケル電氣供給事業ノ不成績ナルハ競爭激甚ノ結果ニシテ、市會モ亦之ヲ認メ、必然公平均一ノ料金ヲ定メザルベカラズトノ建議ノ趣旨ニ基キテ提案シタリト云フモ、事實果シテ然リヤ否ヤ、今少シク電氣局ノ來歷ニ就キ略述スレバ、明治四十四年以來、吾市會ガ如何ナル行動ヲ執リ、如何ナル意思ヲ表明シタルヤヲ調査スルニ、電氣供給事業ニ關シテ市會ノ意思ヲ表明シタルハ、既ニ七回ノ多キニ及ベリ。

トテ明治四十四年三月二十日ノ市會ニ於ケル決議ヲ始メ、前後七回ニ涉ル市會決議ノ内容及ビ經過ヲ述ベタル後、市政檢查委員ノ報告ニ入リ、

阪谷市長ハ其決議及報告書ニ依ル東電獨占ノ橫暴ヲ矯ムル能ハズ、料金輕減ノ實ヲ擧グル能ハズシテ終ニ辭職シ、奥田市長ハ其決議ヲ尊重スベキ役目ヲ以テ就任シタリ。而モ第五回市政檢查委員報告ノ末尾ニアル「左レバ電氣事業ノ經營ノ狀態ヲ今日ニ陷ラシメ本市ノ經濟ヲ攪亂シ、市民ノ責任ヲ害ヒタル責任ニ就テハ宜シク共歸屬スル所ヲ明カニシテ數字以外ノ廓清整理ヲ爲スヲ最モ急務ナリト信ズ」ト云ヘル明文ヲ、奥田市長ハ勿論忘却セザルナランガ、只單ニ文字ノ一部ヲ取リ、公平均一ナラシムベシトノ決議アルガ故ニ、本協定案ヲ提出シタリト云ニ止マリ、前後七回ニ亙ル市會ノ決議ヲ無視シテ、而モ尙ホ市會ノ意思ヲ表現シタリト爲スハ不當ナラズヤ。當局ハ本案提出ノ前ニ、先ヅ東京市ノ伏魔殿ト稱セラレ、又東京鐵道會社ノ支店ノ觀アリト稱セラレツヽアル電氣局ヲ改革スルノ責任アル筈ナリ。繰返シテ云フ迄モナク、三十萬「サーキユラミル」ノ電線ヲ一萬二千六百尺、一尺貳圓六拾錢ノ割合ニテ東鐵ニ賣却シ、其後直チニ一尺四圓ニテ買戻シ、東京市ニ對シテ勘カラザル損害ヲ與ヘタリ、或ハ又大正五年十二月末現在財產調ニ依レバ、煽風器千六十三臺ノ中、交流九百三十七臺、直流百二十七臺ト記載シタルニ拘ラズ、大正六年ノ豫算會議ノ際ニハ七百臺以上存在セズト說明シタルガ、今之ヲ一臺拾五圓トシテ、約壹萬參千圓ノ損害ヲ與ヘナガラ、恬然トシテ省ミズ、更ニ市會議員ガ嚴密ニ調查スルトキハ、立ドコロニ貳參拾萬圓ノ怪シキ數字ヲ發見スルニ難カラザル伏魔殿ノ改革ヲ等閑視スル市長ノ責任ヤ、重大ナリト謂フ可シ。殊ニ第八回市政檢查委員ノ報告ニ據レバ、電氣局ノ經營方針ハ、徒ニ人ノ爲ニ職ヲ設ケ、漫リニ無用ノ機關ヲ備ヘテ、事務ノ澁滯ヲ來スノミナラズ、徒ニ無益ノ經費ヲ投ジツヽアリ。是レ斷乎トシテ反對セザル可ラザル理由ノ一ナリ。次ニ本協定案ガ、果シテ東京市ニ有利ナリヤ否ヤ、一例ヲ云ヘバ、現ニ市電ハ千參百萬圓ノ資本ヲ投ジ、以テ如何ナル能率ヲ擧ゲツヽアリヤト云フニ、其送電力ハ三萬七千「キロ」ニシテ、優ニ二百萬燈ヲ供給スルノ實力ヲ有シツヽアルニ、實點燈數ハ僅カニ三十九萬五百八十四燈ニ過ギザルヲ以テ、差引百六十萬九千四百十六燈ノ餘剩能率ハ、捨テ、之ヲ顧ミザルナリ。此一事ヲ以テ東京市ガ被ル

損害ノ如何ニ大ナリヤヲ想像スルニ難カラザルベシ。更ニ市民ニ對シテ如何ナル影響ヲ與フルヤヲ檢討センニ、本協定案ガ五燭ヲ制限シテ十燭ニ移ラシムル爲メニ、新ニ市民ノ負擔トナルベキ損害ハ、參拾九萬九千百貳拾圓ノ多額ニ達シ、其外內線使用料、廢止手數料、休燈手數料等ノ市民負擔ヲ三電ニ合計スレバ、百四拾五萬參千八百五拾五圓ニ上ルヲ以テ、總計約貳百萬圓、一戶當リ約參圓ノ負擔ヲ增加シ、東京市及市民ノ損害ハ、結局七百萬圓ノ巨額ニ達ス。次ギニ斯クノ如キ不利ナル本案ニ贊成スル財閥出身ノ議員ニ告グ、市制第十八條ニハ市ニ對シテ請負ヲ爲ス者ハ被選擧權ヲ有セズトアリ、故ニ東電及日電等ニ關係アル市會議員ハ、自己ノ名譽ノ爲ニ、少クトモ本案贊否ノ數ニ加ハラズ、議決權ヲ廻避スベキ也。最後ニ市長ニ一言セン、市長ハ僅々貳拾餘萬圓ノ市電ノ缺損ヲ補塡センガ爲メニ、東京市及市民ニ對シ、斯クノ如キ多大ノ損害ヲ加ヘントスル本案ヲ撤回シ、先ヅ市電ノ改革ニ依リテ經費ヲ捻出シ、尙ホ不足セバ、電車益金ヲ繰入ルヽカ、又ハ市稅ニ依リテ之ヲ補フノ擧ニ出ヅベシ。以上ノ理由ヲ以テ、余ハ絕對ニ本案ニ反對ス。

此時秋山朗君ハ、討論モ最早盡キタリト信ズルヲ以テ、緊急動議ヲ提出セントスト發言スルヤ、贊否ノ聲囂々トシテ議場騷擾ヲ極メ、黑須君發言ノ許可ヲ得ズシテ起立發言スルヤ、「議事規則違反ナリ」ト叫ブ者アリ、議長ト黑須君トノ間ニ問答中、進行ト叫ビ、採決ト呼ブ者アリテ、議場頗ル喧騷シ、騷然、雜然タルコト曩時、漸ク指名點呼ニ依リテ、討論終結ノ緊急動議ヲ採決シタル結果、總數六十五票中、贊成四十二、反對二十三ニテ討論ヲ終結スルニ決シ、議長ハ直チニ本協定案ノ贊否ヲ諮ラントスルヤ、其方法ニ就キ議場再ビ囂々タリ。結局渡君ノ廢案說ハ歸スル所反對說ナルヲ以テ、反對者ハ渡君ニ贊成、不贊成者ハ渡君ニ反對トシテ指名點呼ヲ行ヒタル結果、總數六十八票ノ中、贊成二十二、反對四十六ニテ廢棄說破レ、原案ノ通過ヲ見タリ。更ニ第六十二號、第六十三號兩案ノ少數意見ヲ一括シテ採決ノ結果、總數六十二票中、贊成十八、反對四十四ノ多數ニテ否決トナリ、次デ休憩後再開ノ際、議長ヨリ報告アリタル左記修正建議ヲ朗讀セシメタリ。

修正建議

第六十二號議案中附錄準則第三十九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

「但門燈軒燈ニ付テハ此限リニアラス」

右提出候也

大正六年七月十日

提出者

若林成昭　吉川等　松崎英太郎

堀田生次郎　笠原文太郎　新井與四郎

贊成者

青木榮次郎　外十三名

東京市會議長中野武營殿

本案ニ就テ、議長ハ直チニ採決ニ入ラントシタルニ、若林君ニ發言ヲ許シタリ、許サズトノ議論ノ爲メ議場又モ騷然タリシガ、點呼ノ結果、總數五十九票中、贊成十九、反對四十ニテ本案ハ否決トナリ、最後ニ委員長ノ報告ヲ指名點呼ニ依リテ採決シタル結果、左ノ如キ贊否ノ數ヲ以テ委員長報告通可決確定、午後十時五十分散會シタリ。

贊成者（四十四名）

羽田如雲　藤原俊雄
糸川正鐵　宮崎三之助
白石源右衛門　鈴木彌吉
大橋新太郎　大澤朝吉
早川庄太郎　大澤傳兵衛
豊川良平　伊東靖
笠原小十郎　淺川保平
西川嘉門　細野順
野並慶定　小坂梅吉
川久保源治　鳩山一郎
秋山朗　飯塚仁兵衛
松崎權四郎　根岸治右衛門
所澤貞太郎　小泉策太郎
太田信治郎　星野錫
津村重舍　大内重兵衛
反對者（十六名）
安住佐太郎　長谷川吉次
坪谷善四郎　黒須龍太郎
大村五左衛門　楳川忠兵衛

笠原文太郎　横山勝太郎
松山傳十郎　木村正孝
渡邊龜造　長清助
辻井喜太郎　松崎英太郎
若林成昭　青木榮次郎
新井與四郎
吉川等　堀田生次郎

第拾壹節　奥田市長逝去

八月二十三日、市長奥田義人君薨去ニ付特ニ會議ヲ開キ、左記二件ヲ審議決定シタリ。

庶發第一〇五一號

報告

東京市長法學博士男爵奥田義人本月二十一日薨去致候此段報告候也

大正六年八月二十二日

東京市長代理東京市助役　高橋要治郎

東京市會議長中野武營殿

庶發第一〇五三號

東京市長法學博士男爵奥田義人薨去ニ付哀悼ノ意ヲ表スル爲メ至急開議相成度此段請求候也

大正六年八月二十二日

東京市長代理東京市助役　高橋要治郎

東京市會議長中野武營殿

劈頭**助役高橋要治郎君**、特ニ市會ノ開會ヲ請求シテ、奥田市長ノ薨去ヲ報告シ、且哀悼ノ意ヲ表セン爲メ、審議ヲ請フニ至リタルハ恂ニ痛恨ノ至リニ堪ヘズ、奥田市長ハ去七月二十四日ヨリ病床ニ就カレ、一時快方ニ向ハレタルモ、病俄ニ革リテ一昨二十一日午後六時過ギ、不幸ニモ自邸ニ於テ薨去サレタリ、就テハ本市ニ於テ相當ナル方法ヲ以テ哀悼ノ意ヲ表スルコトヲ適當ト認メ、茲ニ審議ヲ請フニ至リシナリト述ベ。**角田眞平君**ハ、日程第一ノ議事ニ入ルニ當リ、感慨ノ情ニ堪ヘズ、故市長ハ法律ニ、經濟ニ、學事ニ其何レニモ精通シ、且ツ人ヲ造ルニモ、人ヲ用フルニモ、頗ル堪能ナル人物ニシテ　畏レ多クモ　皇室ノ制度調査ニモ參與セラレタル光榮アル經歷ヲ有ス、然ルニ今ヲ去ルコト二年數箇月前、東京市民及市會議員ノ希望ヲ容レテ、市長ニ就任セラレタルモ、當時健康甚ダ勝レズ、病身ヲ以テ多岐多端ナル東京市政ニ蒞ムコトハ、到底余ノ能クスル處ニアラズト明言セラレ、固辭シテ容易ニ受ケザリシモ、極力懇請ノ結果、遂ニ就任ヲ承諾セラレタルガ、今ニシテ之ヲ思ヘバ、自身以外ニ自己ノ體質ト病苦トヲ知ルモノナカリシナリ。而モ自ラ之ヲ知リツヽ市長ニ就任セラレタルハ、恐ラクハ職ニ倒ルヽ迄モ、忠實ニ市政ノ爲ニ執拳セントスルノ心事ヲ以テシタルニハ非ラザルカ、思フテ茲ニ至レバ、市長ノ犧牲的努力ハ愈ゝ其貴サヲ增スモノアリ、市ヲ、市長ハ就任後、誠實事ニ當リ、恪勤能ク勉メ、說明ニ長ジ、實務ニ精通シ、當代寔ニ得易カラザル人物ナリキ、而モ最後ニ重大懸案ヲ解決シ、今後更ニ大ニ爲スアラントスルノ秋、溘焉トシテ薨去セラル、哀悼何ゾ堪ヘン。茲ニ於テ余ハ弔辭ヲ贈呈セン爲メ、全會一致七名ノ起草委員ヲ擧ゲ、愼重審議、追悼文ヲ決議センコトヲ望ム。尙ホ日程第二ヲ見ルニ、東京市葬ノ禮ヲ以テシ、若干ノ費用ヲ參事會ニ委ネテ支出セントスルガ如シ、因ツテ右決議文ハ、公葬ニ關スル追悼文ト爲サンガ爲メ、先ツ議長ヨリ七名ノ委員ヲ指名シ、第二ノ日程ハ之ヲ即決シテ休憩ヲナシ、然ル後追悼文ヲ審議センコトヲ望ム、トノ動議ヲ提出シタルニ、滿場異議ナク是レニ決シ、議長ハ直チニ左記七名ヲ起草委員ニ指名シタリ。

坪谷善四郎　横山勝太郎　辰澤延次郎　角田眞平　矢野玆吉　長谷川吉次　川久保源治

斯クテ角田君ノ動議ニ依リ、引續キ左記日程第二ヲ上程シタリ。

第八十號

市葬執行ノ件

市長法學博士男爵奥田義人薨去ニ付市費ヲ以テ其葬儀ヲ執行スルモノトシ之ガ費用ノ支途ハ市參事會ノ議決ニ依ルモノトス

豐川良平君　先ヅ發言ヲ求メテ曰ク、常ニ番外一番席ニ、端然タル容姿ヲ現ハシツヽアリシ奥田市長ガ、今ヤ卒如トシテ其椅子ニ在ラザルヲ見テ、感頗ル深ク、云フベキ言葉スラナシ。顧レバ二年數ケ月前、銓衡委員ガ奥田氏ニ對シ市長就任懇請當時、角田君ト余トハ、詮衡委員以外ノ一員トシテ就任勸說ノ衝ニ當リタルガ、當時市長ハ蒲柳ノ質ニ加ヘ、市政ノ容易ナラザルモノアルヲ知リテ、頗ル躊躇踏躇シタリシモ、前ノ市長辭職以來約半歲ニ亘リテ缺員ノ儘トナリ、而モ年末ニハ御大典ヲ差控フルノ時、枉ゲテ應諾センコトヲ請ヒ、遂ニ其承諾ヲ得タリ。果セル哉、市長ハ御大典ニ際リテ其重責ヲ全ウシ、更ニ市政ノ重要案件ニ對シテハ誠實懇切ヲ以テ事ニ當リ、終ニ病ノ爲ニ斃ルヽニ至リシ事、既ニ角田君ノ述ブル所ニ因リテ明カナリ。故ニ何卒厚ク市長ニ敬弔ノ意ヲ表シ、滿場一致本案ニ贊成アランコト

ヲ望ムト述ベ、滿場一致之ヲ可決スルヤ、**豐川君**再ビ起立シテ、葬儀委員長ニハ議長其任ニ當リ、議員全部ヲ葬儀委員トシ、部署ハ委員長ニ一任セラレンコトヲ望ムト提議シ、中野議長之ヲ滿場ニ諮リテ承認ヲ得タル後、哀悼文起草ノ爲メ暫時休憩ヲ宣ス、時ニ午前十時五十七分、同十一時五十七分再開、**角田眞平君**ヨリ、哀悼文起草委員ハ本員ヲ首席ニ推シ、鄭重審議ノ末、左ノ哀悼文ヲ議決シタリトテ之ヲ朗讀シタルニ、滿場異議ナク之ヲ可決セリ。

維時大正六年八月二十一日東京市長從二位勳一等法學博士男爵奥田義人閣下溘焉トシテ薨去セラル洵ニ痛哭哀悼ノ至ニ堪ヘス

閣下ハ明治十八年以來幾多ノ顯官ニ歷任シ文部大臣司法大臣トシテ力ヲ育英事業ニ盡シ衆議院及貴族院議員法律取調委員會長帝室制度審議會委員等ニ擧ゲラレ皇國ノ事ニ盡瘁セラレタル功績枚擧ニ遑アラズ大正四年六月推サレテ東京市長ニ就職セラルヽヤ夙夜恪勤熱誠以テ市政ノ振興ヲ圖リ鋭意以テ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ各般ノ施設亦將ニ成ラントスルニ方リ終ニ病ヲ得テ起タス嗚呼哀哉

其功勞ノ顯著ナル其職ニ忠ニシテ市民ノ休戚ヲ思フノ切ナル永ク欽慕措ク能ハザル所ナリ玆ニ我東京市ノ公葬ヲ營ムニ臨ミ特ニ市會ノ議ヲ經謹テ弔詞ヲ呈ス

大正六年八月二十六日

東京市長代理東京市助役　高橋要治郎

第拾貳節　風水害復舊費議定ノ件

十月五日ノ會議ノ劈頭ニ於テ、理事者ヨリ左ノ報告アリタリ。

助役高橋要治郎君　去九月三十日拂曉ヨリ、十月一日ニ亘ル風水害ハ、空前ノ慘害ニシテ、罹災者ニ對シテハ誠ニ同情ニ堪ヘズ、而シテ被害ハ全市ニ亘リ、倒壞家屋及死亡者頗ル多ク、慘狀言語ニ絶セリ。因ッテ市、區役所ヲ通ジテ二十三箇所ニ救護所ヲ設ケ、本日迄ニ約十五萬人ヲ救護シ、尚ホ軍隊警官ノ助力ヲ仰キ、現ニ應急ノ措置ニ出デツヽアルモ、被害頗ル甚シキ爲メ今尚正確ナル報告ヲ爲ス能ハズ。殊ニ直接市費負擔トナルベキ營造物其他ノ被害モ、亦目下調査中ニ屬シ、其程度ヲ明ニスル能ハザルモ、恐ラクハ數拾萬圓ヲ要スルニ至ルベシ。即チ道路橋梁ノ損壞、公園及街路樹ノ折損、小學校ノ破損等枚擧ニ遑ナク、電車モ亦車庫ノ倒壞、「モーター」ノ浸水等ニテ運轉不能トナリ、市ノ被害鮮少ニアラズ。右ハ目下折角取調中ニ屬スルヲ以テ、今後逐次報告ノ機會アランモ、小破損小損害ノ一事一物ニ就テハ、一々市會ノ協賛ヲ仰グハ、頗ル煩瑣ナルヲ以テ、實收超過見込ノ範圍内、準備金ノ範圍内ニ於テ爲シ得ル復舊工事、應急施設ハ、參事會限リ決裁スルノ承認ヲ得バ、右等ノ工事ハ取調完了次第、其都度實施スルノ便アルニ因リ、此點特ニ御承認アランコトヲ請フ。次ギニ同時ニ提案セル物價騰貴ニ基ク豫算不足處理ニ關スル件ハ、消耗品、印刷費、藥餌賄費等ノ費用ニシテ、豫算ノ許ス範圍内ニ於テ流用シ、或ハ豫備費支出ニ依リテ補足セントス。尚ホ京橋區役所ノ如キ、床上ニ浸水シテ、戸籍簿、徵稅簿、其他多數ノ書類水ニ浸サレテ事務ニ支障ヲ生ジツヽアリ、是亦風水害ニ直接關係ヲ有スルモノニシテ、是等ニ要スル費用モ亦參事會ニ一任サレンコトヲ希望シテ已マズ。

▽軍隊警官ニ謝意ヲ表スル建議　次イデ宮崎三之助君外十八名ヨリ左記ノ建議提出アリ、滿場一致可決セリ。

一　軍隊及警察官吏ニ對シ感謝ノ意ヲ表スルノ建議

右提出候也

大正六年十月五日

提出者

宮崎三之助　岩松兼經　矢野鉉吉
糸川正鐵　秋山朗　大内重兵衛
鈴木彌吉　淺川保平　大澤朝吉
羽田如雲　新井與四郎　伊東靖
早川庄太郎　大貫傳兵衛　伊藤定七
笠原文太郎　秋　虎太郎　作間耕逸
松山傳十郎

東京市會議長中野武營殿

議長ハ日程變更ヲ議場ニ諮リテ承認ヲ得タル後、**宮崎三之助君**ヨリ左ノ如ク提案ノ理由說明アリ、滿場一致可決シタリ。

今回ノ災害ニ就テハ、第一師團司令部及各警察官ニ於テハ、誠ニ大ナル盡力ヲ傾到セラレタリ、若シ其盡力ナカランカ、ヨリ以上ノ損害ヲ被リタルヤモ未ダ知ルベカラズ。就テハ明治四十三年ノ前例ニ做ヒ、市トシテ厚ク感謝ノ意ヲ表スルノ義務アリト信ジ、玆ニ決議ヲ以テ謝意ヲ表セントス。

▽罹災復舊經費豫算其他ニ關スル件　引續キ左記議案ヲ上程、異議ナク原案通可決シタリ。

第九十三號

罹災復舊經費豫算議定ノ件

災害ニ依リ生ジタル損害ノ應急施設及復舊經費ノ追加豫算ハ其歳入ヲ當該年度ノ實收超過又ハ當該準備金ノ處分繰入ニ需メ市參事會ノ議定ニ依ルコトヲ得ルモノトス

夫ヨリ宮崎君ノ發議ニ依リ、日程ヲ變更シテ左記議案ヲ上程、是亦異議ナク可決セリ。

一、市參事會ニ委任事項追加ノ件

右提出候也

大正六年十月五日

提出者

宮崎三之助　岩松兼經　矢野鉉吉
糸川正鐵　秋山朗　大内重兵衛
鈴木彌吉　淺川保平　大澤朝吉
羽田如雲　新井與四郎　伊東靖
早川庄太郎　大貫傳兵衛　伊藤定七
笠原文太郎　秋　虎太郎　作間耕逸
松山傳十郎

東京市會議長中野武營殿

市參事會委任事項追加ノ件

本會ノ權限中左記事項ノ議定ハ之ヲ市參事會ニ委任ス

一、今回ノ罹災民ニ對シ生活必需品供給ノ方法ニ關シ之ニ要スル經費處辨ニ關スル事項

宮崎三之助君、提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、右ハ各派協議會ニテ纏マリタル議案ナルガ、本案ノ趣意ハ一般罹災民ヲ救恤スルノ意味ニアラズシテ、狹キ範圍ニ於テ救恤ヲ受クルヲ得ズ、而モ急速ヲ要スル向ニ對シ、米、味噌等ヲ供給スルノ必要アルヲ以テ相當ノ實費ヲ徵シテ之ガ便宜ヲ圖ランガ爲メ、市參事會ニ一任セントスルモノナリト。續イテ左記議案ヲ上程シタルニ、是レ亦滿場異議ナク原案通可決セリ。

第九十一號

物價騰貴ニ基ク豫算不足處理ニ關スル件

物價騰貴ニ依リ各經濟大正六年度豫算各款需用費（消耗品、印刷、藥餌賄ノ類）ニ不足ヲ告クル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經テ款內豫算ノ流用ヲ爲シ及豫備費ノ支出ニ依リ之ガ補足ヲ爲スモノトス

說明　本春來諸物價ノ騰貴甚タシク既定豫算ヲ以テシテハ到底年度內處辨覺束ナキモノアルニ依リ之ガ救濟法トシテ本案ヲ提出ス

第拾參節　奠都五十年記念事業調查委員設置ノ件

十月十五日ノ會議ニ於テ、細野順君外十四名ヨリ提出アリタル左記建議案ヲ上程シタリ。

一　奠都五十年記念事業ニ關スル調查委員設置ノ建議

右提出候也

大正六年十月十五日

提出者

細野順　羽田如雲　安住佐太郎

坪谷善四郎　白石源右衞門　早川庄太郎

伊東靖　村松恒一郎　木村正孝

岩松兼經　秋虎太郎　西川嘉門

作間耕逸　堀田生次郎　大內重兵衞

東京市會議長中野武營殿

奠都五十年記念事業ニ關スル調查委員設置ノ建議

回顧スレバ明治維新ノ際、德川幕府政權ヲ奉還シ、全國ノ諸侯ハ皆ナ藩邸ヲ撤去スルニ及ビ、江戶ノ繁華ハ一變シテ將ニ荒野ニ歸セントセルトキ、明治元年　先帝東行アラセラレ、江戶ヲ東京ト改メ、帝都ヲ此地ニ奠メ給ヒショリ忽チ舊時ニ優ル繁榮ヲ回復シ、爾來正ニ五十年ヲ經テ、今ハ人口二百有餘萬、世界有數ノ大都市タルニ至レリ。而シテ是レ實ニ先帝奠都ノ賜ナリ。故ニ方今鞏穀ノ下ニ住シ日夜優渥ナル聖恩ニ浴スル本市民ハ此ノ恩澤ヲ長ヘニ記念スヘク、恰モ本年ハ奠都以降五十年ナルヲ機會トシ、永久ニ普ク全市民ニ幸福ヲ與フベキ事業ヲ興シ、以テ上ハ　天壤無窮ノ皇室ノ隆運ヲ奉祝シ、下ハ駸々乎トシテ發達スル本市ノ繁榮ヲ助長セシメンガ爲メ、本市會ニ十五名ノ委員ヲ置キ、愼重ニ其事業ヲ調查センコトヲ望ム。

坪谷善四郎君　提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、慶應三年十月十七日、德川將軍政權ヲ奉還シテ以來、大小諸侯ハ悉ク藩

邸ヲ撤去シ、土一升金一升ノ繁榮ヲ極メタル江戸ハ、一轉シテ昔日ノ武藏野ト化セントシタル時、明治元年七月十七日天下ヲ一統スル爲メニハ、都ヲ東京ニ遷シ、普ク號令ヲ關東々北ニ及ボスベシトノ詔勅煥發セラレ、尋デ九月二十日京都御發輦、十月十三日、先帝陛下始メテ東京ニ御着輦、時ノ江戸城ニ入ラセラレ、翌十月十四日及十五日ニ亙リ、親シク文武百官ニ酒饌ヲ賜ヒ、宮中ニ外國使臣ヲ謁見遊バサレ、更ニ一方奉幣使ヲ府下大宮ノ氷川神社始メ、重ナル神社ニ御派遣遊バサレ、又態々勅使ヲ高輪泉岳寺ナル義士ノ墓ニ御遣シトナリ、忠勇義烈ヲ表彰セシメ給ヒ、將ニ荒廢セントセル江戸ノ地ハ、玆ニ此奠都ニ依リテ草木再生ノ觀ヲ呈スルニ至レリ。加之、當時ノ形勢ハ、京都以西、關西ノ諸侯ハ等シク朝廷ヲ戴キテ勤王ヲ唱ヘツヽアリシモ、關東々北ハ未ダ王化ニ浴セズ、將軍アルヲ知ッテ天皇アルヲ知ラズ、一方國論ハ勤王、佐幕ノ二派ニ岐レ、北海道函館ニ於テハ、幕府ハ海軍ニ依リテ尚ホ其再興ヲ謀リツヽアル等、天下ノ形勢容易ニ逆睹スベカラザルノ秋、大英斷ヲ以テ東京奠都ヲ御實行遊バサレ、爾來玆ニ五十年ヲ迎ヘントス。而モ其間、日清、日露ノ兩役ヲ經テ、日本ハ今ヤ世界一等國ノ伍班ニ列スルニ至レリ。其原因ハ東京奠都ニ負フ所亦尠カラズ。因ッテ此機會ニ於テ永ク市民ニ恩澤ヲ被ラシムベキ記念事業ヲ起シ、以テ先帝ノ御懿德ヲ偲ビ奉ラントス、冀クハ議長指名十五名ノ調査委員ヲ指名シ、充分調査セシメラレンコトヲ望ムト述ベ、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決シ、議長ハ左記十五名ヲ調査委員ニ指名シタリ。

羽田如雲　安住佐太郎　坪谷善四郎　白石源右衞門　早川庄太郎
伊東靖　村松恒一郎　木村正孝　岩松兼經　秋虎太郎
西川嘉門　細野順　作間耕逸　堀田生次郎　大內重兵衞

委員ハ細野順君ヲ委員長ニ推シ、愼重調査ノ結果トシテ、大正七年二月七日ノ會議ニ於テ、理事者ヨリ左記議案ノ提出ヲ見ルニ至レリ。

第二十一號

奠都五十年記念事業積立金設定ノ件

奠都五十年記念事業ノ資源ニ備フル爲メ奠都五十年記念事業積立金ヲ設定シ豫算所定ノ金額ヲ蓄積スルモノトス

本案ハ糸川正鐵君ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ左記ノ如ク選定セリ。

安住佐太郎　白石源右衞門　鈴木彌吉　早川庄太郎　伊東靖
笠原文太郎　西川嘉門　中島行麿　吉川等　細野順　尾後貫朝吾郎　川久保源治
太田信治郎　堀田生次郎　津村重舍

委員ハ細野順君ヲ委員長ニ、伊東靖、尾後貫朝吾郎、川久保源治ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決シタル旨報告、本會議ハ委員會ノ報告通可決セリ。

第拾四節　電燈電力架空線變更ニ關スル意見書

一、電燈電力ノ架空線ヲ地下線ニ變更スルノ意見書

右提出候也

大正六年十月十五日

提出者　秋山朗　糸川正鐵　長谷川吉次

宮崎三之助　早川庄太郎　伊藤定七
作間耕逸　松山傳十郎　淺川保平

東京市會議長中野武營殿

電燈電力ノ架空線ヲ地下線ニ變更スルノ意見書

電燈電力ノ送電ニ用スル架空線ハ地下線ニ比シ建設ノ法簡易ニシテ費用又少額ナレト風水火災其他ノ災害ノ爲メ斷線又ハ脫被等ヲ生シ人畜ニ危害ヲ蒙ラスコトハ既ニ實例頻々トシテ存シ、殊ニ人家稠密ニシテ交通頻繁ナル本市ニ於テハ其ノ危險ノ受負率最モ大ニシテ今回ノ風水災ノ經驗ハ遺憾ナガラ此實例ヲ齎シタリ況ンヤ架空線ハ平素ニ於テモ市街ノ美觀ヲ傷クルモノ大ナルニ於テヲヤ

依ツテ此際特別ノ御詮議ヲ以テ本市內ニ於テハ電燈電力ノ架空線ハ至急之ヲ地下線ニ改ムヘク關係事業者ヲシテ實行セシメラレンコトニ御配慮アランコトヲ熱望ス

右市制第四十六條ニ依リ意見書及提出候也

年　月　日

內務
遞信　兩大臣宛

議長

右大正六年十月十五日ノ會議ニ上程シタルモ、作間耕逸君ノ動議ニテ延期ニ決シ、十二月二十二日ノ會議ニ於テ、作間君ヨリ議長指名七名ノ委員ニ調査ヲ付託サレムコトヲ望ムトノ動議提出アリテ、滿場異議ナク是レニ決シ、議長ハ即日委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

糸川正鐵　大村五左衛門　鈴木彌吉　鎌田芳太郎　長清助
秋山朗　新井與四郎

委員ハ秋山朗君ヲ委員長ニ推シ、愼重審議ノ末、大正七年二月七日ノ會議ニ本建議ヲ可決スルコトニ議決シタル旨報告アリテ、委員會ノ報告通可決セリ。

第拾五節　區會議員定數條例設定ノ件

十月十五日ノ會議ニ於テ、左記議案ヲ原案通可決セリ。

第九十八號

區會議員定數條例設定ノ件

區會議員定數條例左ノ通設定スルモノトス

區會議員定數條例

區會議員定數左ノ通定ム

日本橋區	三十九人
京橋區	四十二人
本郷區	三十九人
淺草區	四十五人

本條例ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ適用ス

大正年間　第六章　大正六年　第拾五節　區會議員定數條例設定ノ件

說明　日本橋區外三區ノ區會議員定數ハ最近法定人口（大正二年十二月末日現在内閣統計局調査報告）ニ依レハ今期ノ定期改選ニ各區共ニ現在定數ヨリ、三人ヲ減スヘキコト、爲レリ然レトモ各區ノ繁榮發達ハ其就學兒童納稅選擧有權者等逐年ノ增加ニ徵スルモ其顯著ナルヲ證スルニ足ルヘク共區ニ屬スル事業事務等益ニ繁多ト爲ルヘキヲ以テ現在定員ヲ維持スルヲ相當ト認メ區會ノ意見ヲ徵シ本案ヲ提出ス

第拾六節　東京瓦斯株式會社株金拂込承認ノ件

十月十五日ノ會議ニ上程サレタル左記議案モ亦異議ナク、原案通可決シタリ。

第八十七號

東京瓦斯株式會社株金拂込承認ノ件

東京瓦斯株式會社新株五十六萬株ニ對シ金百四拾萬圓（一株ニツキ貳圓五拾錢）拂込ノ件承認スルモノトス

說明　明治四十四年十一月二十五日本市ト東京瓦斯株式會社トノ間ニ締結シタル契約第十二條ニ基キ會社ガ現ニ有スル貳百拾萬圓ノ負債中一部償還ニ充ツル爲新株拂込ノ件承認方申出アリタルニ依リ本案ヲ提出ス

第拾七節　議員資格審査ニ關スル委員設置ノ件

十月十五日ノ會議ニ於テ、楳川忠兵衞君外十名ヨリ提出ノ左記建議案ヲ上程シタリ。

一、議員資格審査ニ關スル委員設置ノ件

右建議致候也

楳川忠兵衞　角田眞平　黒須龍太郎
笠原文太郎　作間耕逸　三浦良幹
木村正孝　伊藤定七　鎌田芳太郎
横山勝太郎　秋虎太郎　安住佐太郎
尾後貫朝吾郎

議員資格審査ニ關スル委員設置ノ件

我市會議員中、被選擧權ヲ有セサルモノアリト認ム。之レカ調査委員ノ設置ヲ望ム。

横山勝太郎君　提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、我市會議員中、議員ノ資格ヲ喪失シタル者數人ニ及ベリト聞ク。右ハ素ヨリ調査ノ後ニ非ラザレバ判明セザルモ、此神聖ナル議場ニ於テ、斯ル人物ノ存在スルコトハ、啻ニ市會ノ迷惑ナルノミナラズ、本人ノ名譽ノ爲ニ遺憾ナリト謂フ可シ。余ハ德義上ヨリ人名ヲ指摘スルニ忍ビザルモ、公人ノ立場トシテ已ムヲ得ズ、之ヲ指摘スベシ。同志ヨリ聞ク所ニ據レバ、藤原俊雄君、津村重舍君、山瀨俊賢君ノ三名ハ東京市ニ居住セズ、從ツテ市民ニ非ラズ、公民權ヲ有セザルヲ以テ、被選擧權ナキ者ナリトノ說アリ。因ツテ市會ノ名譽ノ爲ニ、五名程度ノ委員ヲ擧ゲテ調査センコトヲ望ムト。次イデ**糸川正鐵君**ハ、委員數ヲ九名トセンコトヲ提議シタルニ、異議ナク之ヲ可決シ、議長ハ即日委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

糸川正鐵　宮崎三之助　早川庄太郎　伊藤定七　淺川保平
横山勝太郎　西川嘉門　秋山朗　長谷川吉次

然ルニ伊藤定七君委員辭任ヲ申出デタルヲ以テ、議長ハ其補缺トシテ木村正孝君ヲ選定セリ。而シテ委員ハ**糸川正鐵**

君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十二月二十二日ノ會議ニ於テ左ノ意見報告アリ、市會ハ滿場異議ナク委員會ノ報告通可決シタリ。

議員資格審査ニ關スル委員意見報告

委員ハ屢集會審査ノ末別紙ノ通議決セリ

右及報告候也

大正六年十二月十九日

議長宛

委員長　委員連名

（別紙）

一、前市會議員山瀬俊賢君ニ對シテハ同君既ニ辭任シタルヲ以テ其資格ヲ審査セス

一、市會議員藤原俊雄君、同津村重舍君ハ共ニ市會議員被選擧權ヲ有スルモノト認ム

理由

一、山瀬俊賢君ハ大正六年十月二十六日辭任屆ヲ提出シ市參事會ハ同十月三十日市制第十條二項ニ抵觸スル所無キモノト認メタリ

一、藤原俊雄君ニ關スル事實

本籍地　麹町區有樂町一丁目五番地

住所寄留地　赤坂區青山南町四丁目二十二番地

納稅地　所得稅營業稅其ノ他ノ租稅ヲ常ニ本籍地又ハ住所寄留地ニ於テ納稅セリ

以上ノ外營テ府下豐多摩郡千駄ヶ谷町字原宿百七十番地ニ住所外居所寄留ヲ爲シタルコトアルモ其間常ニ本籍地ニ於テ所得稅營業稅其他總テノ納稅ヲ爲シ之ヲ以テ生活ノ中心ト爲セル事實ニ依リ同君ノ住所ハ常ニ市內ニ在ルモノト認ム

一、津村重舍君ニ關スル事實

本籍地　日本橋區通四丁目七番地

納稅地　地租、所得稅、營業稅其他ノ租稅ヲ常ニ本籍地ニ於テ納稅セリ

以上ノ外同君ハ府下荏原郡目黑村字上目黑四百九十番地ニ土地家屋ヲ有スルモ之ハ別宅トモ稱スヘキモノニシテ何等戶籍法上ノ屆出ヲ爲サス本籍地ヲ以テ生活ノ中心ト爲セル事實ニ依リ同君ノ住所ハ常ニ市內ニ在ルモノト認ム

以上ノ事實及其他ヲ綜合シ藤原俊雄、津村重舍兩君ハ共ニ市會議員被選擧權ヲ有スルコトニ於テ何等缺クル所ナキモノト認ム

第拾八節　通行稅廢止ニ關スル意見書提出ノ建議

十月十五日ノ會議ニ於テ、羽田如雲君外四十三名ヨリ提出ノ左記建議案ヲ上程シタリ。

一、通行稅廢止ニ關スル意見書提出ノ建議

右提出候也

大正六年九月十八日

提出者

羽田如雲　糸川正鐵
宮崎三之助　大貫傳兵衛
大澤朝吉　早川庄太郎
伊藤定七　村松恒一郎
笠原文太郎　豐川良平
岩松兼經　加藤正義
松山傳十郎　木村正孝
安藤兼吉　辰澤延次郎
長清助　西川嘉門
川久保源治　細野順
秋山朗　作間耕逸
松崎權四郎　尾後貫朝吾郎
所澤貞太郎　小坂梅吉
堀田生次郎　後藤武夫
大內重兵衛　角田眞平
藤原俊雄　松崎英太郎
鈴木彌吉　渡龜造
早川庄太郎　青木榮次郎
豐川良平　笠間平右衛門
木村正孝　新井與四郎
西川嘉門　矢野鉉吉
細野順　辻井喜太郎
作間耕逸　吉川等
尾後貫朝吾郎　星野錫
小坂梅吉　山口憲
後藤武夫　中野武營
角田眞平　若林成昭
松崎英太郎
青木榮次郎
新井與四郎
矢野鉉吉
辻井喜太郎
吉川等
星野錫
山口憲
中野武營
若林成昭

東京市會議長中野武營殿

通行稅廢止ニ關スル意見書

通行稅ハ曩ニ一時的ノ意味ヲ以テ新設セラレタル非常特別稅ノ一ニシテ其稅質及課稅ノ方法ニ於テ將又稅額ノ過重ナル點ニ於テ頗ル公平ヲ失シ到底此儘永續セシムベキモノニアラサルニ拘ラス政府ハ財政ノ都合上茫茫之ヲ繼續シ以テ今日ニ至レリ

聞ク當局ニ於テハ目下專ラ財政及稅制ノ整理ニ努力セラレツヽアリト、冀クハ先ツ叙上通行稅制ヲ撤廢セラレ、一般交通機關ノ發達ト社會公共ノ利權ヲ增進セラレンコトヲ、殊ニ短距離ノ交通機關ニ在テハ勞働者及下層民ガ日々生活ノ資ヲ求ムル等ノ利用其多數ヲ占ムルノ結果短距離ニ課スル通行稅ノ大部分ハ是等ノ者ニ於テ負擔スルコトヽナリ啻ニ苛斂誅求ノ嫌アルノミナラズ之ヲ社會政策上ヨリ見ルモ、一日モ忽ニスヘカラサルモノナルニ付キ斯クトモ短距離ノ通行稅ハ斷然之ヲ廢止セラレ度茲ニ市制第四十二條ニ依リ意見書提出候也

年　月　日

議長

總理大臣
內務大臣
大藏

劈頭笠原文太郎君、余ハ本案提出者トシテ理由ヲ述ブベシ、通行稅ノ惡稅タルハ既ニ輿論ノ認ムル所ナルガ、抑ゝ本稅ノ性質タルヤ負擔ノ均衡ヲ保タズ、下層社會ニ苦痛ヲ與ヘ、產業ノ發達ヲ妨ゲ都市ノ繁榮ヲ阻害スルノ惡稅ナリ。而シテ市民ガ最モ苦痛ヲ感ズル點ハ、直接間接ニ電氣局ノ經濟ニ影響ヲ及ボシ、電車賃銀ノ値上ヲ餘儀ナクセラレ、

電燈料値上モ亦間接的影響ヲ被リ、市民ノ苦痛默止スル能ハザルコト是ナリ。因テ本稅ハ一日モ速ニ廢止セザルベカラズ、市會ハ大正二年中既ニ之ガ意見書ヲ呈シ、實行委員ヲ擧ゲテ運動シタルモ終ニ效ナク、荏苒今日ニ至レリ。併シナガラ本案ハ法律ノ改正ヲ必要トスルモノナルガ故ニ、市民ノ力ヲ以テスルノミニテハ足レリトセズ、內外相呼應シテ之ガ目的貫徹ニ突進スベキナリ。聞ク所ニ據レバ、寺內內閣ハ現ニ本案廢止ヲ計畫シツヽアリトノコトナレバ、市會ハ玆ニ衆議院議員ヲ兼ネタル議員ヲ加ヘテ、十五名ノ實行委員ヲ擧ゲ、大ナル努力ヲ以テ運動ヲ進メンコトヲ望ムト提案ノ趣旨ヲ說明シ。**橫山勝太郎君**ハ、余ハ本案其モノニハ贊成ナルモ、既ニ先年市會ニ於テ同一意味ノ決議ヲナシ、一時運動ヲ中絕シタルモノナルモ、決議ノ精神ニ至リテハ永遠ニ存續セルモノト看做サヾルベカラズ。然ルニ今又玆ニ同一意義ノ決議ヲ爲サントスルハ法律上如何ナルモノナリヤト質シタルニ。**笠原君**答ヘテ曰ク、前市會ノ決議ハ、議員期間滿了ト共ニ解消セルモノト認メ、改メテ玆ニ提案シタル次第ナリト。斯テ採決ノ結果、全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ、議長ハ左ノ如ク委員ヲ選定シタリ。因テ委員ハ總理大臣竝ニ內務、大藏兩大臣ニ意見書ヲ提出スルト共ニ、貴衆兩院ニモ請願書ヲ提出シ、他面ニ市民大會ヲ開キテ反對ノ氣勢ヲ揚グル等、大イニ奔走努力セリ。

坪谷善四郎　大村五左衞門　清　鯊太郎　鈴木彌吉　村松恒一郎
黑須龍太郎　豐川良平　鎌田芳太郎　橫山勝太郎　松山傳十郎
鳩山一郎　渡邊龜造　小泉策太郎　近藤達兒　太田信治郎

第拾九節　京濱電鐵契約締結ニ關スル件

十二月二十二日ノ會議ニ於テ、左記議案ヲ上程シタルニ滿場異議ナク之ヲ可決セリ。

第百二號

契約締結ニ關スル件

本市ハ京濱電氣鐵道株式會社ト品川八ツ山電車線路連絡ニ關シ左記ノ通契約ヲ締結スルモノトス

契　約　書

品川八ツ山ニ於ケル東京市電車線路及京濱電氣鐵道株式會社電車線路ヲ連絡シ乘客ノ利便ヲ計ル爲東京市（以下單ニ市ト稱ス）ト京濱電氣鐵道株式會社（以下單ニ會社ト稱ス）トノ間ニ左ノ條項ヲ契約ス

第一條　市ハ市ノ電車ヲ八ツ山ニ於ケル市ノ電車線路終點ヨリ別紙圖面ノ通會社ノ特許線路ニ依リ會社ノ八ツ山停留場構內迄乘入運轉ヲ爲スモノトス

第二條　八ツ山ノ停留場ノ變更擴築ニ要スル土地家屋乘降場等ノ設備ハ會社ノ負擔ヲ以テ施設及維持ヲ爲スモノトス

第三條　乘入線路ニ於ケル軌道及架線ハ市ノ負擔ヲ以テ施設及維持ヲ爲スモノトス但シ會社カ既ニ施設シタル軌道架線及八ツ山鐵橋ハ無償ヲ以テ市ニ於テ使用シ其維持ハ市ノ負擔トス

第四條　市カ本契約ニ依リ乘入ヲ爲シタル線路ニ付キ將來會社ニ於テ青山線延長ノ必要生シタル場合ニハ毛利公爵邸南沿道路迄ノ區域ニ於テ線路及工作物ノ共用ヲ市ニ於テ承認スルコトヲ約シ其ノ細目ニ付テハ別ニ之カ協定ヲ爲スモノトス

第五條　乘入運轉開始ノ期日ハ追テ協定スルモノトス

第六條　本契約ハ市又ハ會社ニ於テ本契約施行ニ關スル事項ニ付キ監督官廳ノ許可ヲ得タル最終ノ日ノ翌日ヨリ其ノ效力ヲ發生スルモノトス

第七條　本契約ハ其效力發生ノ日ヨリ起算シ拾五箇年ヲ以テ終了スルモノトス

以上ノ契約ヲ確保スル爲各當事者ノ署名シタル本書貳通ヲ製シ各自壹通ヲ保持ス

大正六年　月　日

東京市長

京濱電氣鐵道株式會社

第貳拾節　市會議員異動

大正六年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選擧區	氏名	年月日	摘要
下谷區	江間俊一	大正六年一月二十九日	辭職
麹町區	溝淵正氣	大正六年六月十九日	辭職
本所區	山瀨俊賢	大正六年十二月二十六日	辭職
牛込區	飯塚仁兵衞	大正六年十二月七日	死亡
下谷區	吉川等	大正六年四月二十七日	補缺

第七章　大正七年

第壹節　東京市大正七年度歲入出總豫算

▽**普通會計ニ屬スル豫算**

大正七年度歲入出總計豫算

歲入出		原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入		六、〇八二、九四五・〇〇〇円	六、〇六二、七九六・〇〇〇円	六、〇六四、四六二・〇〇〇円
歲出	經常部	四、三五五、二六四・〇〇〇	四、二九四、九七五・〇〇〇	四、二九六、六四一・〇〇〇
	臨時部	一、七二七、六八一・〇〇〇	一、七六七、八二一・〇〇〇	委員會報告通
	合計	六、〇八二、九四五・〇〇〇	六、〇六二、七九六・〇〇〇	六、〇六四、四六二・〇〇〇

本案ハ二月七日ノ會議ニ於テ、糸川正鐵君ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ調査委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

安住佐太郎　白石源右衞門　鈴木彌吉　早川庄太郎　伊東靖
笠原文太郎　西川嘉門　細野順　尾後貫朝吾郎　川久保源治
糸川正鐵　吉川等　太田信治郎　堀田生次郎　津村重舍

委員ハ**細野順君**ヲ委員長ニ、**伊東靖**、**尾後貫朝吾郎**、**川久保源治**ノ三君ヲ理事ニ推シ二月二十七日ノ會議ニ於テ前表ノ如ク修正スルニ決シ、尚ホ左記ノ希望事項ヲ附シタル旨ノ意見報告ヲ爲セリ。

希　望

一　豫算ニ計上シタル銀行預金利率ハ現下ノ情況ニ照シ低キヲ認ム仍テ相當引上ケンコトヲ望ム

二　市、區吏員(普通會計ト特別會計トヲ問ハス)ノ俸給平均額ニ等差ヲ設クルハ妥當ナラスト思料ス仍テ將來ハ可成平等ニ計上セラレンコトヲ望ム

三　道路、橋梁、公園ニ於テ燈火用トシテ瓦斯ヲ使用スルハ經濟上不得策ナリト認ム仍テ本豫算ノ執行ニ際シ可成電燈ト切換ヘンコトヲ望ム

四　道路取擴ハ可成市區改正事業ニ屬セシメンコトヲ望ム

五　日比谷圖書館書庫ハ增築ノ必要アリト認ム仍テ現在書庫ノ構造ト同樣ノ設計ヲ爲シ更ニ提案アランコトヲ望ム

右報告アルヤ、委員ノ一人タル**糸川正鐵君**ハ、一個ノ市會議員トシテ修正意見ヲ提出シテ曰ク、歲入ノ部第十三款市稅中、第十項特別稅戶別割箇當リノ一坪ニ付參拾錢トアルヲ四拾錢ニ修正シ、其增額ハ歲出經常部第三十三款交付金ニ加ヘント欲ス。而シテ其總額ハ議長ニ於テ修正スルコトヽシ、其他ハ委員長報告通可決セラレンコトヲ望ムト。斯テ他ニ意見ナク、糸川君ノ意見通可決セリ。

▽特別會計ニ屬スル豫算

養育院歲入出總計豫算

歲入			三一二、二六六・〇〇〇円
歲出	經常部		二九八、六九一・〇〇〇
	臨時部		一三、五七五・〇〇〇
	合計		三一二、二六六・〇〇〇

本案ハ、二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、議長指名七名ノ委員ニ調査ヲ付託スルコトニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

岩松兼經　大村五左衞門　大澤朝吉　淺川保平　木村正孝
伊藤仁太郎　三浦良幹

委員ハ**岩松兼經君**ヲ委員長ニ推シ愼重調査ノ結果、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案通可決シタル旨報告シタルニ、報告通可決セリ。

火災共濟金歲入出總計豫算

歲入		四三六、八八三・〇〇〇円
歲出		四三六、八八三・〇〇〇

本案ハ、二月七日ノ第一讀會ニ於テ**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、養育院豫算委員ト同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決シタル旨報告シ、委員會ノ報告通可決セリ。

水道歲入出總計豫算

歳入
歳出 経常部 三、〇三七、七七一・〇〇〇円
歳出 臨時部 一、五九四、六九三・〇〇〇
合計 一、四四三、〇七八・〇〇〇
三、〇三七、七七一・〇〇〇

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

大内重兵衛　青木榮次郎　長谷川吉次　大貫傳兵衛　大澤朝吉
鎌田芳太郎　長清助　秋山朗　新井與四郎　矢野鉉吉
松山傳十郎

委員ハ**大内重兵衛君**ヲ委員長ニ、**青木榮次郎**、**長谷川吉次兩君**ヲ理事ニ推シ、愼重調査ノ結果、二月二十七日ノ會議ニ於テ左記意見ヲ附シ原案ヲ可決シタル旨報告シ、報告通可決セリ。

左記

本案豫算ニ計上シタル預金利率ハ現下ノ情況ニ依リ低キヲ認ム仍テ相當ニ引上ヲ計ル可シ

歳入　三、〇四七、六六〇・〇〇〇円
歳出　一、三五五、三六五・〇〇〇

歳入出差引殘金百六拾九萬貳千貳百九拾五圓

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ水道豫算ト同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決シタル旨報告シ、報告通可決セリ。

上水道擴張費歳入出總計豫算

歳入　三、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇円
歳出　三、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、水道豫算ト同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決シタル旨報告シ、報告通可決セリ。

上下水道公債償還金歳入出總計豫算

歳入　一、五八五、〇〇〇・〇〇〇円
歳出　五〇五、〇〇〇・〇〇〇
歳入出差引　一、〇八〇、〇〇〇・〇〇〇
歳計剰餘ハ上水道擴張費及下水道改良費ニ充當

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、本案モ水道豫算委員ト同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、左記ノ意見ヲ附シ、原案ヲ可決シタル旨報告シ、報告通可決セリ。

左記

本案豫算ニ計上シタル預金利率ハ現下ノ情況ニ依リ低キヲ認ム仍テ相當ニ引上ヲ計ルヘシ

市區改正歲入出總計豫算

歲入		三、二一四、〇三八・〇〇〇円
歲出		三、二一四、〇三八・〇〇〇

市參事會審査意見

本案中繼續下水道改良費ハ既定年度割ノ計上ナルニ依リ已ムヲ得サルモ本事業費前年度迄ノ年割所定額ニ執行未了ノモノ多ク其上本案豫算額ヲ加フルトキハ著シキ多額ニ達スルヲ以テ本案ノ遂行ハ極メテ困難ナリ仍テ適當更正ノ必要ヲ認ム

大正七年二月七日

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、本案モ水道豫算ト同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、左記意見ヲ附シ原案ヲ可決シタル旨報告シ、報告通可決セリ。

左記

本案豫算ニ計上シタル預金利率ハ現下ノ情況ニ依リ低キヲ認ムト仍テ相當ニ引上ヲ計ルヘシ

電氣軌道事業費歲入出總計豫算

	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	一三、八一二、六二一・〇〇〇円	一三、七〇四、一九六・〇〇〇円	委員會報告通
歲出			
經常部	六、六五一、二五二・〇〇〇	六、五九七、五七一・〇〇〇	同
臨時部	六、七二九、二二七・〇〇〇	六、六二〇、八〇二・〇〇〇	同
合計	一三、三八〇、四七九・〇〇〇	一三、二一八、三七三・〇〇〇	同
歲入出差引殘金	・四三二、一四二・〇〇〇	四八五、八二三・〇〇〇	同

歲計剩餘ハ電氣軌道事業準備積立金ニ編入

本案ハ二月七日ノ第一讀會ニ於テ、**糸川正鐵君**ノ動議ニ依リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

大貫傳兵衛	秋　虎太郎	辻井喜太郎	所澤貞太郎
糸川正鐵	笠原文太郎	作間耕逸	小坂梅吉
橋本直一	渡　龜造	笠間平右衛門	若林成昭
羽田如雲		松崎英太郎	
後藤武夫			

委員ハ所澤貞太郎君ヲ委員長ニ、大貫傳兵衛、秋虎太郎、辻井喜太郎ノ三君ヲ理事ニ推シ、愼重調査ノ結果、二月二十七日ノ會議ニ於テ前表ノ如ク修正シ、尚左記ノ意見ヲ附スルニ決シタル旨報告シタリ。（電氣事業減債金歲入出豫算ノ項參照）

左記

一、豫算編成ニ當リ其ノ算出ノ基礎確實ナラサル傾アリ注意ヲ要ス

一、物價騰貴等ノ爲メ豫算大ニ膨脹セリ依テ濫費ノ弊ヲ生セサル樣注意スヘシ

一、品川發電所ハ本市ノ不用財產ナレハ宜シク監督官廳ニ事情ノ徹底スル樣交涉シ之ヲ處分セラレンコトヲ望ム

一、理事者ハ電車收支ノ狀況ニ鑑ミ割引時間ノ延長ニ努メラレンコトヲ望ム

一、豫算ニ計上シタル預金利率ハ現下ノ情況ニ依リ低キヲ認ム仍テ相當ニ引上ヲ計ルヘシ

電氣供給事業費歲入出總計豫算

歲入出		原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入		四、一四九、八三六・〇〇〇円	原案通	委員會報告通
歲出	經常部	一、八一五、〇一四・〇〇〇	一、八〇九、五一四・〇〇〇円	同
	臨時部	二、二五一、四九六・〇〇〇	原案同	同
歲入出差引殘金		八三、三二六・〇〇〇	八八、八二六・〇〇〇	同

歲計剩餘ハ從前歲計不足ニ對シ電氣軌道事業費ヨリ補塡ヲ受ケタル戻入ニ充當

本案ハ、二月七日ノ會議ニ於テ、電氣軌道事業費豫算調査ト同一委員ニ併託セラレ、委員ハ愼重審査ノ末、前表ノ如ク修正シ、尚ホ左記ノ意見ヲ附スルニ決シタル旨二月二十七日ノ會議ニ報告シタリ。（次項參照）

左記

一、豫算編成ニ當リ其ノ算出ノ基礎確實ナラサル傾アリ注意ヲ要ス

一、物價騰貴等ノ爲豫算大イニ膨脹セリ依テ濫費ノ弊ヲ生セサル樣注意スヘシ

一、豫算ニ計上シタル預金ノ利率ハ現下ノ情況ニ依リ低キヲ認ム仍テ相當ニ引上ヲ計ルヘシ

電氣事業減債金歲入出總計豫算

歲入	七、六五六、一五〇・〇〇〇円
歲出	五、八一九、八二七・〇〇〇

歲入出差引殘

一、八三六、三二三・〇〇〇

本案ハ二月七日ノ會議ニ於テ、電氣供給事業費豫算調査委員ト同一ノ委員ニ併託セラレ、委員ハ愼重審査ノ末、原案ヲ可決シタル旨二月二十七日ノ會議ニ報告シタリ。

此時作間耕逸君、日程ヲ變更シテ、電氣局共通ノ豫算ヲ一括附議センコトヲ望ムトノ動議ヲ提出シ、滿場ノ承認ヲ得タル後、電氣軌道事業費及ビ電氣供給事業費ノ兩議案ニ對シ、左記希望條項ヲ冒頭ニ加ヘンコトヲ望ムトノ動議ヲ提出セリ。

希望附加事項

一、電氣局ノ整理ハ市民多年ノ輿望ニシテ故市長モ電車賃金値上電燈料金改定ノ際其ノ斷行ヲ言明シタル所ナルニモ拘ラズ、未ダ其ノ實施ニ着手スルコトナキハ遺憾ナリ、仍テ速ニ適當ノ措置ヲ執ラレンコトヲ望ム

大正七年二月二十七日

提出者

所澤貞太郎　若林成昭　渡邊龜造

松崎英太郎　作間耕逸

贊成者

野々山幸吉　外四名

夫レヨリ橫山勝太郎君ト理事者トノ間ニ左ノ問答アリタリ。

横山勝太郎君　余ハ淺野製鐵所ニ對シ、市電ガ澁谷發電所ヲ賃貸シテ拾有餘萬圓ノ收入ヲ得ツヽアル事實ニ關シ、如何ナル契約書ニ依リ、如何ナル法令ノ根據ニ依リテ必要ナル市ノ營造物ヲ一營利會社ニ賃貸シタリヤ、詳細ニ之ヲ承リタシ。

井上敬次郎君（電氣局長）　昨年夏、淺野側ヨリ鐵板製造會社ヲ創立スルニ當リ、其ノ賃借ヲ申越シ來リタルニ依リ、市トシテハ不用ニ屬シタル澁谷發電所ヲ賃貸スルニ決シタリ。而シテ該發電所備附ノ機械ハ其性能極メテ巧妙ナルニ依リ、素人ニ之ヲ使用セシムルコトハ危險ナルト共ニ、石炭其物ガ目下頗ル高價ニシテ、市トシテハ到底使用シ切レズ、サリトテ其儘發電所ヲ放置スルトシテモ、尚ホ一年何萬圓カノ維持費ヲ要ス。因ツテ機械使用ニ練達シ、石炭供給ニ特種ノ便宜ヲ有スル淺野ニ之ヲ賃貸シテ、拾四萬餘ノ收入ヲ計ルヲ有利ナリト認メ、供給條例第四十七條ニ依リ賃貸契約ヲ締結セリ。

横山君　市會ノ市政檢查委員ハ、火力發電所ヲ總テ之ヲ廢止スベシトノ意見ヲ提出セルノミナラズ、深川發電所ノ如キ、既ニ賣却シタリト聞ク。若シ澁谷發電所ガ局長ノ言ノ如ク不用トナリシナラバ、何故ニ之ヲ賣却セザルヤ、假リニ一步ヲ讓リテ之ヲ賃貸セントナラバ、市ノ營造物タリ、財產タル發電所ヲ管理スル責任ヲ有スル理事者ハ、當然之ヲ市會ニ諮ラザル可ラザルニ拘ラズ、其職權ヲ濫用シテ、營利ヲ目的トスル一個人ニ賃貸スルガ如キ、由々シキ責任問題ナリトス。

井上局長　不用ナラバ何故賣却セザルヤトノ質問ナルモ、實ハ不用ニハアラズシテ電燈設備ノ爲メ、水力發電ニ故障ヲ生ズル等ノ場合ヲ考慮スレバ、絕對ニ賣却スル能ハザルモノナリ。故ニ之ヲ淺野ニ賃貸シ置ケバ、萬一發電ノ必要ヲ生ジタルトキハ、淺野側ヲ制シテ、一時市電ニ於テ之ヲ活用スルノ途アリ。是等ノ點ヲ考慮スレバ、右發電所ノ全部ヲ擧ゲテ賃貸セリトハ云フベカラザルナリ。

所澤貞太郎君　横山君ノ質問アリシニ由リ、委員會ノ經過ヲ述ブベシ。本問題ニ就テハ委員會ニ於テモ、右ハ電氣供給契約ニアラザルヲ以テ、市會ニ提出スベシトノ說ト、電氣ノ供給ナリト見ル說ト二派アリシモ、既ニ局長ノ言ノ如ク必要ナル場合ハ、何時ニテモ切換ヘ得ルノ條件アルヲ以テ差支ナカルベシ、若シ飽迄モ供給契約ニ違反スルコトヽナラバ、理事者ハ成ルベク供給契約ニ應ハシキ方法ニ依ルベシトノ條件附ニテ可決セリ。斯テ議長ハ、委員會ノ報告ノ前記電氣軌道事業費、電氣供給事業費及電氣事業減債金ノ各豫算案竝ニ作間君提出ノ希望條件ヲ一括シテ採決シタルニ異議ナク可決セリ。

第貳節　大正七年度課稅率決定ノ件

第十八號

課稅率決定ノ件

大正七年度分市稅課稅率左ノ通決定スルモノトス

附加稅	
國稅營業稅附加稅	本稅百分ノ七・七
所得稅附加稅	本稅百分ノ十五

鑛業稅附加稅　本稅百分ノ十
賣藥營業稅附加稅　本稅百分ノ五
取引所營業稅附加稅　本稅百分ノ十
家屋稅附加稅　本稅百分ノ十七（一個ニ付九厘三五）
府稅營業稅附加稅　本稅百分ノ六十七
雜種稅附加稅　別表ノ通
特別稅
不動產取得稅　物件時價百分ノ〇・七二
戶別割　建物一坪ニ付三十錢
市區改正特別稅
地租割　本稅百分ノ九
國稅營業割　本稅百分ノ十

（別表）

雜種稅附加稅

一自用馬車　本稅百分ノ百六十
一營業馬車　本稅百分ノ百九十

一荷積牛馬車　本稅百分ノ百
一自用人力車（二人乘）　本稅百分ノ百八十
一自用人力車（一人乘）　本稅百分ノ二百
一荷積大車　本稅百分ノ百四十
一荷積小車　本稅百分ノ百五十
一自轉車　本稅百分ノ百十五
一自働自轉車　本稅百分ノ百六十七
一自働車（二十馬力以上）　本稅百分ノ百四十五
一自働車（十五馬力以上二十馬力未滿）　本稅百分ノ百五十
一自働車（十馬力以上十五馬力未滿）　本稅百分ノ百五十
一自働車（五馬力以上十五馬力未滿）　本稅百分ノ百六十
一自働車（五馬力未滿）　本稅百分ノ百六十
一蒸汽船、西洋形機械船及同客船（河川ヲ航行スルモノニシテ乘客定員四十人以上ノ客船及其曳船以上ニ該當セサル船）　本稅百分ノ百六十
一西洋形風帆船及其他ノ西洋形船　本稅百分ノ百十
一其他　本稅百分ノ百二十
本稅百分ノ六十七

大正年間　第七章　大正七年　第貳節　大正七年度課稅率決定ノ件

本案ハ二月七日ノ會議ニ於テ、普通會計ニ屬スル豫算案調査委員ト同一ノ委員ニ付託セラレ、同月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決シタル旨報告アリ、委員會ノ報告通可決セリ。

第參節　市制中改正ニ關スル意見書

二月二十七日ノ會議ニ於テ、左記建議案ノ提出アリタルガ、當日ハ遂ニ審議延期トナリ、其後五月四日、同二十七日ノ再度共日程ニ掲ゲラレタルモ、又復延期トナリ、越エテ同年六月市會議員ノ任期終了シテ、本建議ハ自然消滅ニ歸セリ。

一、市制中改正ニ關スル意見書提出ノ建議

右提出候也

大正七年二月二十日

提出者
笠原文太郎
木村正孝
賛成者
若林成昭
東京市會議長中野武營殿
意見書
作間耕逸　長清助
尾後貫朝吾郎　松山傳十郎
外六名

本市會ハ左記意見ノ如ク市制ヲ改正セラレンコトヲ望ム仍テ市制第四十六條ニ據リ意見書及提出候也

年　月　日

内務大臣後藤新平殿

（左記）

一、選擧人ヲ階級ニ分ツ規定ヲ廢止スルコト

二、市長ハ市公民ノ選擧ニ由ルコト

東京市會議長　中野武營

第四節　市會議員定數條例設定ノ件

二月二十七日ノ會議ニ於テ、左ノ議案ヲ上程セリ。

第三十號

東京市會議員定數條例設定ノ件

東京市會議員定數條例左ノ通設定スルモノトス

東京市會議員定數定例

東京市會議員ノ定數ハ七十五人トス

本條例ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ適用ス

説明

本市ノ市會議員定數ハ最近ノ法定人口（大正二年十二月末日現在内閣統計局調査報告）ニ依レハ來六月執行スヘキ總選擧ニ當リテ現在定數（七十五人）ヨリ三人ヲ減セサルヘカラサルコト、爲ルヘシ然レトモ本市ノ人口統計ハ左ニ揭クルカ如ク年々數萬ノ增加ヲ示シ業ニ既ニ大正三年十二月末日現在ノ人口ニ於テ七十五人ヲ選出シ得ルノ情態ナルヲ以テ此際現在定數ヲ維持スルヲ相當ト認メ本案ヲ提出ス

人口表

大正元年十二月末日現在人口	二、〇〇九、九八〇人	
大正二年十二月末日現在人口（法定人口）	二、〇三三、三二〇人	
大正三年十二月末日現在人口	二、一〇〇、三〇七	
大正四年十二月末日現在人口	二、二四、七九六	
大正五年十二月末日現在人口	二、二八一、四二一	
大正六年十二月末日現在	（調査中ニテ不明）	

（參照）

○市例

第十三條　市會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

議員定數左ノ如シ

一	人口五萬未滿ノ市	三十	人
二	人口五萬以上十五萬未滿ノ市	三十六	人
三	人口十五萬以上二十萬未滿ノ市	三十九	人
四	人口二十萬以上三十萬未滿ノ市	四十二	人
五	人口三十萬以上ノ市	四十五	人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非ラサレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

右ニ對シ、**鳩山一郎君**ハ質問シテ曰ク、余ハ現在ノ議員數ヲ其儘維持スル點ニ關シテハ何等ノ異議ナシ、然レドモ之ヲ各區ニ按配スル點ニ就キ質問アリ。現在各區ノ議員定數ハ明治四十四年ノ設定ナルガ、小石川ノ如キハ、當時ノ人口十萬ガ、今日ニ於テ十六萬八千ヲ算シ、本鄉ヨリモ夥シキ數字ヲ示セリ、而モ尙ホ議員ノ按配數ハ從前ト同一ナリヤ。衆議院議員モ、區會議員モ、共ニ人口ヲ基準トシテ設定セラレツヽアルハ周知ノ事實ナリ、理事者ハ人口ニ依リ其數ヲ決定スルノ意思ナリヤ否ヤト。右ニ對シ、**高橋市長代理**ハ、今回ハ單ニ定數條例ノ決定ノミニシテ、各區選出條例ノ改正ニ非ラズ、但シ今後各區選出條例ヲ改正スルニ際リ、人口ヲ標準トスルヤ否ヤハ今日ニ於テ明言シ難シトノ答ヘ。**西川嘉門君**、理事者ノ鳩山君ニ對スル答辯ハ不親切極マレリト謂フ可シ、由來議員ノ定數ガ人口ニ依リテ定マルハ法令ノ明示スル所ナリ、故ヲ以テ小石川ノ如ク最初定員ヲ制定シタル當時ニ比シ、今日ニ於テハ九萬ノ人口增加ヲ示シツヽアル事實ニ對シテハ、各區ノ按配ニ關シ相當考慮シテコソ職務ニ忠實ナリト云フベケレ、然ルニ高橋君ハ右質問ニ答ヘズ、全ク啞ニ等シ、奇怪千萬ナリト謂フ可シト論ジ。**横山勝太郎君**、西川君ガ理事者ヲ啞ト斷ジタルハ失言ナリ、取消ベシト要求スルヤ。取消スベシ、取消ス必要ナシトノ押問答アリシモ、議長ハ採決ヲ宣シ、採決ノ結果、本案ハ原案通可決サレタリ。

第五節　市長選擧

市會開會請求書

市長候補者選擧ノ儀ニ付至急市會開會相成度東京市會々議規則第八條ニ依リ、此段及請求候也

大正七年三月二十六日

提出者

伊藤仁太郎　岩松兼經　渡邊龜造
吉川等　後藤武夫　斯波厚
安住佐太郎　楳川忠兵衞　横山勝太郎
尾後貫朝吾郎　野並慶定　三浦良幹
矢野鉉吉

東京市會議長中野武營殿

右ノ請求ニ據リ三月三十一日緊急市會開會、**中野議長**ハ、日程第六ニ揭ゲタル市長候補者三名ヲ選擧スベキ旨ヲ宣シ、且ツ其方法ハ毎回一名宛單記無記名ニテ選擧スベシト告グルヤ。**作間耕逸君**ヨリ、立會人四名選擧ノ動議提出アリ。**伊藤仁太郎君**ハ、市會ノ準備行爲トシテ豫テ協議會ヲ開キ、夫々詮衡委員ヲ擧ゲタルニ拘ラズ、爾來半歲ノ永キニ亘リテ要領ヲ得ザリシヲ以テ、余等同志ハ右ニ關スル市會開會ヲ請求シ、本日愈ゝ市長候補者選擧ノ段取リトナリタル次第ナルガ、余ハ此際詮衡委員會ノ經過ヲ聞キ、以テ候補者選擧ニ便ゼントス。冀クハ詮衡委員長タリシ議長ヨリ、詳細其內容ヲ聞カント述ベタルニ對シ。**秋虎太郎君**ハ、無用說ヲ唱ヘ。**中野議長**ハ、詮衡委員會ニテ報告シタル以外、何等語ルベキコトナシト答ヘ、選擧立會人トシテ、羽田如雲、安住佐太郎、大村五左衞門、岩松兼經ノ四君ヲ指名シタリ。此時藤原俊雄君發言ヲ求ムルヤ、許ス、許サズトノ押問答ニテ小波瀾ヲ生ジタルガ、議長ハ遂ニ藤原君ニ發言ヲ許サズシテ、選擧ヲ行ヒタル結果左ノ如シ。

投票總數　六十九票　有效投票　六十九票

（當選）
三十八票　田尻稻次郎

（次點）
三十一票　阿部浩

次イデ第二候補者ノ選擧ヲ行ヒタル結果ハ左ノ如シ。（五票以下略ス）

投票總數　五十四票　有效投票　五十三票　無效一票

（當選）
三十六票　楳川忠兵衞

（次點）
十票　加藤正義

引續キ第三候補ノ選擧左ノ如ク當選セリ。

投票總數　五十票　有效投票　四十八票　無效二票

（當選）
三十一票　星野錫

越エテ五月八日ノ會議ニ於テ、左ノ如ク報告アリタリ。

庶發第四八七號

大正年間　第七章　大正七年　第五節　市長選擧

通　知

曩ニ市會ニ於テ推薦相成候從二位勳一等法學博士子爵田尻稻次郎ハ本市市長就任ノ儀本日御裁可ヲ經候條此段御通知候也

大正七年四月五日

東京市長法學博士子爵　田尻稻次郎

第六節　選擧名簿ニ關スル異議申立

五月六日ノ會議ニ於テ、左記市會議員選擧名簿ニ關スル異議申立ノ件ヲ議題ニ供セリ。

庶發第六六四號

左記ノ者ヨリ提出ニ係ル市會議員選擧人名簿ニ關スル異議申立書別紙送附候條御決定相成度候也

大正七年五月三日

東京市長法學博士子爵　田尻稻次郎

東京市會議長中野武營殿

住所	氏名
神田區	佐藤邦藏
芝區	後藤德太郎
四谷區	鳥海榮助
四谷區	伊藤義藏

住所	氏名
同	村野輝
同	粟野祥重
同	黒澤太郎
同	高木茂
同	吉田耕造
同	水津讓介
同	篠原知政
同	淵上保喜
同	西島敬三郎
小石川區	糸居銀一郎
同	吉田敬直
同	杉澤勘次郎
同	荒井又太郎
鈴木幸太郎	
松村周太郎	
小關森之助	
佐藤房太郎	
久恒治助	
久米恒松	
淺利良一	
小石川區	近藤辰一郎
同	佐々木圓藏
同	塚田定吉
同	野中兼吉外一名

所澤貞太郎君、神田區外三區市會議員選擧人名簿ニ關スル異議ノ決定ハ、法定期間ノ制限アルガ故ニ、迅速ヲ要スルモノアルニ依リ、日程ヲ變更シテ議題ニ供シ、議長指名三名ノ委員ニ調査ヲ付託センコトヲ望ムト述ベ、異議ナク決定シ、議長ハ委員トシテ左記ノ諸君ヲ指名シタリ。因ニ右異議申立ノ內容ハ、何レモ納稅シツヽアルニ拘ラズ、資格ナシトシテ名簿記載ヲ脫漏シタリト云ヘルモノト、他區移轉ニ依リ資格ヲ喪失シタル者ニ對シ、其氏名ヲ削除スベシ

ト云ヘルモノナリ。

作間耕逸　宮崎三之助　所澤貞太郎　糸川正鐵　若林成昭

委員ハ宮崎三之助君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ結果、塚田定吉及野中彙吉外一名ニ對シテハ、選擧人タル資格アリトノ申立相立タズト決定、其他ハ名簿ニ登錄シ、之ニ伴フ該名簿ノ異動ヲ適法ニ修正スベキモノナリト報告シ、異議ナク委員會報告通可決セリ。

第七節　市政檢査委員會報告

本案ハ、五月六日ノ會議ニ報告セラレ、滿場異議ナク之ヲ承認シタリ。

▽市政檢査委員會第九回報告

市政檢査委員會第九回報告

委員會ハ、本市水道ニ關シ別紙ノ通リ議決セリ。

右及報告候也

大正七年四月十六日

委員長　豐川良平

理事

大橋新太郎　鎌田芳太郎　作間耕逸

矢野儀吉

委員

羽田如雲　清鉉太郎　大澤朝吉

黒須龍太郎　木村正孝　西川嘉門

尾後貫朝吾郎　長清助　松崎英太郎

中島行麿

東京市會議長中野武營殿

（別紙）

水道ニ關スル檢査報告

市水道事業ハ市民ノ生活上最モ重要ナル事項ナレハ檢査委員會ハ成立以來既ニ左記ノ如ク幾多ノ檢査報告ヲ發表シタリ依ツテ玆ニハ夫等ノ報告ニ於テ未タ檢査セス又檢査シテ盡ササル所ノモノヲ報告セントス

（既ニ檢査報告シタル事項）

一、第三回報告（大正四年五月二十一日報告）

市ノ區役所事務ニ關スル檢査報告

（イ）第四水道鍵ノ保管

二、第四回報告（大正四年九月十七日報告）

(ロ) 第一、砂川分水回收費ニ關スル件
(ハ) 第二、石炭ニ關スル件(淀橋淨水所納)
(ニ) 第四、量水器ニ關スル件
(ホ) 第五、水栓及水留栓ノ合金分析
三、第七回報告(大正五年六月十五日報告)
(ヘ) 本市水道水源林ニ關スル檢査報告
其一、水源地ニ關スル件

序言

本市水道水源地ニ關スル調査ニ就テハ大正二年宮川助役カ阪谷市長ニ提出シタル「東京市水道水源林」ト題スル報告書及ヒ大正五年調製「東京市水道水源地要覽」ノ表ニ詳記セラレアリ、又水源林ノ殖栽事業及ヒ砂防工事ニ就テハ第七回檢査報告ニ略述シタリ依テ玆ニハ如上以外ノ事項ニ付實地踏査ノ結果ヲ報告セントス

狀勢

第一、萩原山ノ形象

(一) 地域　多摩川ノ水源地ハ東京府西多摩郡、山梨縣北都留郡ノ三郡ニ跨リ廣袤約三十一方里、總面積四萬八千餘町歩ヲ有ス、就中東山梨郡神金村萩原山ハ最奥ノ地ニシテ群嶺聯立シテ村ヲ東西ニ兩分シ多摩川ト笛吹川トノ分水嶺ヲ爲ス、而シテ其東側ナル東京市ノ經營ニ屬スル水源地域ハ分水嶺頂以東五千六百三町歩ニシテ、南ハ泉水谷ノ溪流ニ依リ丹波山市有林ニ接シ、東南ハ大菩薩峠(二、〇五七米)ヨリ柳澤峠(一、六七一米)ニ連ル分水嶺ヲ境トシ、墨川(一、七七六米)高橋ノ三角點(一、八〇二

米)ニ連ル分水嶺ニ依リテ松里村字滑澤、玉宮村字竹森入ノ兩恩賜林及三富村私有林ニ接シ、北ハ高橋三角點ヨリ將監峠(二、〇〇三米)ニ至ル分水嶺ニ依リテ埼玉縣秩父郡大瀧村國有林ニ接シ、東ハ龍蟠川ニ依リテ丹波山ノ內大常木ニ境スル一圓地ニシテ、中央ニ一ノ瀨高橋及落合ノ二部落アリ、神金村大字上萩原ノ小字ニシテ私有地五十八町歩ヲ孕在シ、戸數百六、炭燒小屋二十、人口五百八十餘名ヲ有ス

(二) 住民　部落ハ一ノ瀨最モ其ノ起原古ク分チテ三部トシ一ノ瀨、二ノ瀨、三ノ瀨トス、高橋之ニ次キ之ト合シテ一ノ瀨高橋ト稱ス、其ノ居住ノ初メ明カナラス獨リ落合ハ明治十一年丹波山ヨリ柳澤峠ヲ經テ鹽山ニ至ル縣道成ルニ及ヒ一ノ瀨高橋ノ者移住シ以テ現時ノ小部落ヲ爲セルモノニシテ爾後上下ノ二部ニ分チ、今ヤ戸數上十五戸、下二十戸ヲ有シ人口併セテ百五六十名ヲ算スルニ至ル、住民ハ林業及炭燒ヲ主タル職業トシ地味豐饒ナラサルカ爲メ、米麥粟稗ヲ產セス、主食物ハ唐黍ニシテ副食物トシテ糠ヲ用ヒサル澤菴大根、馬鈴薯、山獨活、切干、蕨、蕗等ニシテ砂糖醬油等ノ調味料ヲ用フルモノ極メテ稀也、家壁ハ板ヲ以テ圍マレ屋內ハ概ネ板敷ニシテ疊ヲ用ヒス、敎育普及セサル爲メカ將タ村役場ニ遠隔ナル爲メカ生死ヲ屆出テス、甚シキハ生兒ニ命名セサルモノアリ又病氣見舞ニ醫藥ノ如ク白米ヲ贈ル等アリ以テ生活狀態ノ一般ヲ窺知スルヲ得ヘシ、斯カル狀態ナレハ本市ハ水源林經營上故意ニ損害ヲ蒙ル不安アリ殊ニ注目スヘキハ住民ノ衞生狀態ノ不良ナルノミナラス漫性傳染性疾患者ノ住居スルコトナリ

(三) 所有者ノ變遷　萩原山ハ他ノ水源林ト共ニ幕府時代ニ於テハ御止メ山ト稱シ、禁伐林ト爲シタル個所多カリシカ、地元人民ハ小物成ヲ納付シテ年々伐材シ生活ノ資ト爲シ居レリ、爾來明治維新後ニ至ルモ此ノ慣行續ケラレ土地ノ所有關係不明ニシテ明治九年ニ至リ地租改正ノ際、政府ハ從來ノ小物成ハ地租ト同一ナラスシテ伐材ノ料金ナリトシ國有林ニ編入シタリ、續イテ明治二十二年國會開設前御料林ニ編入シ、明治四十四年三月御料林ヲ解除シ、四十一年及ヒ四十三年兩度ノ大洪水ニテ被害セル山梨縣ノ困弊ヲ救濟セントノ特別ノ思召ヲ以テ同縣ニ下賜セラレ同十一月其ノ一部ヲ東京市ニ買收シタリ、今本市經營ノ萩原山ハ即チ之也

水源地（山梨縣分）人口及面積

戸數及ヒ人口

郡	村	本籍戸數	寄留戸數	計	本籍人口	寄留人口	計
北都留	丹波山	二九一		二九一	一、一〇九	一五六	一、二六五
同	小菅	二六五		二六五	一、三三二	九三	一、四二五
東山梨	神金村ノ内一ノ瀬高橋	七五		五八	三四五	二七五	六二〇
計		六三一		五八	二、七八六	五二四	三、三一〇

面積

郡	村	田	畑	宅地	雑地	計
北都留	丹波山	一七〇三町	三九三町	七六二四町	三五一町	七五二四町
同	小菅	一二五二四	七二〇	二九二四	三一二二	七〇一九
東山梨	神金村ノ内一ノ瀬高橋	〇	三四	五四〇六	七〇一二	九六六五二〇一
計		一四二二七	一、一四八	六〇二四	二三六	五九
					二一八三〇四	八一〇一
					一七九一二二	一、七七八
					六一〇	八〇二一
					八五〇八	

第二、一ノ瀬ノ重石鑛山

重石鑛々區トシテ許可セラレタル地域ハ神金村萩原山中ノ一ノ瀬部落ノ内神金村外二箇所入會地大字萩原地内ノ大常木川ノ支流中瀬川ノ溪流ニ沿フ所ニ在リ、附近ハ萱薄等ノ雜草及濶葉樹ノ疎林ニシテ明治四十三年十一月採掘權ハ登錄セラレ十二萬三千二百六十坪ニシテ芝區櫻田本鄉町副島延一之カ權利ヲ有ス、而シテ該地ノ上表ハ往昔水晶ヲ採掘シタル所ニシテ土砂中ニ小結晶塊甚タ多ク地盤ハ花崗岩ニシテ採掘ノ坑穴大小三アリ、目下採掘中ノモノハ長サ四十九尺ニシテ他ハ十八尺位ノミ、而シテ鑛層ハ甚タ疎薄ナリト認メラル、其ノ坑口ノ前ナル溪流ノ邊ニ小屋ヲ造リ勞働者二人毎日山下ノ一ノ瀬ヨリ通勤採掘ニ從事ス、斯カル狀態ナレハ重石ノ產額亦甚タ少ク、大正五年ノ如キハ一噸六千圓ノ市價ニ暴騰シタルニモ係ラス開坑以來十三年間ノ產額累計收入四千圓ニ過キスト云フ

第三、龍蟒（リウバウ）ノ金山

水源地ニ於ケル金鑛ハ龍蟒及黑川ノ二箇所アリ

萩原山ノ盆地、一ノ瀨部落ニ在ル金鷄寺ト稱スル小學校兼寺院ノ背面ナル一ノ瀨川ヲ渡リ、進ムコト東ニ數町餘ニシテ一溪流ニ達ス、其ハ北都留郡丹波山村ノ內、大常木市有林ト東山梨郡神金村萩原山市有林トノ郡界ヲ蜿蜒急下スルモノニシテ龍蟒ノ溪流ト名ク、而シテ其ノ沿岸、奇巖惹石ノ間ヲ攀チ荊棘ヲ分ケ道無キ所ヲ進ムコト二十餘町、山深ク谷逼ル所ニ金場ト俗稱スル地域アリ、兩岸一帶ハ濶葉喬林密生シ林種ハ針葉樹少ケレトモ本市水源林トシテハ優秀區域ノ一タルヲ失ハス、此ノ地ハ往昔武田信玄カ採掘シタリト傳ヘラル、金坑ノ跡ニシテ現今ノ權利者ハ甲府市ノ岩田吉助ニシテ明治三十六年五月鑛區ノ登錄ヲ受ケ丹波山神金兩村ニ跨リ鑛區總坪十一萬二千坪ヲ有ス、然レトモ現時ハ採掘シ居ラサルノミナラス近キ過去ニ於テ採掘シタル痕跡無ク唯滔々タル瀑聲萬籟ノ寂タルヲ破ルアルノミ、殊ニ其ノ地位ハ海拔五千尺以上ニシテ來往ノ跡絕エ、濃霧雲烟、頻ニ去來シ初夏ノ候尙ホ梅桃ノ花ヲ見ル如キ寒冷ノ境也、サレハニヤ市有前後以來、市會議員トシテ踏査シタルモノ曾テ無ク吾人檢査委員ヲ以テ嚆矢トシ吏員トシテモ少シト云フ

第四、黑川ノ金山

柳澤峠ニテ甲州街道ヲ東ニ岐レ大菩薩峠ヲ右ニ見テ松尾根（地名）ヲ超エ萩原山中ノ最高峰タル鷄冠山下ノ水呑澤俗稱工作場附近濶葉樹ノ喬疎林ニ猿麻桿浮漂セル間ヲ過キ甲州街道黑川橋ノ西ニ通スル熊笹ニ蔽ハル、羊腸タル急坂ヲ下レハ黑川金山ニ達ス、此ノ

細徑ヲ黒川横手道ト名ケ武田信玄時代黒川金山ヘノ通路ナリシト傳ヘラル、黒川金山ハ之レ亦往昔武田氏カ採鑛セル所ニシテ殘坑今尚ホ存シ附近ノ山腹濶葉樹林ノ間ニハ家屋構壘ノ跡甚タ多ク傳唱セラレタル「黒川千軒」ノ盛時ヲ偲ハシムルモノアリ、今九萬二百三十五坪ノ鑛區ハ明治二十七年十二月、同二十九年六月同三十八年十一月ノ三回ニ登錄許可セラレ牛込區市谷中井榮次郎京橋區新富町石本兵藏ノ兩人之カ採掘權ヲ有ス、同鑛山ニハ前記信玄坑外二坑アルモ、一坑ハ十數年來入坑セル者無キ如ク現今掘鑿シツアリト云フハ最モ高キ地位ニ在ル一坑ノミ、視察當時、山腹ノ小屋ナル事務所ニハ留守居一兩名ノ外坑夫モ居ラサリキ、同所ヨリ一町許リ離レタル所ニ存スル撰鑛所ト稱スル堀建ノ水車小屋モ屋根板柵共ニ破損シ其ノ用ニ堪フヘクモアラス全然作業中止ノ觀アリ、試ニ坑内ニ入リテ鑛脈ヲ觀ルニ鑛層頗ル疎薄ニシテ斷續頻リ也、而シテ此ノ鑛山ヘノ通路ハ前記黒川横手道ノ外無ク他ハ悉ニ黒川溪流ノ川瀨ヲ溯葉樹鬱蒼タル間ヲ、水ヲ渉リ巖ヲ飛ヒ、黒川橋畔ニ通スル路ナキ道アルノミ

第五、水源地鑛業權取消問題

從來市當局者カ水源地ニ於ケル鑛業權ニ對シ採リタル處置ニ就テ注目ニ値スルモノハ鑛業權取消ノ問題ナリトス

明治四十四年本市カ山梨縣ヨリ萩原山ヲ買收シタル當時ヨリ大正五年ニ至ル間ニ於テ何等ノ問題起ラサリシカ大正五年ニ入リ水源地ニ於ケル鑛業ニ就テノ問題起リ其ノ十月二日本市ハ農商務大臣ニ對シ水源地ニ於ケル鑛業ハ水源ノ保護及涵養上支障アルヲ以テ鑛業權ヲ取消相成度旨上申セルニ對シ大正六年六月九日鑛山局長ヨリ「水源地ノ鑛業ハ市水道ニ關シ公益上害アリトシテ不許可地ト決定シタル明治四十五年以前ヨリ存在スルモノニシテ相當取締ヲ爲サハ支障ナキ故嚴重ニ取締リテ操業セシムヘキ」旨ノ通牒アリ、依テ本市ハ更ニ農商務大臣ニ對シテ、鑛業權者ニ(一)製錬ハ水源地流域外ニ於テ爲シ(二)土砂廢石廢水等ニテ河水ヲ汚濁セシメサルコト(三)土砂崩壞ノ虞アル場所ニ扞止ノ設備ヲ爲スコト(四)其他水源地ヲ荒廢セシメ水質ヲ汚濁セシメサルコト等其他數ケ項ノ條件ヲ命令相成度」旨上申セリ、同七月二十八日之ニ對シ、鑛務署長ヨリ「御意見ノ趣旨ニ基キ取締ヲ爲スヘク其他ハ實際ノ狀況ニ應シ相當ノ措置ヲ採ルヘキ見込」トノ通知アリ、又十月十八、九日付鑛業權者石本兵藏、中井榮次郎ヨリ黒川金山區域内ノ立木拂下願及ヒ火藥庫新設ノ願アリテ本市ハ大正五年十一月二十七日右拂下ニ對シ承認致難キ旨指令セリ、然ルニ鑛業權者ハ大正五年十二月十一日鑛務署長宛ニ鑛業施業案變更届ヲ提出シタルニ對シ鑛務署長ハ補修命令ヲ二回發シ、大正六年九月十三日ニハ「屎尿塵芥厨房排泄物其他ノ汚物ヲ溪流ニ投棄又ハ流逸セシムヘカラス」トノ命令ヲ發シ且大體本市ノ意見通リ條件ヲ付シテ許可セラルヘキコト、ナリ九月七日鑛業權者ハ之ニ基キ鑛業施業案届及ヒ鑛業用地使用許可願ヲ鑛務署長宛提出セリ依テ署長ハ十月四日鑛業權者ニ右變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得サル旨特ニ注意ヲ發シ、十月九日鑛業用地使用願ニ對シ三箇年ヲ期限トシテ之ヲ許可シ同日市長宛通知アリ、而シテ又鑛業權者ハ十月三十日許可地二千百八坪ニ對シ使用料決定方及ヒ十一月十六日該區域内立木拂下願ヲ市長宛申出アリ市ハ目下審査中ナリト云フ

又一ノ瀨ナル重石鑛々山ノ權利者ハ大正六年十月一日付鑛業代理人三浦養治ノ名ヲ以テ鑛業施業案ヲ提出シ目下鑛務署ニ於テ審査

參照

一、水源林内鑛區表(別表)
二、鑛業權ニ關スル沿革參考書(別項)
三、大正六年市會速記錄第十號宮川助役演說

水源林内鑛區表

鑛區番號	鑛種名	登錄年月日	郡村名	住所	氏名
採登 三	金	三六、五、七	北都留郡丹波山村 東山梨郡神金村	岩田吉助	
同 一九	同	二七、一二、二五	東山梨郡神金村	甲府市下愛宕町五十七	
同 二〇	同	二九、六、二五	同	牛込區市ヶ谷左内町	中井榮次郎
同 二	同	三八、一一、二〇	同	京橋區新富町六ノ二	石本兵藏
同 三二	重石	四三、一一、九	同	芝區櫻田本鄉町十五	副島延一

十一萬二千坪　十一萬九千八百八十坪　二萬千九百三十五坪　四萬八千四百二十坪　十二萬三千二百六十坪

水源地鑛業ニ關スル經過（市水道課調）

一、大正五年七月四日東京市鑛務署ニ對シ水源地域タル山梨縣東山梨郡北都留郡及東京府西多摩郡内ニ於テ鑛業許可相成居候モノ及目下出願中ノモノニ付鑛區竝ニ試掘又ハ採掘ノ別及事業設計概要出願者又ハ試掘權者ノ氏名住所許可年月日及命令書ノ内容取調方本市照會ニ對シ同月二十一日回答アリメリ

一、大正五年九月二十九日付ヲ以テ大正五年六月十八日鑛業權者副島延一代理人三浦養治ヨリ鑛山用借地及同七月重石採掘鑛山通路使用竝開墾願書ニ連署ノ件同八月十五日山梨縣東山梨郡神金村外二ケ村恩賜縣有財産保護組合長田邊國太郎ヨリ右礦業用立木拂下ノ件出願ニ對シ參事會ノ議決ヲ經テ副島延一ニ對シテハ承認縣致旨田邊國太郎ニ對シテハ詮議縣致旨指令セリ

一、大正五年十月二日水源地ニ於ケル鑛業權取消方參事會議決（九月二十九日）ヲ經テ農商務大臣ヘ上申セリ右ニ對シ大正六年六月九日付ヲ以テ大正五年十月二日水發第六〇七號ヲ以テ上申相成候山梨縣東山梨郡神金村及北都留郡丹波山村所在ノ鑛業權取消方ニ關スル件ハ山梨縣採掘權登錄第四〇號鑛業權者伊藤宗平ノ分ハ其所在地ノ關係上水道水源林ニ影響ナク其他ノ五鑛區ハ右地方ヲ以テ貴市水道ニ對スル公益上害アリトシテ鑛業不許可地ト決定シタル明治四十五年以前ヨリ存在スルモノニシテ其當時ニ於テ採業ニ際シ相當取締ヲ爲サハ支障ナキモノトシテ今日ニ及ヒタルモノニ有之且今回東京鑛務署ノ實地調査ノ結果ニ依ルモ鑛業方法及程度ノ如何ニ依リ飲料水及水源林經營ノ何レニモ障害ヲ及スコトナク採業セシメ得ルモノト認メラルヽヲ以テ其範圍内ニ於テ採業セシメ嚴重取締ヲ爲スコトヽ相成候條右ニ御了知相成度農商務省鑛山局長ヨリ依命通牒アリタリ

一、大正五年十月二十八日鑛業權者中井榮次郎及ヒ石本兵藏ヨリ鑛業建築用材拂下願ニ對シ參事會ノ議決ヲ經テ承認縣致旨指令セリ

一、大正六年七月五日水源地鑛業採業ニ關シ各鑛業權者ニ對シ特ニ左記事項（自一項至八項）御命令相成候樣致度旨農商務大臣ニ再上申セリ（事項略ス）右ニ對シ七月二十八日付ヲ以テ本七月五日付水發第六〇七號ノ二ヲ以テ農商務省ヨリ通牒ノ次第有之ニ付上申事項中一、二、三、八ニ付テハ御意見ノ趣旨ニ基キ取締ヲ爲スヘク其他ハ實際ノ狀況ニ應シ相當ノ措置ヲ採ルヘキ見込ニ有之候條御了知相成度旨東京鑛務署長ヨリ通知アリタリ

一、大正六年九月十三日山梨縣採掘登錄第二號外二鑛區鑛業權代表者石本兵藏ヨリ鑛業方法ヲ以テ將來ニ於ケル水源林ノ經營ニ支障ヲ及ホスヘシト東京鑛務署ヨリ命令アリタリ

投棄又ハ流逸セシムヘカラス適當ノ方法ヲ以テ將來ヲ保持スヘシト東京鑛務署ヨリ命令アリタリ

一、大正六年十月九日付山梨縣採掘權登錄第十九號第二十號鑛業權者代表者石本兵藏右鑛區ノ鑛業用坑口開鑿捨石堆積場鑛滓堆積場火藥假藏所、事務所、坑夫小屋排水坑管敷設鑛滓沈澱槽ノ數地用トシテ使用出願有之候處左記土地ニ對シ本日其使用ヲ許可シタルニ付別紙圖面相添ヘ鑛業法第五十六條第三項ニ依リ東京鑛務署長ヨリ通知アリタリ

記

一、使用土地坪數二千百八坪

一、使用期間許可ノ日ヨリ滿三ケ年間

一、大正六年十月三十日付ヲ以テ鑛業權者代表者石本兵藏ヨリ大正六年十月九日ヲ以テ東京鑛務署長ヨリ許可セラレタル黒川金山鑛業用地二千百八坪ノ使用料相當地代御決定相成度旨御伺同十一月十四日付右鑛業用地使用許可區域内立木五十七本此材積八十一尺〆三三五拂下方市長ニ願出テタリ市會ニ提案（用地課主管）審査中ニ屬ス

第六、萩原山ノ林況

概シテ多摩川ノ水源地方ニハ針葉樹極メテ少ク偶々密林アルトモ濶葉樹林モ丹波山村内ニ多ク、上流タル萩原山中第一ノ高峰ナル鶏冠山ニ攀登シテ四圍ヲ觀望セハ茫々トシテ圓丘起伏シ、萩原山ハ實ニ禿原山タリ

落合部落ノ内馬場苗圃附近ノ落葉松林ヲ視察セルカ該林ハ府有林時代明治三十七年府カ二三年生ヲ移植シタルモノナルモ今ヤ目通リ二尺内外トナリ其高サ數丈、鬱蒼トシテ育成シ、樹下落葉堆積シテ毛氈ノ如ク、林相極メテ良好ニシテ此ノ附近三四年生ノ植栽ノ檜唐松共ニ成績亦可也、又夕泉水谷大沼ニ於テ府有後明治四十年乃至四十二年ニ植栽シタル落葉松及檜ハ之レ亦其ノ生育大體良好ニシテ四十二年植栽ノ檜ノ根廻リ七八寸乃至一尺アリ、之等ヨリ察スレハ本市カ現下植栽シツヽアル造林モ二十年後ニハ鬱綠密林ヲ以テ萩原山ヲ蔽フニ至ルヘキ理數タリ、餘ス所ハ維持經營ノ如何ノ問題ノミ

第七、丹波山、小菅、氷川三村ノ市有林

西多摩郡氷川村地内及北都留郡丹波山村、小菅村地内ノ市有林等ハ初メ東京府カ水源滌養ノ目的ヲ以テ明治三十三年御料局ヨリ譲受ケタルモノニシテ合計六百六十九町二反三畝二十歩アリ時ノ買收價格ハ金六千圓ニシテ府ハ明治四十四年マテ重利法計算ニテ約

十六萬圓ヲ水源ニ費セシカ同年ニ至リ府ハ市ノ要求ニ從ヒ二十二萬圓ニテ譲渡セラレタルモノ也

此ノ三村地内ノ中ニ就テ最モ注目ニ値スルモノハ丹波山ノ自然林也、大凡東山梨ト北都留ノ郡境ヨリ本流ニ添フテ下リ、府ト山梨縣トノ境界ニ至ルマテハ、岸壁高ク、澗葉樹密生シテ天ニ朝シ、谿深ク岩固クシテ水溜濁セス、所謂神代ノ森ハ連綿數里ニ長堤シ、林種優秀ナラスト雖懸崖ニ密生頑着シテ水源涵養ノ目的ニ添フヘク又縦シ人工ヲ以テスルモ樹種ヲ更エテ此ノ林相ヲ形成スルハ甚タ困難ナルヘシ

次ニ小菅村ハ多摩川ノ南岸ニ在リテ丹波山ヨリ大菩薩峠ヲ超エ鹽山ニ入ル裏街道ニシテ其ノ沿岸ニハ民地開墾地又ハ崩壊ノ個所多ク出水ノ爲メ河底ニ堆積セル土砂ヲ流ス等溜濁ノ度亦多ク造林砂防ノ事業ト河底浚渫ノ必要アルモノ也、氷川村及小菅村地内ノ山林ハ未タ實地踏査セサル所ナレハ報告ノ資料ナシ

第八、小河内ノ市有林

西多摩郡小河内村地内ニ於ケル市有林ハ御料林タリシモノ及ヒ民有林タリシモノアリ、御料林タリシモノハ大字原ノ檜尾、同川野同留浦及ヒ氷川古里ノ兩村ノモノト合併シ六百九町歩ヲ四千七百九十八圓ニテ明治四十三年十一月御料局ヨリ譲受ケタルモノニシテ民有林ハ大正二年五月、四百五十一町九反九畝十歩、此代金貳萬貳千圓ニテ買受ケタルモノ也此民有地中最大ナルモノハ字天神山也一帶ニ無立木地ニシテ最近二三年來繼續シテ植栽事業ヲ爲シ居レリ

第九　苗圃及移植

植栽事業ノ爲メニ要スル苗圃ハ落合、原（小河内村）氷川、棚澤（古里村）青梅、霞ノ六箇所アリ水源地經營ノ當初ニ在リテハ棚澤、氷川、小河内ノ三苗圃ナリシカ植栽事業ノ進捗ニ伴ヒ增設シタルモノニシテ青梅ニテハ扁柏落葉松ノ種子ヲ播種シ落合其他ニテハ二年生扁柏、落葉松、赤松等ノ苗木ヲ購入移植ス、尤モ總テ苗木ハ地位ノ高低ニ伴フ氣候ノ寒暖ニ應スル爲メ苗圃ニテ一應風土ニ慣ラシ其ノ附近ニ植栽スル方針ヲ採リ居レリ、蓋シ此ノ方針ハ最モ適當ナルヘシト信セラルヽハ昨年天神山（海抜凡二千尺）ニ植栽スル苗木トシテ落合苗圃（三千八百尺）ノモノヲ用ヒタルカ成績不良ナルニテモ知ラル、故ニ進ンテハ其地ニテ播種栽培スルヲ有利トセン現在苗圃圖總面積約二十五町歩アリ就中落合ノモノ最モ廣シ

水道水源地内市有林
部分林森林面積調表

林種	山梨縣下	東京府下	合計
	市有林	市有林部分林	計
立木地	九、三二〇・三九 町	六八八・三〇 町	六九五・一九 町
散生地	四九六・一九	—	四九六・一九
無立木地	一、三〇九・一六	—	一、三〇九・一六
造林地	一、三四一・三六	五〇一・七〇	一、八四三・〇六
苗圃	二〇・〇〇	—	二〇・〇〇
崩壊地岩石地沼地	一、二三一・五九	三〇一・五〇	一、五三三・〇九
水流地	二一〇・七四	—	二一〇・七四
合計	一三、九二九・四三	一、四三〇・〇〇	一五、三五九・四三

備考　東京府下ノ分ハ測量調査全部終了セサル爲見込面積ヲ掲ク

自大正七年度至大正十一年度　造林豫定表					
年度	村	字	林別	植栽豫定面積	樹種	本數	備考
大正七年	小河内	大むそ	市有林	五町 〇〇〇〇	扁柏	二二、五〇〇	
同	神金	萩原山	同	一二五 〇〇〇〇	花柏 扁柏 落葉松	二一、〇〇〇 四二、〇〇〇 六二、〇〇〇	町 九四、五〇〇 一八九、〇〇〇 二七九、〇〇〇 本

大正十年	計	同	同	同	同	大正九年	計	同	同	同	同	大正八年	計	同	同	同	同	大正七年
小河内		小菅	丹波山	静金	小河内	小河内		小菅	丹波山	静金	小河内	小河内		小菅	丹波山	静金	小河内	丹波山
芽岩		川入	小室川	蕨原山	芽岩	芽岩		奈良倉	奥後山	蕨原山	芽岩	温ノ入		川入	奥後山	蕨原山	温ノ入	丹波山
市有林		同	同	同	市有林	市有林		同	同	同	市有林	市有林		同	同	同	市有林	同
局柏	一、六〇二、二四五	落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏	局柏	局柏	九一一、九二五	落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏	局柏	局柏	七二〇、〇〇〇	落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏	局柏	落葉松柏
五一、五七〇		五八、五〇〇	九〇、〇〇〇	八二、〇〇〇	二九、七四五	五八、五〇〇	九、一一、九二五	九九、〇〇〇	四九、五〇〇	七三八、〇〇〇	二九、七四五	二五、四二五	一、一三六、七四五	七六、五〇〇	六三、〇〇〇	九、〇〇〇	二九、七四五	七八、五〇〇
落葉松柏		落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏花	落葉松柏	落葉松柏		落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏花	落葉松柏	落葉松柏		落葉松柏	落葉松柏	落葉松柏花	落葉松柏	落葉松柏
		六七、〇〇〇	一一、〇〇〇	二四、〇〇〇		六七、〇〇〇		一一、〇〇〇	四七、〇〇〇	八五二、二五七、〇〇〇		八九、〇〇〇		六七、〇〇〇	一三、八一、〇〇〇	八五二、八八九、〇〇〇		三一二、七一、〇五〇
		三四、六〇、〇五〇	四四、九九、五五〇	三二二、六四二、九七一、〇五五		三四、六〇、〇五〇		四四、九九、五五〇	一三、八一、〇五〇	三二二、六四二、九七一、〇五五		四九、九四、五〇〇		三四、六〇、〇五〇	四九、九四、五〇〇	三二二、六四三、六一〇、〇五〇		三一二、七一、〇五〇
		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇		〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇		〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇		〇〇〇

備考　前表ノ外東京府下ニ於テ氷川村小中山（鑿候面積百六十八町二反六畝二十九歩）ヘ大正七年部分森設定ノ見込ニ付右設定ノ上ヘ大正八年度歩スル見込

ニ於テ三十町歩（局柏十三萬五千本）ヘ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル各年度ニ於テ約四十六町九畝歩ヘ局柏二十一萬一千五十本ヲ造林ス

第十、水力電氣事業

大正年間　第七章　大正七年　第七節　市政擁護委員會報告

許可セラレタルモノハ最モ上流丹波川ヲ利用スルモノナレトモ之ハ起業スルニ至ラサルヘク、既ニ起業セルモノハ西多摩川氷川村

許可セラレタルモノハ最モ上流丹波川ヲ利用スルモノニアリ出願中ノモノ及ヒ起業セラレタルモノハ多摩川本流ニ於ケル水力電氣事業ヘ出願中ノモノ許可セラレタルモノ

地内ニ存シ、發電所ハ氷川村ノ青梅街道ヲ去ル南十丁許リ大澤入（地名）ニアリ、其出力十七馬力半、資本金壹萬參千圓ノ株式會社ニシテ電燈取付三百四五十燈ヲ氷川村ニ點ス、之ノ水力電氣ハ規模モ極メテ小ニシテ且ハ地元住民ノ利便ニ供セラレ水源經營上ニモ支障少ナキヲ以テ本市ハ其許可ニ差支ナキ旨其筋ニ答申シタレトモ目下出願中ノ水力電氣ニ就テハ大規模ナルヲ以テ考慮ヲ要スヘキ點多シ

其ノ水力電氣事業ノ出願中ノ設計ニ依レハ水路ヲ二個トシ第一水路ハ氷川村水根澤ヨリ氷川村日原川口マテ三千百間此落差二百二十四尺ヲ以テ第一發電所トシ更ニ日原川合流點ヨリ古里村棚澤間千八百二十間此落差百二十八尺ヲ以テ第二發電所ヲ設ケ合計八千五百七馬力ヲ得ントス此ノ事業ハ大正五年十二月出願セラレ六年四月二十日鑑督官廳ヨリ市ニ照會アリタルヲ以テ市ハ水源經營上支障アルヘキヲ以テ不許可ノ申請ヲナシタルモ仄聞スル所ニ依レハ府ハ支障ナキ旨ノ意見ヲ有スルカ如シ

論　　査

第一、萩原山住民ノ生活及衞生問題　萩原山中ノ住民ノ生計ハ林業ニ依ルコト既述ノ如シト雖舊幕時代ヨリ住民ハ地内ノ山林ヲ伐材シ來リ國有林トナリ御料林トナレル後モ平然之ヲ繼ケ居レリ、サレハ世人ハ之ヲ目シテ盜伐トナシ罪人ヲ以テ彼等ヲ擬スルニ至リシト雖其歷史ニ鑑レハ事情斯ノ如キモノアリ、今ヤ市有林トナリ住民ハ所謂盜伐ノ材ヲ得ル途無ク只タ市ノ造林經營ノ事業ニ雇ハレテ糊口ノ資ヲ得ツヽアリ飜ツテ市ノ側ヨリ見ルモ彼ノ山中ニ住民ヲ有スルハ植林伐材等ノ經營ニ要スル勞働者ヲ得ル方便ノ爲メ最モ必要ナルコトナレハ、本市ニ於テハ水源在住ノ土民ヲ指導教養シ爲メニ生活ノ方途ヲ考究スルモ亦水源林ノ保護及發達ノ爲メ考慮ノ中ニ置カサルヘカラサル事項ナリトス、次ニ同地住民中最モ脈フヘキ癩病ノ如キ疾患ヲ有スルモノアリ、又生活狀態ノ低級ナル爲メ一度流行性傳染病ノ起ルアラハ甚タ怖ルヘキ結果ヲ齎スヲ以テ住民ノ衞生狀態ノ改善ニ就テモ本市當局者ノ適宜ナル處置ヲ必要トスヘキモノアルヲ認メラル

第二、鑛業權問題　水源地ニ於ケル鑛物採堀事業ノ概況及ヒ鑛業權行使竝其取締ニ就テハ前述ノ如シ思フニ水源地經營上鑛業ニ關シ最モ考慮セラルヘカラサル重大ナルモノハ（一）鑛毒ノ浸流（二）伐材及燒失ニ依ル山林ノ荒廢（三）土地崩壞（四）汚物ノ混流等ナリ然ルニ既得ノ鑛業權ヲ監督官廳カ重大ナル理由無ク取消スハ爲シ難キ所ナルモ亦許可アリタリトモ施業ノ範圍極メテ制限セラレ居ルコトハ之レ亦別ニ記載セル如シ殊ニ龍蛇ノ金鑛ハ全然放棄セラレアルモノノ如ク重石鑛山モ過去ノ成績ニ徵シ極メテ有望ナラスト認メラルヽノミナラス鑑督官廳ノ施業ニ對スル制限取締モアルヲ以テ本市ノ憂トスルニ足ラスト思料ス

次ニ最モ重要視セラレタル黒川金山ノ經營者ハ種々ノ計畫經營ヲ威嚇的ニ發表シ居レトモ久シク施業ヲ中止シテ荒廢シ而カモ鑛脈極メテ疎薄ニシテ斷續シ、專門家ノ言ヲ徵スルニ鑛量亦甚タ少ク金鑛トシテ最少限度ノ含有量ヲ有スヤ疑問ナリト稱セラル、往昔ニ於テモ武田氏カ此處ニ金坑ヲ開キタルハ國境上ニ於ケル防衞ヲ主トシテ經營セラレタルモノニシテ採鑛事業ノ利得ノ有無ハ眼中ニ無カリシト傳說及史家ハ論斷スルアリ、縱シ又採鑛ヲ再開スルトモ從業者及ヒ其行動ニ制限セラルヽアリ、採鑛及ヒ撰鑛ノ外精鍊事業ヲ行フ能ハス單ニ賣鑛經營トスルナラハ收支償フヘカラサルヲ以テ冒險家ト雖モ爲サヽル所ナルヘシ殊ニ此ノ地層ハ石英閃綠岩ニシテ水ヲ涸渴スルコト比較的少シ、尙水道水源地ニ於ケル鑛業權ハ縱シ其筋ニ於テ權利者ノ權利ヲ尊重シテ之ヲ取消ス如キコトニ爲サストモ其ノ行使ニ際シ水源經營ニ支障ヲ與フヘキ惧レアラハ監督官廳ニ上申シテ最モ嚴重ナル取締ヲ行ハシメ權利者ヨリ出願ニ係ル立木ノ伐材、土地通路ノ使用等モ法令ノ範圍ニ於テ或ハ不許可トシ或ハ止ムヲ得ス許可セハ最少限度ニ止ムルノ方策ヲ講スルヲ必要ナリト認ム

第三、植栽及伐材　植栽及伐材ニ就テハ小河内村天神山及萩原山ノ内高橋山ヲ例擧論査セン

由來針葉樹生育地位ノ高度ハ杉ハ海拔二三千尺、檜ハ三四千尺ヲ限度トシ、四五千尺以上ハ落葉松ト交植シ、五六千尺以上ハ熊笹雜木ノ自然狀態ニ委スルヲ通常トス、而シテ天神山ハ海拔二千餘百尺ナレハ杉檜共ニ能ク生長スヘキ地帶ナレトモ破岩裂岩多ケレハ生育ニ難キ所アリ、天神山附近ノ植栽ハ成績不良ノ處アルヲ觀取セラル之レ苗木植付ノ期節又ハ地味及氣候等ニ適順セサル苗木ヲ植栽セル理由モアラン、又大正四年度植栽ニ係ル二三尺ノ檜ハ概シテ蔓草纏ハリ殆ト枯死ノ觀アリ、尙ホ一般ニ民有地ノ下草能

ク刈掃セラレアルニ反シ市有林ハ雜草木ト苗木共生區分シ難キカ如キ、或ハ苗木植栽ノ密度高ク、其ノ間隔近接セルカ爲メ數年ニシテ隣樹ト枝ヲ交エ其ノ生育ヲ妨クルモノアルカ如キ或ハ防火設備ニ供セラルヘキ林道ノ福員甚狹クシテ將來山火事ノ起ルアラハ如何ニシテ抑止スヘキカノ憂ヲ抱カシムルカ如キ等植林養成上ノ注意未タ周到ナラサルモノアルヲ認メラル、所多シ次ニ高橋山方面ノ大正五年度ノ植栽ノ檜ハ大部分枯死セルアリ之レ五年二月頃ノ寒風ハ特ニ凜烈ナリシカ爲メナリト云ヘト按スルニ防風的ノ喬木無カリシモ其ノ一因ナリト思料ス、之ニ鑑テ苗木植栽ニ際シ濶葉喬木ヲ伐材スルハ頗ル考慮ヲ要スルモノ多シ、蓋シ此ノ喬木ヲ伐材スルニ當リテ必スヤ地面ヲ損傷シ其ノ傾斜地ニ於テハ爲メニ崩壞ノ因ヲ造リ河水ヲ溷濁スルノ惧レヲ生シ且適當ナル防風施設ヲ失フニ至ラン

第四、水力電氣ノ企業　從來本市ノ多摩川ヲ利用スル水力電氣ノ企業ニ對スル方針ハ之ヲ抑止スルニ在リタリ唯タ地元住民ノ便宜ノ爲メ本市水道經營ニ支障無キ範圍ニ於テ許容セラレタルモノ二アルノミ

蓋シ水源地ヲ貫流スルモノヲ擧ケテ水力電氣發生ノ資ニ供スルハ自然ヲ利用スル點ニ於テ好施設タルニ相違無キモ本市水道事業ニ如何ナル影響アルカハ之レ頗ル重大ナル問題ナルヲ以テ愼重ニ考究スルノ必要アリ、本市水源ニ廣大ナル市有地ヲ特ニ購ヒ造林砂防ノ諸施設ヲ爲シ水量ノ增加ト其ノ平均調節トヲ計リ居ルヲ以テ之ヲ水力電氣事業ヨリ見レハ則チ其ノ爲ニ最モ必要ニシテ適宜ナル施設ヲ爲シツヽアルモノ也、サレハ調査ノ末、水力電氣ノ企業カ本市給水事業上支障アリト認ムル時ハ勿論又支障ナキニ於テハ市營發電ヲ策スルモ本市ノ公益ヲ加フル所以ナルヲ以テ私人ノ發起ニハ不許可ノ方針ヲ採ルヲ至當ナリト認ム

第五、水源經營ノ目的ト事業計畫　惟フニ水源經營ハ二大目的ヲ有ス、一ハ水量ノ問題ニシテ他ハ水質ノ問題也、前者ハ水量ヲ增大シ而カモ晴雨四時ノ調節ヲ得ルニ在リ、後者ハ溷濁ヲ防キ清淨ヲ保ツニアリ、依ツテ前者ノ爲メニハ造林ヲ努メ河流一帶ノ地主ニハ造林ヲ助長奬勵ノ政策ヲ採リ後者ノ爲メニハ沿岸住民ノ衞生保健砂防ノ設備、水路土砂ノ浚渫等ヲ實行セサルヘカラス、然カモ前者ノ施設工程完成シ針葉樹ノ喬林欝蒼タルニ至ラハ後者自ラ其實現ヲ見ルヘシト雖、所詮ハ兩者双備ヲ期セサルヘカラス、サレハ造林事業モ三十年計畫ヲ高唱シ速成的ニ林產收入ヲ計畫スルハ必スシモ不可ナラスト雖モ主要ナル目的トシテハ可ナル所以ヲ觀ス

翻ツテ本市水道水源經營ノ當初ニ於テ決定シタル三大方針ノ內(一)「御料林及府有林ハ市自ラ經營シ私有地ハ適宜ノ方法ニ依リ造林ノ實行ヲ期ス」ルコトハ稍其ノ緒ニ就キ、(二)「前項ノ經營ヲ實行スル爲メニ水源地方ニ特別機關ヲ置ク」コトハ略ホ完成シ(三)「水源地經營ニ關スル收支ハ總テ特別會計トシ收支相償フニ至ルマテ每年金八萬圓ヲ限度トシ水道準備金ヨリ支出ス」ルハ計畫方針全然斯ノ如クナラスト雖過去ニ於テハ大體之ヲ誤ラサリキ、尤モ將來ニ於テハ斯ク巨額ノ資金ヲ年々水源地方ニ投スル必要無ク又事業工程ノ期間ヲ延長スルヲ適宜ナリト認ム、然リト雖モ現方針ハ改定スルノ要アリト覈考ス要スルニ過去ノ實績ニ徵シ濶葉樹帶ノ林相ヲ更新スルノ現方針ヲ廢止シ且現在ノ植林工程ヲ延長シ以テ最モ有效ニ水源涵養ノ目的ヲ達セシムルニ在リト思料ス

水源林事業調

種別＼年度	明治四十三年度	同四十四年度	大正元年度	同二年度	同三年度	同四年度	同五年度
新植 反別	五三、〇〇〇〇町	四四、〇〇〇〇町	二〇一、五〇〇〇町	二一〇、〇〇〇〇町	三三三、五〇〇〇町	四一四、二一一四町	三九一、〇〇〇〇町
新植 苗數	二四六、五〇〇	一七九、九〇七	九二四、八八五	九三四、七〇〇	一、五三六、二五〇	一、九一六、二七〇	一、六八五、五五〇
補植 反別		五二、〇〇〇〇	一七三、〇〇〇〇	二九、六〇〇〇	三三八、四〇〇〇	六四五、九〇〇〇	五一一、〇〇〇〇
補植 苗數		六六、八五一	五八、八二〇	三四、一〇〇	三〇四、二八〇	五〇二、九五〇	三五三、四〇〇
手入 反別		五六、〇〇〇〇	三六五、三四〇〇	五八三、一四〇〇	一、〇六三、一六〇〇	一、五一四、三六〇〇	一、六二二、二六〇〇
苗圃 反別	〇、九二二四	一、〇六〇二	五、四〇二九	五、五七二八	一二、九九二一	二〇、九五〇四	二四、四八二八
苗圃 苗數	五五二、〇〇〇	三五八、二九四	四三二、三二五	一、七四九、八六〇	五、〇〇二、二七九	六、三四一、八八四	六、九二〇、三四五
土地購入 反別	六二二、八七二		一四、〇七一、五五〇八	四五五、二七一五	三、三四二六	一六、一八一六	一、三四〇八

境界調査及測量反別		一八三、七〇一一	二、七四、二八四	三、二八、〇一〇一	四三七、五五六	三五、四八二	三三三、二二九
林況調査反別			一、二八一、五三〇〇	四、三九二、六四〇〇	三、四九七、七四五	四、六七一、九七〇一	一、五八三、六二〇一
砂防工坪	杭柵工 〇、七三五	杭柵工 一、七〇一一	杭柵工 〇、四九六	杭柵工 一、三〇〇〇	杭柵工 〇、〇〇一八	六七、三三 面坪	杭柵工 一八四一 七面立坪 三〇五 町六八六 三五
林道間					二、二〇〇	二、四三三	
防火線（兼歩道共）間					四、一四五	七、八〇〇	四九、八八〇
崩壊地調査反別				神金村 三六、三三八	小丹波山管村 五八、八〇二	下東京府 七七、七〇八	
事務所派出所其他建築坪			一六〇、七五 坪	三〇〇、二三五 坪		五六、四 坪	
電話線架設間						五、七六九	

備考　砂防工欄中大正四年度六十七面坪三三ハ石堰堤二六、八三木石混淆堰堤一二、五〇護岸石垣二八、〇〇ナリ
又大正五年ニ於テ百四十一立坪〇五中ニハ煉積石堰堤八三、四五空積石堰堤五七、六〇ニシテ八十七面坪三三ハ張石二四、三三護岸石垣六三〇〇面坪ナリ

其二、現在ノ水道ニ關スル件

論　　査

第一、計量制度ヲ本位トシテ實施スヘキコト　現行給水制度ニ於テハ定額從量ノ兩本位ヲ以テシ比較的需用量ノ大ナルヘキ需用家ニ計量器ヲ取付ケ事實ニ於テハ定額ヲ本位トシ從量ハ之ニ從タルノ狀態也

然ルニ一方、一人當ノ需用率ニ就テ見ルニ、設計ノ當初ニ於テハ一日四立方尺ノ豫定ナリシカ年々增加シ五立方尺トナリ盛夏ノ候ニ於テハ噴水其他ノ贅用水ヲ休上セシメナカラ、其ノ平均ハ六立方尺以上ヲ超過シ而カモ用水量ハ人口ノ增加ニ對シテ幾何級數的ニ增大シツヽアルハ凡テノ都市ヲ通スル常態ナリトス

飜ツテ本市現在ノ送水量ハ八百萬立方尺ヲ常態トシ臨時ニ約千萬立方尺マテ送水スルコトヲ得ルモ假ニ六立方尺トセハ百三十餘萬人ヲ充タスニ過キス而シテ又擴張水道成ルノ後千八百萬立方尺ヲ送水スル豫定ナリト雖然カモ辛フシテ三百萬人ニ供給シ得ラルヽ計算ノミ、然シテ假ニ一日一人ノ使用量六立方尺ヨリ增量シテ八立方尺ニ及ハヽ二百二三十萬人ニ對スル需用ヲ滿タスニ過キサル理數也

斯ク觀シ來レハ一ハ淨水利用ノ調節ヲ計リ他ハ用量適當ノ成ル可ク低廉ナル使用料ヲ支拂ハシムル目的ヲ以テ從量制度ヲ本位ニ爲スノ至當ナルコトハ大阪其他ノ現狀ニ徵シテ明カ也、尙ホ本市ニ於テ先年試驗的ニ名譽職員、市吏員及ヒ中流以下ノ職業家ニ計量器ヲ取付ケ使用量ヲ檢査セシニ下流者ノ使用量ハ上流者ヨリ少ナカリシ事實ニ徵シ從量制度ニ爲スノ公平ニシテ必要ナルモノト認ム

水道使用戸口表

年別	戸數	推定人口	摘要
三十二年	一六、三一六	八三、二一二	三十二年ヨリ三十六年マテハ年度末現在、三十七年以降ハ各年末現在トス而シテ人口ハ專用栓ノ外ハ左ノ如ク推算セリ
三十三年	四八、二八九	二四六、二七四	
三十四年	六二、三〇六	三一七、七六〇	共用栓 自三十二年度至三十六年度　一戸四人一分
三十五年	一五一、一四五	七七二、三五一	共用栓 自三十七年至大正五年　各年末本市平均一戸人員（市統計表ニ依ル）
三十六年	一五六、一五六	七九九、五一四	計量栓　一戸十一人
三十七年	一六七、一八七	八六五、二七六	
三十八年	一七三、一四九	九〇八、六三一	
三十九年	一九一、〇一一	九九七、四九五	
四十年	二一二、五四一	一、一〇八、六二二	
四十一年	二二八、五六七	一、一七二、三九三	

四十二年	二四一、一五七	一、二一〇、三一二	
四十三年	二五八、二八九	一、二九六、五三〇	
四十四年	二七三、八一一	一、三六九、七五四	
四十五年大正元年	二八五、四三〇	一、四二六、一九一	
大正二年	二九七、五六五	一、四七二、三五六	
三年	三〇八、五〇四	一、五三〇、五七五	
四年	三一七、〇二〇	一、五四五、〇〇二	
五年	三二九、九〇八	一、七二三、八〇七	

第二、水料徴收期ノ變更及ヒ坪加現在水料ハ毎年度ヲ二期ニ分チ前期ハ五月末日、後期ハ十一月末日迄ニ整收シ毎期初月一日現在ノ標準數ニ依テ之ヲ査定シ半年間ハ開始中止、廢止ノ外ハ增減異動ニ關セサルコトトナリ居レリ（市水道使用條例第三十條及第三十一條參照）斯クノ規定カ粗放ナル結果トシテ需用家中ニハ往々其ノ標準算定ノ時期ノミ需用人數又ハ需用鍵數ヲ減少シテ負擔ノ脫免ヲ計ルアリ、又檢査員ノ檢査ニ依リ需用家ノ異動ノ爲メ現在ノ需用家ハ舊需用家ヨリ小人數ナルコト或ハ浴槽ノ廢止セラレアル等ヲ發見スルニモ係ラス舊需用家ノ使用狀態ニ基キ使用料ヲ徴收スル如キ不穩當ナル處置ヲ爲ス如キアリ、然ラストスルモ尙且調査期ハ年二回ニ過キサルヲ以テ自ラ負擔ノ整平ヲ失スル嫌アリサレハ全部從量制ヲ實施スル能ハサル時ハ水料ヲ需用家ノ人員及ヒ使用ノ如何ニ從ヒ、水道檢査員ノ調定ヲ一層嚴密ニシ決定整收スルヲ至當ナリト認ム

第三、水道檢査員ノ資格上昇　水道檢査員ハ明治三十三年法律第九號水道條例第十條乃至第十四條ニ依リ內外ニ對シ相當ナル職權ヲ有シ水道ノ保護取締竝ニ料金ノ査定其他重要ナル事務ニ從事スルモノナルヲ以テ其ノ職務ヲ勵精セシムルハ事業經營上緊切ナリト信ス殊ニ水道檢査員ハ區役所ニ於テ同一衞生掛ノ中ニ抱屬スル事務員階級ノ掃除巡視ノ職務竝ニ其ノ勤務狀態ニ比シ毫モ徑庭無シ然ルニ檢査員ハ現今雇員待遇ニシテ俸給モ月二十一圓平均也サレハ檢査員ニ對シ掃除巡視ト同樣ノ待遇ヲ與ヘ相當ナル人士ヲ得テ事務ニ努力奮勵セシムルヲ必要ナリト認ム

參照　水道條例第十三條乃至第十五條

第四、漏水ノ防止ニ努力スヘキコト　淀橋淨水所ニ於テ淨水シタルモノヲ市內ニ供給セル水量ノ一割三分弱ハ需用家ノ水栓ニ達セサル間ニ漏水スルモノナルコトハ大正二年ヨリ大正五年ニ亘ル調査ニ依リテ發見セラレタリ然リ而シテ漏水ノ原因ハ送水管又ハ附屬器具ノ破損ニ基クモノヨリ寧ロ多クシテ從ツテ被害ノ大ナルモノハ鉛管ノ龜裂外傷等ニ基ク破損ニシテ漏水量二割七分ニ達セルモノアリ殊ニ鉛管ノ龜裂多キハ購入時ニ檢査粗漏ノ爲メナリト信ス斯クノ如ク送水量ノ二割カ漏水スルハ由々シキ大事ナルヲ以テ理事者ハ益々適當ナル施設ヲ講シテ其ノ防止ニ努メサルヘカラス

參照　給水管漏水調査表

給水管漏水調査成績表

種別		破損箇所數 箇所數	割合	漏水量 一時間（立方米）	一晝夜（立方尺）	割合	備考
鉛管破損	龜裂	三二二	・二一七	一八二	六六五	・二六八	調査期間　自大正二年二月七日　至大正五年十二月二十五日
	外傷	二二九	・一五四	一四五	四五九	・二一四	總給水人口　一、一五〇、四八四人
	接合	一九七	・一三三	九四	一八五	・一三八	總給水戶數　二二八、六〇八戶
	腐蝕	三	・〇〇二	二	五五〇	・〇〇四	平均一戶人口　五人二厘
分水栓破損		八四	・〇五七	三〇	二一三	・〇四四	專用及計量栓總數　一三七、三二九基
水止栓破損		三二〇	・二一六	八〇	六〇五	・一一八	市設及私設共用栓總數　八、八一五
水栓口及バルブ皮破損		一一二	・〇七六	三五	七六〇	・〇五二	給水量（一人四立方尺ヲ以テ概算）　四、六〇一、九三六立方尺

自在接合、玉ゴム、輪ゴム破損其他	一六四	・一一一	五一	六二五	四四、六〇四	〇四〇	・〇七六
阻水弁破損	八	・〇〇五	八	七五〇	七、五六〇	〇〇〇	・〇一二
安全弁破損	二	・〇〇一	一	七五〇	一、五一二	〇〇〇	・〇〇三
鐵管接合異狀	一五	・〇一〇	三三	四一〇	二八、八六六	二四〇	・〇四九
鐵柱內鉛管破損	一五	・〇一〇	四	九八〇	四、三〇二	七二〇	・〇〇七
木柱內同	二	・〇〇一	一	三〇〇	一、一二三	二〇〇	・〇〇二
共用栓螺軸破損	二	・〇〇一		五五〇	四七五	二〇〇	・〇〇一
分水皮破損	四	・〇〇三	一	四五〇	一、二五二	八〇〇	・〇〇二
鐵柱內分銅破損	二	・〇〇一	三	八〇〇	三、二八三	二〇〇	・〇〇六
其他	三	・〇〇二	二	一五〇	一、八五七	六〇〇	・〇〇三
合計	一、四八四	一・〇〇〇	六八一	二〇二	五八八、五三二	六八〇	一・〇〇〇
漏水量					五八八、五三二		
給水量ニ對スル漏水量ノ割合					一割二分七厘		

共三、擴張水道ニ關スル件

一、事業完成期ノ遲延ト排水ノ利用　擴張水道事業ハ大正二年六月二十四日ノ市會ニ於テ議決セラレタルモノニシテ當時ハ大正二年度ヨリ八年度迄即チ七箇年ニシテ完成ノ豫定ナリキ

然ルニ大正二年度ニ於テ其ノ筋ノ豫算執行ノ認可指令五箇月間遲延セシ爲メ先ツ工程ノ遲滯ヲ生シ大正三年度ニ於テハ歐洲變亂突發ノ爲メ阪谷市長ハ本事業ノ年度割及支出方法ヲ變更シ事業ノ繰延ヲ行ヒタルノ外土地買收ノ事務亦進捗セス大正四年度ニ入リテハ前年度ノ繰越事業ヲ施行中九月二十三日ノ市會議決ヲ以テ奧田市長ハ事業ノ繰延縮少ヲ斷行シ大正五年度ニ入リテモ往年ノ事情依然トシテ變推セス戰亂益々擴大シ募債爲シ難キ見込ニ依リ大正六年一月ノ市會ニ於テ大正八年度迄ノ完成期十年度迄ニ延長シタリ

即チ過去ニ於ケル事業ノ遲延繰延ノ狀斯クノ如シ、而シテ工事材料ノ暴騰ハ益々激シク殊ニ鐵管ノ如キハ和田堀淨水池ヨリ市內送配線ノミニテ貳千萬圓以上ノ騰差ヲ生セルヲ以テ今日マテノ遲延ヲノミ恢復スルトシテモ尙ホ二年位完成期遲延スルノ餘儀ナキニ至ラン

サレハ本市ハ此ノ間ノ需用ノ方途ヲ調節スル策トシテモ現時廢棄シツヽアル排水ヲ利用スルノ施設ヲ爲シ供給量ヲ增加スルノ處置ヲ講スルヲ急務ナリト認ム

二、事業ノ不進捗ト事務費ノ支出　上水擴張事業カ種々ノ故障ノ爲メ豫定ノ如ク進捗セサルハ既ニ述ヘタル所ノ如シ然レトモ斯カル繼續事業ノ大工事ニ際シテハ動モスレハ事業ノ進捗セサルニモ係ハラス事務費ノミ徒ニ支出スルノ弊習アリ依ツテ本事業ノ成績ヲ數字ニ就テ査覈スルニ左表ノ如シ

年度		豫算額	決算額	豫算ニ對スル決算ノ比例
大正二	事務費	円 一六七、七四〇	円 三三、一〇七、七四	〇、一九七
	工事費	六六六、一四九	九、八九九、二〇	〇、〇一四
大正三	事務費	一四四、九五九	一〇八、一八三、九五	〇、七五三
	工事費	八五四、〇四一	二六、七〇八、三四	〇、〇三一
大正四	事務費	一六三、八六一	七五、二四四、八〇	〇、四五九
	工事費	二、五五八、六八八	五九五、三〇四、七四	〇、二三二
大正五	事務費	七五、四九〇	六三、四九七、四〇	〇、八四一
	工事費	一、四六一、四五〇	三二七、七九八、〇〇	〇、二二四

即チ大正二年度ニ於テハ其筋ノ施行認可期大ニ遲延セシカハ工事費ハ九千九百圓ナルニ事務費ヲ參萬參千圓支出シ、大正三年度ニ於テハ工事費ハ貳萬六千餘圓ナルニ事務費ヲ拾萬八千餘圓即チ四倍餘支出セリ大正四年度ニ於テハ工事ハ二割三分餘ヲ爲シタルニ

事務費ハ四割六分ヲ費シ大正五年度ニ於テハ工事費ハ二割二分餘ナルニ事務費ハ八割四分餘ヲ費シタリ斯カル豫算ハ勿論相當ナル順序ヲ經テ執行シタルニハ相違無キモ工程進捗セサルニ獨リ斯ノ如ク事務費ヲノミ支出スレハ市費ヲ濫費スルノ譏ヲ免レス故ニ理事者ハ之ニ鑑ミ一層誠意ヲ以テ豫算執行ニ努力セラレンコトヲ望ム

水道經濟ノ資本及ヒ收支計算（參考）

由來公企業ノ會計ハ一般會計ノ一部トシテ取扱ハル、ヲ原則トスト雖特殊ノ企業ニ付テハ其ノ經營ノ爲メニ特ニ一般會計ヨリ分離シテ特別會計ヲ立テシム、本市亦タ斯クノ如ク水道會計ハ古クヨリ特別會計トシテ整理シ來リシヲ以テ從ツテ其ノ計理ノ方法亦豫算決算ニ於テハ明カナリト雖元來水道事業ノ如キハ市ノ營業ナルニ依リ、其ノ經營ノ功過ヲ觀察スルニハ營利事業ノ計理法ニ準シ其ノ資本及ヒ收支計算ヲ常ニ審究スルノ必要アリ、依ツテ玆ニ試ニ大正四、五兩年度ノ現在及ヒ決算ニ依リ資本勘定竝ニ收支勘定ヲ表示シ總損益勘定ヲ計出スレハ左表ノ如シ

之ニ依リ之ヲ觀レハ水道經濟ハ既ニ資本勘定ニ於テ負債タル公債（資金）ヲ殆ト償還シ盡シ而カモ現在存スル財產總額千四百萬圓ハ悉ク利益積立金ノ變形セルモノナリトノ觀察ヲ下シ得ヘシ、但シ建物淨水竝配水設備、水源林、貯藏品、貸付器具、備消品等ノ實價カ果シテ計上額タケアルヤ否ヤハ暫ク調查外ノ問題トシ置クヘシ、資本勘定ニシテ既ニ斯クノ如クナルヲ以テ收支勘定ノ上ヨリ見ルニ諸稅金減損補塡金等ヲ支拂フ計算トスルモ每年百餘萬圓ノ純利益ヲ得ヘキ理數タリ

大正五年三月三十一日現在東京市水道事業資產負債對照表

資產			負債		
種目	金額		種目	金額	
有價證券	四二〇、二八六	円	水道準備積立金	三、四七九、五二九	円
貸付金	二、三五五、七五六	〇〇〇	繰越資金	一一、〇〇七、五七七	五六四
				九三七	〇〇〇
預金	七二一、四八七	三六四	本年度剩餘金	五四〇	〇〇〇
土地	七四二、四一七	二二〇			
建物	二三二、九六八	一七〇			
淨水竝配水設備	八、二八八、五三八	七一二			
水源林經營費	二八三、〇八〇	七二三			
貯藏量水器竝諸材料	三四八、〇九三	二一			
貸付量水器	七一九、九六九	七五九			
備品及消耗品	三八七、五三九	〇九二			
未收入金	四、九七〇	九四〇			
現在金	五四〇	〇〇〇			
計	一四、五〇五、六四七	五〇一	計	一四、五〇五、六四七	五〇一

損益勘定（大正四年度）

收入			支出		
科目	金額		科目	金額	
財產ヨリ生スル收入	一七二、二一二	円八〇〇	俸給	六一、六四六	円〇〇〇
使用料及手數料	一、六一〇、八二一	六一〇	雜給	一三五、四一五	九〇〇
工費收入	三四九、七二五	三八〇	事務費	一八、〇八七	五三〇
雜收入	七八、五〇〇	六四〇	諸費	四、九三六	二四四
國庫補助金	一〇、〇〇〇	〇〇〇	營繕費	一五、二一〇	四七五

種別	金額
有價證券	三一、三七〇円
貸付金	三、〇二六、〇〇〇
未收入金	八七九、〇〇〇
現在金	二、〇〇〇、〇〇〇
計	一五三七、一五六四七九

種別	金額
土地	七四二、四一七、〇二〇
建物	二三六、九八四、六三〇
浮水道設備	八、三四二、五二〇、〇一一
水源林調查費	三一、五七三、六三二
貸付器具	七四五、一八六、一五四
貯藏品及消耗品	三四四、五九八、一〇〇
備品及消耗品	三八一、八三三、二五六
計	二、八四二、九一九、三五七

種別	金額
配水費	三六二、九三七、四九二
維持費	四九、〇四四、二七七
水源林調查費	四一、八四六、六八〇
市經濟調查費	一三五、〇〇二、〇〇〇
特別給與金	八、七二五、〇七〇
雜支出	三四六、〇六〇
計	八三二、八三五、〇九
差引殘金	一、九八八、二四二、一三四

種別	金額
前年度繰越金	九二七、六一一、八五八
計	二、八四二、九一九、三五七

種別	金額
配水費	三六二、九三七、四九二
維持費	四九、〇四四、二七七
水源林調查費	四一、八四六、六八〇
市經濟調查費	一三五、〇〇二、〇〇〇
特別給與金	八、七二五、〇七〇
雜支出	三四六、〇六〇
計	八三二、八三五、〇九
差引殘金	一、九八八、二四二、一三四
內	
火災非濟金積立金	五九一、〇九〇
公債償還資金編入	三七〇、〇〇〇、〇〇〇
鐵管上水擴張費編入	六七〇、五四九、〇〇〇
下水道及河川改良費資金繰入	一四〇、〇〇〇、〇〇〇
再差引建金	八五四、七九五、二三三
內	
水道積立金へ編入	八五四、二五二、二三三
翌年度へ繰越	五四〇、〇〇〇、〇〇〇

大正年間 第七章 大正七年 第七節 市政檢查委員會報告

收入 支出

科目	金額	科目	金額
財產ヨリ生ズル收入	二、〇一七、六四一	俸給	五、五四七、四五一
使用料及手數料	一、七一五、六九〇	俸給	一三五、四九六、一〇〇
市政檢查委員會報告			一六七

大正六年三月三十一日現在東京市水道事業資產負債對照表

資產		負債	
計		計	
引殘金		引殘金	
內		內	
火災非濟金積立金		火災非濟金積立金	一九八、二四二、一三四
公債償還資金編入		公債償還資金編入	八三、二八九、〇三五
鐵管上水擴張費編入		鐵管上水擴張費編入	三七〇、〇〇〇、〇〇〇
下水道及河川改良費資金繰入		下水道及河川改良費資金繰入	六七〇、五四九、〇〇〇
再差引建金		再差引建金	一四〇、〇〇〇、〇〇〇
內		內	八五四、七九五、二三三
水道積立金へ編入		水道積立金へ編入	八五四、二五二、二三三
翌年度へ繰越		翌年度へ繰越	五四〇、〇〇〇、〇〇〇